

田 辺 市
男 女 共 同 参 画 に 関 す る
市 民 意 識 調 査
報 告 書

平成 18 (2006) 年 3 月

和歌山県 田辺市

はじめに

田辺市における男女共同参画施策につきましては、性別にかかわらず人権が尊重され、男女がそれぞれの個性や能力を十分に発揮できる社会を目指し、さまざまな取組を推進しているところです。

このたび、平成 17 年 5 月の市町村合併を機に、広く市民の皆さまのご意見をお聞きし、新市における「田辺市男女共同参画プラン」策定に向けた取組を進めていくうえで、その基礎資料を得るために、平成 17 年 12 月に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施いたしました。調査項目につきましては、過去に調査した項目をもとに、少子・高齢化の進展や、法整備がされた「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」等、現在の社会情勢も踏まえたうえでの設問も設定いたしました。本書は、その調査結果を報告書としてまとめたものです。

今回の調査で得られた市民の皆さまの男女共同参画に関する意識や考え方も踏まえ、平成 17 年 12 月 27 日に閣議決定された「男女共同参画基本計画（第 2 次）」との整合性も図りながら「田辺市男女共同参画プラン」の策定に取り組み、より実効性のある施策の推進を図ってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、お忙しい中、この調査にご協力いただきました市民の皆さまに、心から厚くお礼申し上げますとともに、田辺市における男女共同参画社会の実現に向け、市民の皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成 18 年 3 月

田辺市長 真砂 充敏

目 次

． 調査の概要	1
1． 調査の目的	2
2． 調査の方法	2
3． 調査の実施	2
4． 回収結果	2
5． 報告書の見方	5
． アンケート結果のまとめ	7
1． 男女の平等について	8
2． 男女の役割分担について	8
3． 子育てについて	8
4． 介護について	9
5． 社会活動について	9
6． 就労について	10
7． 男女の人権について	11
8． その他について	11
9． 男女共同参画について	12
． 用語解説	13
． アンケート結果	17
1． 回答者の属性	18
(1) 性別構成	18
(2) 年齢構成	18
(3) 住まい	19
(4) 結婚	19
(5) 家族構成	20
(6) 子ども	20
2． 男女の平等について	21
(1) 男女の平等感	21
(2) 男女共同参画社会に関する「ことば」	33
3． 男女の役割分担について	43
(1) 家庭生活における男女の役割	43
4． 子育てについて	46
(1) 子どもの将来像	46
(2) 子育て	48
5． 介護について	61
(1) 身の回りの世話	61
(2) 高齢者や病人の世話	63
6． 社会活動について	65

(1) 活動状況	65
(2) 役職や公職	68
(3) 活動の障害	84
7 . 就労について	86
(1) 就労状況	86
(2) 雇用形態	91
(3) 気がかりなこと	92
(4) 職業・待遇	94
(5) 育児・介護	101
8 . 男女の人権について	103
(1) 不愉快な経験	103
(2) 男女間の暴力	104
9 . その他について	110
(1) 女性の人権	110
(2) 結婚に対する考え	117
10 . 男女共同参画について	127
(1) 施策	127
. 自由回答	129
1 . その他回答	130
(1) 各設問におけるその他回答 (記述式)	130
2 . 自由回答	133
(1) 男女共同参画に関しての意見や要望	133
(2) 介護保険・高齢者保健福祉について	135
(3) 保育・子育て支援に関する事 (仕事と家庭の両立の事を含む)	135
(4) 学校や教育に関する事	136
(5) 保健・医療に関する事	136
(6) 経済的負担に関する事	136
(7) 生活環境に関する事	136
(8) 相談・情報提供や行政に関する事	136
(9) その他、全般に関する事 (アンケートのこと、感想のみなど)	137
. アンケート調査票	139

・ 調査の概要

1 . 調査の目的

このアンケート調査は、市町村合併を機に広く市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、平成 18 年度に策定予定の「田辺市男女共同参画プラン」の基礎資料とするために実施した。

2 . 調査の方法

- (1) 調査対象：平成 17 年 11 月現在、田辺市に居住している満 20 歳以上の市民（男女各 1,200 名）
- (2) 抽出法　：住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (3) 調査期間：平成 17 年 12 月 5 日（月）～平成 17 年 12 月 21 日（水）
- (4) 調査方法：調査票による本人記入方式。郵送による配布・回収

3 . 調査の実施

調査主体　　：田辺市企画部人権推進課男女共同参画推進室

調査委託機関：株式会社　日本出版

4 . 回収結果

回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
女性	1200	464	38.7
男性	1200	365	30.4
合計	2400	856	35.7

有効回収数の合計には、性別不詳 27 が含まれている。

< 回答数の性別・年齢構成 >

	項目	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計
		回答数	(%)	回答数	(%)	回答数	(%)
旧田辺市	全体	84	119	140	150	160	653
		12.9	18.2	21.4	23.0	24.5	100.0
	女性	54	77	75	77	77	360
		15.0	21.4	20.8	21.4	21.4	100.0
	男性	30	42	65	73	83	293
		10.2	14.3	22.2	24.9	28.3	100.0
旧龍神村	全体	2	10	11	10	12	45
		4.4	22.2	24.4	22.2	26.7	100.0
	女性	2	7	7	6	5	27
		7.4	25.9	25.9	22.2	18.5	100.0
	男性	0	3	4	4	7	18
		0.0	16.7	22.2	22.2	38.9	100.0
旧中辺路町	全体	2	7	6	12	6	33
		6.1	21.2	18.2	36.4	18.2	100.0
	女性	1	5	4	8	4	22
		4.5	22.7	18.2	36.4	18.2	100.0
	男性	1	2	2	4	2	11
		9.1	18.2	18.2	36.4	18.2	100.0
旧大塔村	全体	5	11	9	14	10	49
		10.2	22.4	18.4	28.6	20.4	100.0
	女性	3	8	6	7	6	30
		10.0	26.7	20.0	23.3	20.0	100.0
	男性	2	3	3	7	4	19
		10.5	15.8	15.8	36.8	21.1	100.0
旧本宮町	全体	9	6	11	9	13	48
		18.8	12.5	22.9	18.8	27.1	100.0
	女性	2	3	7	7	6	25
		8.0	12.0	28.0	28.0	24.0	100.0
	男性	7	3	4	2	7	23
		30.4	13.0	17.4	8.7	30.4	100.0

<母集団の性別・年齢構成>

	項目	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	合計	
旧田辺市	全体	母集団	7,715	9,228	8,841	10,041	20,264	56,089
		(%)	13.8	16.5	15.8	17.9	36.1	100.0
	女性	母集団	3,885	4,739	4,581	5,142	11,553	29,900
		(%)	13.0	15.8	15.3	17.2	38.6	100.0
	男性	母集団	3,830	4,489	4,260	4,899	8,711	26,189
		(%)	14.6	17.1	16.3	18.7	33.3	100.0
旧龍神村	全体	母集団	367	370	560	546	1,815	3,658
		(%)	10.0	10.1	15.3	14.9	49.6	100.0
	女性	母集団	170	173	274	246	1,041	1,904
		(%)	8.9	9.1	14.4	12.9	54.7	100.0
	男性	母集団	197	197	286	300	774	1,754
		(%)	11.2	11.2	16.3	17.1	44.1	100.0
旧中辺路町	全体	母集団	284	364	422	509	1,570	3,149
		(%)	9.0	11.6	13.4	16.2	49.9	100.0
	女性	母集団	136	167	193	237	901	1,634
		(%)	8.3	10.2	11.8	14.5	55.1	100.0
	男性	母集団	148	197	229	272	669	1,515
		(%)	9.8	13.0	15.1	18.0	44.2	100.0
旧大塔村	全体	母集団	314	356	370	400	1,241	2,681
		(%)	11.7	13.3	13.8	14.9	46.3	100.0
	女性	母集団	142	164	186	195	719	1,406
		(%)	10.1	11.7	13.2	13.9	51.1	100.0
	男性	母集団	172	192	184	205	522	1,275
		(%)	13.5	15.1	14.4	16.1	40.9	100.0
旧本宮町	全体	母集団	184	328	371	516	1,791	3,190
		(%)	5.8	10.3	11.6	16.2	56.1	100.0
	女性	母集団	88	167	188	217	1,047	1,707
		(%)	5.2	9.8	11.0	12.7	61.3	100.0
	男性	母集団	96	161	183	299	744	1,483
		(%)	6.5	10.9	12.3	20.2	50.2	100.0

5 . 報告書の見方

(1) 集計について

本報告書では、各設問ごとに「全体（単純集計）及び男女別」の結果を記載した後で、「年齢別」のクロス集計を行った結果を記載している。また、設問によっては、平成 16 年度に内閣府が実施した調査（内閣府世論調査）や平成 14 年度に和歌山県が実施した調査、また、平成 9 年度に田辺市が実施した調査（前回調査）との比較を行っている。それぞれの集計結果については、結果を示すグラフの後に、結果のポイント、結果についての説明文を記載している。

(2) 「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表す。したがって、各選択肢の%に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者が計算できる。

(3) 「%」について

グラフ中の「%」は、少数第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけにつけるもの）であっても、合計が 100%にならない場合がある。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに つけるものなど）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示す。

(4) 選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載している。

(5) 標本誤差について

本調査の標本誤差は、おおよそ次ページの表のとおり（信頼度 95%にした場合）である。表により、女性の回答者 464 人の場合、例えばある設問について、その設問の「A」という選択肢を回答した人の割合が 70%であったとき、標本誤差は $\pm 4.2\%$ である。その結果、田辺市在住の 20 歳以上の女性全体で「A」という選択肢を回答する人の割合は 65.8% （ $70\% - 4.2\%$ ） $\sim 74.2\%$ （ $70\% + 4.2\%$ ）であると推定することができる。ただし、信頼度は 95%であるため、その推定が誤りである確率は 5%である。

なお、N（回答者数）が極端に少ない場合は、その集計結果は参考までにとどめ、分析は行わないものとする。

主要な標本における比率の標本誤差 E (信頼度 95%レベル)【10 歳階級別】

母集団		P (%)	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
85,558		n 数	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
全 体		856	1.5	2.0	2.4	2.7	2.9	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3
性別	女 性	464	2.0	2.7	3.2	3.6	3.9	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5
	男 性	365	2.2	3.1	3.7	4.1	4.4	4.7	4.9	5.0	5.1	5.1
	不 明	27	8.2	11.3	13.5	15.1	16.3	17.3	18.0	18.5	18.8	18.9
性・年代別	(女性)											
	20 歳代	62	5.4	7.5	8.9	10.0	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	30 歳代	100	4.3	5.9	7.0	7.8	8.5	9.0	9.3	9.6	9.8	9.8
	40 歳代	99	4.3	5.9	7.0	7.9	8.5	9.0	9.4	9.6	9.8	9.8
	50 歳代	105	4.2	5.7	6.8	7.7	8.3	8.8	9.1	9.4	9.5	9.6
	60 歳以上	98	4.3	5.9	7.1	7.9	8.6	9.1	9.4	9.7	9.8	9.9
	(男性)											
	20 歳代	41	6.7	9.2	10.9	12.2	13.3	14.0	14.6	15.0	15.2	15.3
	30 歳代	53	5.9	8.1	9.6	10.8	11.7	12.3	12.8	13.2	13.4	13.5
	40 歳代	78	4.8	6.7	7.9	8.9	9.6	10.2	10.6	10.9	11.0	11.1
	50 歳代	90	4.5	6.2	7.4	8.3	8.9	9.5	9.9	10.1	10.3	10.3
	60 歳以上	103	4.2	5.8	6.9	7.7	8.4	8.8	9.2	9.5	9.6	9.7

・アンケート結果のまとめ

1. 男女の平等について

男女の平等感

男女の平等感について、「平等である」「やや平等である」を合わせた割合は女性・男性ともに『学校教育』において最も多く、女性で 65.3%、男性で 72.1%となっている。「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合は女性・男性ともに『社会通念やしきたり』が最も多く、女性で 64.6%、男性で 46.1%となっている。また、いずれの項目においても男性よりも女性の方が「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が多くなっており、その差は『社会通念やしきたり』で 18.5 ポイントと最も多い。

性別役割分業観

「男は仕事、女は家庭」と性別によって役割を固定する性別役割分担について、「どちらかといえど同感しない」「同感しない」を合わせた割合は女性が 63.8%、男性が 55.4%と女性の方が性別役割分担を否定する割合が多い。年齢層別でみると、20 歳代で女性が 70.9%、男性が 56.1%となっており、その差は 14.8 ポイントと、どの年齢層よりも差は大きい。次いで、50 歳代で女性が 69.5%、男性が 58.9%となっており、その差は 10.6 ポイント、30 歳代で女性が 65.0%、男性が 54.7%となっており、その差は 10.3 ポイントと続いている。また、60 歳以上で性別役割分担を肯定する割合が女性・男性ともに最も多い。

ことばの周知

男女共同参画社会に関することばの周知について、「よく知っていた」がどの項目においても最も少ないなか、『ドメスティック・バイオレンス(DV、配偶者、恋人からの暴力)』においては女性・男性ともに「よく知っていた」と回答する割合が最も多い。その割合は、女性で 65.1%、男性で 60.3%と 6 割を超えている。『ドメスティック・バイオレンス(DV、配偶者、恋人からの暴力)』について年齢層別にみると、女性では、60 歳以上を除いて約 7 ~ 8 割の方が「よく知っていた」と回答しており、一方男性では「よく知っていた」と回答した割合は 20 歳代が 73.2%と最も多く、反対に 60 歳以上で 46.6%と最も少ない。

2. 男女の役割分担について

家庭生活における男女の役割

家庭生活における男女の役割について、『食事のしたく』『食事のセット・後片付け』『日常の買い物』『掃除』『洗濯』などの、いわゆる“家事”について、女性の約 9 割が「主に女性」「どちらかといえば女性」と回答しており、男性でもその割合は 7 ~ 8 割となっている。しかし、男性ではその中のいずれの項目においても、女性よりも「男女同じ程度」との回答が多い。

その他、ほとんどの項目で女性・男性ともに「主に女性」「どちらかといえば女性」を合わせた割合が多くなっているが、『大工仕事や電気製品の管理』については「主に男性」「どちらかといえば男性」を合わせた割合が女性で 61.5%、男性で 83.0%と大部分を占めている。

3. 子育てについて

子どもの将来像

子どもが将来どのような生き方をしてほしいかについて、『女の子』の生き方については、女性・男性ともに「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」が女性で 66.4%、男性で 57.5%と最も多く、年齢層別にみても女性・男性ともにどの年齢層においても最も多くなっており、次いで「人間性豊かな生活をする」「本人の意思にまかせる」と続いている。また、『女の子』よりも『男の子』に「社会的な地位を得る」「経済的に豊かな生活をする」「社会に貢献する」といった生き方を望む割合が、女性・

男性ともに多くなっている。

子育て支援サービス

『親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい』について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性が77.6%、男性が55.3%とその差は22.3ポイントとなっており、女性の方が子育て支援サービスの活用に関する肯定的な意見が多い。中でも、30歳代の女性で約9割と肯定的な回答が最も多い。

男らしく・女らしく

『男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい』について、「そう思う」の割合は女性で25.2%、男性で34.5%である。年齢層別にみると女性・男性ともに60歳以上で最も多く、女性では41.8%、男性では47.6%となっており肯定的な割合が約半数となっている。

男の子の経済的自立

『男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』について、女性・男性ともに7割以上が「そう思う」と回答しており、共通の子育て観だといえる。

4．介護について

身の回りの世話

寝たきりや長期の病気になった場合、だれに身の回りの世話をしてもらいたいかについて、女性では「病院、老人ホームなどの施設で」が最も多く、次いで「家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に）」、「家庭で配偶者に」となっている。男性では「家庭で配偶者に」が顕著に多く、63.6%と女性の倍以上の割合となっている。また、前回調査と比較すると、『家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に）』『病院、老人ホームなどの施設で』が男女ともに増加している。

高齢者や病人の世話

高齢者や病人の世話をするのは、多くの場合女性となっていることについて、女性・男性ともに「男性も女性に協力するべきだと思う」が5割を超えて最も多い。また、「当然だと思う」「しかたないと思う」を合わせた肯定的な意見で女性と男性の差が最も多いのは60歳以上で、15.1ポイントとなっており、女性の方が肯定的な割合が多い。

5．社会活動について

現在行っている活動

現在、仕事以外に行っている活動について、女性・男性ともに「特になし」が最も多く、4割を超えている。それ以外の活動については、女性では「趣味や教養に関する活動」が最も多く、次いで「町内会・PTA・子どもクラブ活動」「スポーツ・レクリエーション活動」となっている。男性では、「町内会・PTA・子どもクラブ活動」が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」「趣味や教養に関する活動」となっている。

今後始めたい(続けたい)活動

今後新たに始めたい活動について、女性・男性の差が最も多いのは「趣味や教養に関する活動」で、10.2ポイントと、男性よりも女性の方が多くなっている。また、男性よりも女性の方がほとんどの項目において割合が多くなっている。

女性が役職や公職に就くこと

『PTA会長、子どもクラブ会長』『職場の管理職』『町内会会長、区長、自治会会長』『県や市町

村の審議会や委員会のメンバー』『県議会議員や市町村議会議員』『知事や市町村長』において女性がもっと就いた方がよいかについて、すべての項目で男性の方が女性よりも「そう思う」と回答した割合が多くなっている。年齢層別にみると、女性では『PTA会長、子どもクラブ会長』を除く全ての項目で「そう思う」と回答した割合が60歳以上で最も少なくなっている。

就任や立候補を依頼されたら

役職や公職への就任や立候補を依頼されたらどうするかについて、『職場の管理職』を除くすべての項目において「ことわる」の割合が女性・男性ともに5割を超えている。『職場の管理職』においては「引き受ける」と回答した割合が女性で20.0%、男性で34.2%となっており、年齢層別でみると、50歳代・60歳以上で女性・男性の差が20.1ポイントとなっており、男性の方が女性よりも「引き受ける」と回答した割合が多くなっている。

6．就労について

収入を得る仕事に就いている方の状況

仕事をしているかについて、「仕事をしている」と回答した割合は女性で6割以上、男性で7割以上となっている。年齢層別にみると、女性では40歳代、男性では30歳代で最も割合が多く、職業別にみると、女性では「パート・アルバイト」、男性では「会社員・公務員・その他の勤め人」が約半数と最も多くなっている。

また、職場における性別による待遇の違いや問題についてたずねたところ、女性・男性ともに約8割の方が「ない」と回答している。

収入を得る仕事に就いていない方の状況

仕事をしているかについて、「仕事をしていない」と回答した割合は女性で約4割、男性で約2割となっている。女性と男性の差が最も多いのは、30歳代で、女性の方が男性よりも仕事をしていない割合が38.2ポイント多くなっている。

今後の就労意向についてたずねたところ、「勤めに出るつもりはない」が女性・男性ともに最も多く、女性については年齢が上がるにつれてその割合は多くなっている。

「すぐにでも勤めに出たい」「将来勤めに出たい」と回答された方の希望する雇用形態では女性で「パートタイム、アルバイト」が最も多く、男性では「正社員、正職員」が最も多い。また、働きたいと思ったとき、気がかりなことについてたずねたところ、女性・男性ともに「年齢制限」が最も多くなっている。「家事・育児との両立ができるか」については、女性の約5割が気がかりに感じているのに対し、男性ではその割合は0.0%となっている。同様に「子どもに悪い影響を与えないか」「家族の理解が得られるか」「介護の必要な家族がいる」についても女性が気がかりな要因として挙げている一方、男性ではいずれも0.0%となっている。

職場での優遇

職場における男女の優遇感について、女性は「男性の方が優遇されている」が16.2%となっており、その内容は「賃金」が69.6%と最も多くなっている。一方、男性では、「男性の方が優遇されている」が15.6%、「女性の方が優遇されている」が6.0%であり、その内容はいずれも「仕事の内容」が6～7割を占め、多くなっている。仕事の内容・責任が軽い点を「優遇されている」と捉えているのか、重い点を「優遇されている」と捉えるのかはアンケート結果からは判別できないが、男女の優遇感はその内容に違いがあることがうかがえる。

女性が職業を持つこと

女性が職業を持つことについて、「結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい」「結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい」を合わせた割合は、女性で88.6%、男性で81.9%と、女性・男性ともに女性が職業を持つことに対して肯定的である。

男性の育児・介護休業

男性が育児・介護休業を取得することについて、「積極的に取得した方がよい」「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた割合は、育児休業については女性が73.1%、男性が63.8%となっており、介護休業については女性が81.5%、男性が71.8%と育児休業・介護休業において女性も男性も肯定的である。また、女性の方が男性よりも、男性が育児・介護休業を取得することに対してより肯定的である。

7. 男女の人権について

男女間の暴力についての相談

パートナーからの暴力をだれかに打ち明けたり相談したかについて、女性・男性ともに「相談しようとは思わなかった」の割合が最も多く、次いで「相談した」「相談したかったが、相談しなかった」となっている。「相談した」の割合については女性と男性の差は21.8ポイントで、女性の方が多く、女性は男性の3倍以上の割合となっている。女性について、「相談した」割合は30歳代で約5割と最も多く、男性の30歳代と比較すると、その差は41.9ポイントである。

相談相手

相談した相手について、女性・男性ともに「親族」が最も多く、次いで「友人・知人」となっている。女性・男性ともに身近な存在に相談する傾向がうかがえる。また、他に女性では「家庭裁判所・弁護士・警察署など」「医師・カウンセラーなど」「同じような経験をした女性」なども挙げられているが、男性ではいずれも0.0%となっている。

行政に望む対応

男女間のあらゆる暴力について行政にどのような対応を望むかについて、女性・男性とも「警察による対応の充実」が最も多い。女性・男性の差が最も多いのは「一時避難所（シェルター）の確保」で、女性が31.3%、男性が20.0%とその差は11.3ポイントとなっている。

8. その他について

女性の人権

女性の人権が尊重されていないと思うかについて「女性の容ぼうを競うミスコンテスト」では、女性・男性ともに「そう思わない」が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」となっている。年齢層別にみると、「そう思わない」で女性・男性の差が最も多いのは40歳代で、27.4ポイント男性の方が多くなっている。反対に、「そう思う」と回答した割合は女性・男性ともにどの年齢層においても1割に満たない。

「家庭内での夫から妻への暴力」については、「そう思う」と回答した割合は、女性が56.9%、男性が49.0%となっている。女性・男性において「そう思う」と回答した割合の差が最も多いのは、30歳代で、16.1ポイント女性の方が多くなっている。

「職場でのセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」については、「そう思う」が女性で約6割、男性で約5割となっており、女性・男性の差が最も多いのは20歳代で女性が72.6%、男性が58.5%となっており、女性の方が14.1ポイント多くなっている。

「女性の働く風俗営業」については「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合では女性の方が14.2ポイント多く、その差が最も多いのは40歳代で26.8ポイント女性の方が多い。

結婚に対する考え

結婚についての考えについて、「そう思う」の割合が多いのは、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』で、女性で 56.9%、男性で 43.6%となっており、その差は 13.3 ポイントと女性の方が多くなっている。年齢層別にみると、30 歳代においてその差は最も多く、18.6 ポイント女性の方が多。

9 . 男女共同参画について

施策

男女共同参画社会の実現を目指すための施策について、女性・男性ともに最も多いのは「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」で、女性が 59.3%、男性が 44.7%となっている。また女性・男性の差も最も多く、14.6 ポイントとなっている。

. 用語解説

ア

育児・介護休業法

「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」が正式名称。同法にいう育児休業とは1歳未満の子を養育するための休業をいい、介護休業とは2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする家族（配偶者のほか、父母及び子、配偶者の父母などを含む）を介護するための休業（連続した3ヵ月以内の期間、対象家族1人につき1回が限度）をいう。（平成17年4月1日、対象者、期間等について改正あり）

平成17年4月1日施行の育児・介護休業法の改正点

改正前は対象外であった、期間を定めて雇用される者について、規定の要件に該当する場合には、育児休業・介護休業の取得が可能となる。

改正前は「育児休業の期間は子が1歳に達するまで」であった育児休業の期間が、子が1歳を超えても休業が必要と認められる一定の場合には、子が1歳6ヶ月に達するまで育児休業を延長することが可能となる。

改正前は、「対象家族1人につき1回限り・期間は連続3ヶ月まで」とされていた介護休業の取得回数の制限が、「対象家族1人につき要介護状態に至るごとに1回・期間は通算して93日まで」となる。

小学校就学の始期に達するまでの子を養育する労働者は、その事業主に申し出ることにより、一の年度において5労働日を限度として、病気・けがをした子の世話をを行うための休暇を取得できる。

エンパワーメント

男女共同参画社会の実現のために、女性が自らの意識と能力を高め、社会のあらゆる分野で、政治的、経済的、社会的及び文化的に力を持った存在となり、力を発揮し、行動していくこと。

サ

性別役割分業意識

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいう。

「男は仕事、女は家事・育児」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例。

セクシュアル・ハラスメント

性的いやがらせ。相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさの流布、人目にふれる場所へのわいせつな写真やポスターの掲示などが含まれる。立場を利用したり、性差別の上に成り立っていることが多く、特に雇用の場で問題となっている。

女子差別撤廃条約

1979年（昭和54年）に国連で採択された「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条

約」のこと。日本は、国籍法の改正や男女雇用機会均等法の制定など国内法を整備し、1985年（昭和60年）6月に批准。女性差別をなくすための基本的な考え方を示し、各国に実効ある施策を実施することを求めている。

ジェンダー

1995年（平成7年）の第4回世界女性会議で採択された北京宣言及び行動綱領において、生物学的な性別を示す「セックス」に対して、社会的・文化的に形成された性別を示す概念として使用されている。

男女共同参画社会基本法においては「ジェンダー」という用語は使用していないが、男女共同参画基本計画においては、「社会的・文化的に形成された性別（ジェンダー）」と規定している。

夕

男女共同参画社会基本法

男女が社会の対等な構成員としてあらゆる分野の活動に参画する機会を確保し、男女が均等に利益を享受するとともに責任を担う男女共同参画社会を形成するための基本方針や理念を示す法律。1999年（平成11年）6月公布、施行。

ドメスティック・バイオレンス（DV）

家庭内で発生するすべての暴力を指すことばであるが、最近では夫や恋人など親密な関係にある男性から女性が受ける暴力を指して使われることが多くなっている。肉体的な暴力だけでなく、妻の行動を制限する、罵るといったことばや行為によるものについても暴力の範ちゅうとして取り上げられている。

八

フレックスタイム制

1週、1月等の一定の期間の総労働時間を定めておき、労働者がその範囲内で各日の始業及び就業の時刻を自分で選択して働く制度。

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「積極的改善措置」（いわゆるポジティブ・アクション）とは、様々な分野において、活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するものであり、個々の状況に応じて実施していくもの。

積極的改善措置の例としては、国の審議会等委員への女性の登用のための目標の設定や、女性国家公務員の採用・登用の促進等が実施されている。

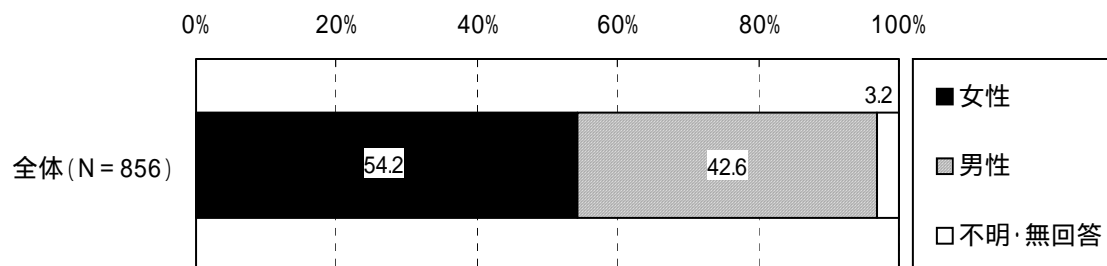
男女共同参画社会基本法では、積極的改善措置は国の責務として規定され、また、国に準じた施策として地方公共団体の責務にも含まれている。

・ アンケート結果

1. 回答者の属性

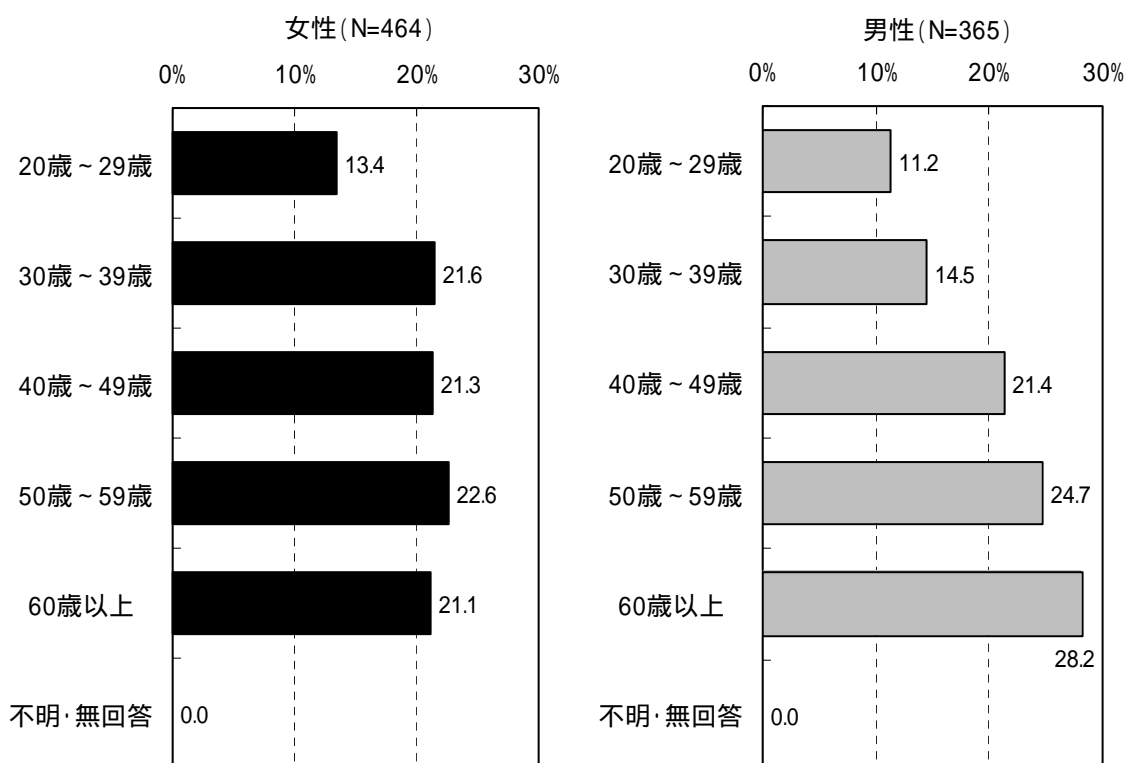
(1) 性別構成

問1. あなたの性別は。(あてはまるものどちらか1つに)



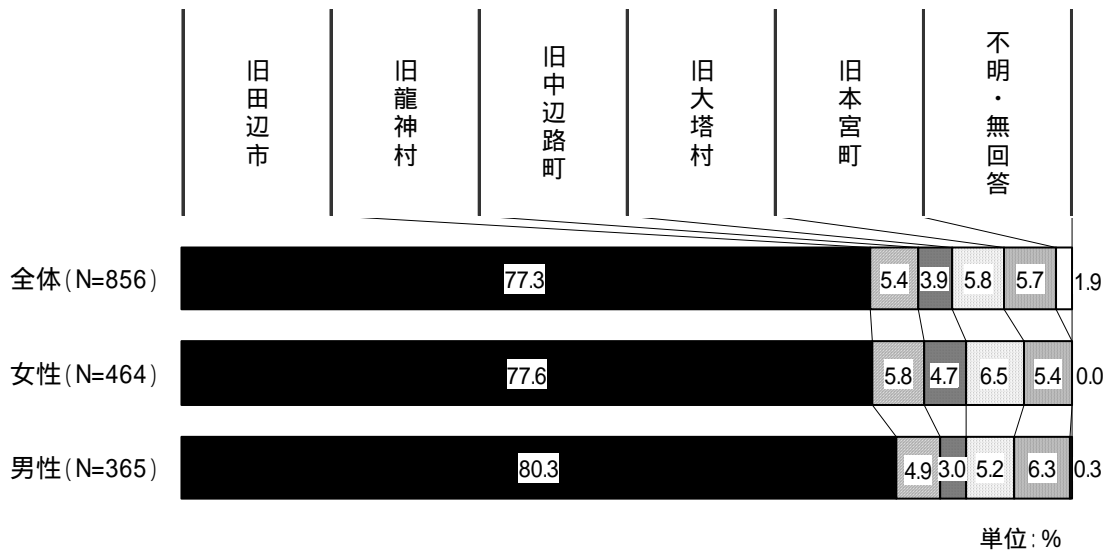
(2) 年齢構成

問2. あなたの年齢は。(平成17年11月1日現在の満年齢。あてはまるもの1つに)



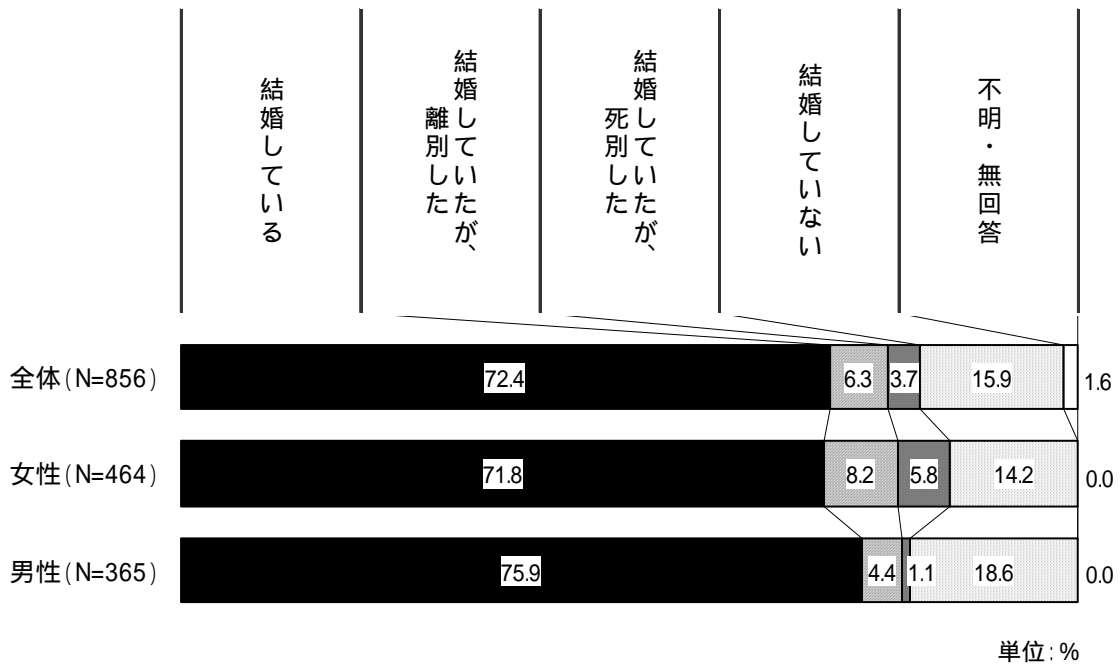
(3) 住まい

問 3 . あなたのお住まいは。(あてはまるもの1つに)



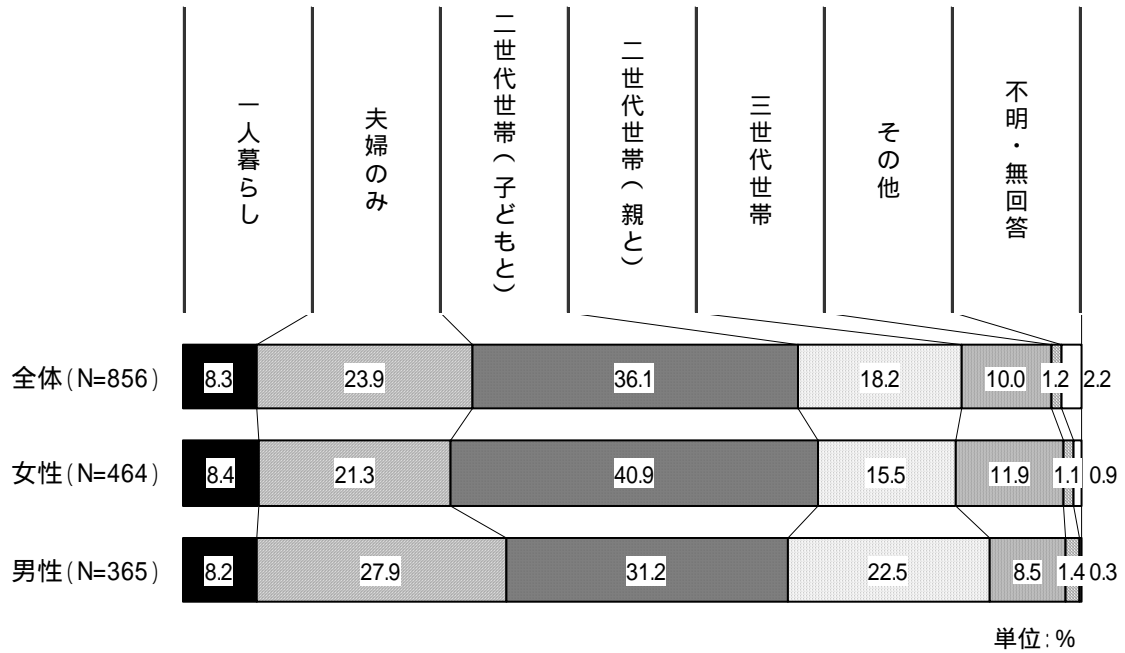
(4) 結婚

問 4 . あなたは結婚 (事実婚を含む) していますか。(あてはまるもの1つに)



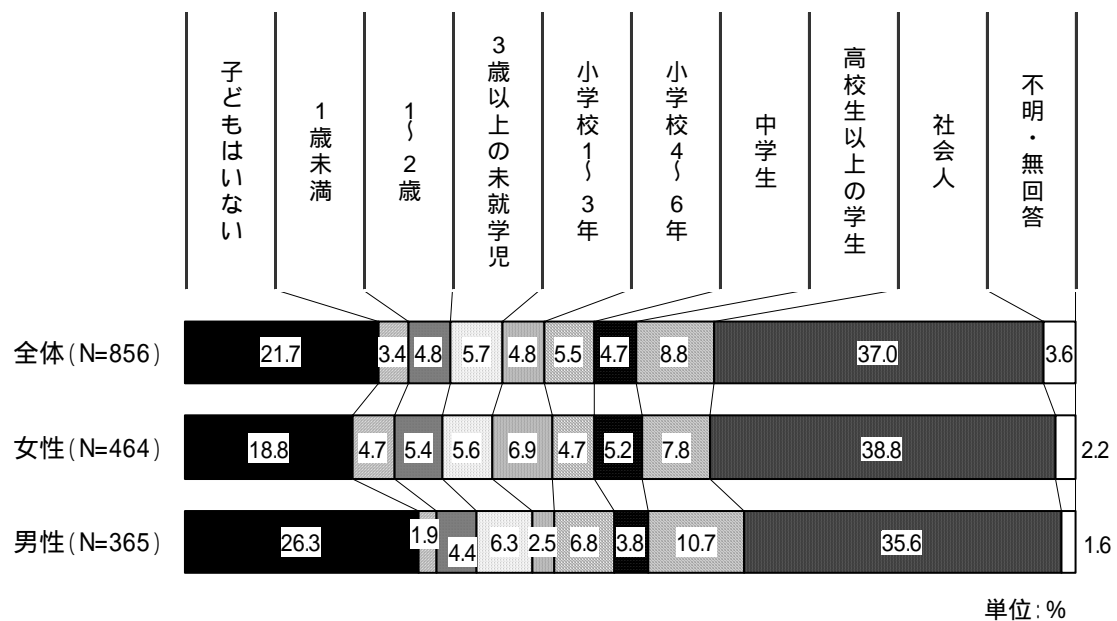
(5) 家族構成

問5 . あなたの世帯は。(あてはまるもの1つに)



(6) 子ども

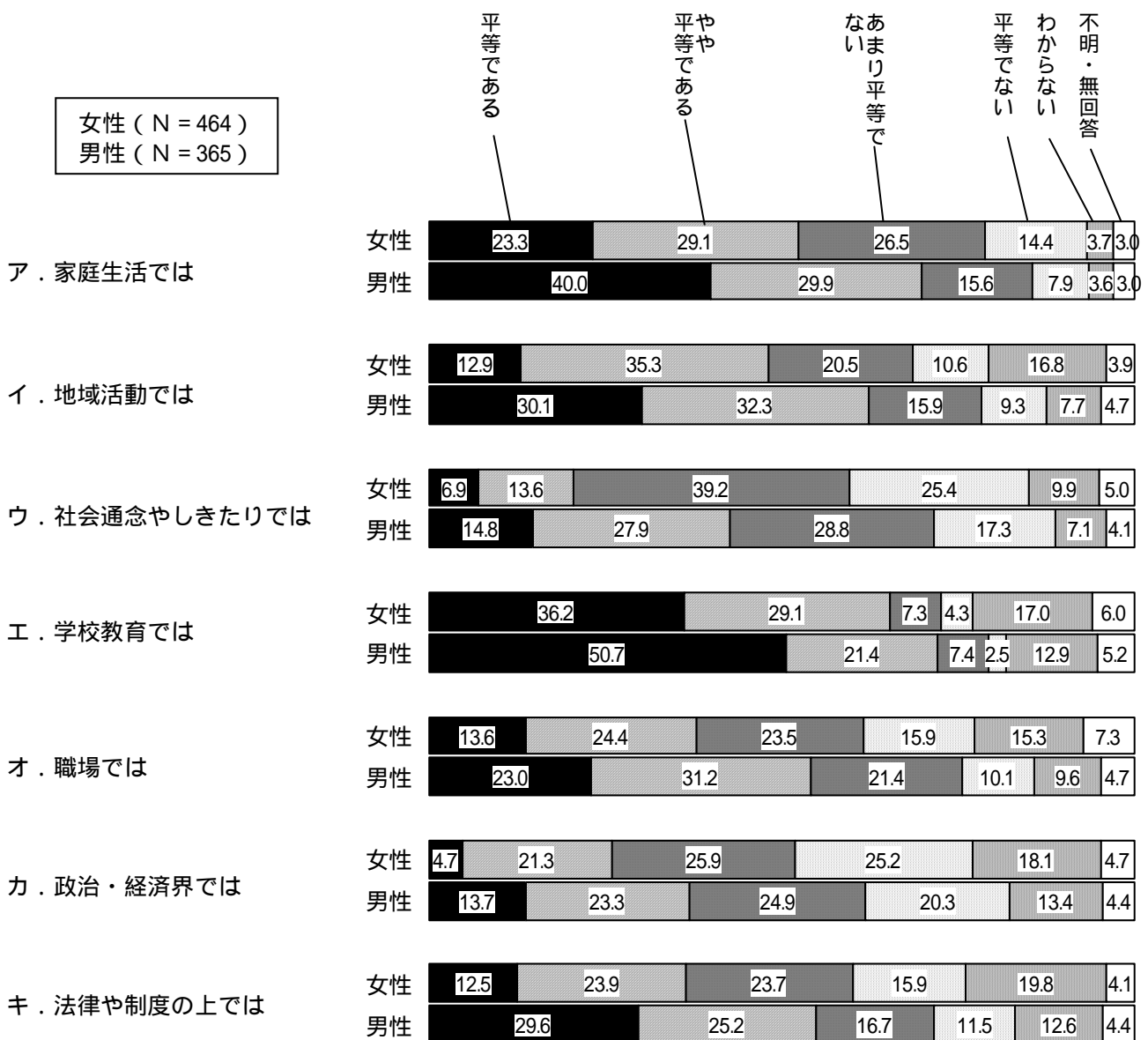
問6 . あなたの一番下のお子さんは。(あてはまるもの1つに)



2. 男女の平等について

(1) 男女の平等感

問7. 次の各分野について、男女は、どの程度平等だと思いますか。(ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに)

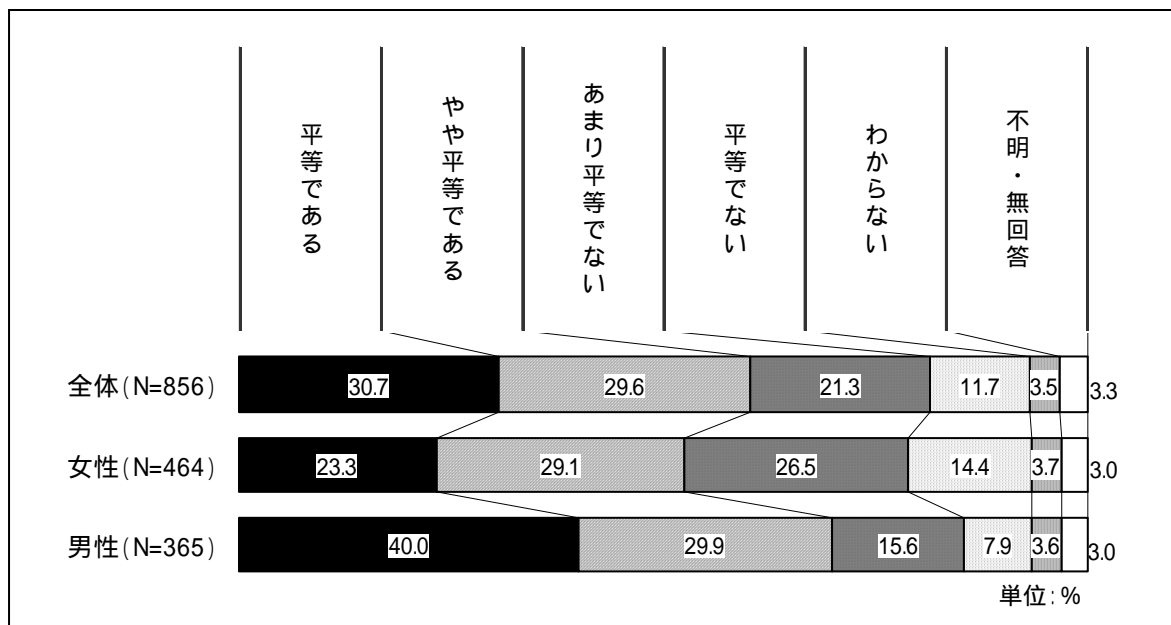


単位: %

『学校教育』で女性・男性ともに約7割が平等だと感じている

男女の平等感についてみると、「平等である」「やや平等である」を合わせた割合は、女性・男性ともに『学校教育』が最も多く、女性で65.3%、男性で72.1%となっている。一方、「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合は、女性・男性ともに『社会通念やしきたり』が最も多く、女性で64.6%、男性で46.1%となっている。

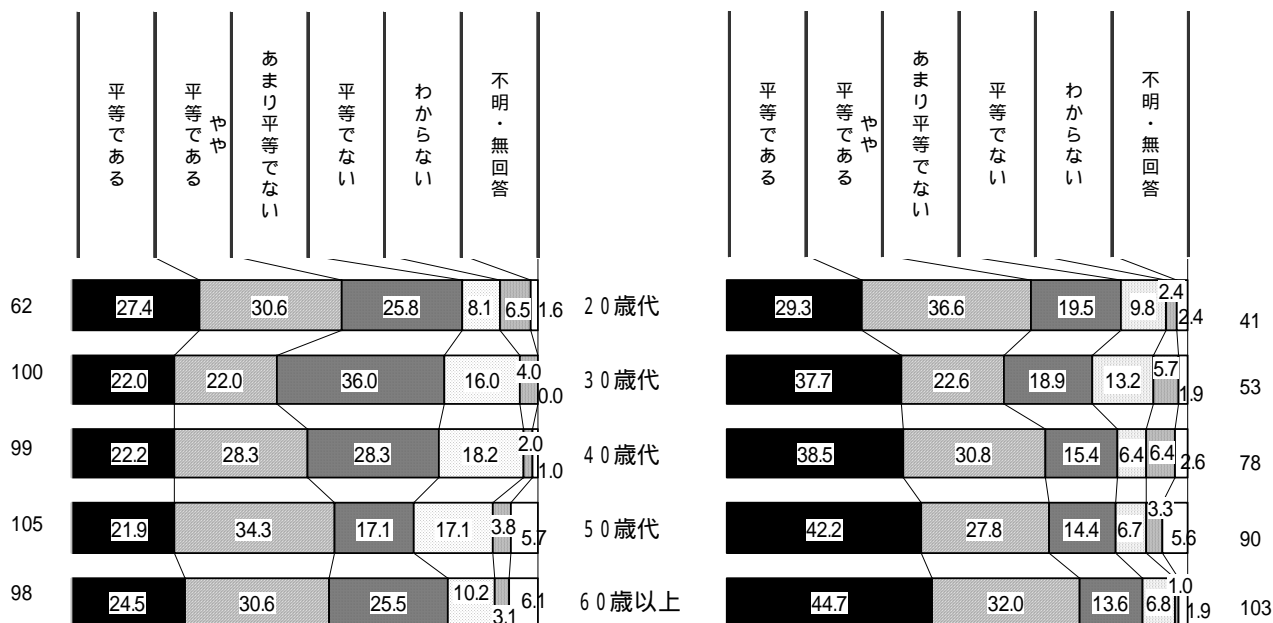
問7. 家庭生活における男女の平等感



年齢層別

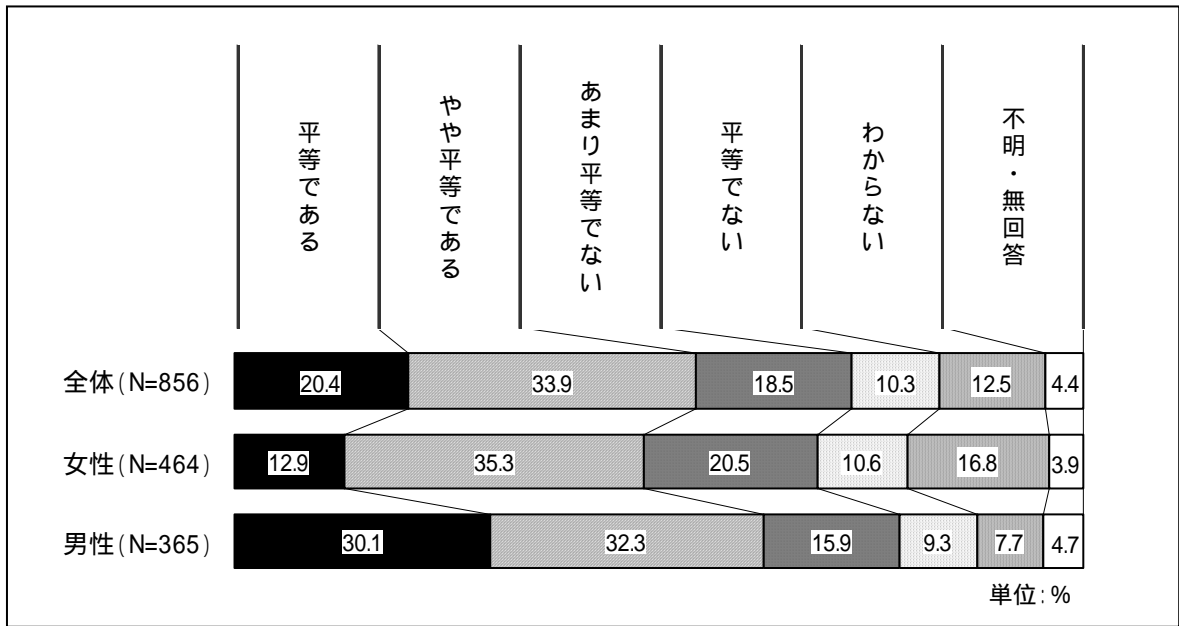
女性

男性



『家庭生活』では、女性において、「平等である」「やや平等である」を合わせた割合は他の年齢層に比べ30歳代でやや少なくなっており、44.0%と半数に満たない。男性においては、年齢層が上がるにつれ「平等である」と回答する割合が増加している。

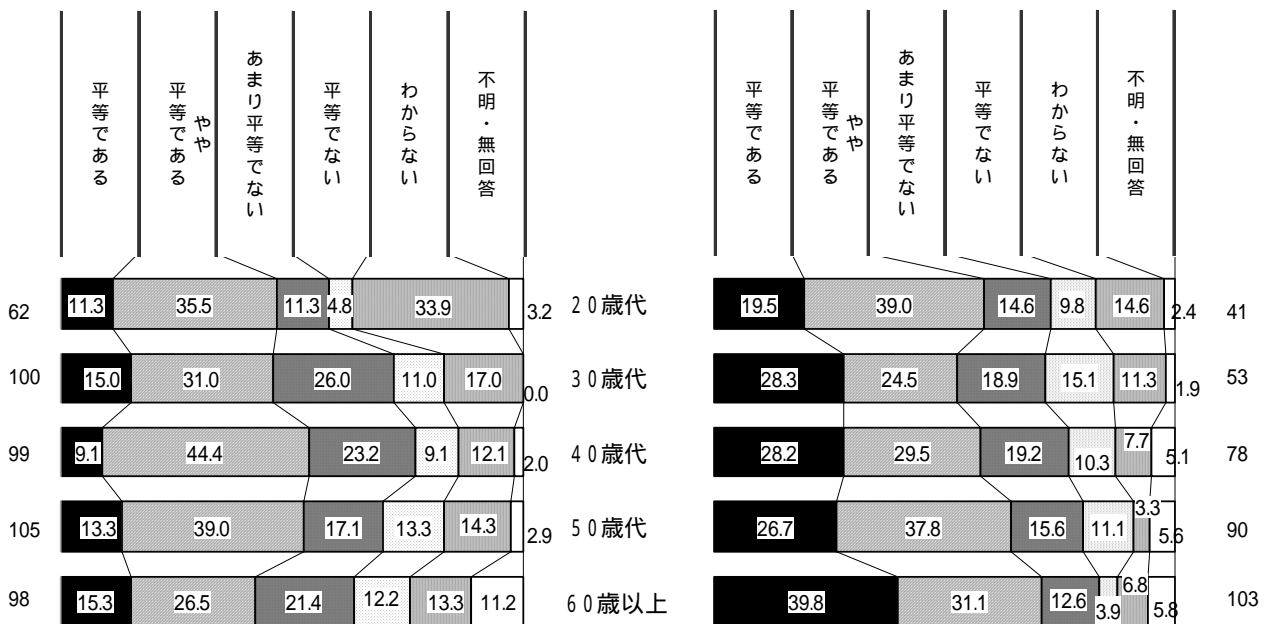
問7. 地域活動における男女の平等感



年齢層別

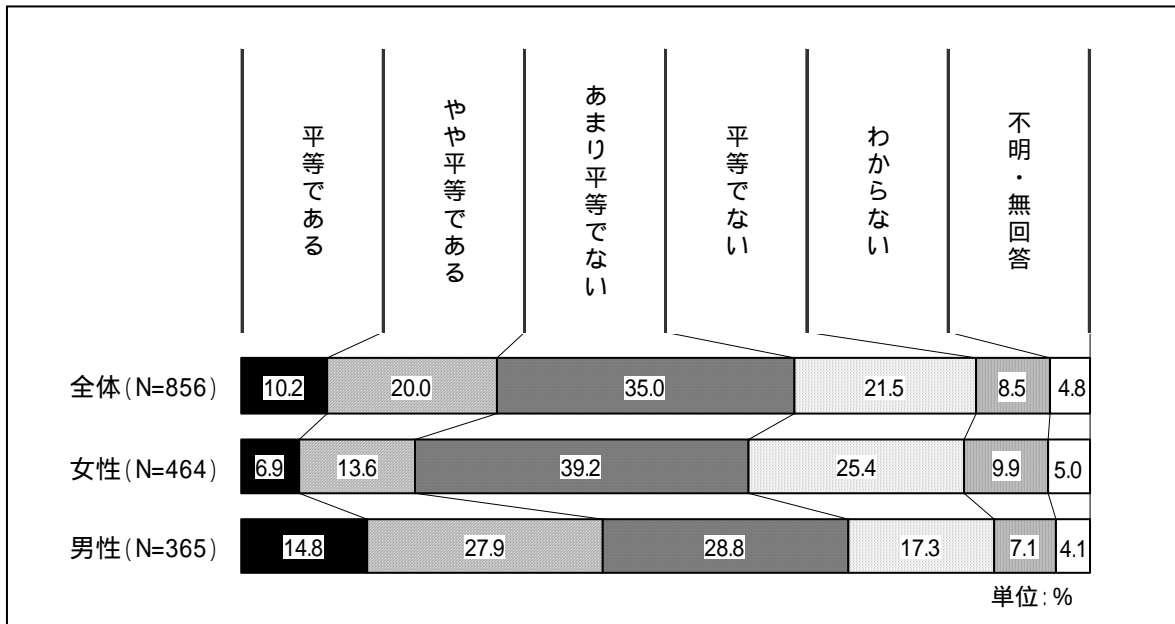
女性

男性



『地域活動』では、女性において、いずれの年齢層でも「やや平等である」が最も多くなっている。また、20歳代の女性では「わからない」が3割を超えており、地域との関わりが薄いことがうかがえる。男性においては、年齢が上がるにつれ「平等である」と回答する割合が増加しており、60歳以上では39.8%と、すべての年齢層で最も多くなっている。

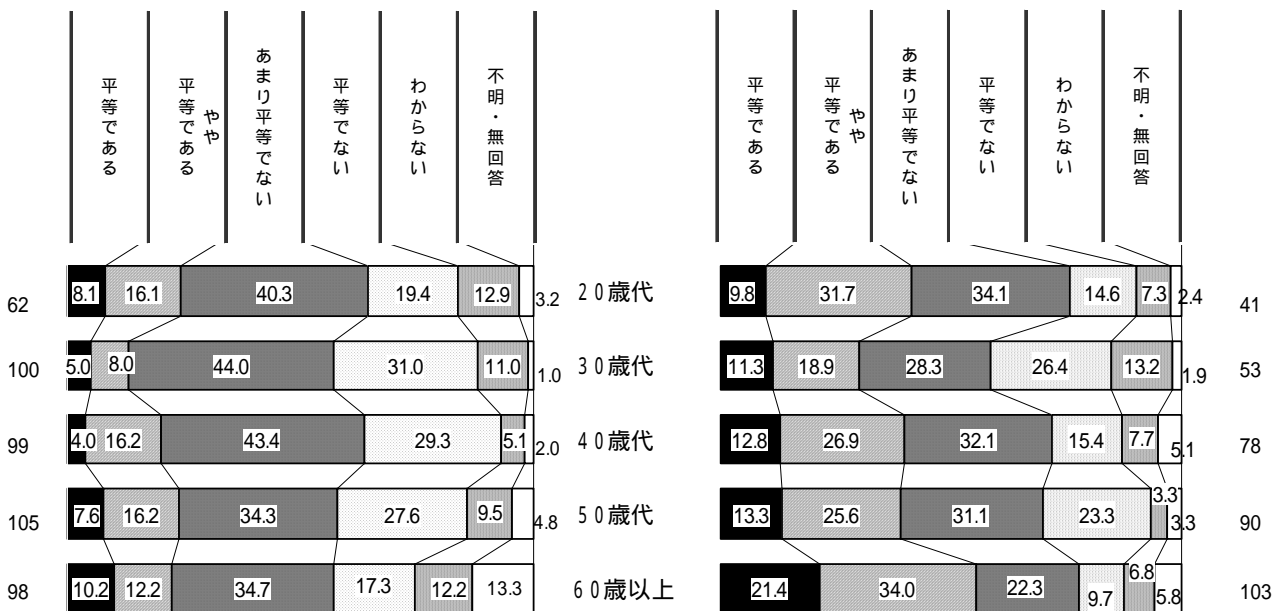
問7. 社会通念やしきたりにおける男女の平等感



年齢層別

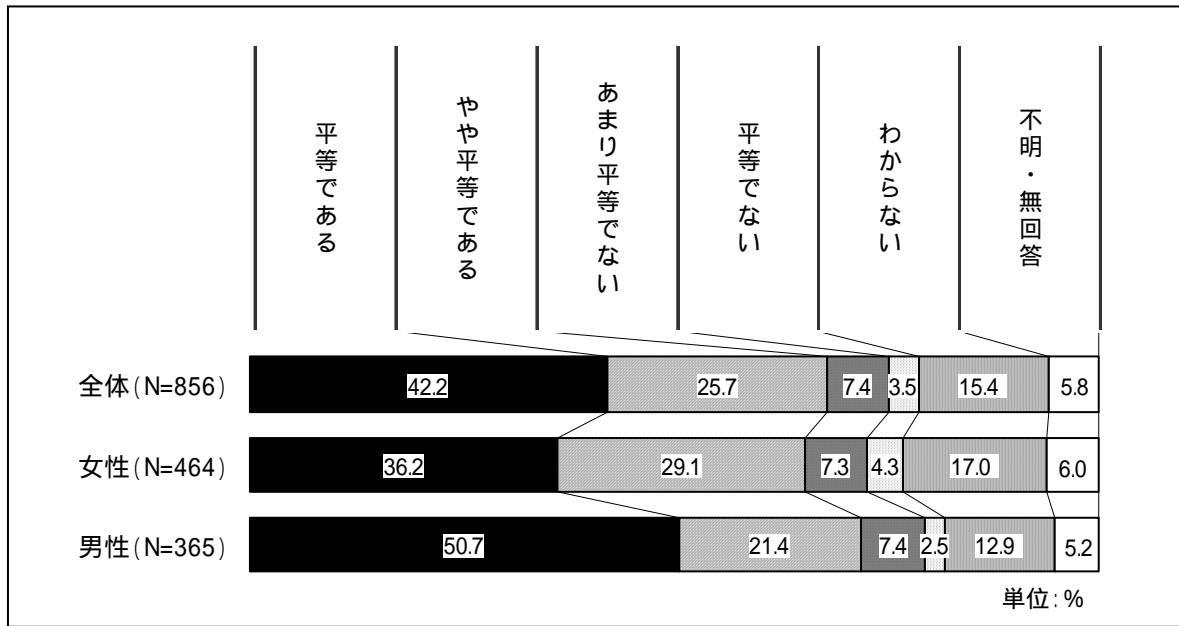
女性

男性



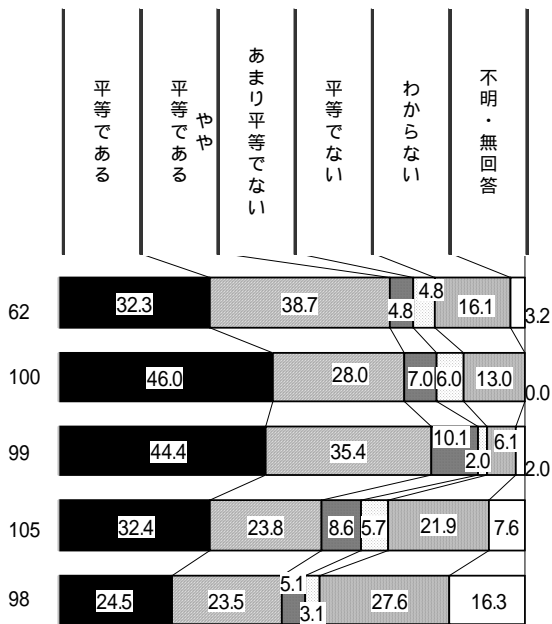
『社会通念やしきたり』では、すべての年齢層において男性よりも女性で「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が多くなっており、不平等感が強くなっている。中でも30歳代で「あまり平等でない」が44.0%、「平等でない」が31.0%と、他の年齢層に比べ多くなっている。男性においても30歳代で「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が54.7%と最も多くなっているが、年齢層が上がるにつれ「平等である」「やや平等である」の割合が増加している。

問7. 学校教育における男女の平等感

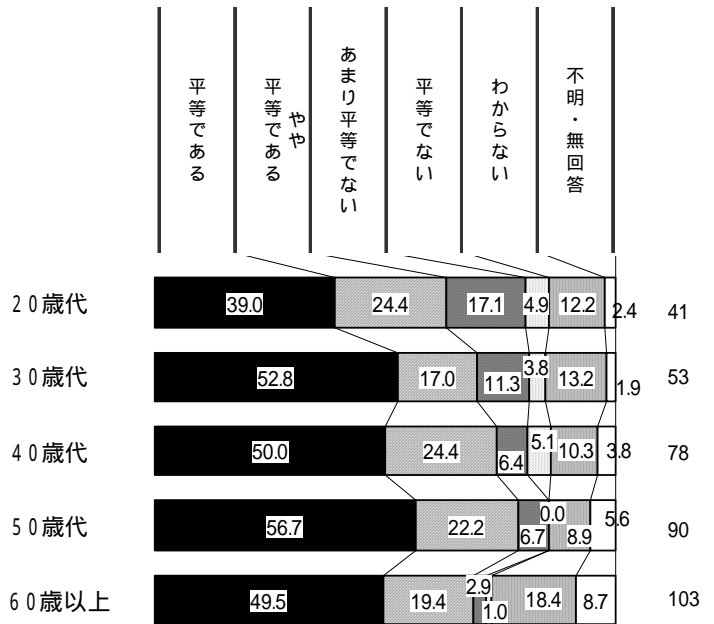


年齢層別

女性

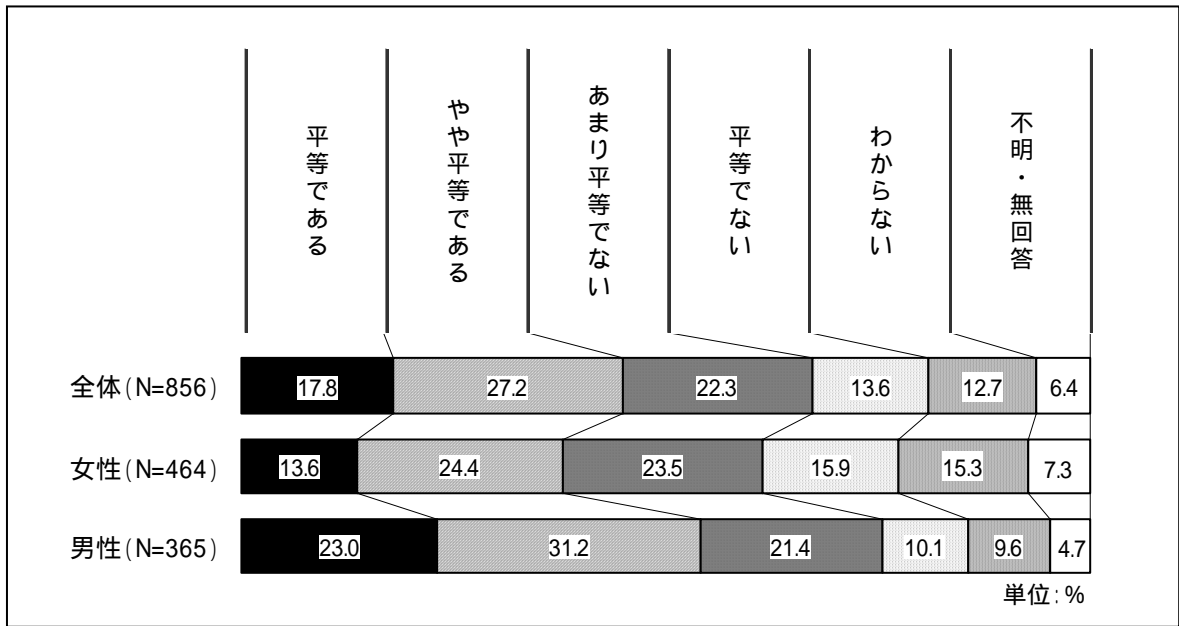


男性



『学校教育』では、いずれの年齢層でも女性よりも男性で「平等である」割合が多くなっている。また、女性では年齢層が上がるにつれ「平等である」「やや平等である」を合わせた割合が少なくなっている。男性では「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が20歳代で22.0%とすべての年齢層の中で最も多くなっており、年齢層が上がるにつれその割合が少なくなっている。

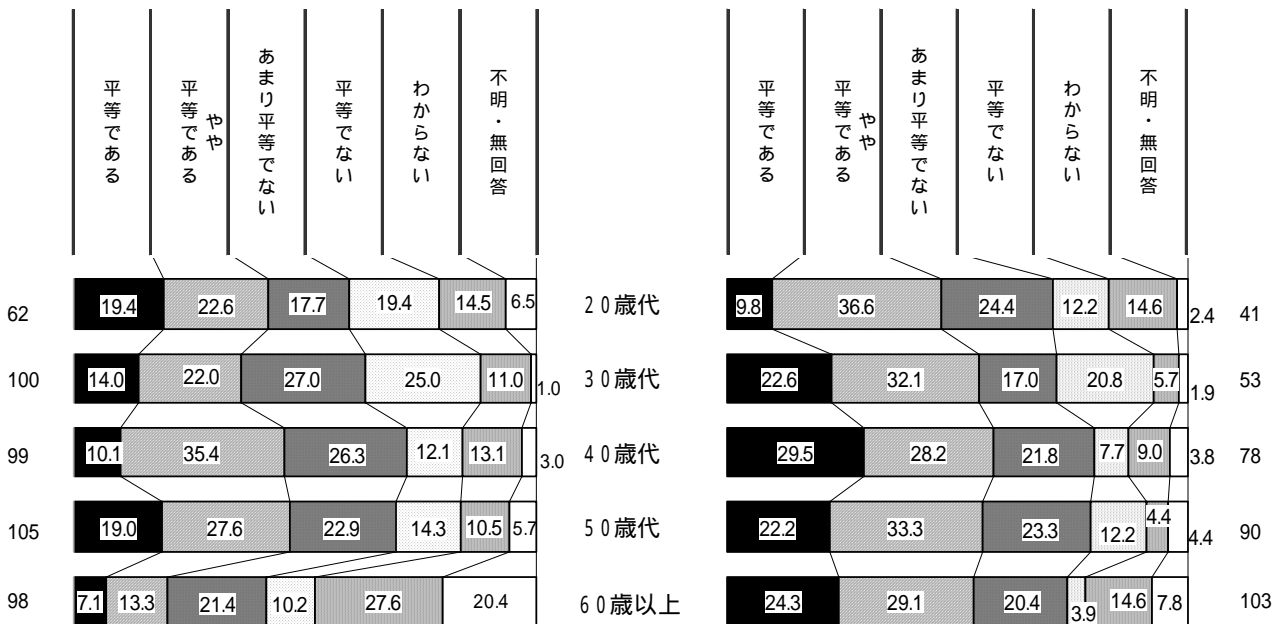
問7. 職場における男女の平等感



年齢層別

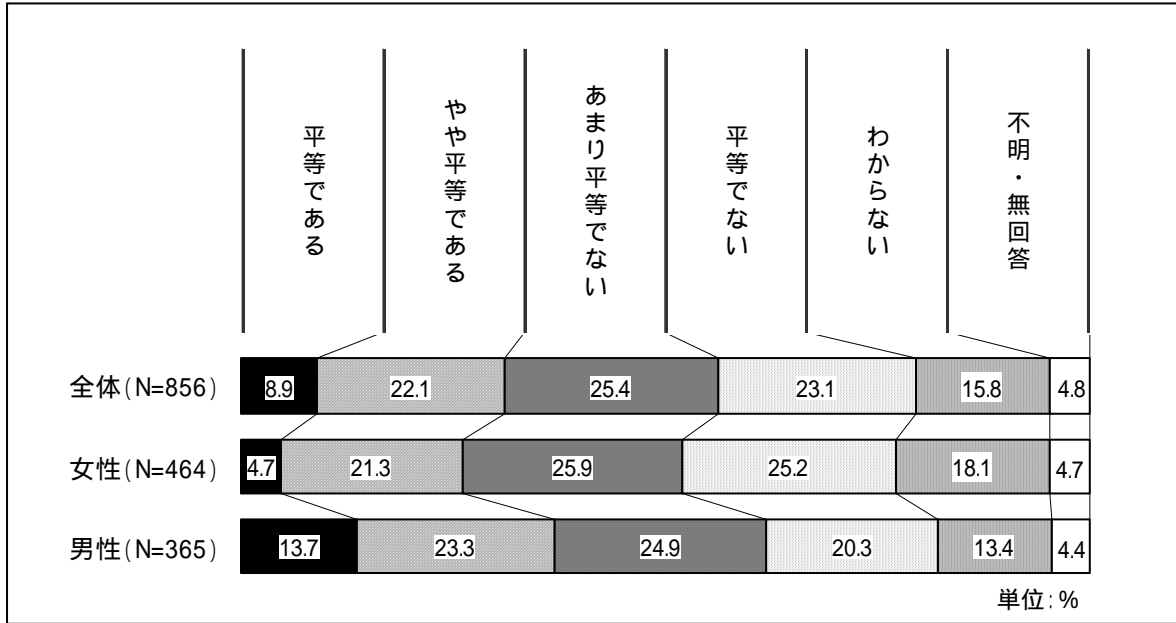
女性

男性



『職場』では、女性において、「平等である」「やや平等である」を合わせた割合は50歳代で46.6%、40歳代で45.5%と多くなっているが、30歳代では「平等である」「やや平等である」を合わせた割合よりも「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が多くなっており、不平等感が強くなっている。男性においてはすべての年齢層で「平等である」「やや平等である」を合わせた割合が「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合よりも多くなっており、平等感が強くなっている。

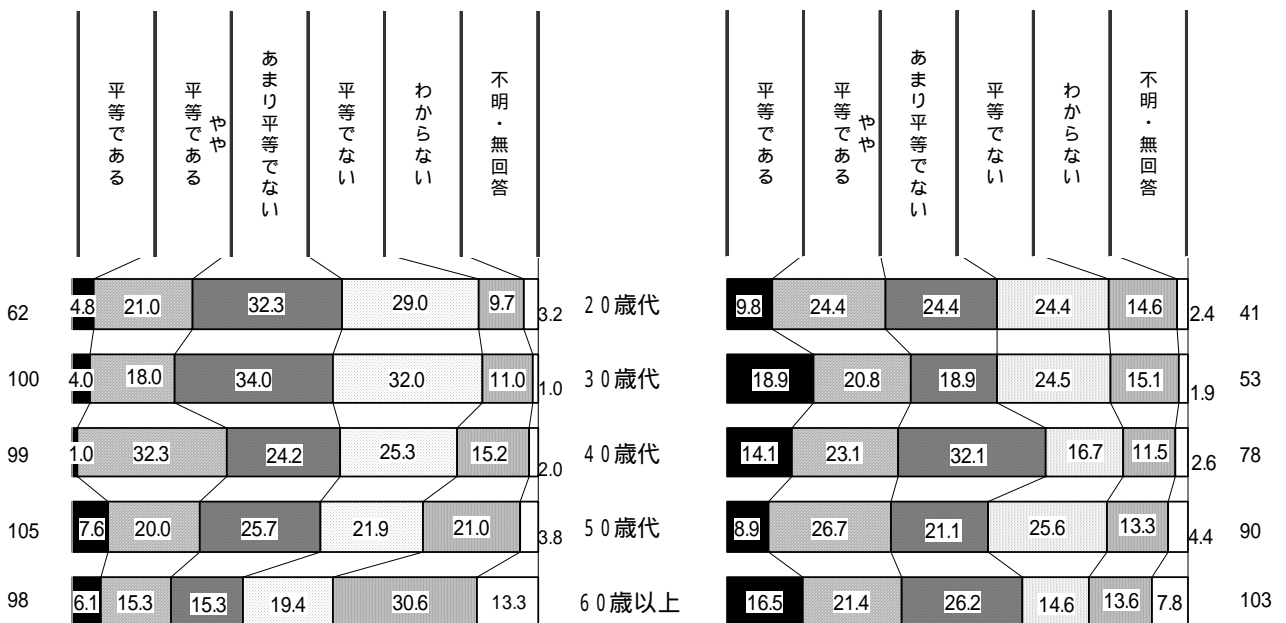
問7. 政治・経済界における男女の平等感



年齢層別

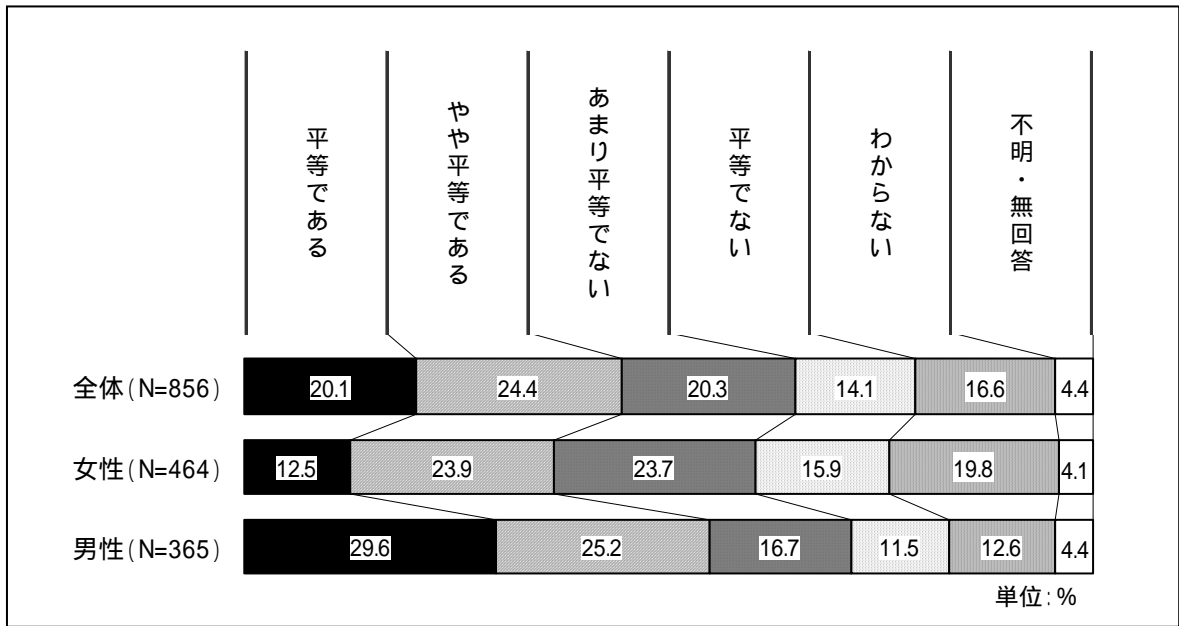
女性

男性



『政治・経済界』では、すべての性別、年齢層で「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が「平等である」「やや平等である」を合わせた割合よりも多くなっており、不平等感が強くなっている。女性では年齢層が上がるにつれ「わからない」の割合が多くなる傾向がみられた。

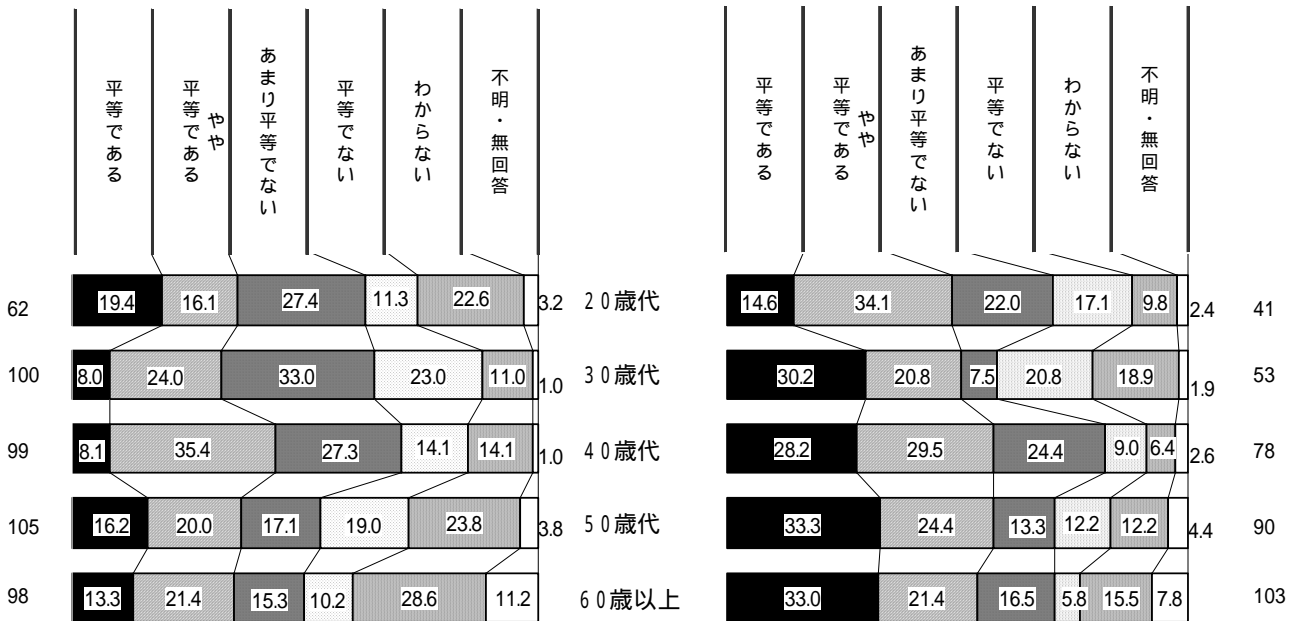
問7. 法律や制度の上における男女の平等感



年齢層別

女性

男性



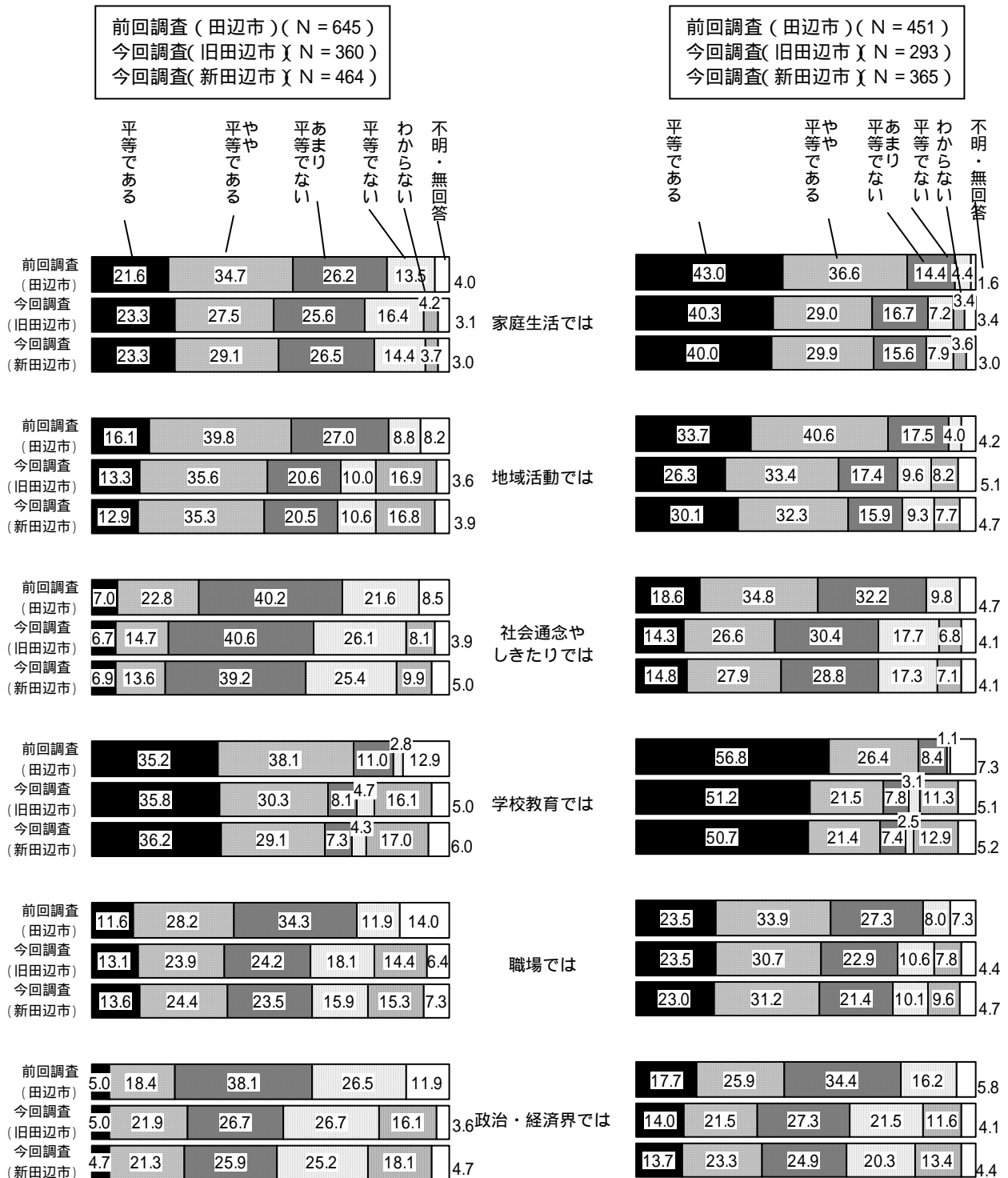
『法律や制度の上』では、女性の30歳代で「あまり平等でない」「平等でない」を合わせた割合が最も多くなっており、56.0%と半数を超えている。男性では20歳代を除くすべての年齢層において「平等である」「やや平等である」を合わせた割合が半数以上を占めている。

問7. 前回調査(平成9年度田辺市にて実施)との比較

男女は、どの程度平等だと思うかについて

<女性>

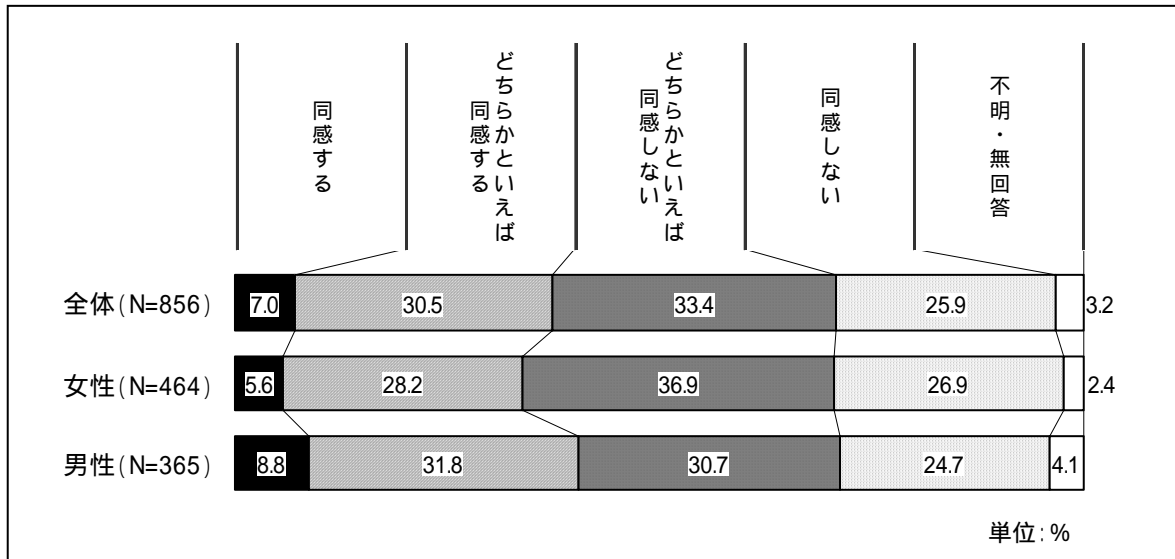
<男性>



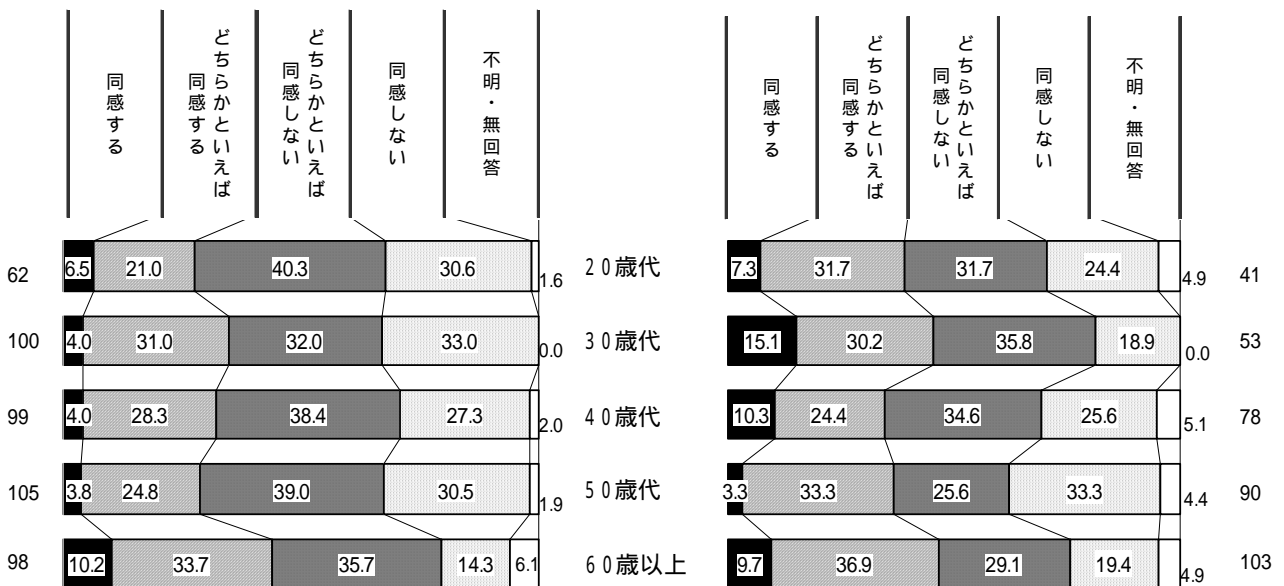
「わからない」の選択肢は、今回調査のみ。

男女の平等感を前回調査と今回調査(旧田辺市)で比較してみると、「平等である」「やや平等である」を合わせた割合は、女性では『政治・経済界では』以外の項目ですべて減少している。また、男性については「平等である」「やや平等である」を合わせた割合がすべての項目で減少しており、中でも『家庭生活では』『地域活動では』『社会通念やしきたりでは』『学校教育では』については、10ポイント以上減少している。

問8 . あなたは、「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担についての考え方をどう思いますか。(あてはまるもの1つに)



女性 年齢層別 男性



性別役割分担を肯定する割合は女性・男性ともに60歳以上で最も多い

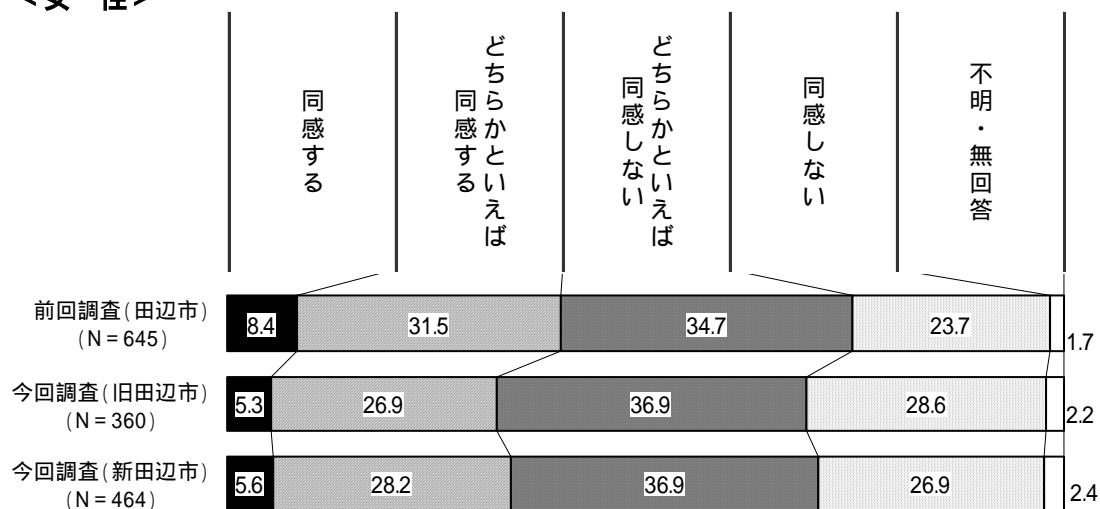
固定的な性別役割分担についてみると、「どちらかといえば同意しない」「同意しない」を合わせた割合は、女性で63.8%、男性で55.4%となっており、女性の方が性別役割分担について否定的な考えが多くみられる。

年齢層別でみると、「同意する」「どちらかといえば同意する」を合わせた割合では、女性・男性ともに60歳以上で最も多く、女性で43.9%、男性で46.6%となっている。一方、「どちらかといえば同意しない」「同意しない」を合わせた割合では、女性については20歳代・50歳代がともに約7割と多く、男性については40歳代・50歳代でともに約6割と多くなっている。

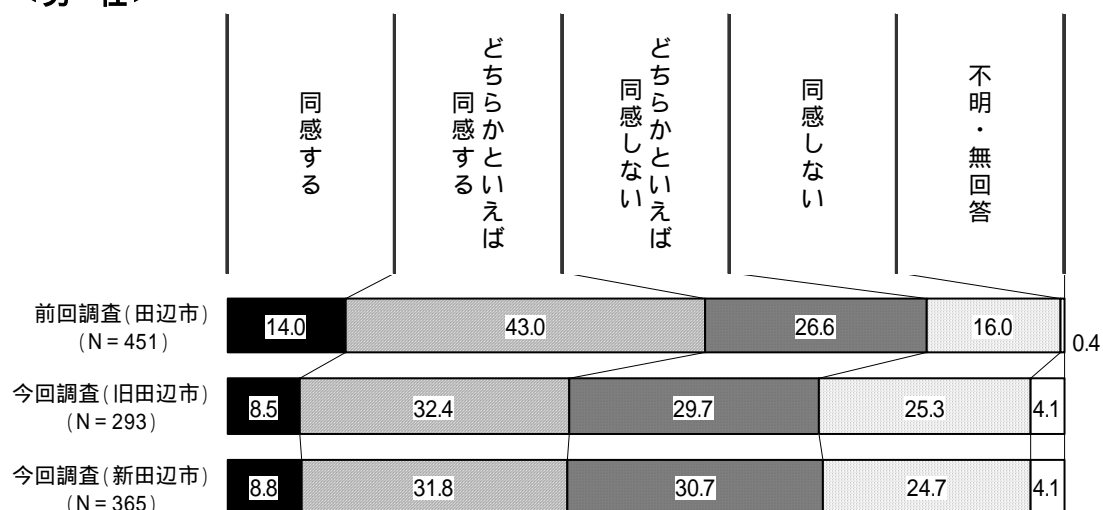
問 8 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担について

<女 性>



<男 性>



単位：%

前回調査に比べ性別役割分担を肯定する割合が男女ともに減少

固定的な性別役割分担についてみると、「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた割合は、女性については前回調査で 39.9%であるのに対し、今回調査（旧田辺市）ではその割合が 32.2%、今回調査（新田辺市）では 33.8%となっている。男性については前回調査で 57.0%であるのに対し、今回調査（旧田辺市）ではその割合が 40.9%、今回調査（新田辺市）では 40.6%となっている。

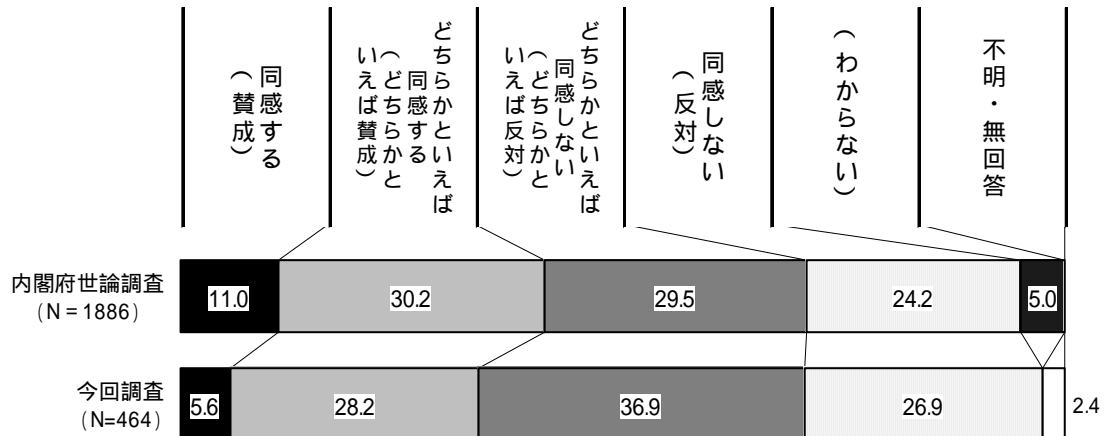
「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担を肯定する割合は、前回調査と今回調査（旧田辺市）を比較すると女性では 7.7 ポイント、男性では 16.1 ポイント減少しており、男性でよりその差が大きくなっている。

問 8 . 内閣府世論調査（平成 16 年度実施）との比較

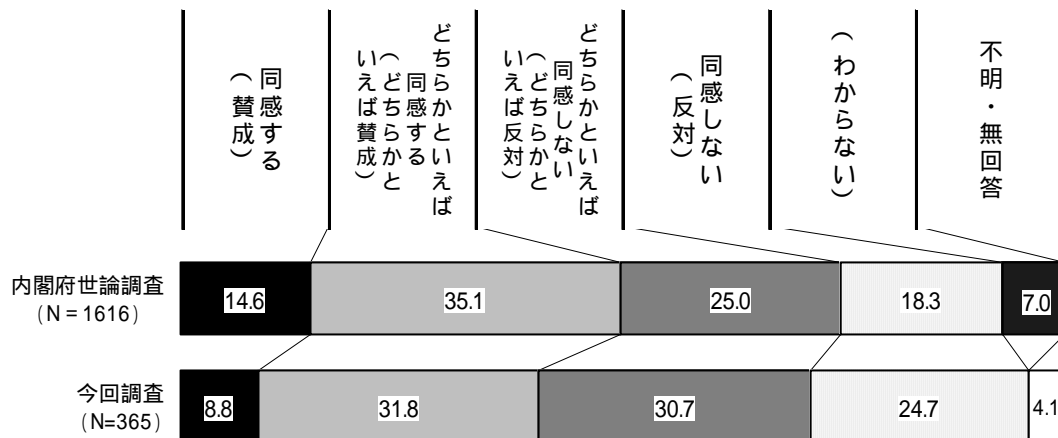
「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担について

内閣府世論調査での設問は“「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」という考え方について賛成するか”

<女 性>



<男 性>



単位：%

選択肢の()は内閣府世論調査の表現。「わからない」の選択肢は内閣府調査のみ。
「不明・無回答」の選択肢は今回調査のみ。

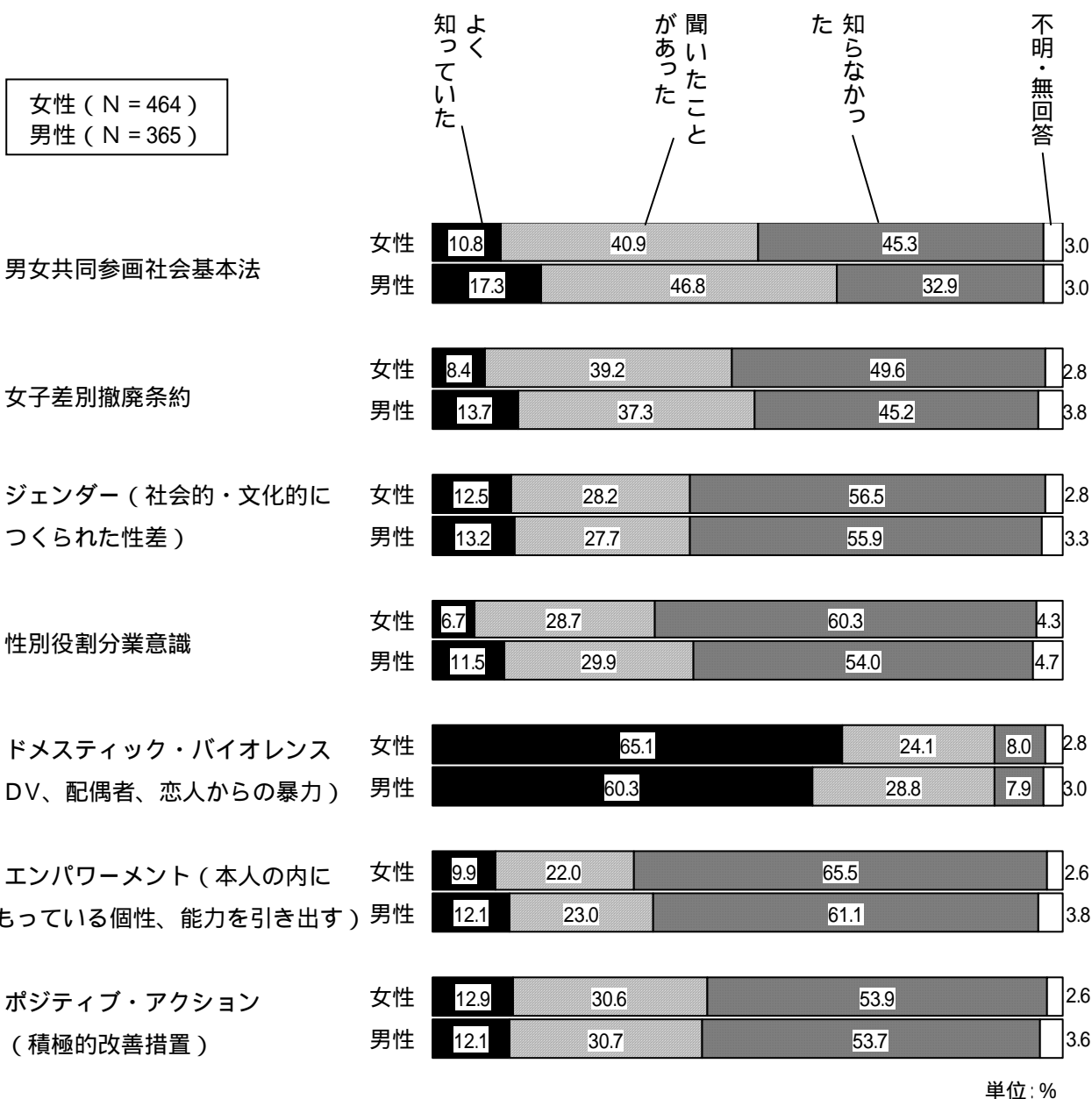
内閣府世論調査に比べ性別役割分担を肯定する割合が男女ともに少ない

『男は仕事、女は家庭』(または「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである」)という考えについて、女性では内閣府調査において「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が41.2%であるのに対し、今回調査においては「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせた割合が33.8%となっている。また、男性においてはそれらの肯定的な割合が内閣府調査で49.7%に対し今回調査で40.6%となっている。

男女ともに固定的な性別役割分担を肯定する割合は今回調査で少なくなっているが、その差は女性で7.4ポイント、男性で9.1ポイントと、男性でより差が大きくなっている。

(2) 男女共同参画社会に関する「ことば」

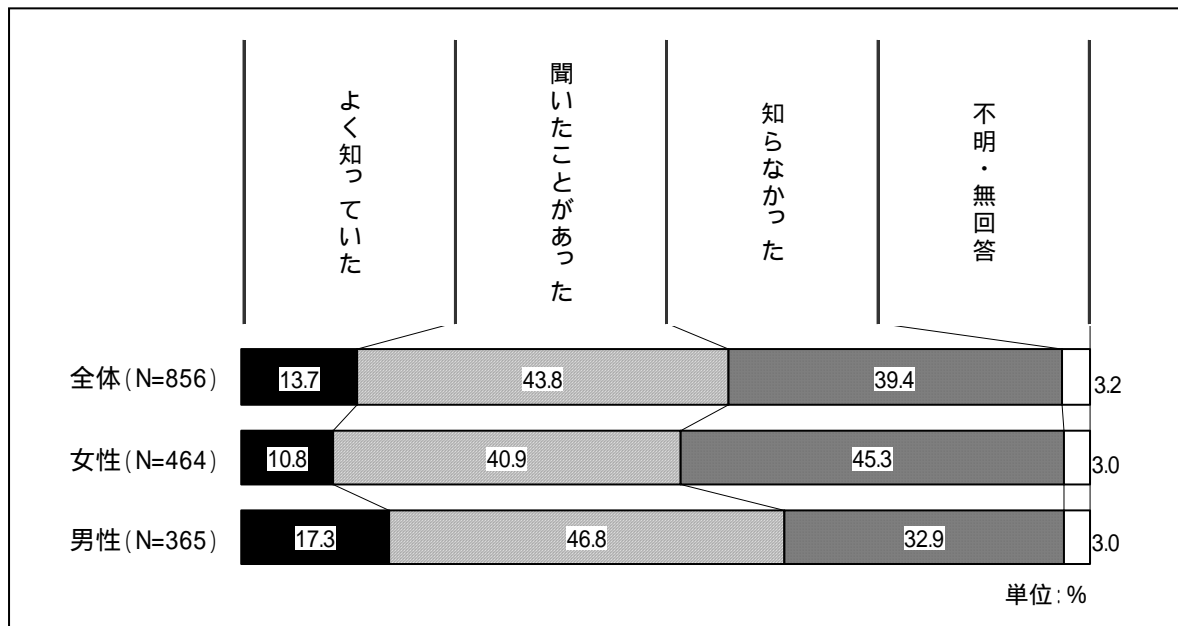
問9. あなたは、次の「ことば」をご存じでしたか。(ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに)



『ドメスティック・バイオレンス』の周知度は女性・男性ともに約9割

ことばの周知度についてみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、女性・男性ともに『ドメスティック・バイオレンス』が最も多く、約9割となっている。一方、「知らなかった」と答えた割合は、女性・男性ともに『エンパワーメント』が6割を超え、最も多くなっている。

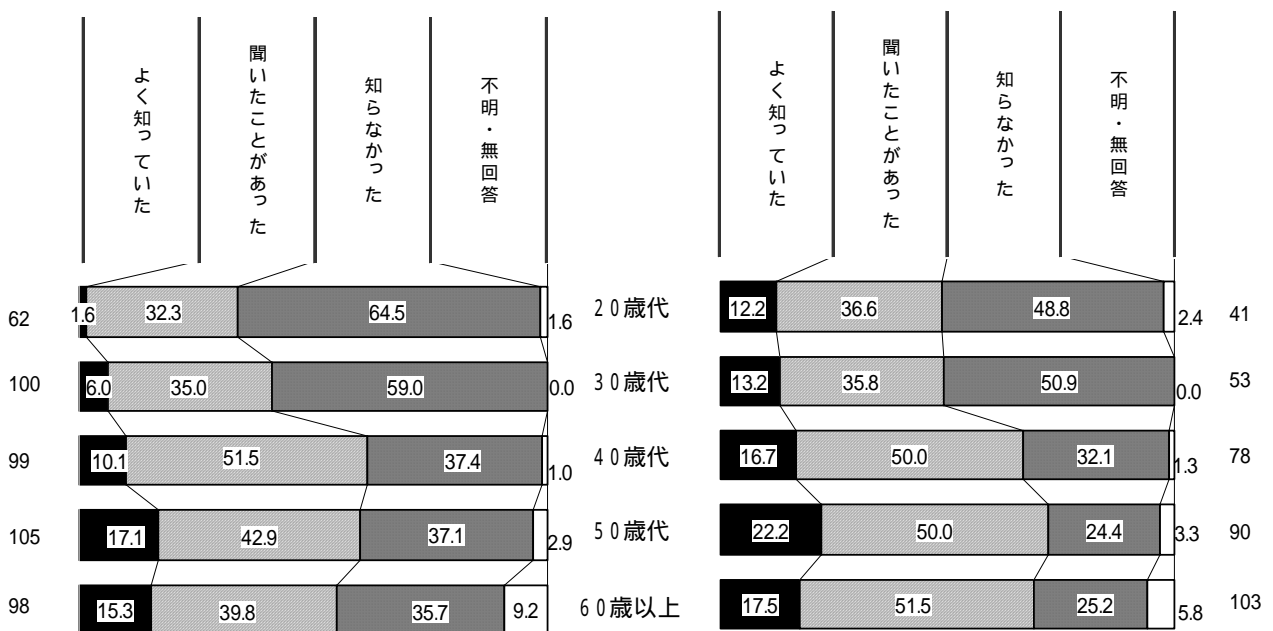
問9.『男女共同参画社会基本法』の周知度



年齢層別

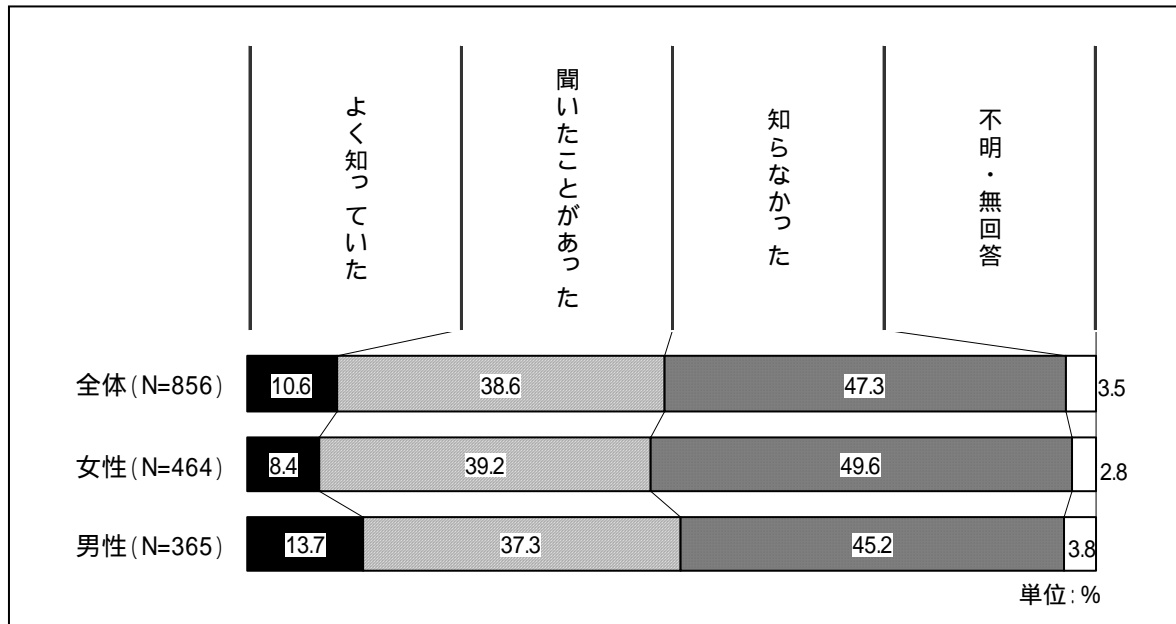
女性

男性



『男女共同参画社会基本法』の周知度についてみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、女性では40歳代が61.6%と最も多くなっており、次いで50歳代が60.0%となっている。また、男性では50歳代が72.2%と最も多くなり、60歳以上が69.0%となっている。女性・男性ともに20歳代、30歳代では「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が半数以下となっているが、40歳代以上の年齢層ではその割合が半数を超える。

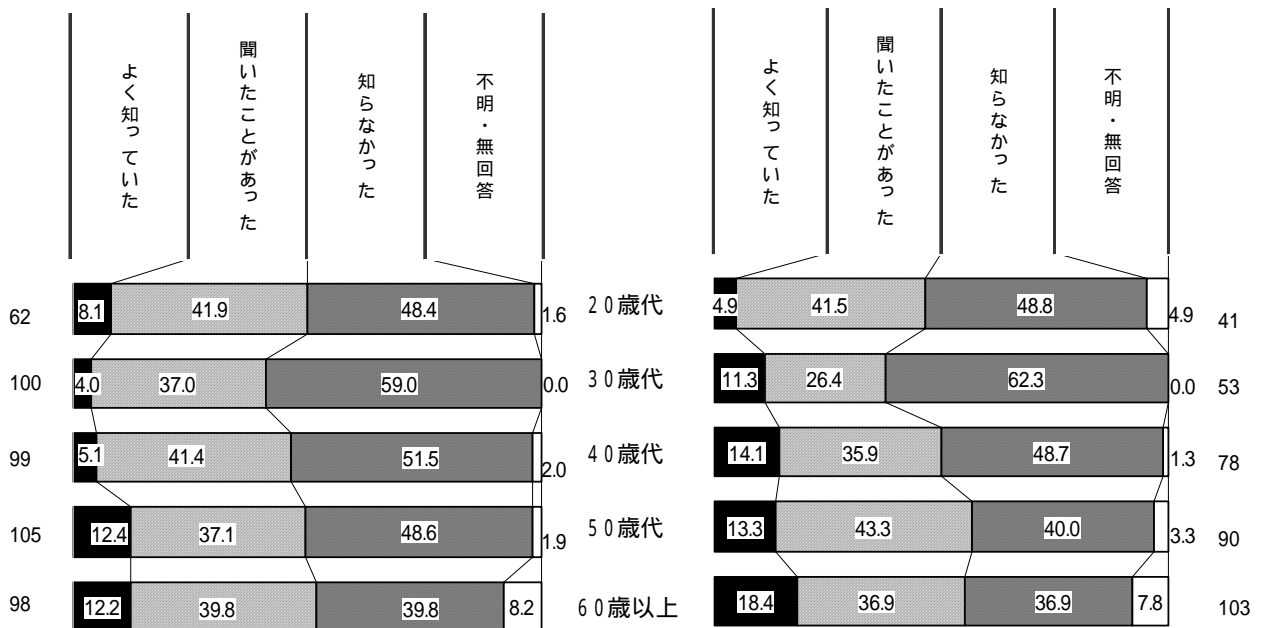
問9.『女子差別撤廃条約』の周知度



年齢層別

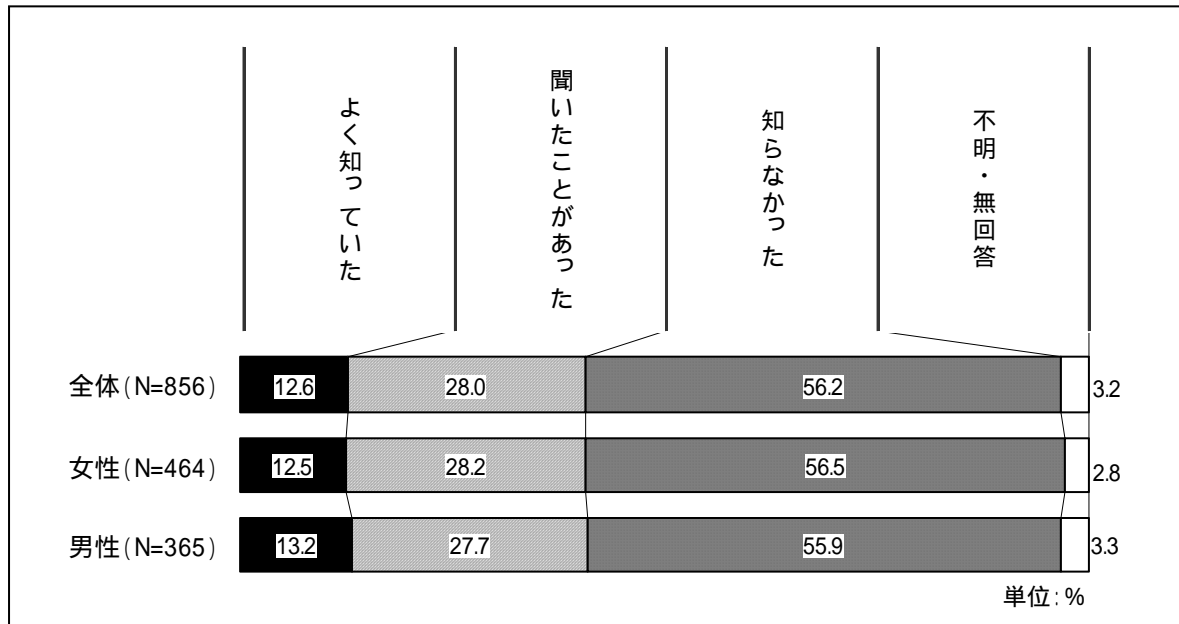
女性

男性



『女子差別撤廃条約』についてみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、女性では60歳以上が52.0%と最も多くなっており、次いで20歳代が50.0%となっている。また、男性では50歳代が56.6%と最も多くなり、60歳以上が55.3%となっている。

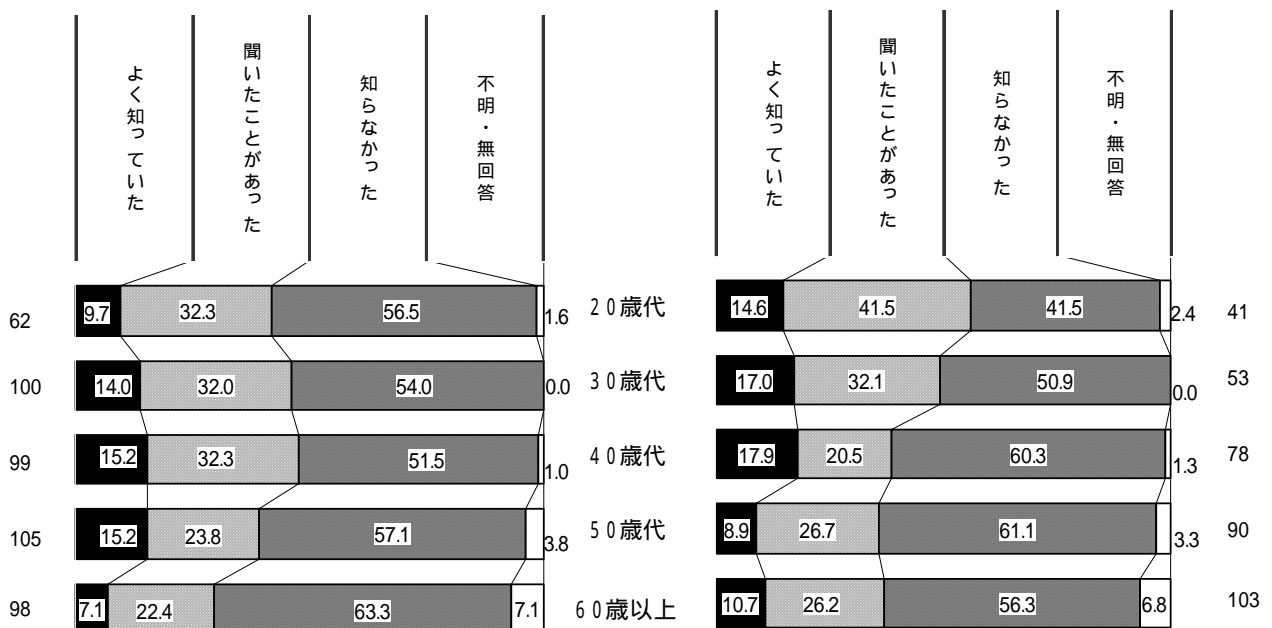
問9.『ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）』の周知度



年齢層別

女性

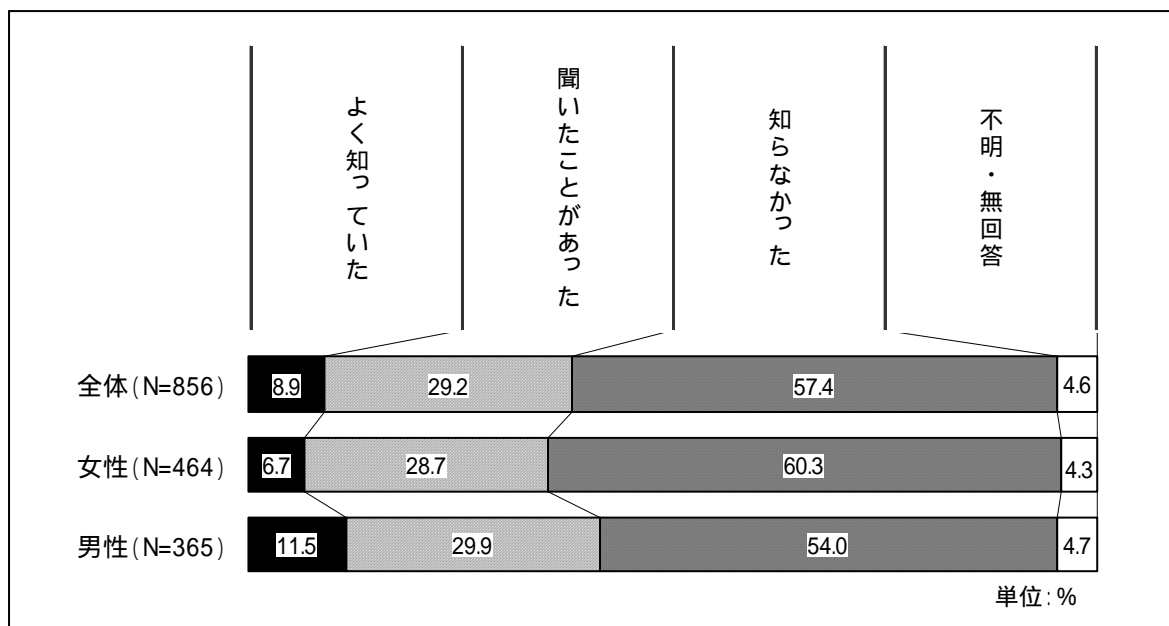
男性



『ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）』については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、男女ともに約4割でありほとんど差はない。

年齢層別にみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は女性では40歳代で47.5%、男性では20歳代が56.1%とそれぞれ最も多くなっている。

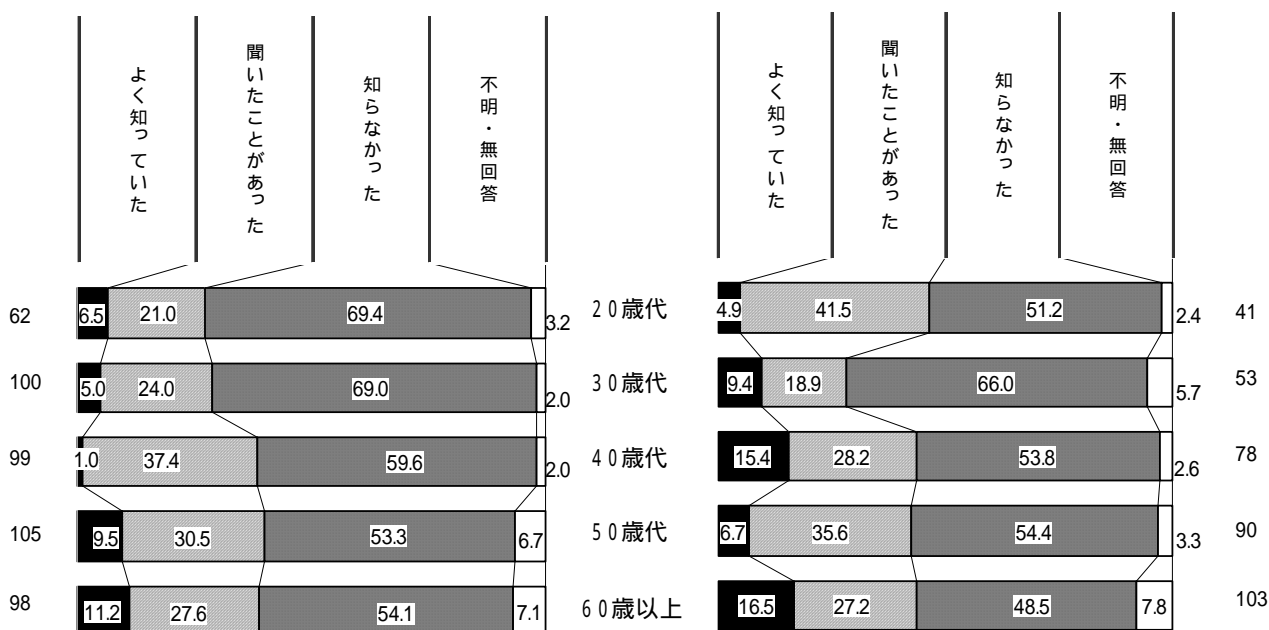
問9.『性別役割分業意識』の周知度



年齢層別

女性

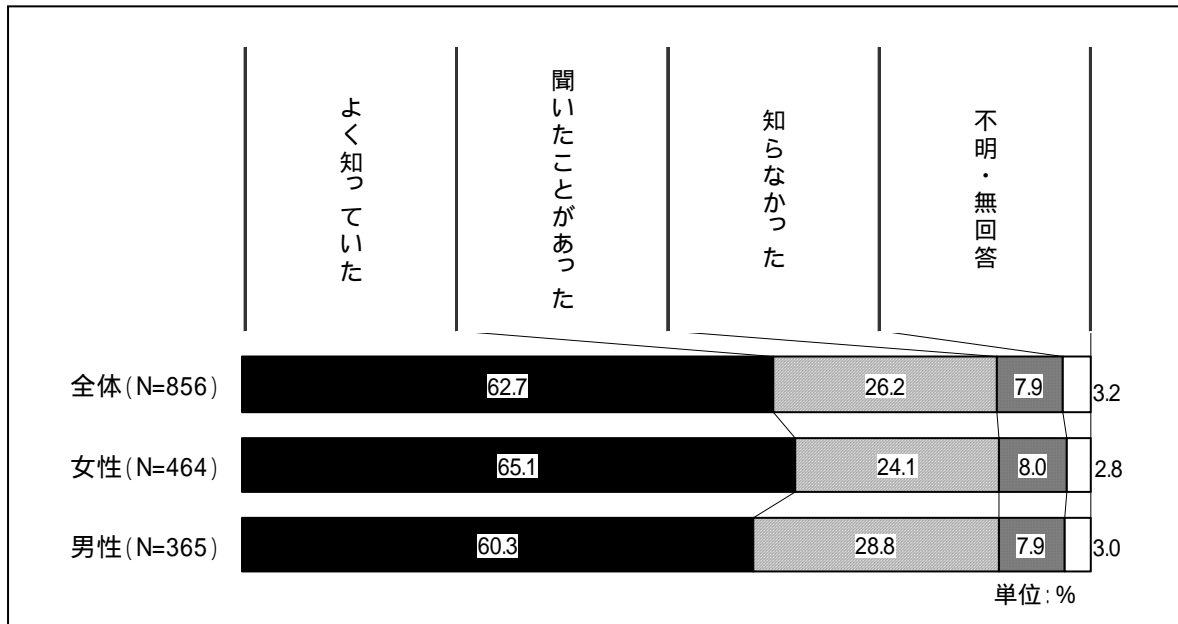
男性



『性別役割分業意識』については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が女性では35.4%、男性で41.4%と、男性で6.0ポイント多くなっている。

年齢層別にみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、女性では20歳代が27.5%、男性では30歳代が28.3%と最も少なくなっている。

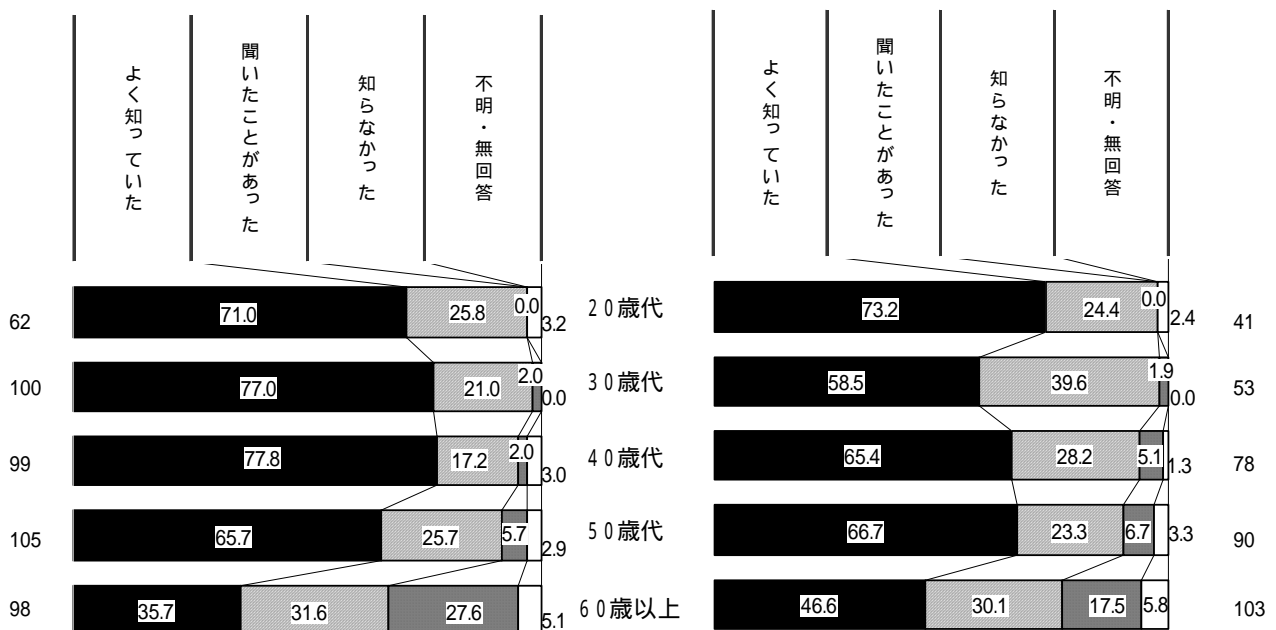
問9.『ドメスティック・バイオレンス(DV、配偶者、恋人からの暴力)』の周知度



年齢層別

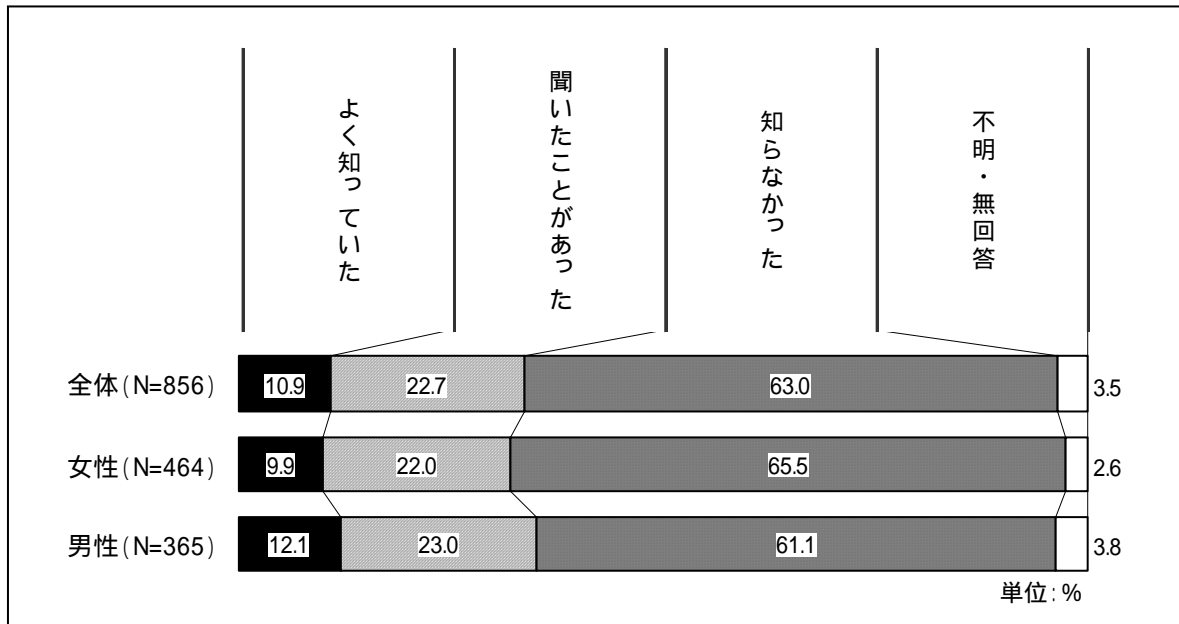
女性

男性



『ドメスティック・バイオレンス(DV、配偶者、恋人からの暴力)』については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が男女ともに約9割と、ほとんど差がない。
 年齢層別にみると、男女ともに50歳代までは「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が9割を超えているが、60歳以上の年齢層ではその割合が女性で67.3%、男性で76.7%となり、他の年齢層に比べ低くなっている。

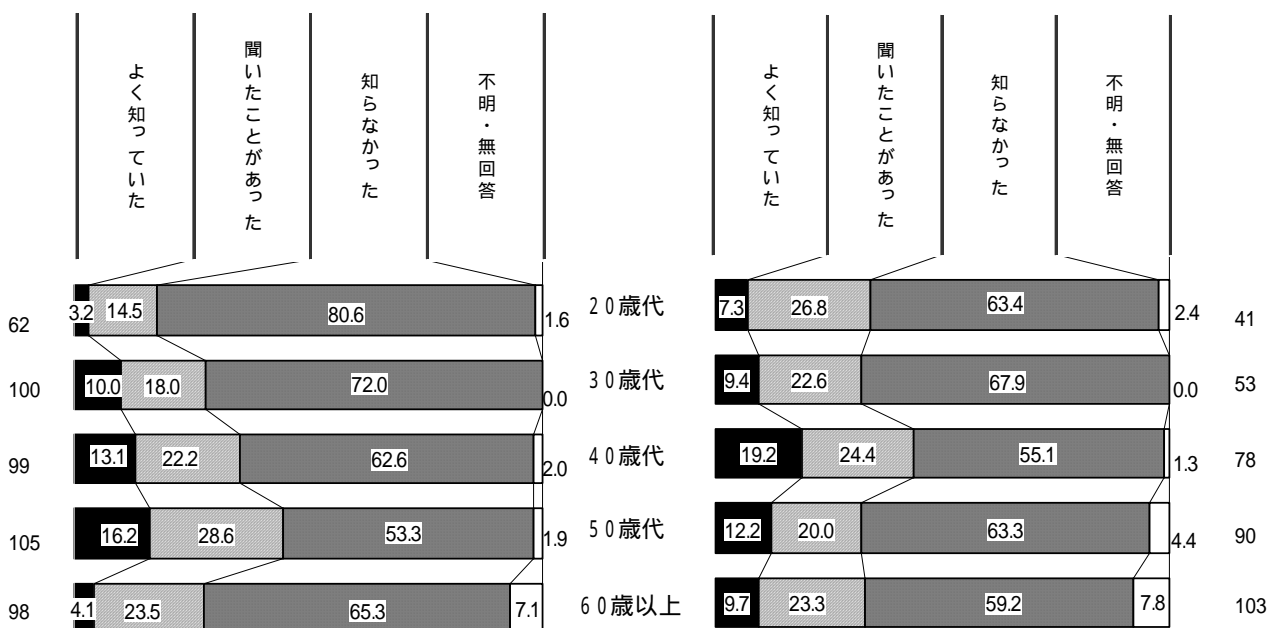
問9.『エンパワーメント(本人の内にもっている個性、能力を引き出す)』の周知度



年齢層別

女性

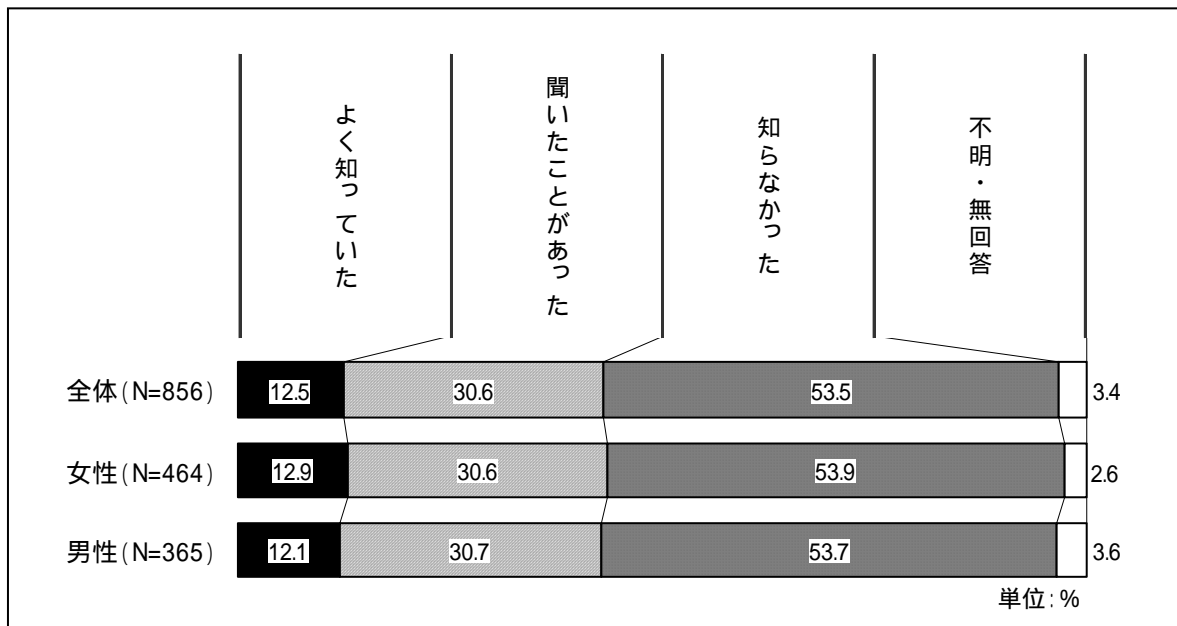
男性



『エンパワーメント(本人の内にもっている個性、能力を引き出す)』については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が女性で31.9%、男性で35.1%と、やや男性が上回っている。

年齢層別にみると「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は女性の50歳代で44.8%、男性の40歳代が43.6%と最も多くなっているが、ともに半数に満たない。

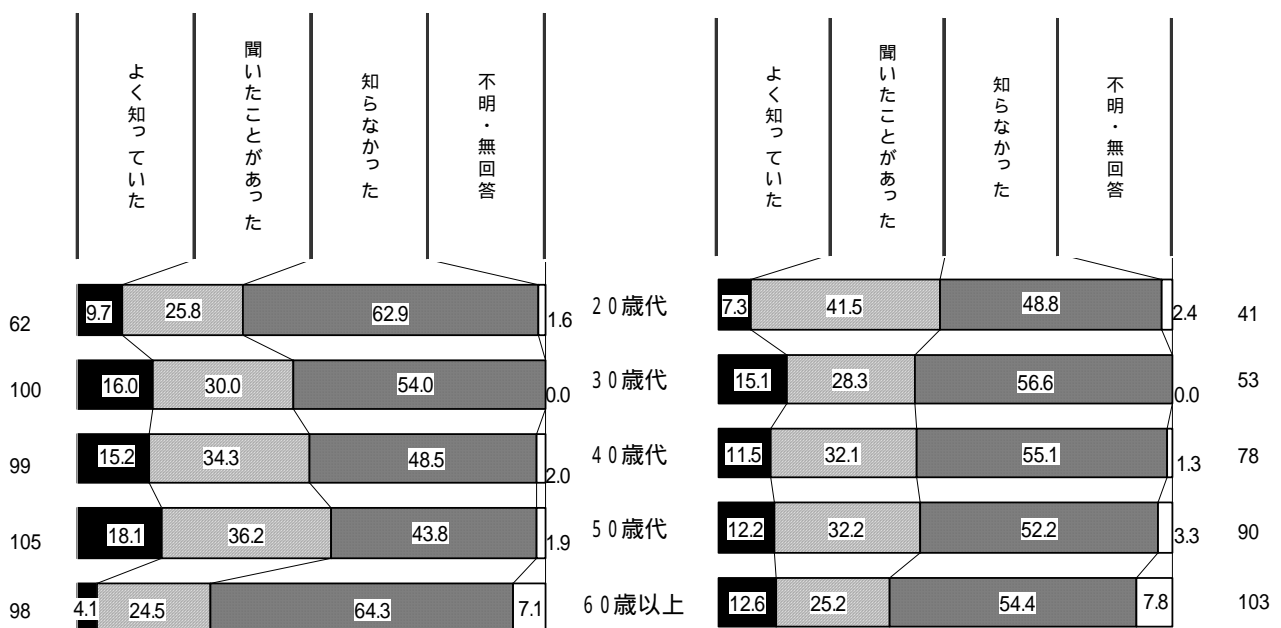
問9.『ポジティブ・アクション(積極的改善措置)』の周知度



年齢層別

女性

男性



『ポジティブ・アクション(積極的改善措置)』については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が男女ともに約4割と、ほとんど差がない。

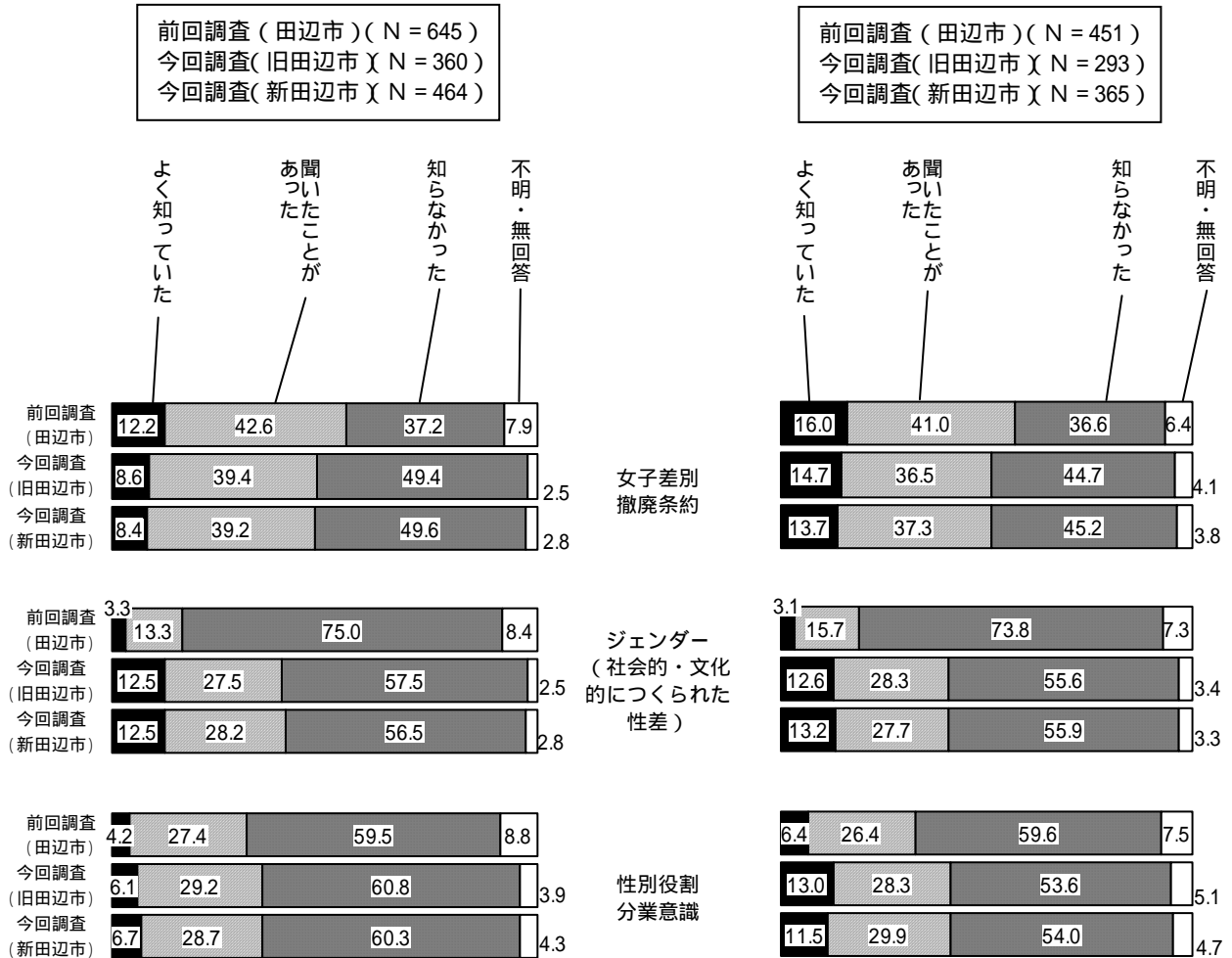
年齢層別にみると「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は女性の50歳代で54.3%、男性の20歳代が48.8%と最も多くなっている。

問9 . 前回調査（平成9年度田辺市にて実施）との比較

「ことば」の周知について

<女性>

<男性>

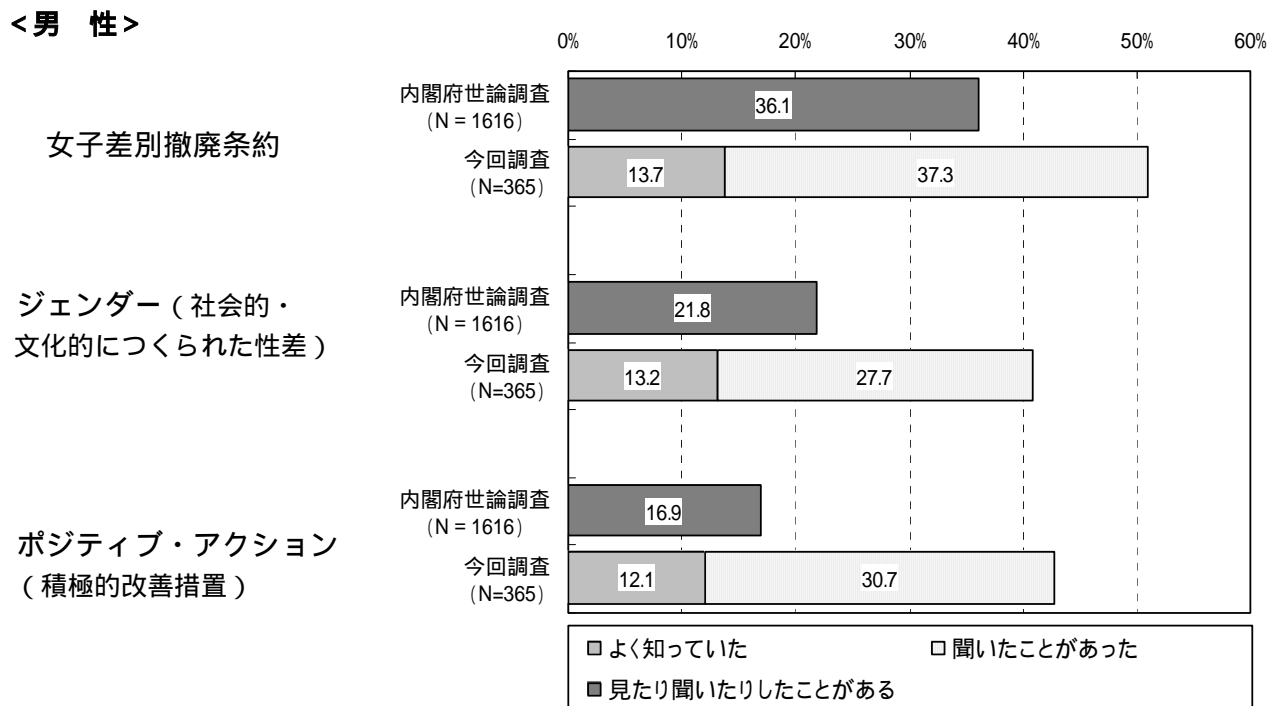
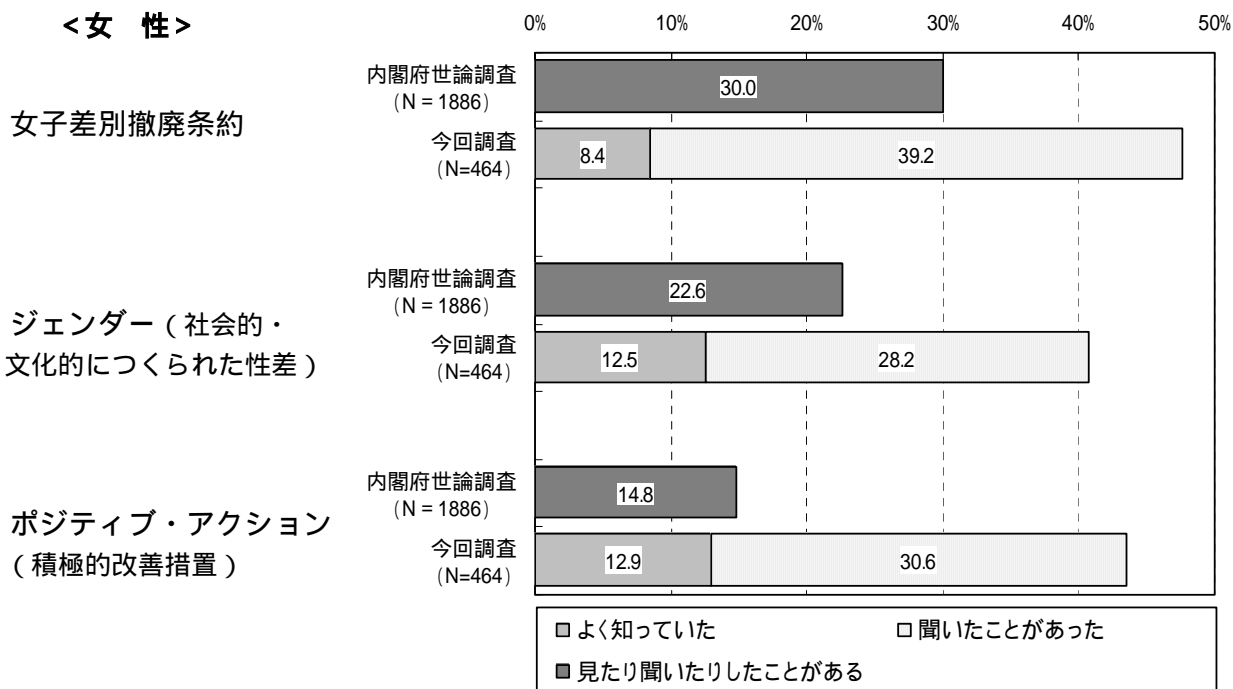


単位：%

ことばの周知度を前回調査と今回調査(旧田辺市)で比較してみると、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合は、「女子差別撤廃条約」で男女ともに減少している。また、「ジェンダー」については、「よく知っていた」「聞いたことがあった」を合わせた割合が前回調査から女性で23.4ポイント、男性で22.1ポイントと、大幅に増加している。「性別役割分業意識」については、男女ともにやや増加している。

問9．内閣府世論調査（平成16年度実施）との比較【参考】

「ことば」の周知について



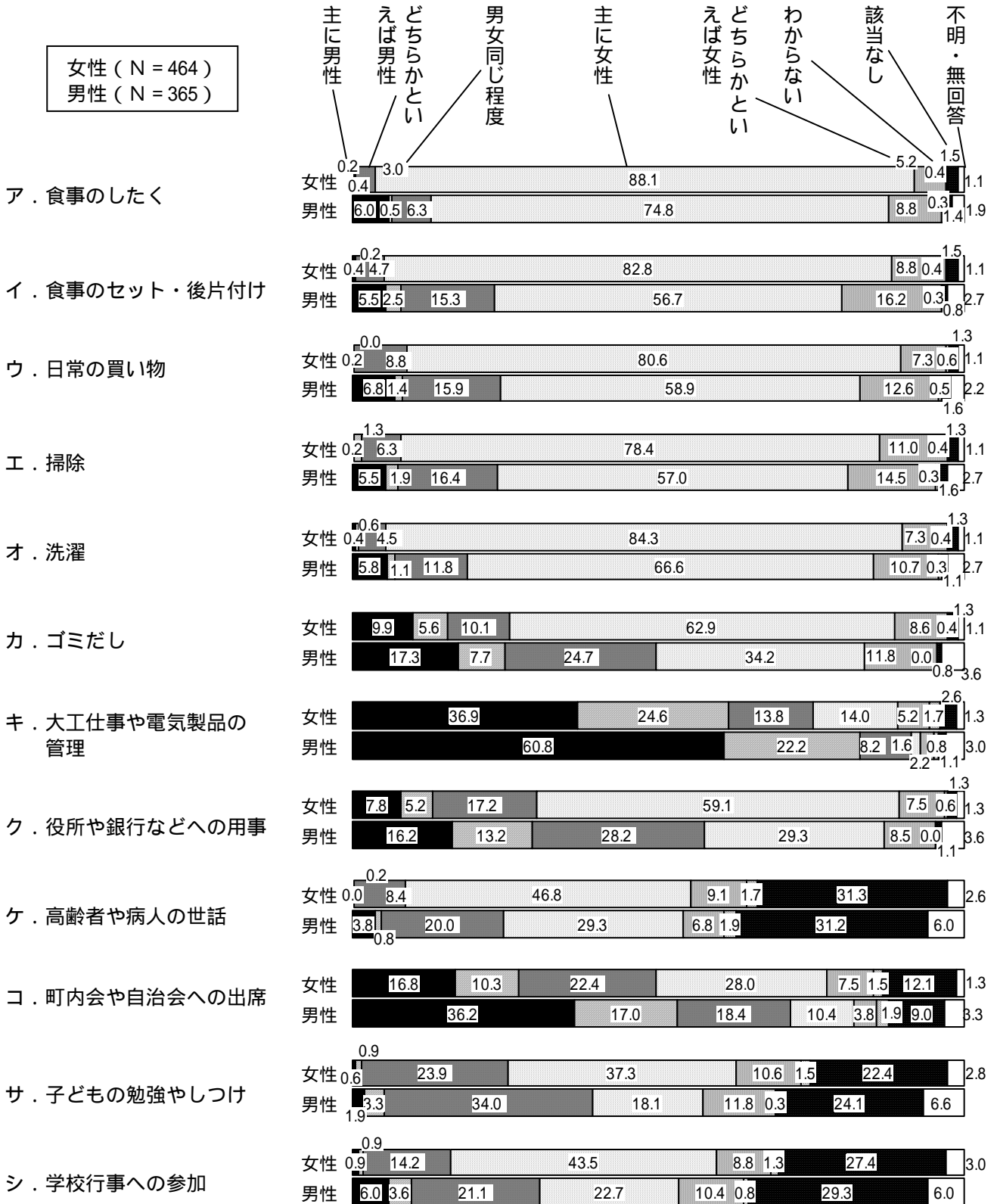
単位：%

内閣府調査と今回調査では選択肢の表現が異なっている。

3. 男女の役割分担について

(1) 家庭生活における男女の役割

問10. あなたの家では、次にあげる仕事等はだれの役割になっていますか。(ア～シそれぞれについてあてはまるもの1つに)



単位: %

問10. あなたの家では、次にあげる仕事等はだれの役割になっていますか。(ア～シそれぞれについてあてはまるもの1つに) <表>

女性 (N = 464)

上段：度数 下段： %	主に男性	どちらかといえは男性	男女同程度	主に女性	どちらかといえは女性	わからない	該当なし	答不明・無回答
ア. 食事のしたく	1 0.2	2 0.4	14 3.0	409 88.1	24 5.2	2 0.4	7 1.5	5 1.1
イ. 食事のセット・後片付け	2 0.4	1 0.2	22 4.7	384 82.8	41 8.8	2 0.4	7 1.5	5 1.1
ウ. 日常の買い物	1 0.2	- -	41 8.8	374 80.6	34 7.3	3 0.6	6 1.3	5 1.1
エ. 掃除	1 0.2	6 1.3	29 6.3	364 78.4	51 11.0	2 0.4	6 1.3	5 1.1
オ. 洗濯	2 0.4	3 0.6	21 4.5	391 84.3	34 7.3	2 0.4	6 1.3	5 1.1
カ. ゴミだし	46 9.9	26 5.6	47 10.1	292 62.9	40 8.6	2 0.4	6 1.3	5 1.1
キ. 大工仕事や電気製品の管理	171 36.9	114 24.6	64 13.8	65 14.0	24 5.2	8 1.7	12 2.6	6 1.3
ク. 役所や銀行などへの用事	36 7.8	24 5.2	80 17.2	274 59.1	35 7.5	3 0.6	6 1.3	6 1.3
ケ. 高齢者や病人の世話	- -	1 0.2	39 8.4	217 46.8	42 9.1	8 1.7	145 31.3	12 2.6
コ. 町内会や自治会への出席	78 16.8	48 10.3	104 22.4	130 28.0	35 7.5	7 1.5	56 12.1	6 1.3
サ. 子どもの勉強やしつけ	3 0.6	4 0.9	111 23.9	173 37.3	49 10.6	7 1.5	104 22.4	13 2.8
シ. 学校行事への参加	4 0.9	4 0.9	66 14.2	202 43.5	41 8.8	6 1.3	127 27.4	14 3.0

男性 (N = 365)

上段：度数 下段： %	主に男性	どちらかといえは男性	男女同程度	主に女性	どちらかといえは女性	わからない	該当なし	答不明・無回答
ア. 食事のしたく	22 6.0	2 0.5	23 6.3	273 74.8	32 8.8	1 0.3	5 1.4	7 1.9
イ. 食事のセット・後片付け	20 5.5	9 2.5	56 15.3	207 56.7	59 16.2	1 0.3	3 0.8	10 2.7
ウ. 日常の買い物	25 6.8	5 1.4	58 15.9	215 58.9	46 12.6	2 0.5	6 1.6	8 2.2
エ. 掃除	20 5.5	7 1.9	60 16.4	208 57.0	53 14.5	1 0.3	6 1.6	10 2.7
オ. 洗濯	21 5.8	4 1.1	43 11.8	243 66.6	39 10.7	1 0.3	4 1.1	10 2.7
カ. ゴミだし	63 17.3	28 7.7	90 24.7	125 34.2	43 11.8	- -	3 0.8	13 3.6
キ. 大工仕事や電気製品の管理	222 60.8	81 22.2	30 8.2	6 1.6	8 2.2	3 0.8	4 1.1	11 3.0
ク. 役所や銀行などへの用事	59 16.2	48 13.2	103 28.2	107 29.3	31 8.5	- -	4 1.1	13 3.6
ケ. 高齢者や病人の世話	14 3.8	3 0.8	73 20.0	107 29.3	25 6.8	7 1.9	114 31.2	22 6.0
コ. 町内会や自治会への出席	132 36.2	62 17.0	67 18.4	38 10.4	14 3.8	7 1.9	33 9.0	12 3.3
サ. 子どもの勉強やしつけ	7 1.9	12 3.3	124 34.0	66 18.1	43 11.8	1 0.3	88 24.1	24 6.6
シ. 学校行事への参加	22 6.0	13 3.6	77 21.1	83 22.7	38 10.4	3 0.8	107 29.3	22 6.0

家庭生活の仕事は「主に女性」の役割

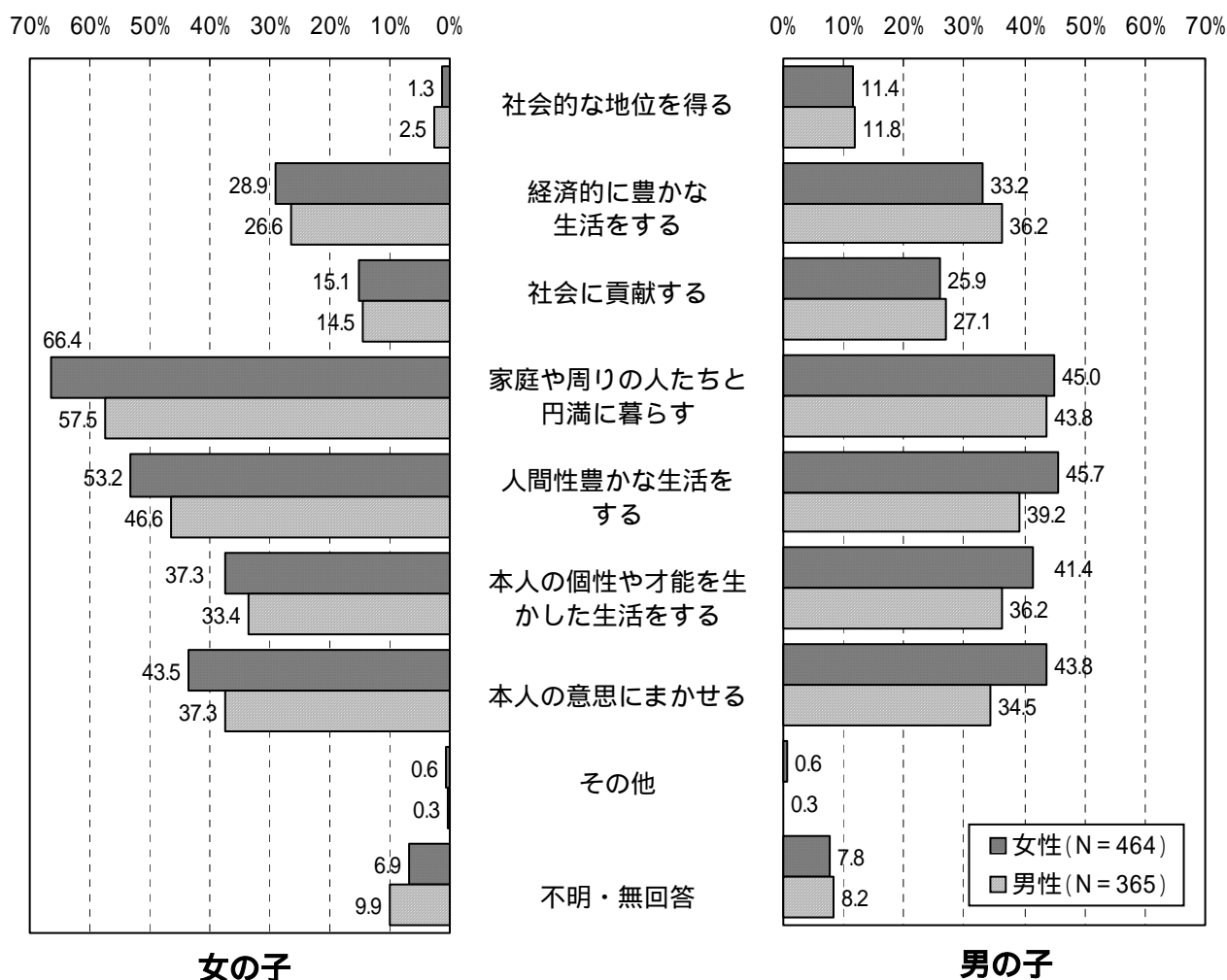
家庭生活における男女の役割についてみると、『食事のしたく』『食事のセット・後片付け』『日常の買い物』『掃除』『洗濯』などの、いわゆる“家事”について、女性の約9割が「主に女性」「どちらかといえば女性」と回答し、男性でもその割合は7～8割となっている。しかし、男性ではその中のいずれの項目においても、女性よりも「男女同じ程度」との回答が多くなる傾向がみられた。

その他、ほとんどの項目で女性・男性ともに「主に女性」「どちらかといえば女性」を合わせた割合が多くなっているが、『大工仕事や電気製品の管理』については「主に男性」「どちらかといえば男性」を合わせた割合が女性で61.5%、男性で83.0%となっており、大部分を占めている。

4. 子育てについて

(1) 子どもの将来像

問11. あなたは、子どもには、将来どのような生き方をしてほしい(ほしかった)と思いますか。(女の子、男の子それぞれについてあてはまるもの3つまでに)
子どものいない方も「いる」と想定してお答えください



『男の子』に「経済的に豊かな生活をする」「社会に貢献する」生き方を望む割合が多い

子どもの将来像についてみると、『女の子』の生き方については、女性・男性ともに「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」が、女性で66.4%、男性で57.5%と最も多く、次いで「人間性豊かな生活をする」が女性で53.2%、男性で46.6%、「本人の意思にまかせる」が女性で43.5%、男性で37.3%となっている。

一方、『男の子』の生き方については、女性では「人間性豊かな生活をする」が45.7%で最も多く、次いで「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」が45.0%となっている。男性では「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」が43.8%と最も多く、次いで「人間性豊かな生活をする」が39.2%となっている。また、『女の子』よりも『男の子』に「経済的に豊かな生活をする」「社会に貢献する」「社会的な地位を得る」といった生き方を希望する割合が女性・男性ともに多くなっている。

問11. あなたは、子どもには、将来どのような生き方をしてほしい(ほしかった)と思いますか。(女の子、男の子それぞれについてあてはまるもの3つまでに)

女の子

件数(人) 選択肢の数値(%)	全体	社会的な地位を得る	経済的に豊かな生活をする	社会に貢献する	家庭や周りの人たちと円満に暮らす	人間性豊かな生活をする	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思にまかせる	その他	不明無回答
全体	856	1.9	27.7	14.8	62.6	49.9	35.2	40.7	0.5	8.3
女性	464	1.3	28.9	15.1	66.4	53.2	37.3	43.5	0.6	6.9
男性	365	2.5	26.6	14.5	57.5	46.6	33.4	37.3	0.3	9.9
女性/20歳代	62	3.2	27.4	9.7	67.7	54.8	38.7	51.6	-	4.8
30歳代	100	1.0	35.0	12.0	79.0	57.0	47.0	43.0	-	1.0
40歳代	99	1.0	28.3	17.2	59.6	58.6	42.4	38.4	-	9.1
50歳代	105	1.9	28.6	17.1	59.0	53.3	32.4	39.0	2.9	11.4
60歳以上	98	-	24.5	17.3	67.3	42.9	26.5	49.0	-	7.1
男性/20歳代	41	4.9	26.8	12.2	65.9	56.1	31.7	36.6	-	4.9
30歳代	53	1.9	22.6	22.6	58.5	52.8	49.1	34.0	-	5.7
40歳代	78	1.3	21.8	15.4	51.3	39.7	41.0	34.6	-	10.3
50歳代	90	2.2	35.6	15.6	57.8	43.3	33.3	54.4	1.1	8.9
60歳以上	103	2.9	24.3	9.7	58.3	47.6	20.4	26.2	-	14.6

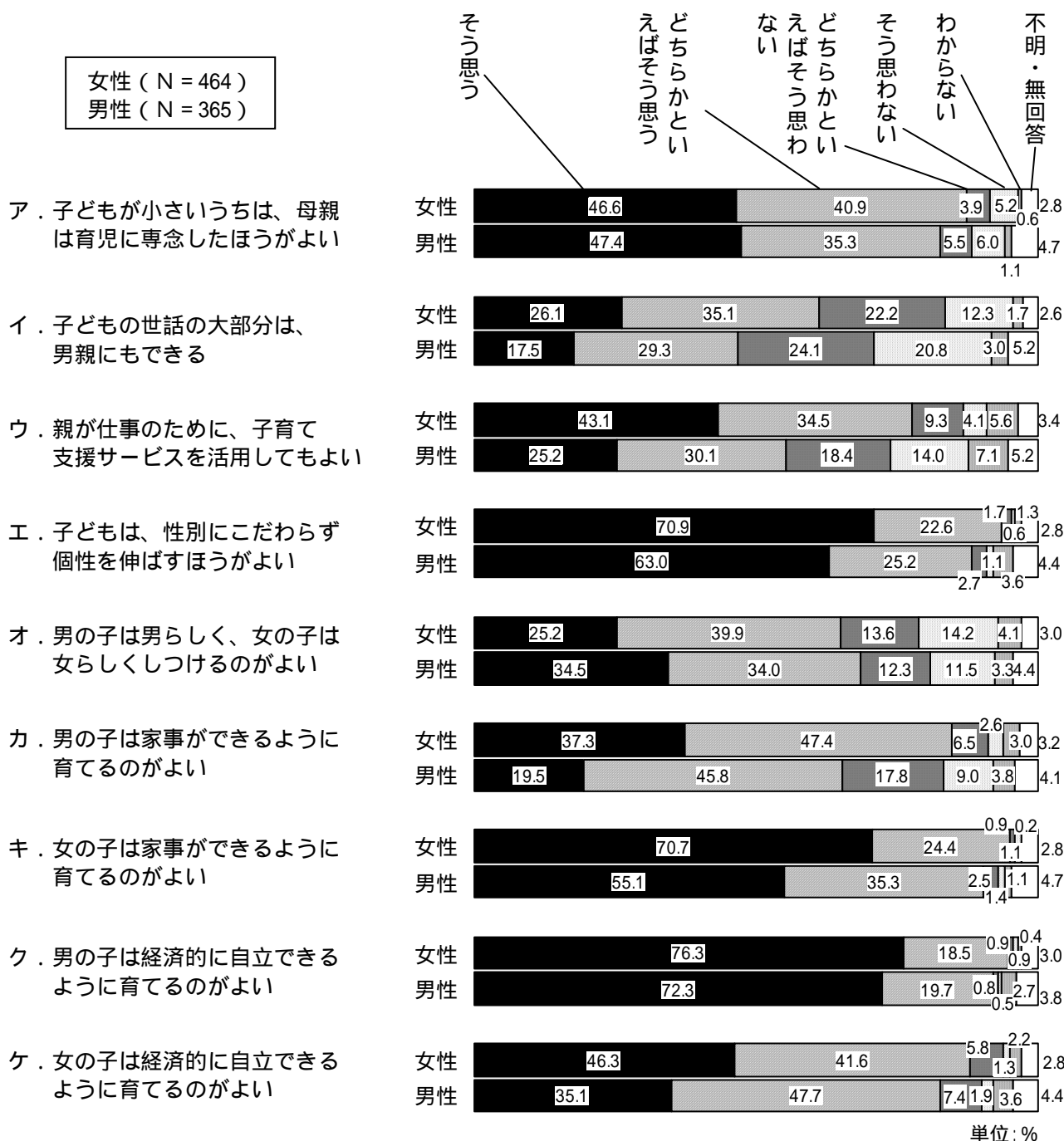
男の子

件数(人) 選択肢の数値(%)	全体	社会的な地位を得る	経済的に豊かな生活をする	社会に貢献する	家庭や周りの人たちと円満に暮らす	人間性豊かな生活をする	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思にまかせる	その他	不明無回答
全体	856	11.8	34.0	26.6	44.0	42.6	38.2	39.3	0.6	8.4
女性	464	11.4	33.2	25.9	45.0	45.7	41.4	43.8	0.6	7.8
男性	365	11.8	36.2	27.1	43.8	39.2	36.2	34.5	0.3	8.2
女性/20歳代	62	11.3	27.4	21.0	59.7	48.4	40.3	54.8	-	3.2
30歳代	100	10.0	35.0	22.0	60.0	51.0	49.0	38.0	-	5.0
40歳代	99	9.1	38.4	31.3	46.5	52.5	45.5	41.4	-	5.1
50歳代	105	10.5	34.3	25.7	39.0	44.8	45.7	41.9	2.9	8.6
60歳以上	98	16.3	28.6	27.6	25.5	32.7	25.5	46.9	-	15.3
男性/20歳代	41	22.0	39.0	29.3	36.6	41.5	41.5	31.7	-	7.3
30歳代	53	9.4	35.8	24.5	52.8	49.1	47.2	37.7	-	1.9
40歳代	78	5.1	32.1	23.1	43.6	34.6	43.6	34.6	-	6.4
50歳代	90	7.8	33.3	25.6	50.0	40.0	31.1	50.0	1.1	11.1
60歳以上	103	17.5	40.8	32.0	36.9	35.9	27.2	20.4	-	10.7

子どもの将来像についてみると、『女の子』の生き方については、いずれの性、年齢層別にみても「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」が最も多くなっている。『男の子』の生き方では「家庭や周りの人たちと円満に暮らす」「人間性豊かな生活をする」「本人の個性や才能を生かした生活をする」「本人の意思にまかせる」など、年齢層によって回答が多様である。

(2) 子育て

問12. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。(ア～ケそれぞれについてあてはまるもの1つに)

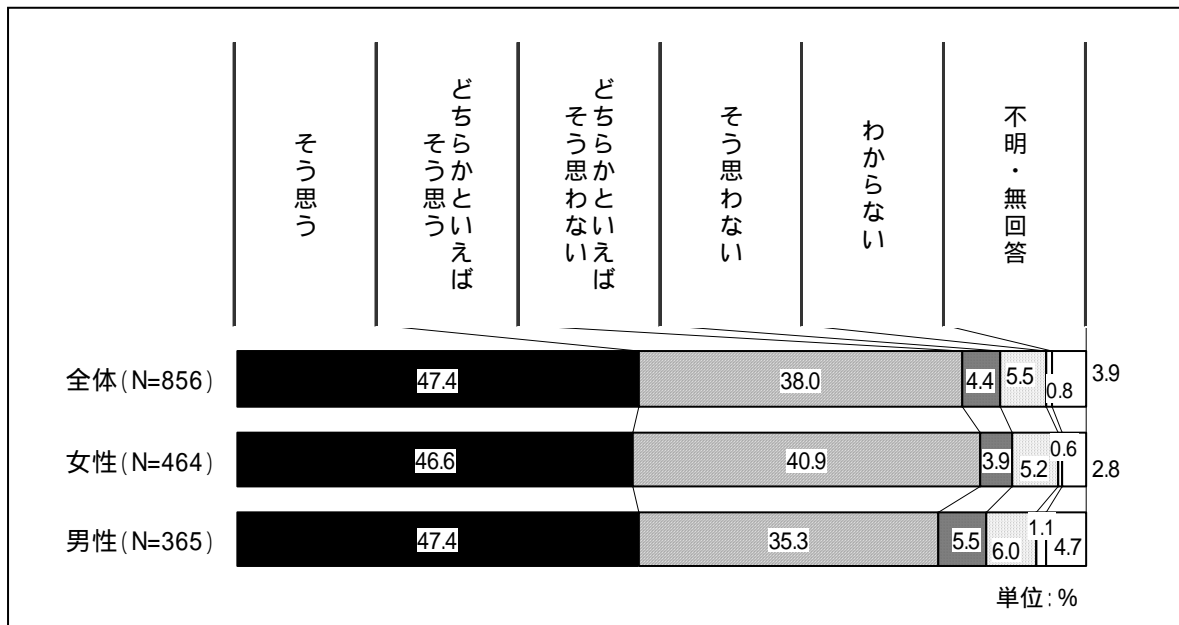


『男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』が女性・男性とも最も多い

子育てについてみると、「そう思う」と答えた割合が最も多いものは、女性・男性ともに『男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』で、女性が76.3%、男性が72.3%となっている。

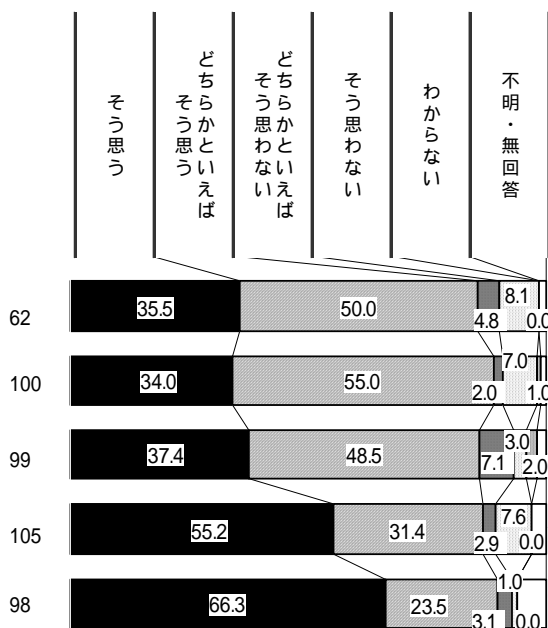
一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が最も多いのは、女性・男性ともに『子どもの世話の大部分は、男親にもできる』で、女性が34.5%、男性が44.9%となっている。

問12.『子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい』について

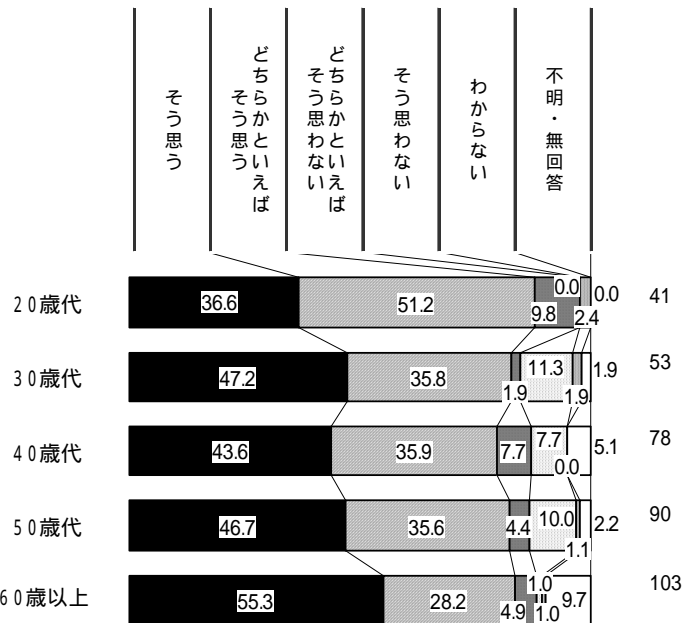


年齢層別

女性

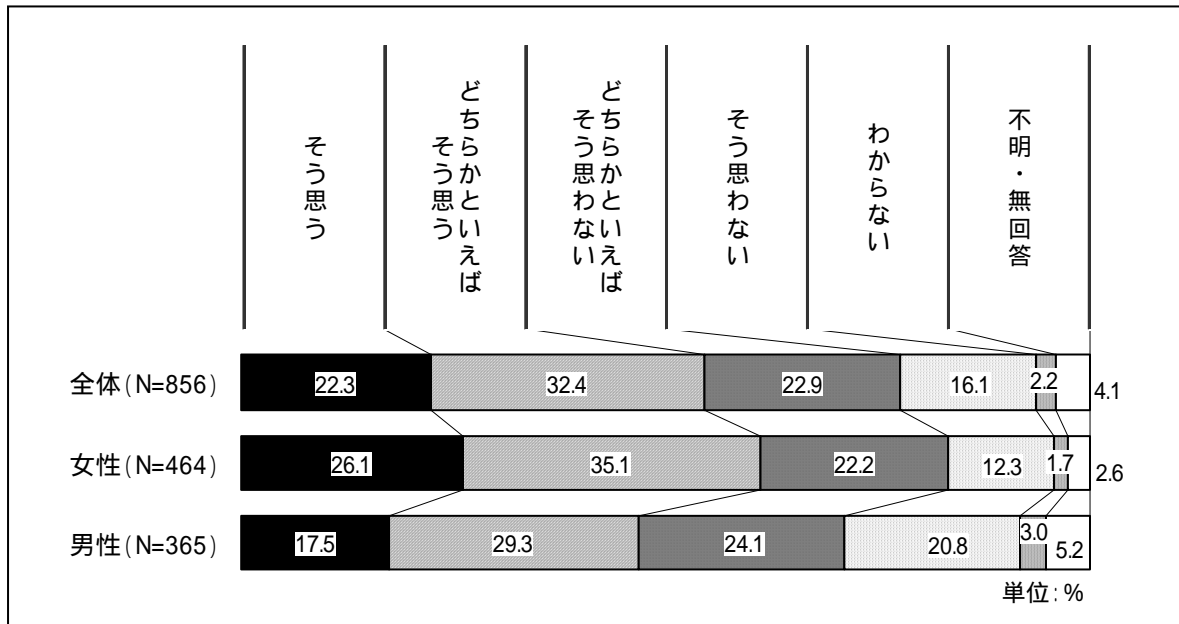


男性

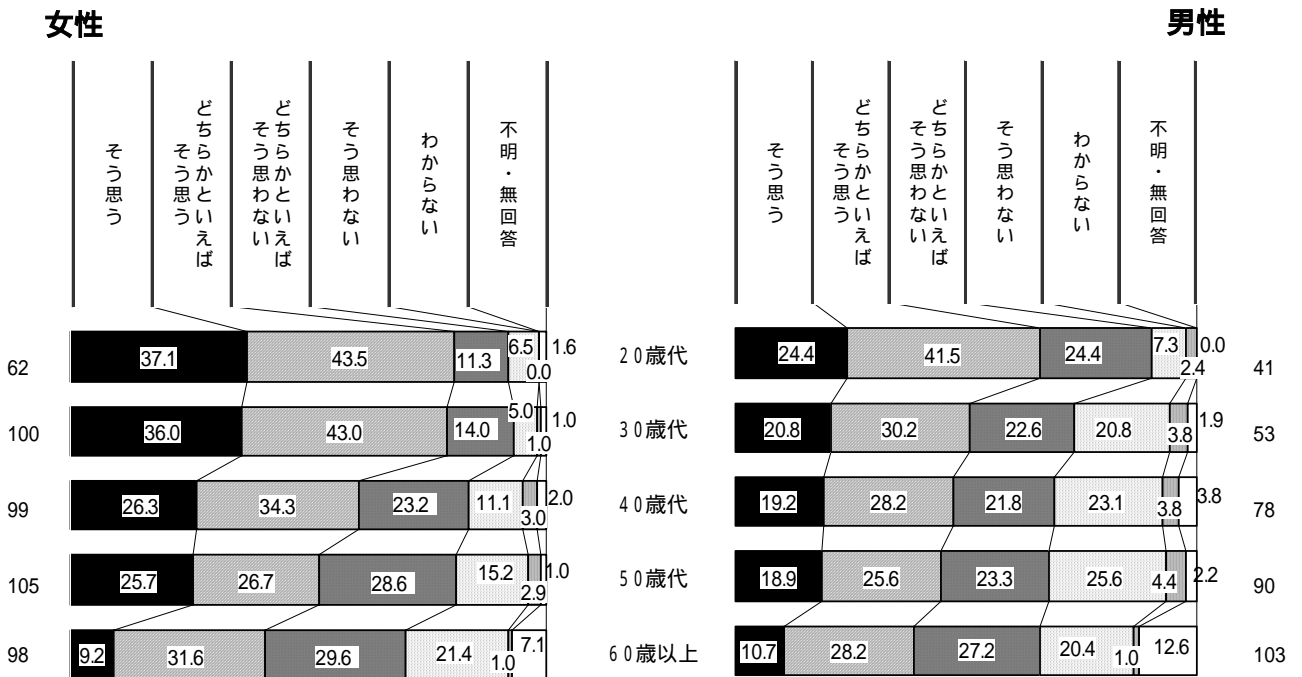


『子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい』との考えについては、女性・男性ともに「そう思う」割合が、40歳代以降増加する傾向にある。

問12.『子どもの世話の大部分は、男親にもできる』について

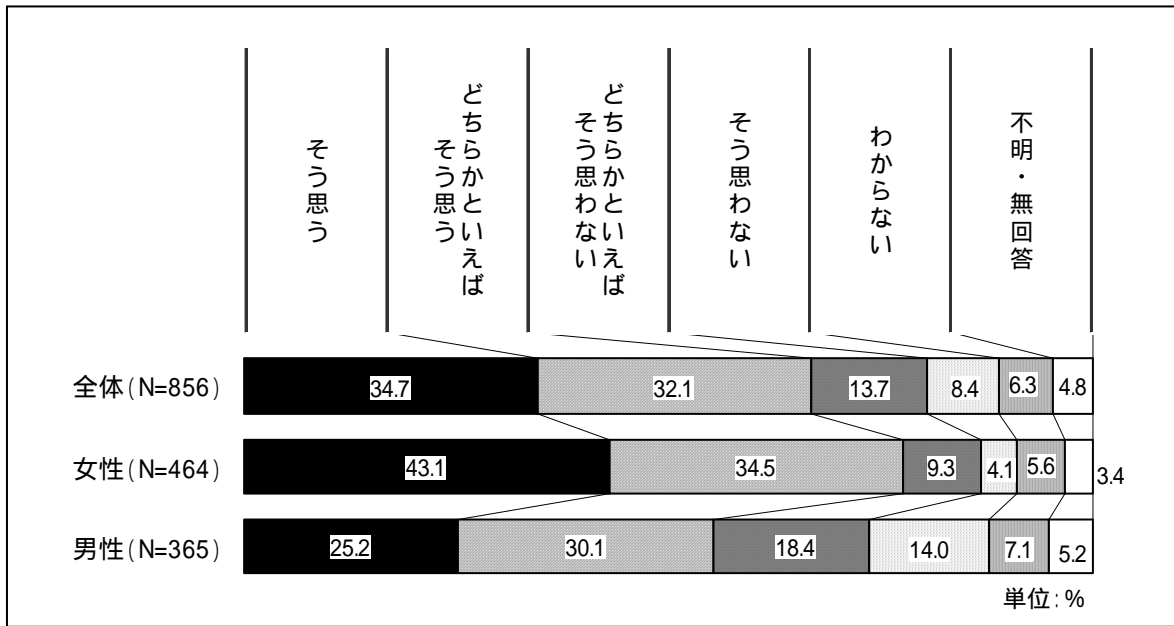


年齢層別

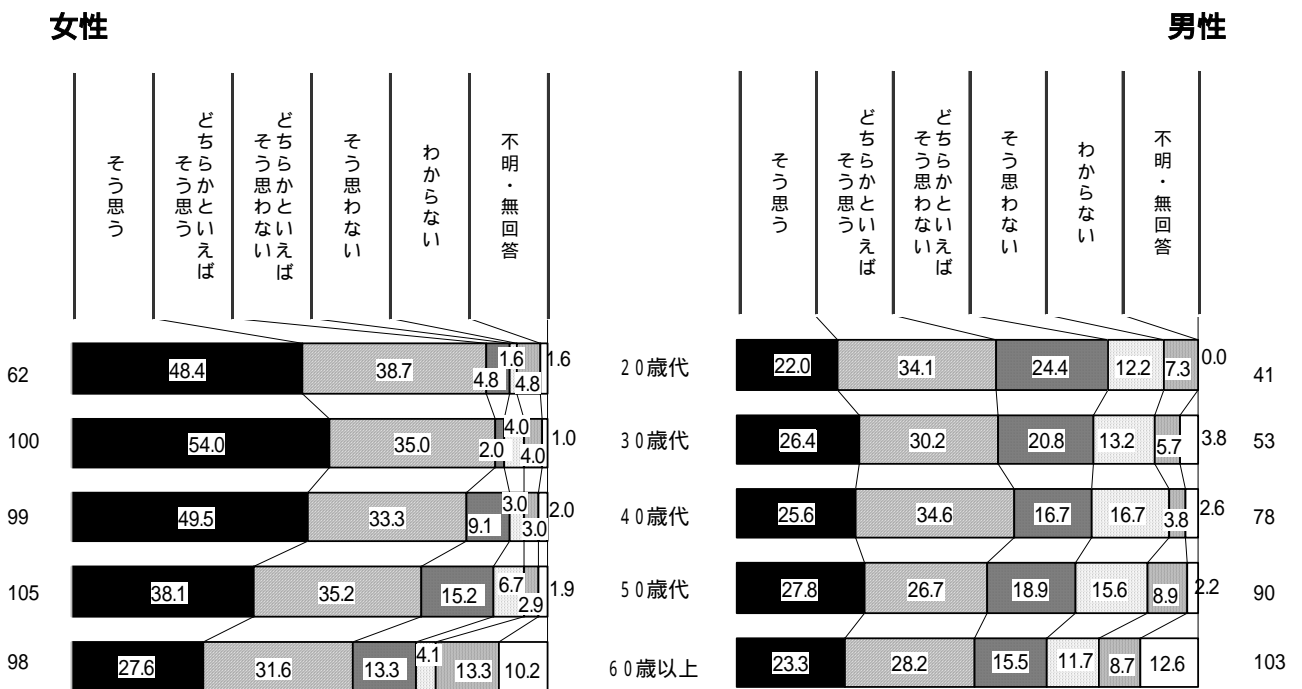


『子どもの世話の大部分は、男親にもできる』との考えについては、女性・男性ともに「そう思う」割合が、年齢層が上がるにつれ減少している。また、60歳以上を除くすべての年齢層において、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が女性よりも男性で多くなっている。

問 1 2 . 『親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい』について

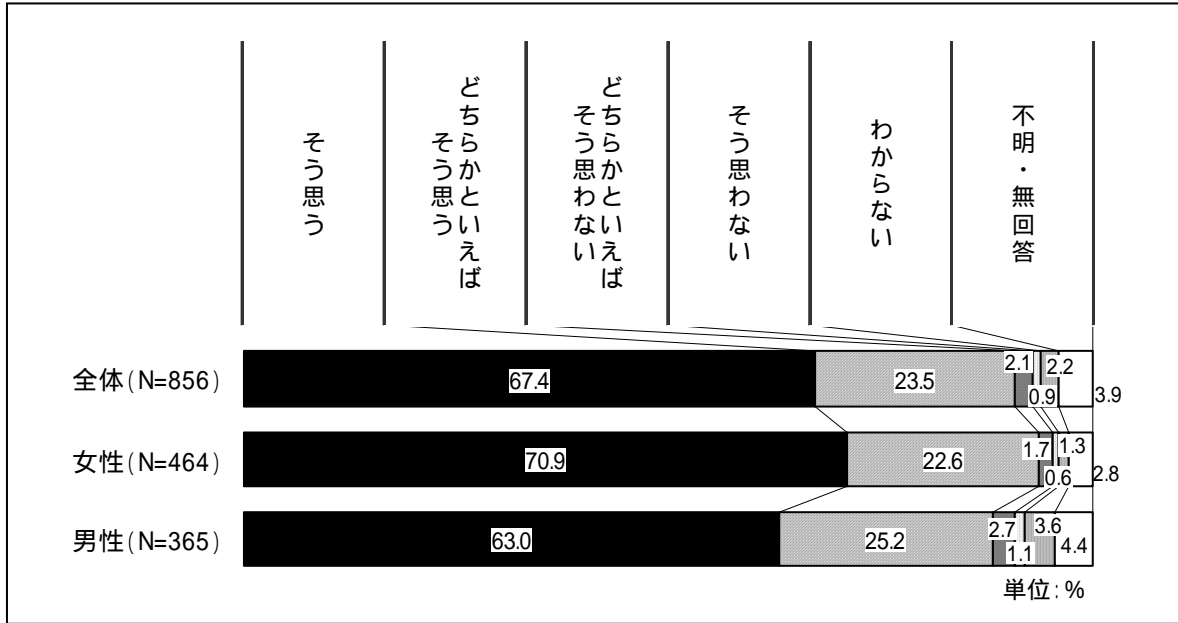


年齢層別



『親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい』との考えについては、女性の20歳代、30歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答が9割近くになっているが、30歳代以降年齢層が上がるにつれその割合は減少している。また、男性では、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた否定的な割合がいずれの年齢層でも3割程度みられ、中でも20歳代で最も多くなっている。

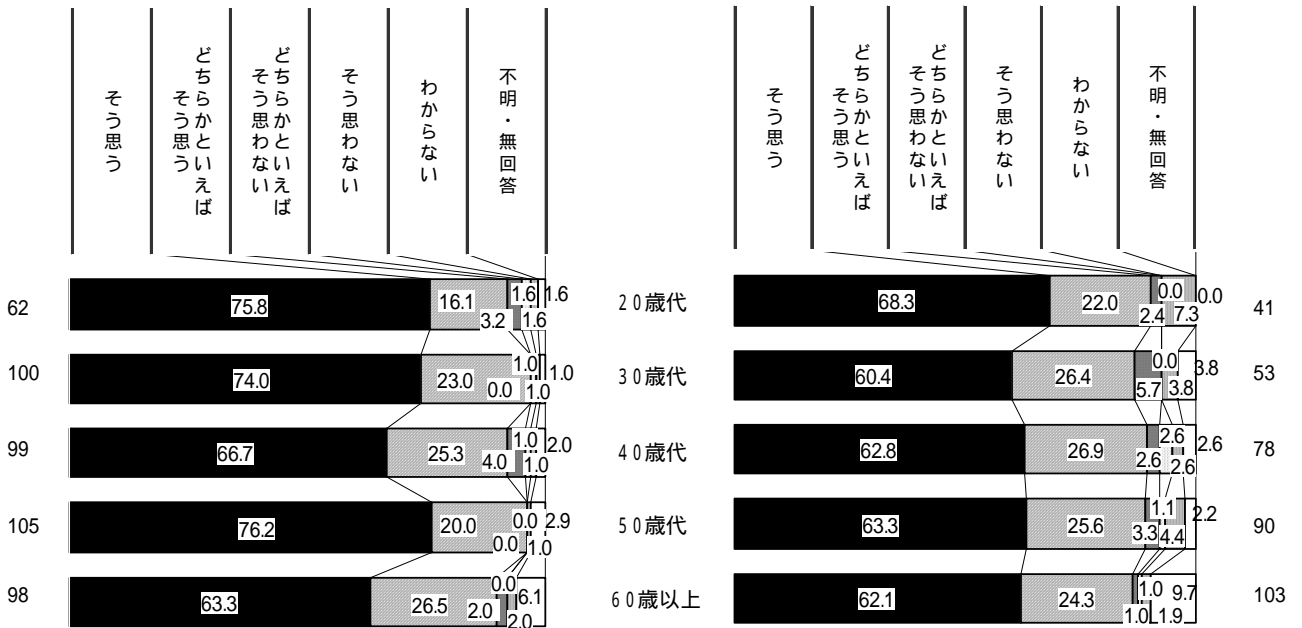
問12.『子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい』について



年齢層別

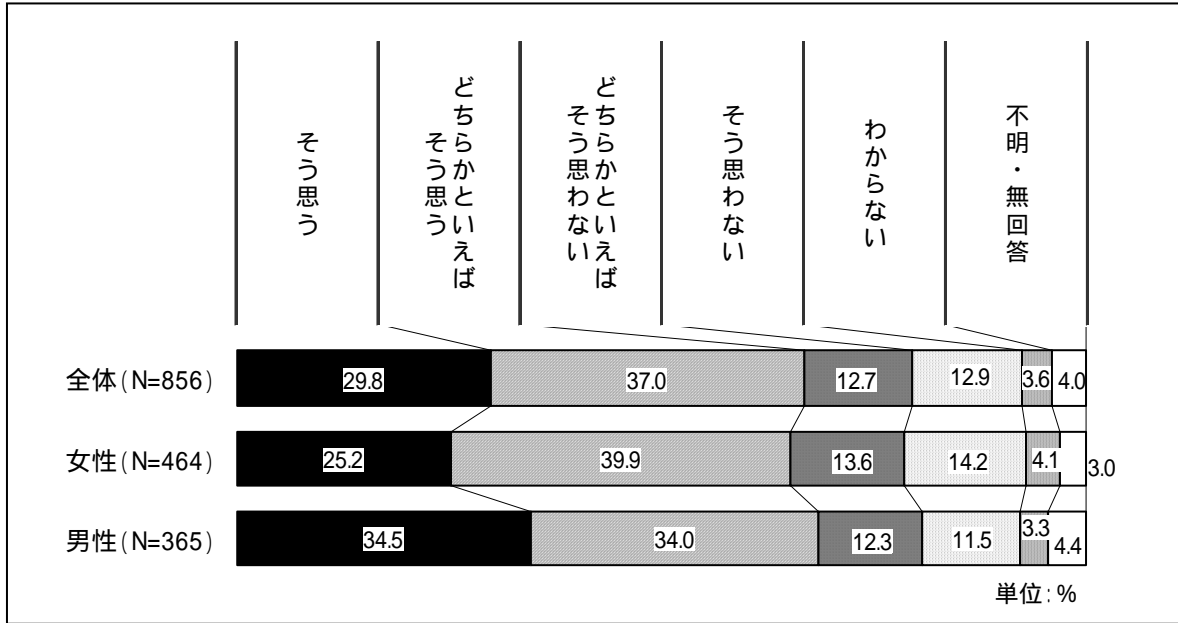
女性

男性

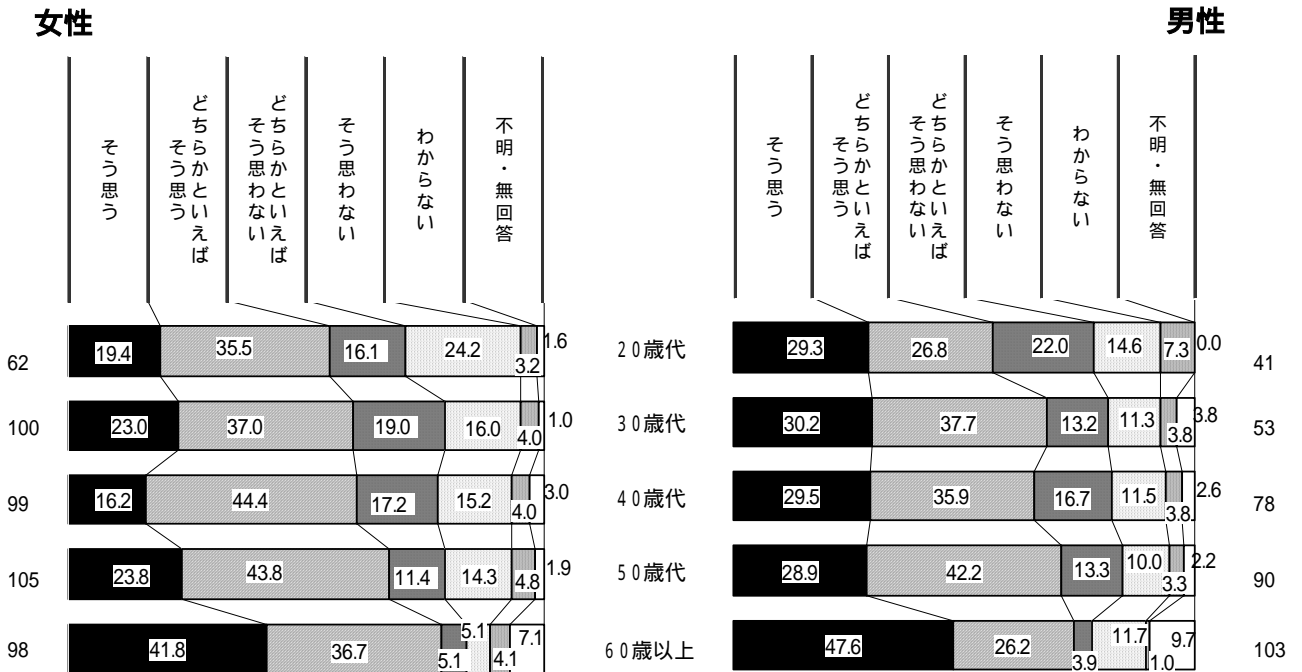


『子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい』との考えについては、すべての性別、年齢層で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が9割前後となっている。

問12. 『男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい』について

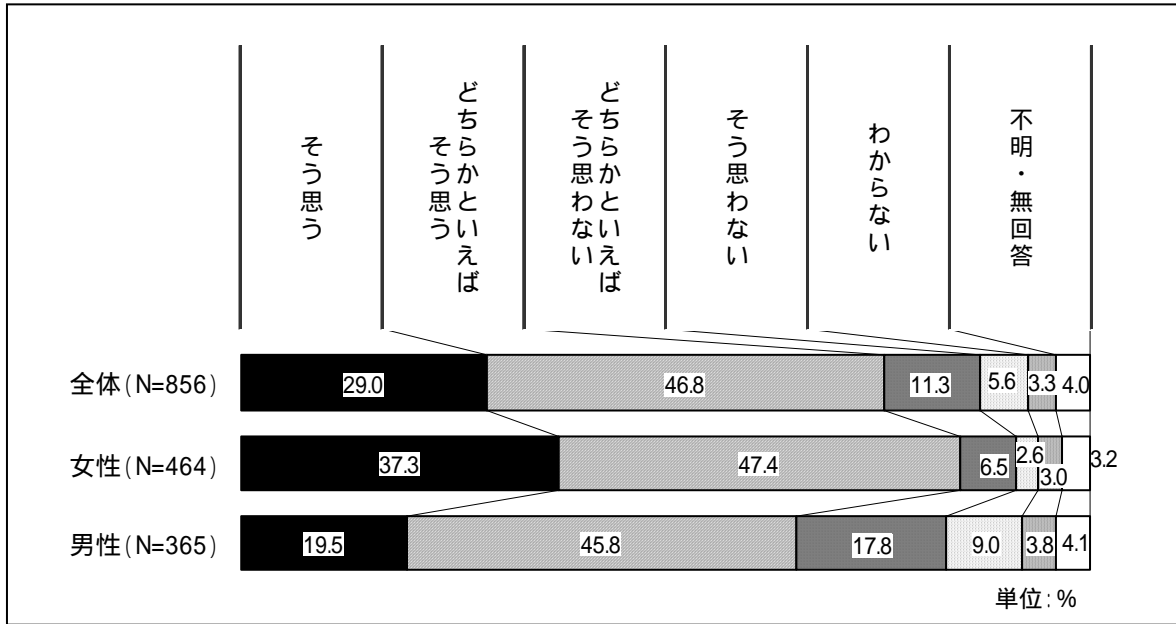


年齢層別



『男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい』との考えについては、女性では年齢層が上がるにつれ「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が増加する傾向にある。また、男性では、その割合が20歳代を除くすべての年齢層において7割前後を占めている。

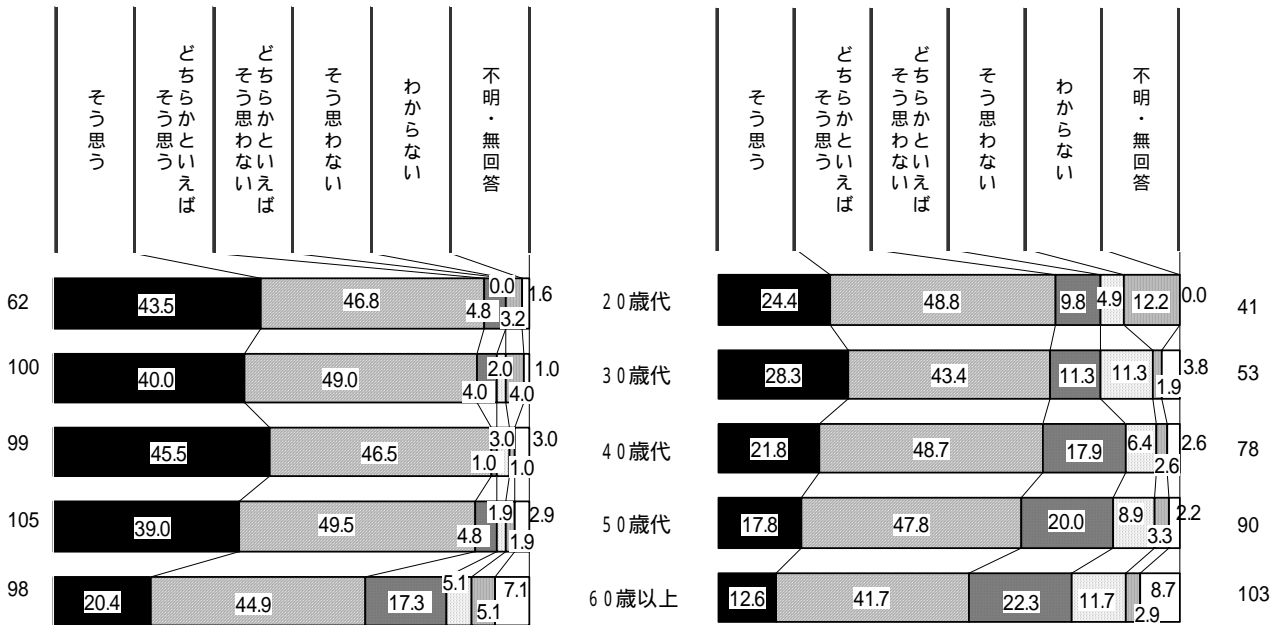
問12.『男の子は家事ができるように育てるのがよい』について



年齢層別

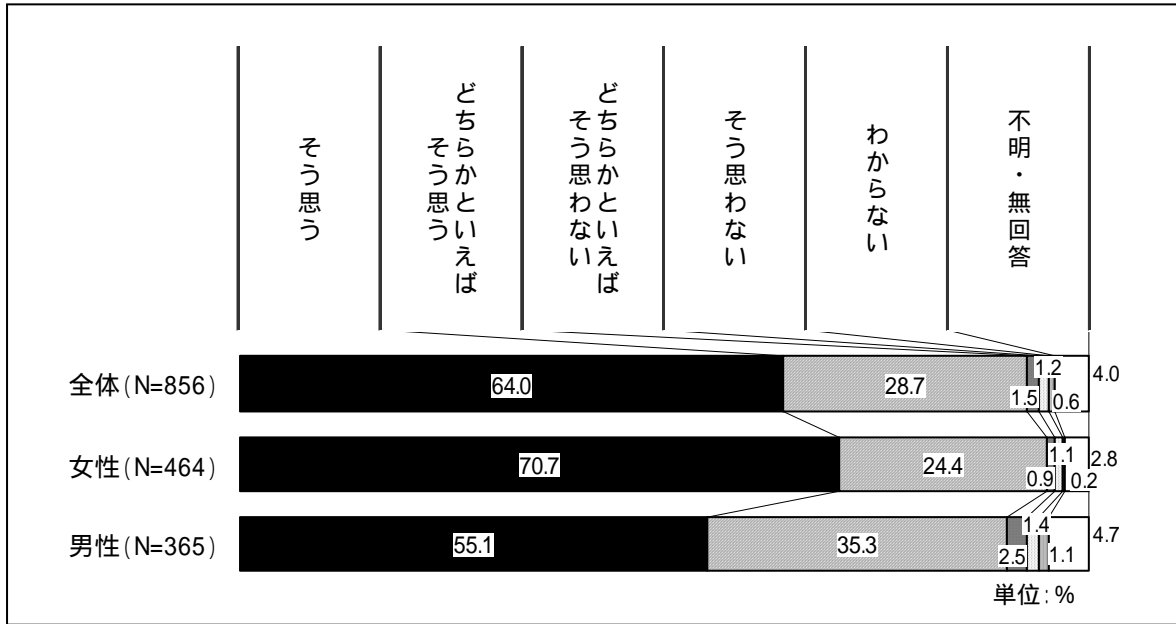
女性

男性



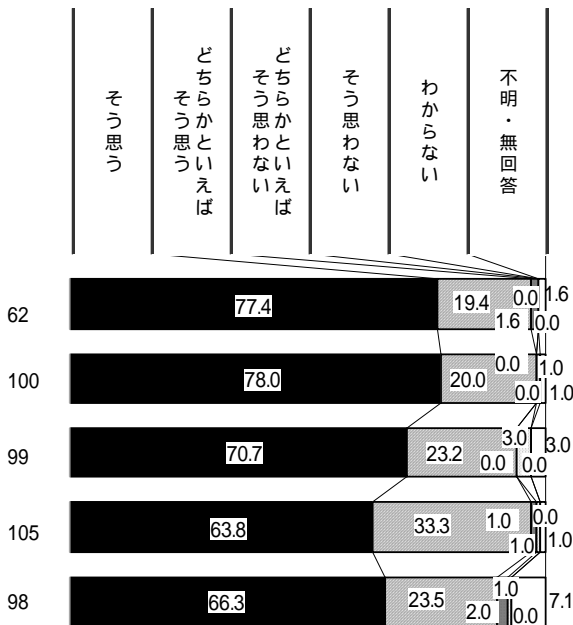
『男の子は家事ができるように育てるのがよい』との考えについては、女性では60歳以上を除くすべての年齢層で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約9割を占めて多くなっているが、60歳以上では「どちらかといえばそう思わない」が17.3%と、その他の年齢層に比べ多くなっている。また、男性では、女性に比べ「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合がすべての年齢層で多くなっており、年齢層が上がるにつれその割合が増加する傾向にある。

問12.『女の子は家事ができるように育てるのがよい』について

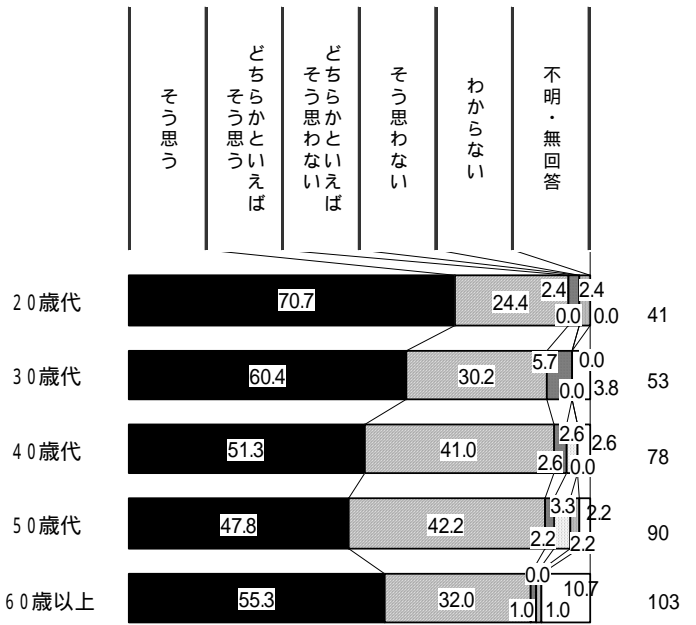


年齢層別

女性

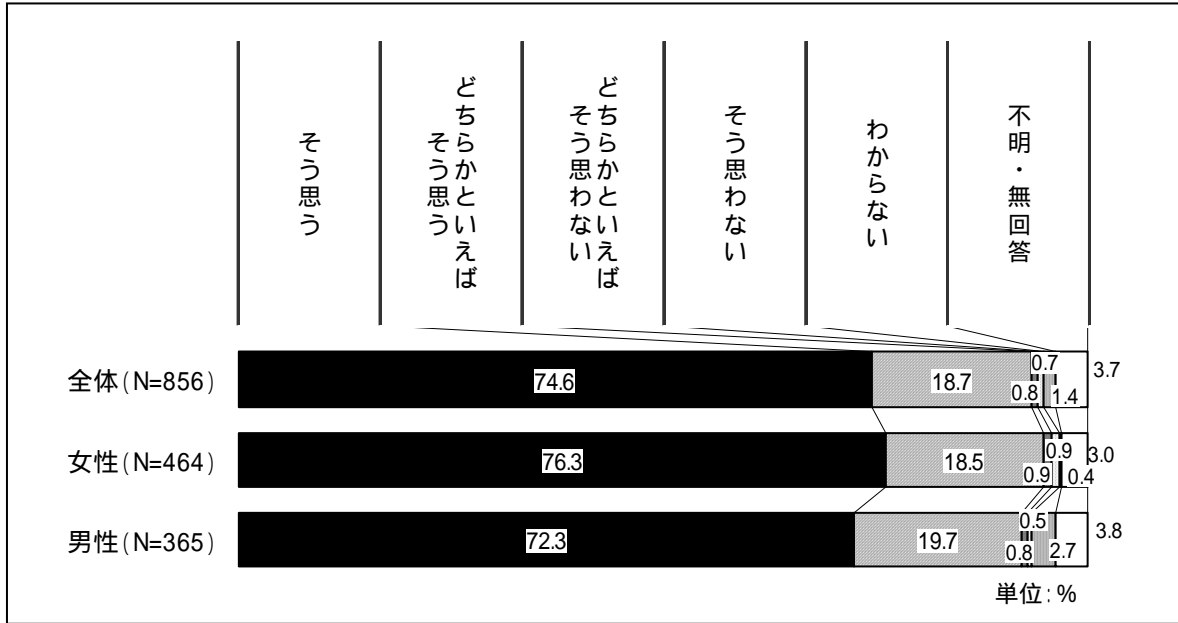


男性



『女の子は家事ができるように育てるのがよい』との考えについては、すべての性別、年齢層で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が9割前後となっている。また、すべての年齢層で男性よりも女性で「そう思う」の割合が上回っている。

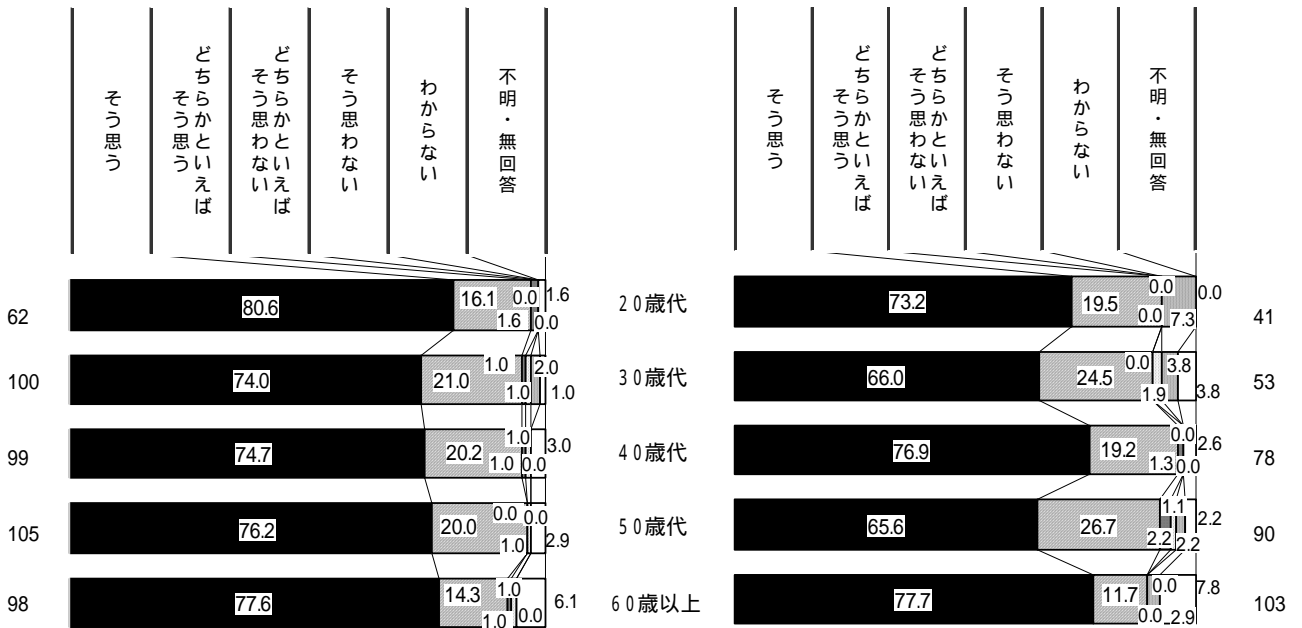
問12. 『男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』について



年齢層別

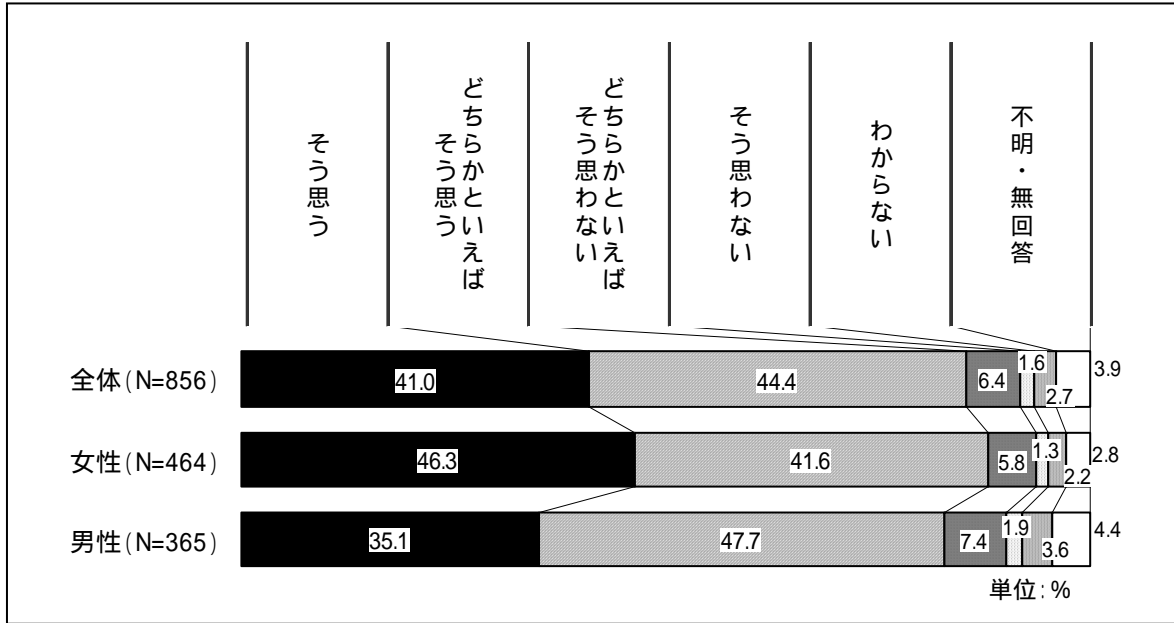
女性

男性



『男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』との考えについては、すべての性別、年齢層で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が9割前後を占めている。

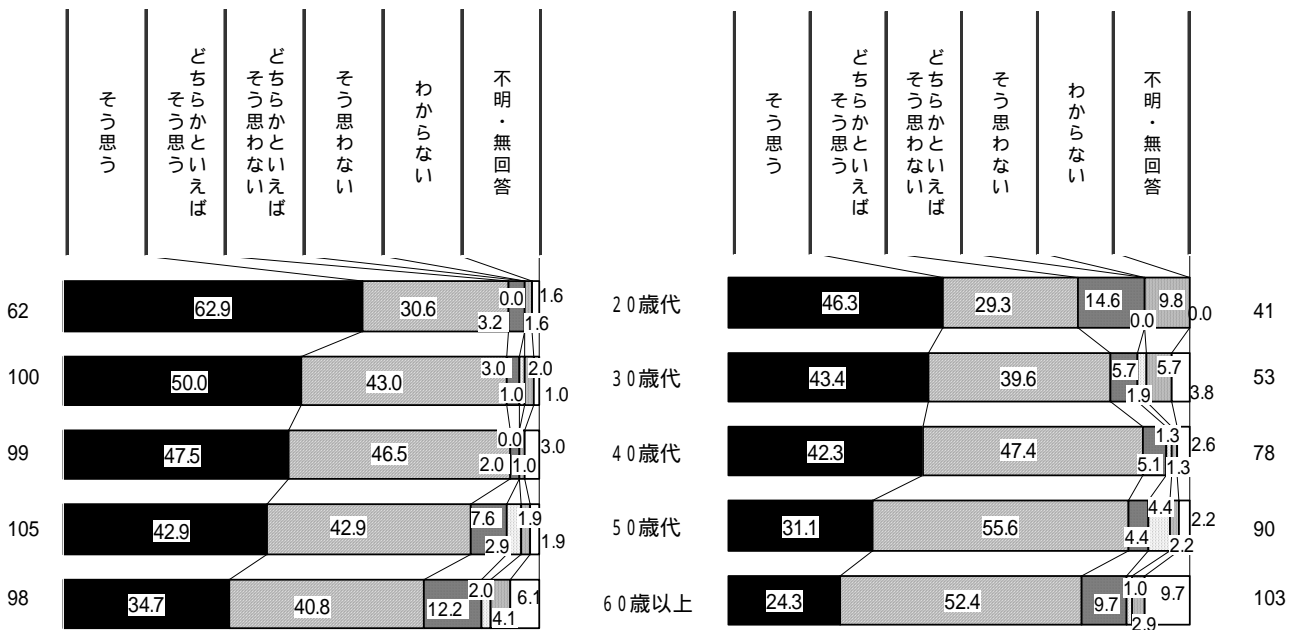
問12. 『女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』について



年齢層別

女性

男性



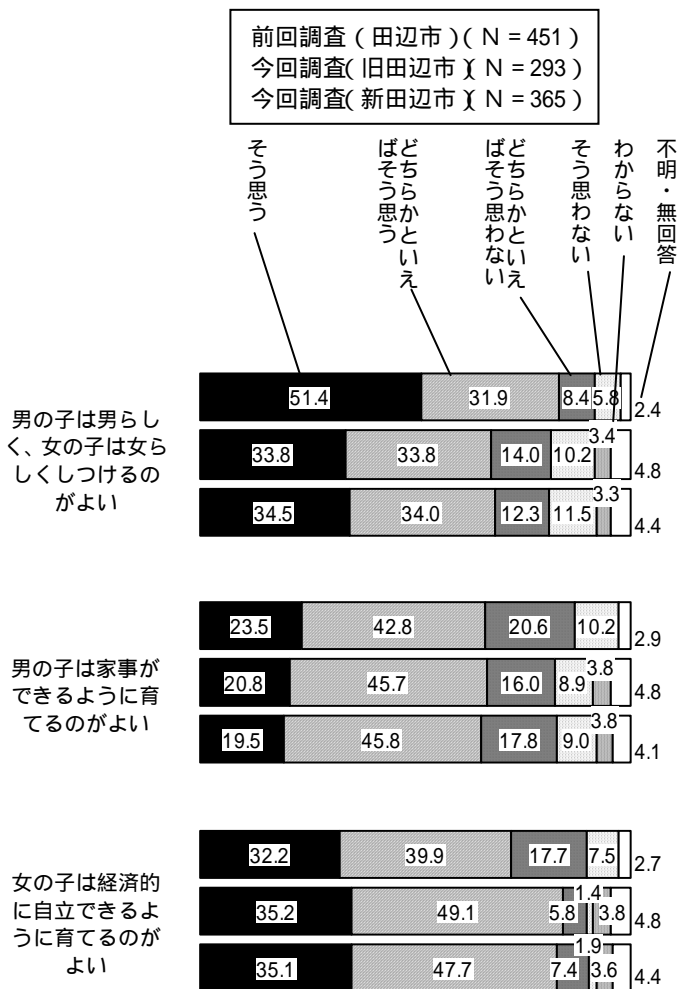
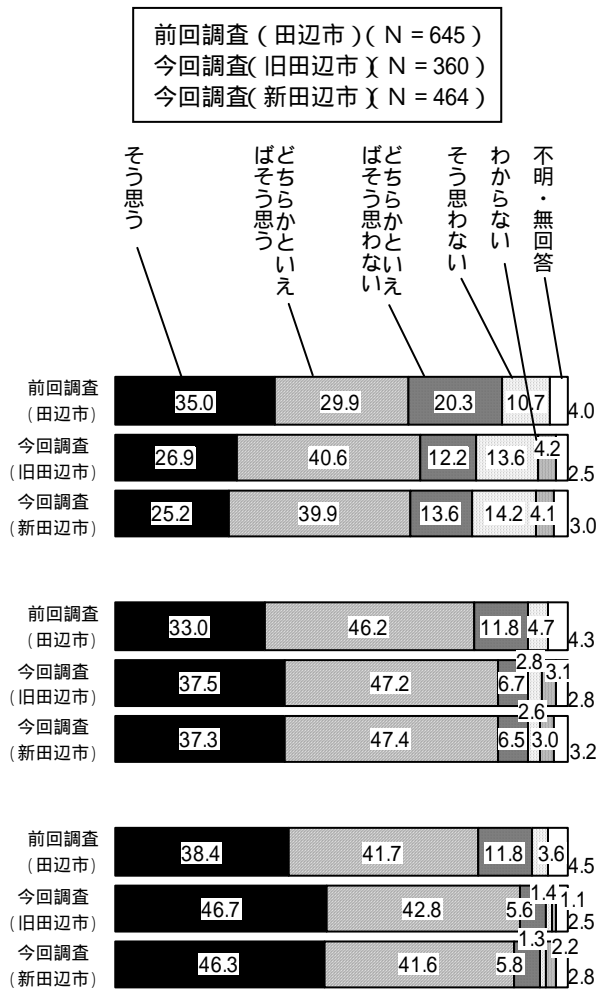
『女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』との考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な回答が、女性・男性ともに40歳代で最も多く、女性では94.0%、男性では89.7%となっており、40歳代以降減少している。

問 1 2 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

子育てについて

< 女 性 >

< 男 性 >



男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい

男の子は家事ができるように育てるのがよい

女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい

単位：%

「わからない」の選択肢は、今回調査のみ

子育てについて前回調査と今回調査(旧田辺市)を比較してみると、『男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい』については、「そう思う」と答えた割合が女性で8.1ポイント、男性で17.6ポイント減少している。

また、『男の子は家事ができるように育てるのがよい』では、「そう思う」が女性で4.5ポイント増加しているが、男性では2.7ポイント減少している。

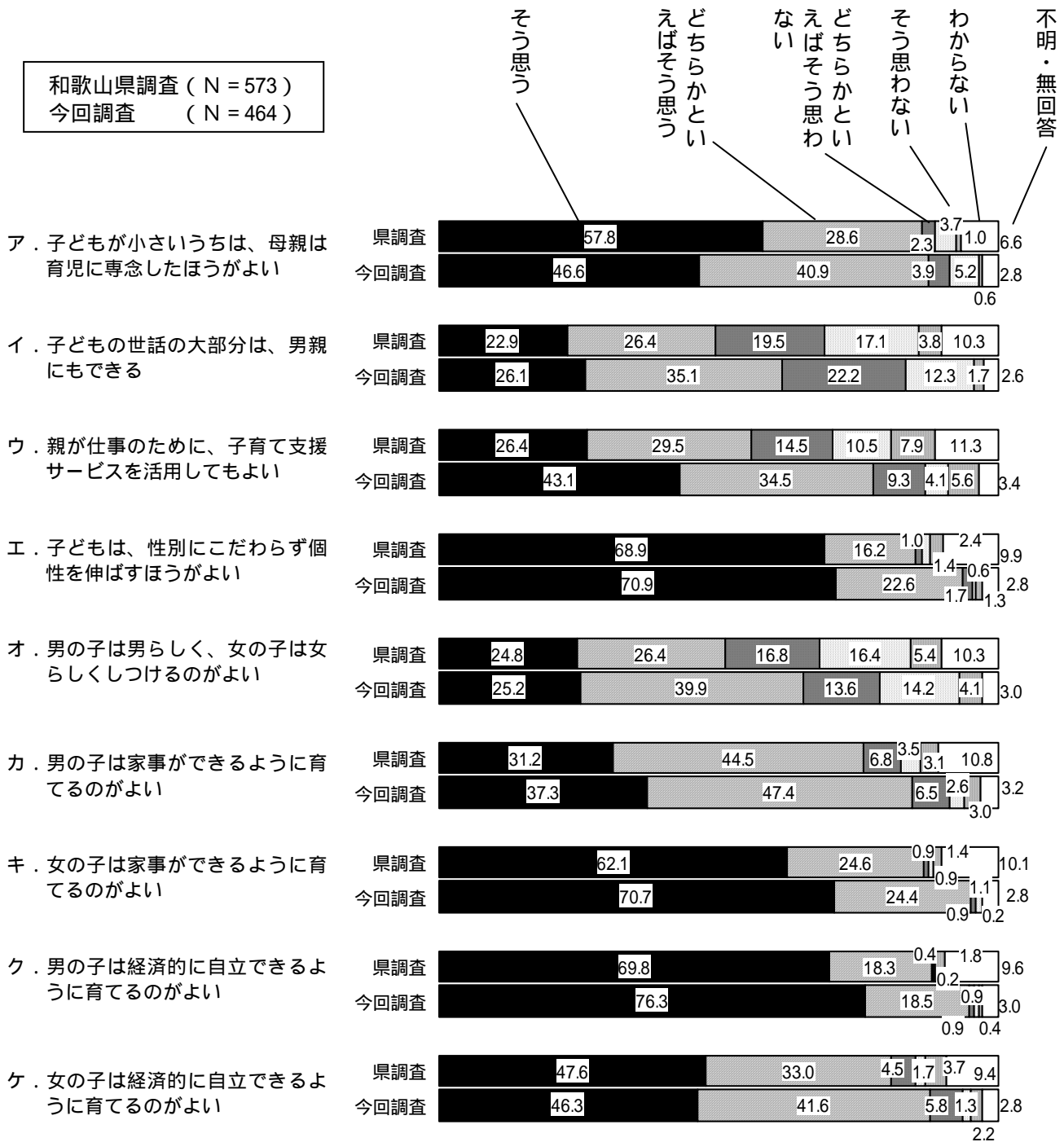
『女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』では、「そう思う」が女性で8.3ポイント、男性では3.0ポイント増加している。

問 1 2 . 和歌山県調査（平成 14 年度実施）との比較

子育てについて

<女 性>

和歌山県調査（N = 573）
今回調査（N = 464）



単位：%

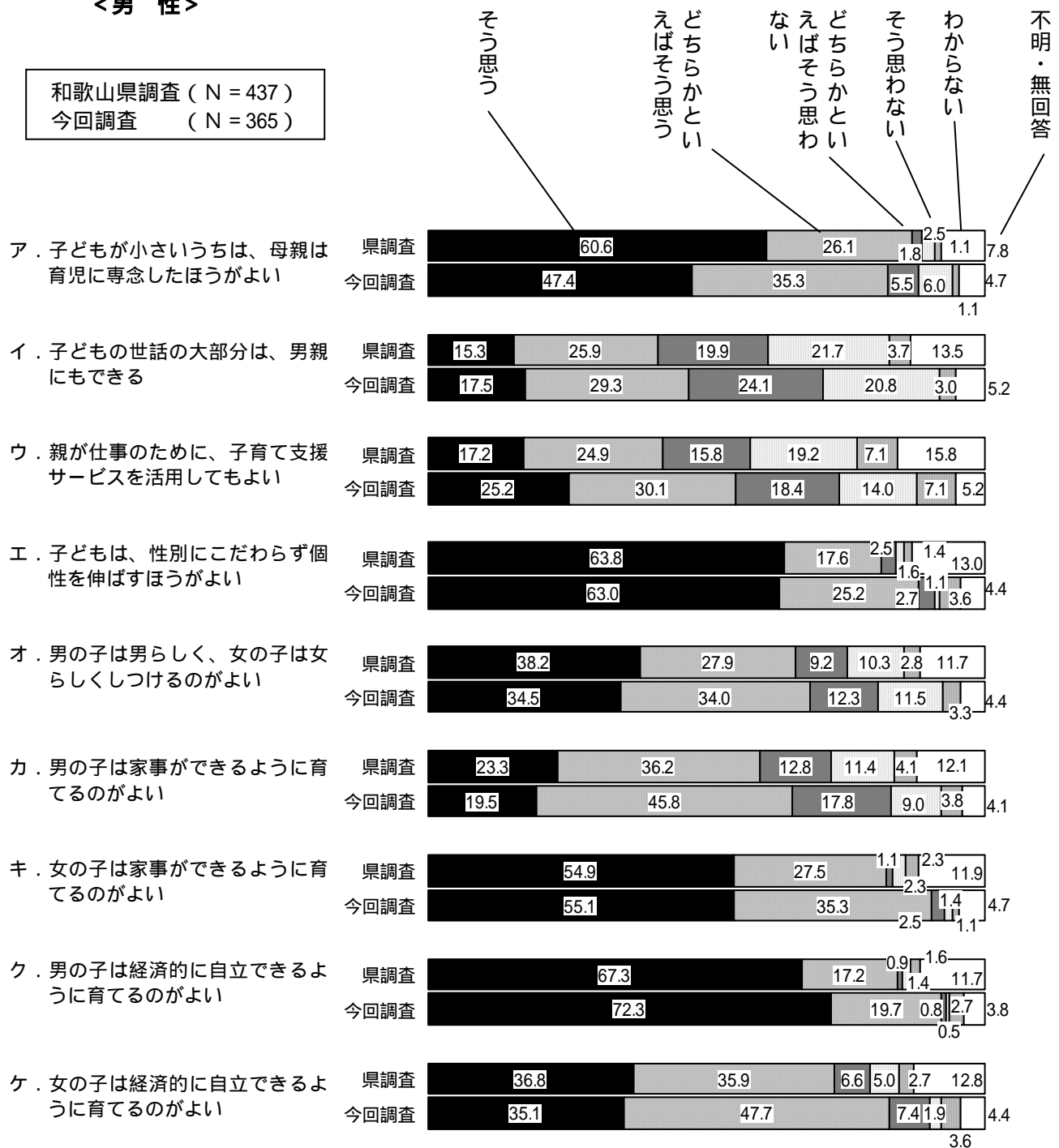
子育てについての意識を県調査と今回調査を比較してみると、女性では『親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい』で県調査に比べ今回調査で「そう思う」が 16.7 ポイント多くなっている。また、「そう思う」「どちらかといえはそう思う」を合わせた肯定的な意見は、いずれの項目でも県調査を上回っている。

問 1 2 . 和歌山県調査 (平成 14 年度実施) との比較

子育てについて

< 男 性 >

和歌山県調査 (N = 437)
今回調査 (N = 365)



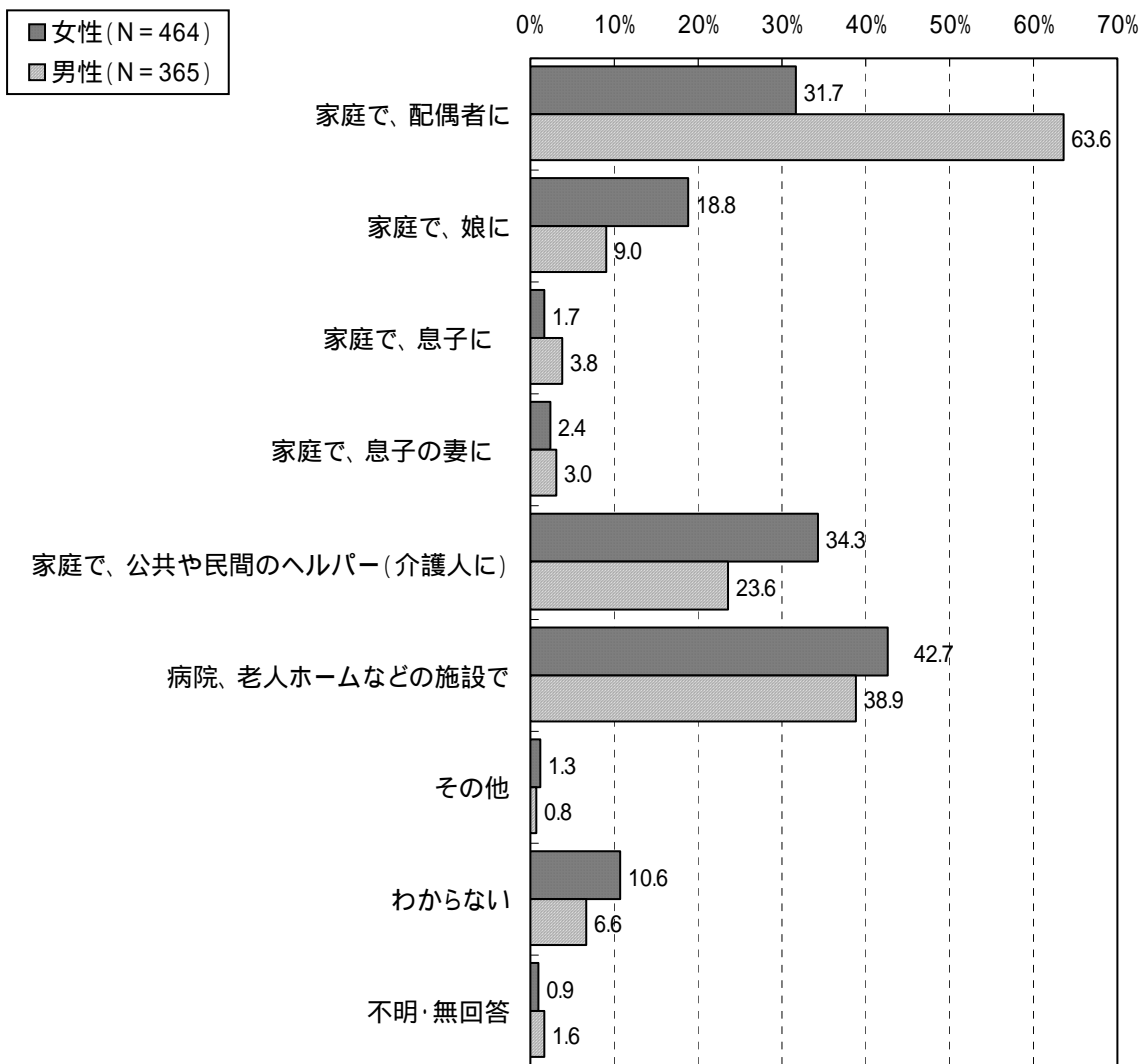
単位: %

子育てについての意識を県調査と今回調査を比較してみると、男性では『親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい』について、県調査に比べ今回調査で「そう思う」が8.0ポイント多くなっている。また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、『子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい』を除くすべての項目で県調査を上回っている。

5 . 介護について

(1) 身の回りの世話

問 1 3 . あなたがもし寝たきりや長期の病気になった場合、主としてだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。（あてはまるもの2つまでに）



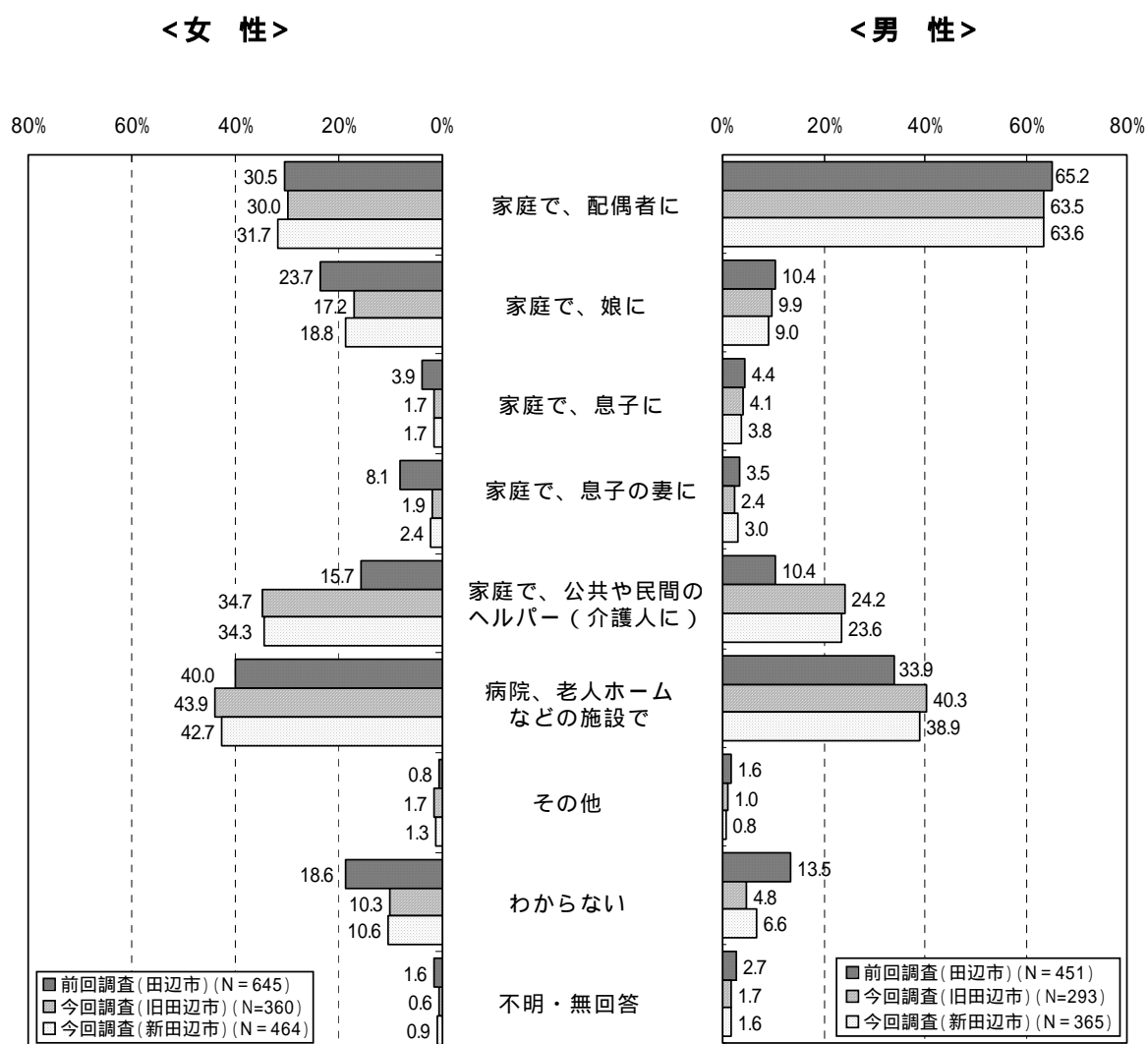
男性は「家庭で、配偶者に」身の回りの世話を希望する割合が多い

だれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいかについてみると、女性では「病院、老人ホームなどの施設で」が42.7%と最も多く、次いで「家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に）」が34.3%、「家庭で、配偶者に」が31.7%と続いている。

一方、男性では「家庭で、配偶者に」が63.6%と顕著に多く、次いで「病院、老人ホームなどの施設で」が38.9%、「家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に）」が23.6%となっている。

問 1 3 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

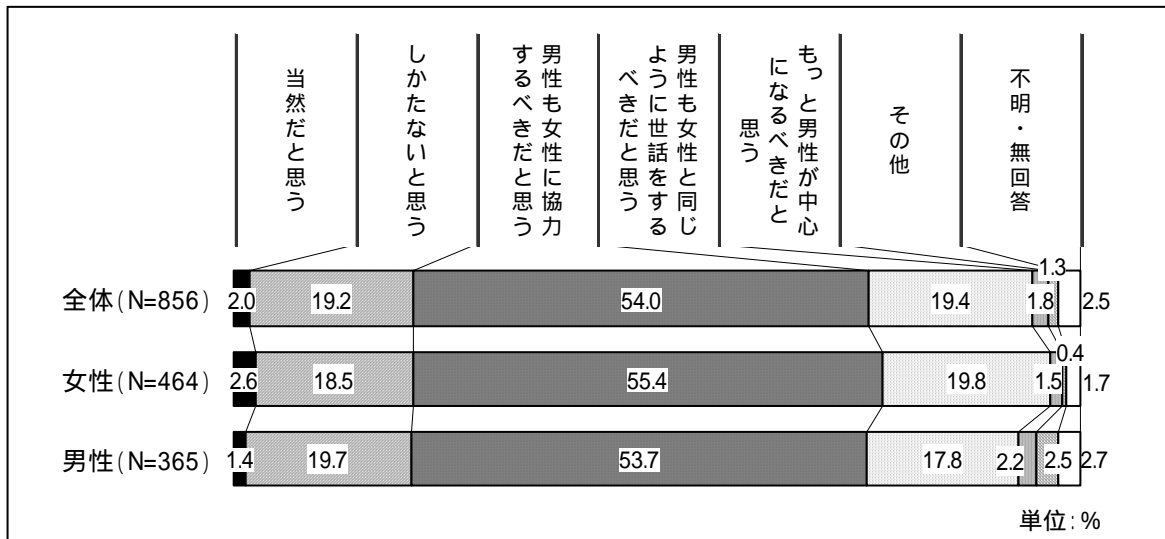
もし寝たきりや長期の病気になった場合、主としてだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいかについて



だれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいかを前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、『家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に）』が女性で 19.0 ポイント、男性で 13.8 ポイント増加している。また、『病院、老人ホームなどの施設で』についても女性・男性ともに増加しており、その他の『家庭で、配偶者に』『家庭で、娘に』『家庭で、息子に』『家庭で、息子の妻に』については女性・男性ともにすべて減少している。

(2) 高齢者や病人の世話

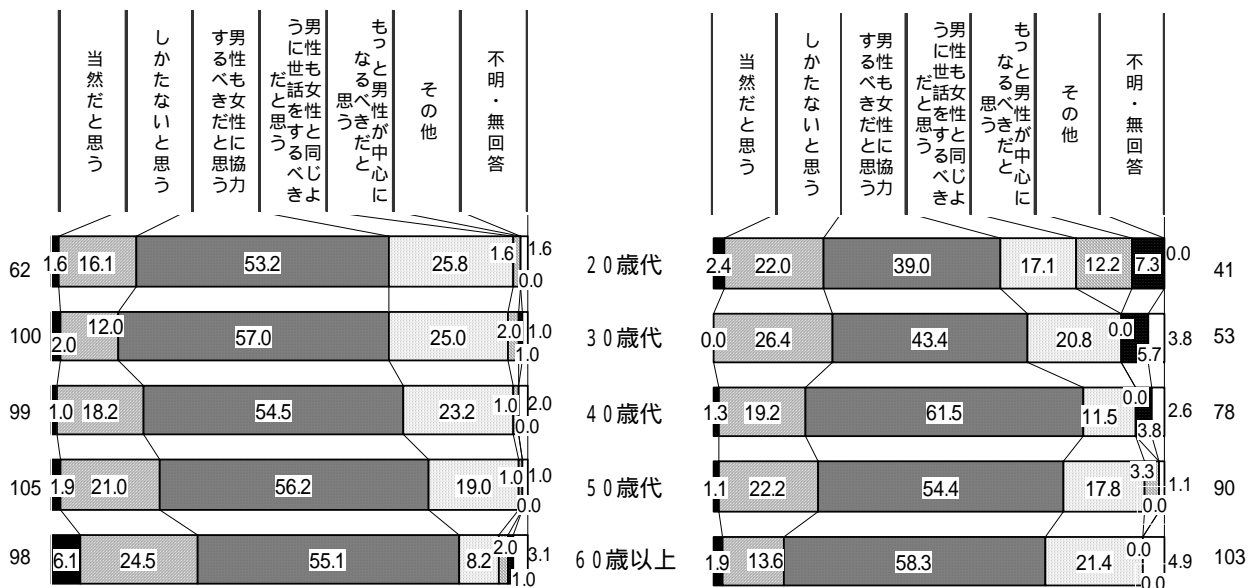
問14. あなたは現在、家庭で高齢者や病人の世話をするのは、多くの場合女性となっていることについてどう思いますか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



女性・男性がともに「男性も女性に協力するべきだと思う」は5割以上

高齢者や病人の世話が多くの場合女性であることについてどう思うかでは、女性・男性ともに5割以上が「男性も女性に協力するべきだと思う」と回答している。

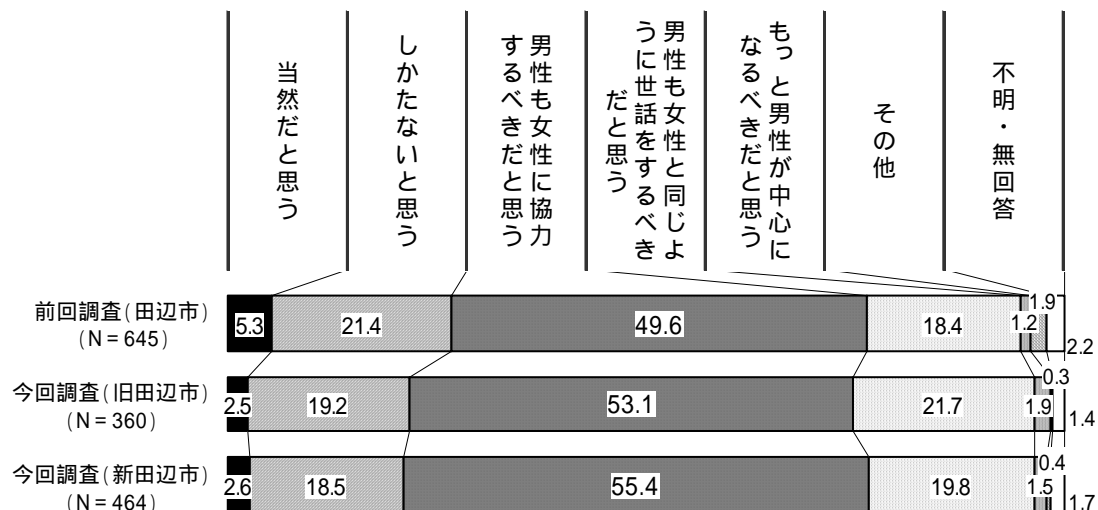
年齢層別にみると、女性では年齢層が上がるにつれ「しかたないと思う」との回答が増加しており、一方「男性も女性と同じように世話をすべきだと思う」は減少している。

男性では、「しかたないと思う」との回答はすべての年齢層の中で30歳代が最も多くなっており、60歳以上が最も少なくなっている。男性の20歳代では「もっと男性が中心になるべきだと思う」が12.2%となっており、すべての性・年齢層の中で最も多くなっている。

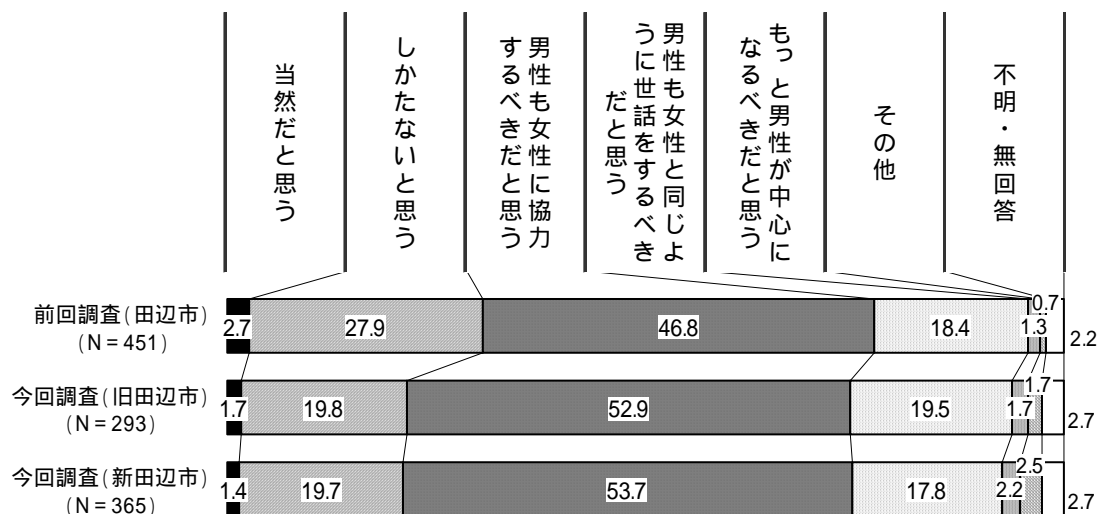
問 1 4 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

家庭で高齢者や病人の世話をするのは、多くの場合女性となっていることについて

<女 性>



<男 性>

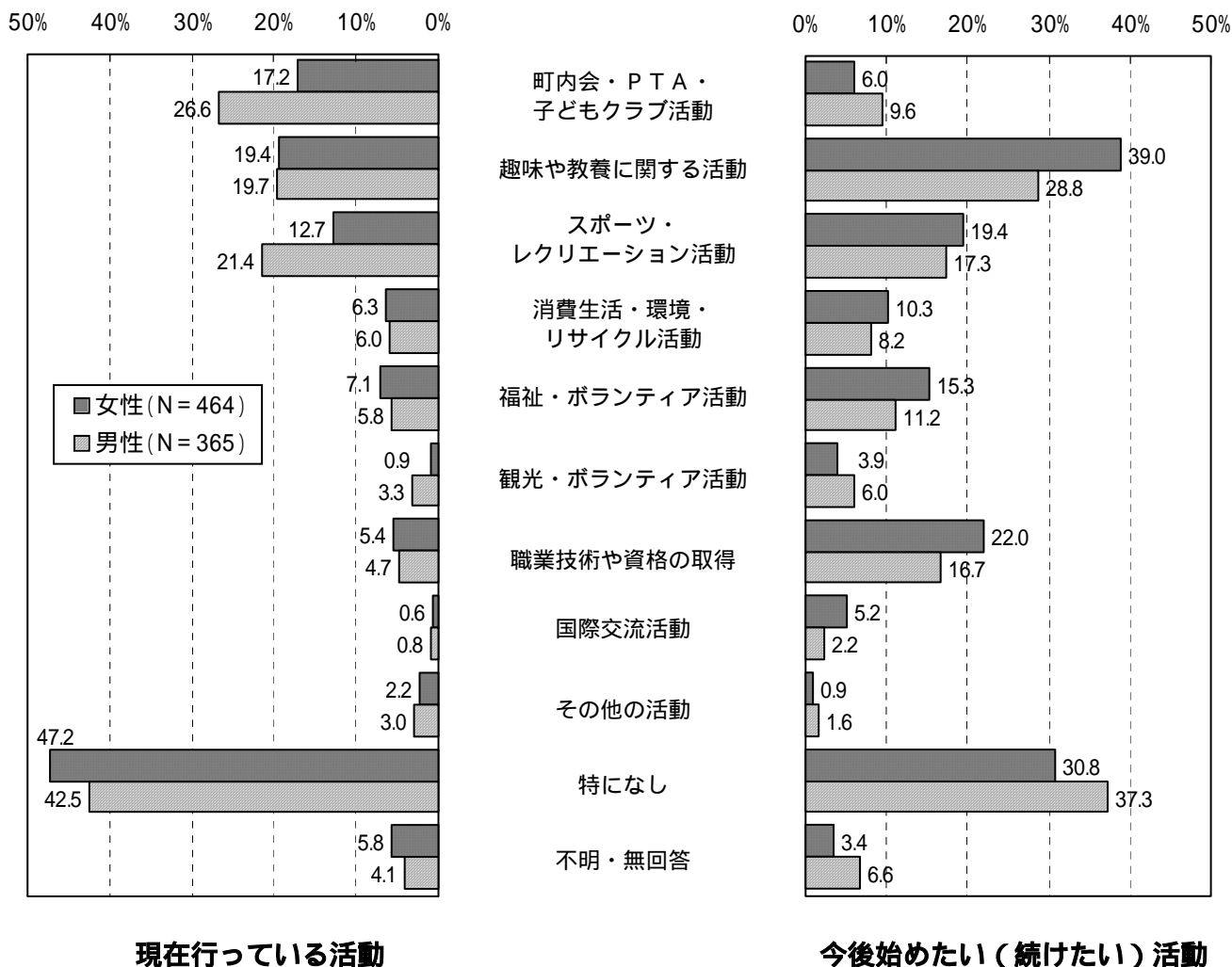


高齢者や病人の世話が多くの場合女性であることについてどう思うかを前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、「当然だと思う」「しかたないと思う」が女性・男性ともに減少しており、「男性も女性に協力すべきだと思う」「男性も女性と同じように世話をすべきだと思う」は男女ともに増加している。また、前回調査では男女間で 6.5 ポイントの差がみられた「しかたないと思う」については、今回調査での差は 0.6 ポイントとなり、その差が縮まっている。

6. 社会活動について

(1) 活動状況

問15. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい(続けたい)活動は何ですか。(現在行っている活動と今後始めたい(続けたい)活動それぞれについてあてはまるものすべてに)



現在行っている活動の上位3項目の割合は男性のほうが多い

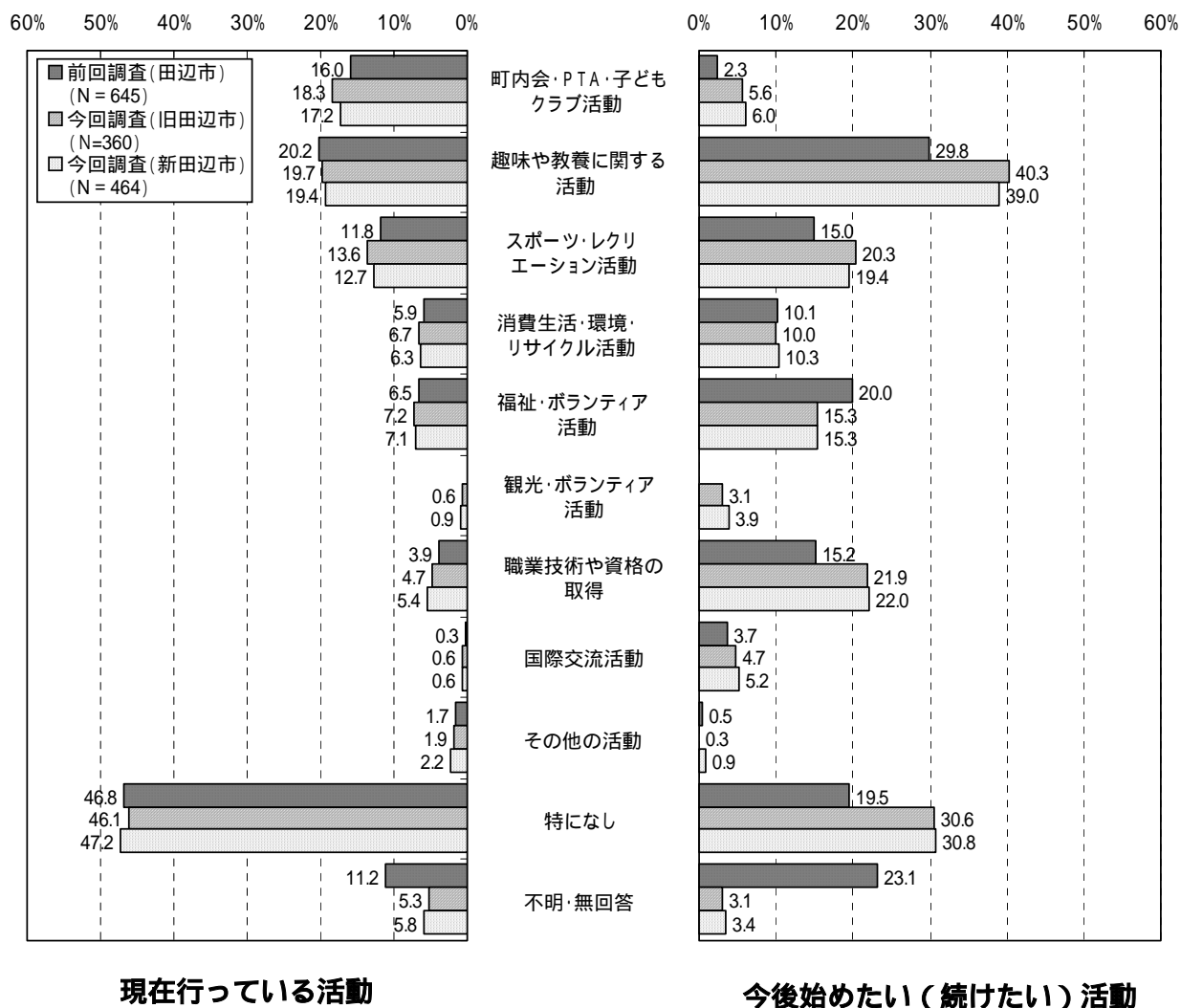
仕事以外に現在行っている活動についてみると、女性・男性ともに「特になし」がそれぞれ47.2%、42.5%と最も多くなっている。それ以外については、女性では「趣味や教養に関する活動」が19.4%と最も多く、男性では「町内会・PTA・子どもクラブ活動」が26.6%と最も多くなっている。女性・男性ともに「町内会・PTA・子どもクラブ活動」「趣味や教養に関する活動」「スポーツ・レクリエーション活動」が上位となっているが、いずれも女性よりも男性でその割合が多くなっている。

今後新たに始めたい(続けたい)活動についてみると、女性で「趣味や教養に関する活動」が39.0%と最も多くなっており、男性では「特になし」が37.3%となっている。

問15 . 前回調査（平成9年度田辺市にて実施）との比較

仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動について

<女性>



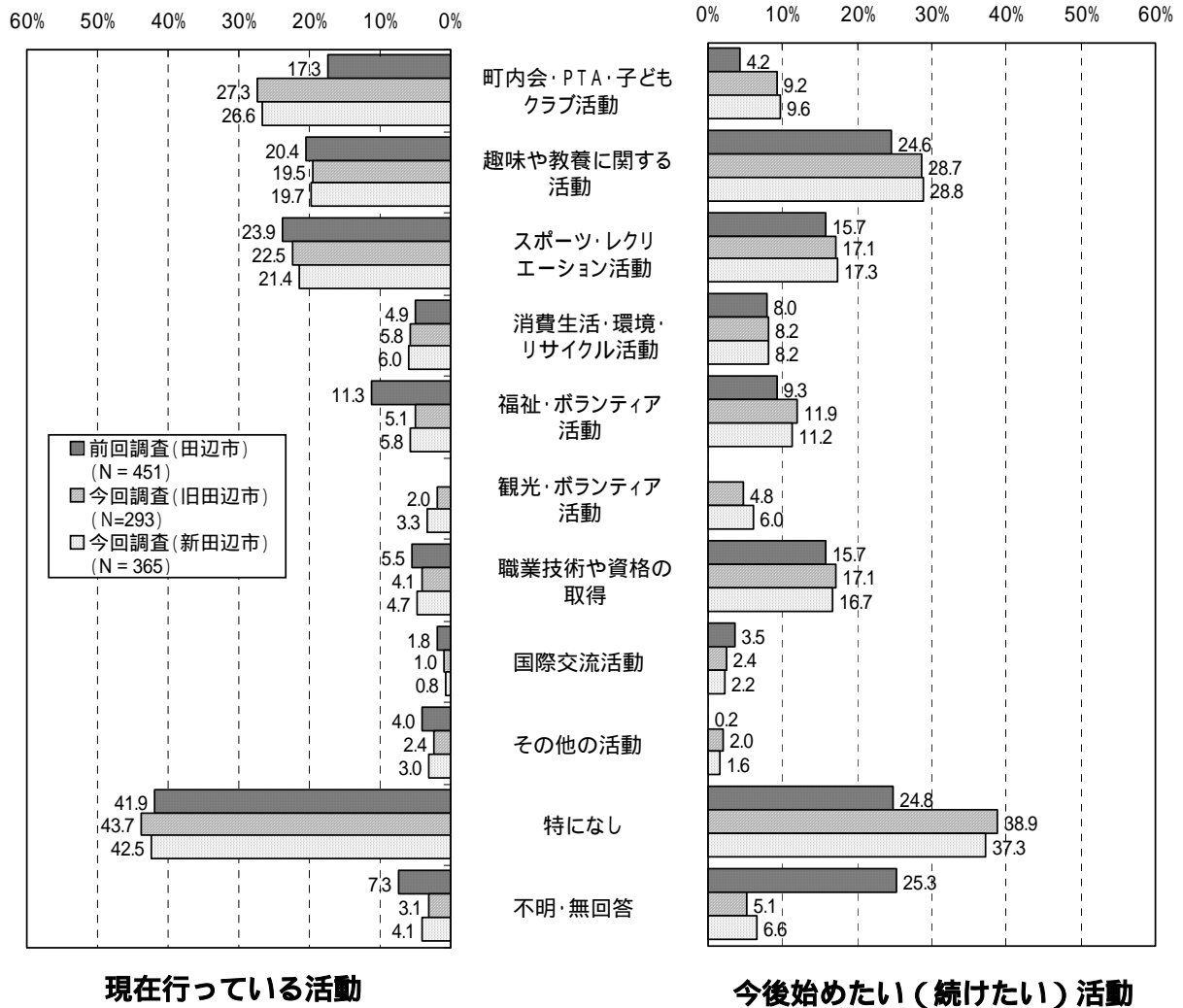
「観光・ボランティア活動」の選択肢は、今回調査のみ

女性の、仕事以外に現在行っている活動と今後新たに始めたい（続けたい）活動について前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、現在行っている活動については前回調査から大きな変化はみられない。今後新たに始めたい（続けたい）活動では、「趣味や教養に関する活動」「スポーツ・レクリエーション活動」「職業技術や資格の取得」において増加しているが、一方で「福祉・ボランティア活動」は減少している。

問 1 5 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動について

< 男 性 >

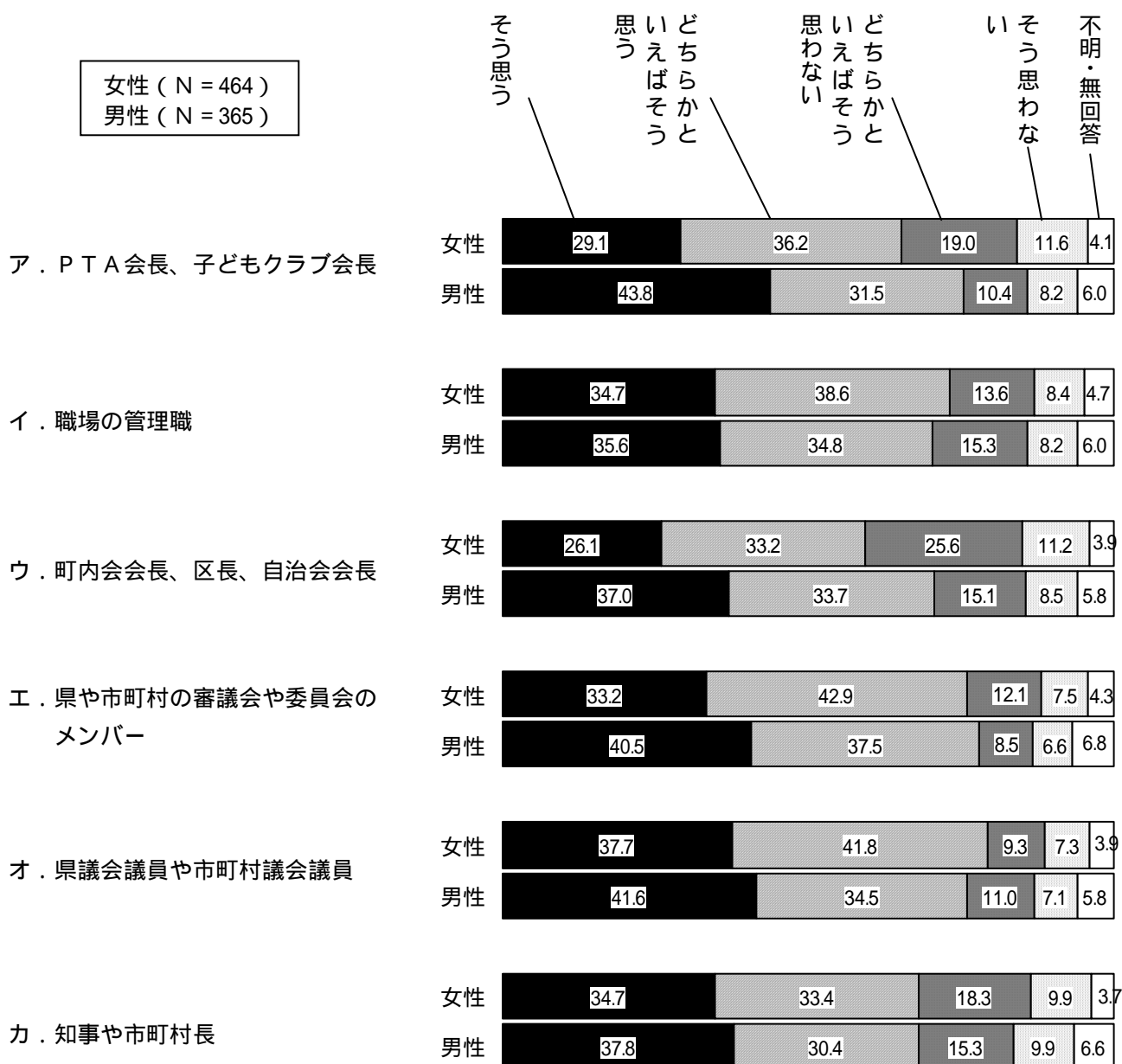


「観光・ボランティア活動」の選択肢は、今回調査のみ

男性の、仕事以外に現在行っている活動と今後新たに始めたい（続けたい）活動について前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、現在行っている活動については「町内会・PTA・子どもクラブ活動」で 10.0 ポイントの増加がみられた。今後新たに始めたい（続けたい）活動では、「国際交流活動」以外ではほとんどの項目で増加しているが、「特になし」も増加している。

(2) 役職や公職

問16. あなたは、次にあげるような役職や公職に女性が「もっと就いた方がよい」と思っていますか。(ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)



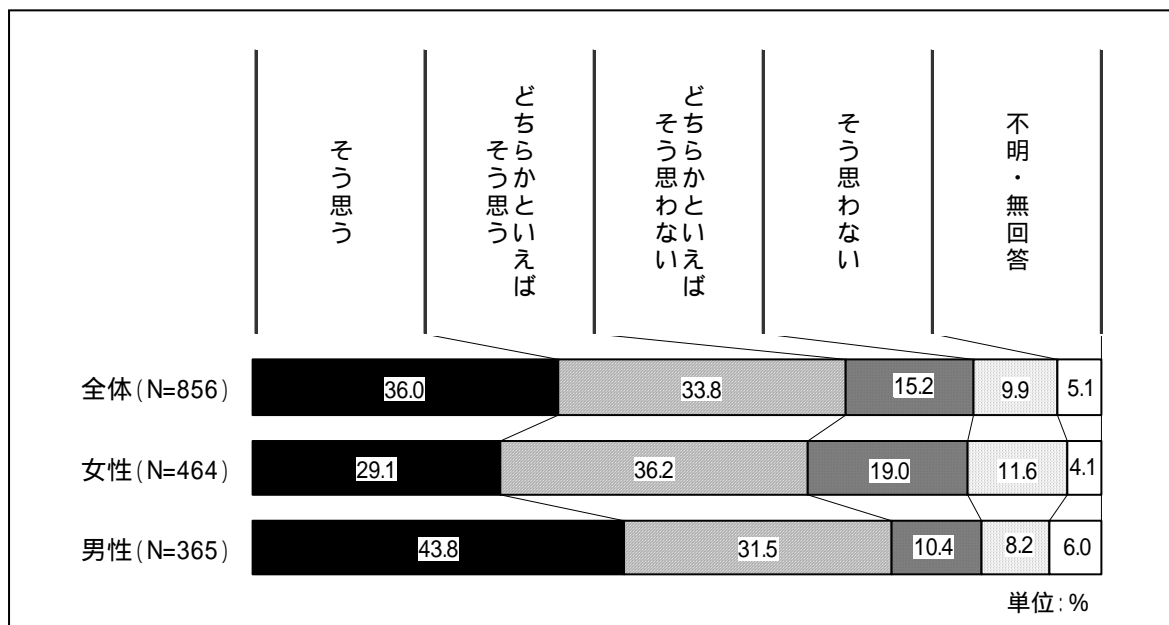
単位: %

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は女性で『町内会会長、区長、自治会会長』が最も多い

役職や公職に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も多いのは、女性では『県議会議員や市町村議会議員』で79.5%、男性では『県や市町村の審議会や委員会のメンバー』で78.0%となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が最も多いのは、女性では『町内会会長、区長、自治会会長』で36.8%となっており、男性では『知事や市町村長』で25.2%となっている。

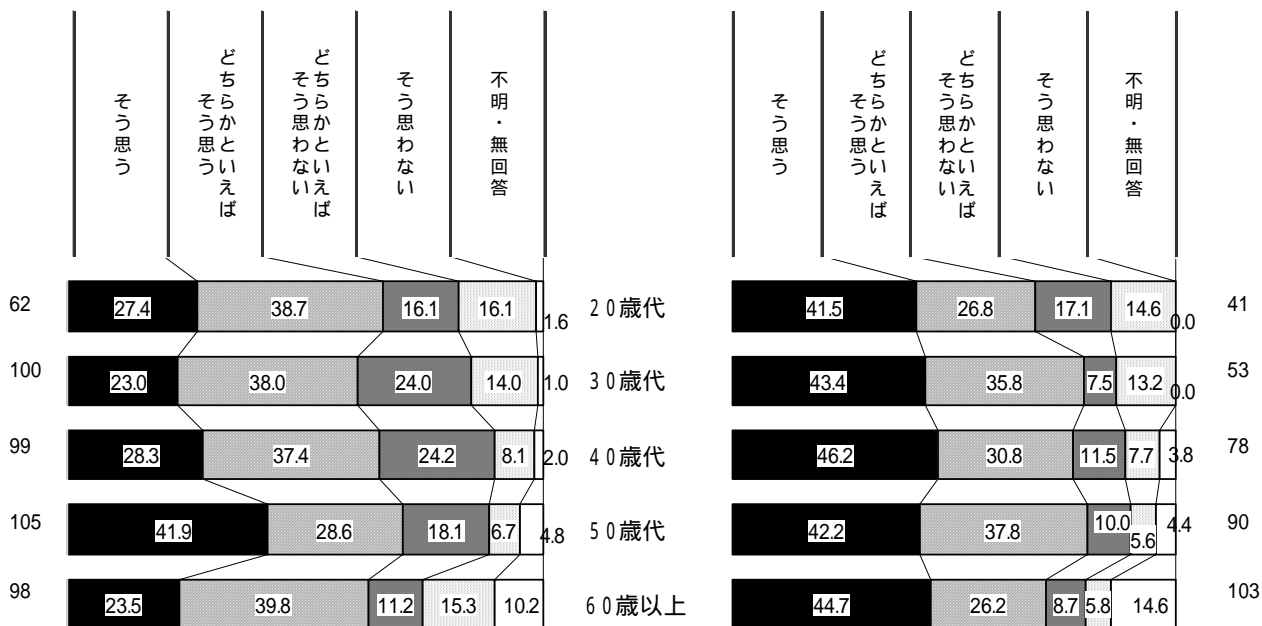
問16.『PTA会長、子どもクラブ会長』に女性がもっと就いた方がよいか



年齢層別

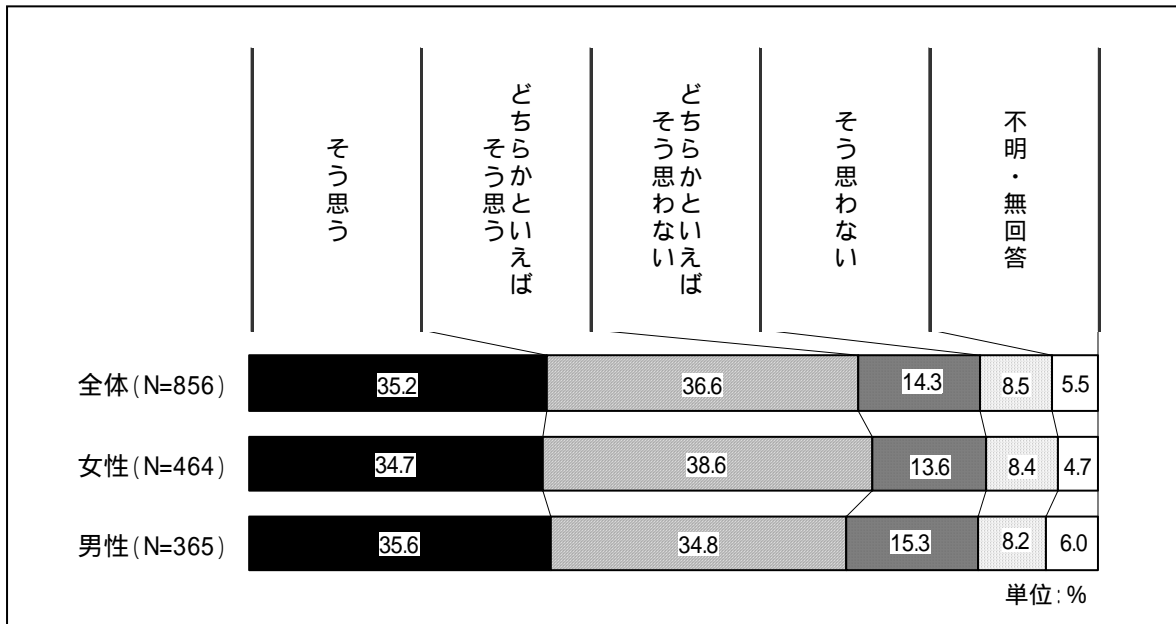
女性

男性

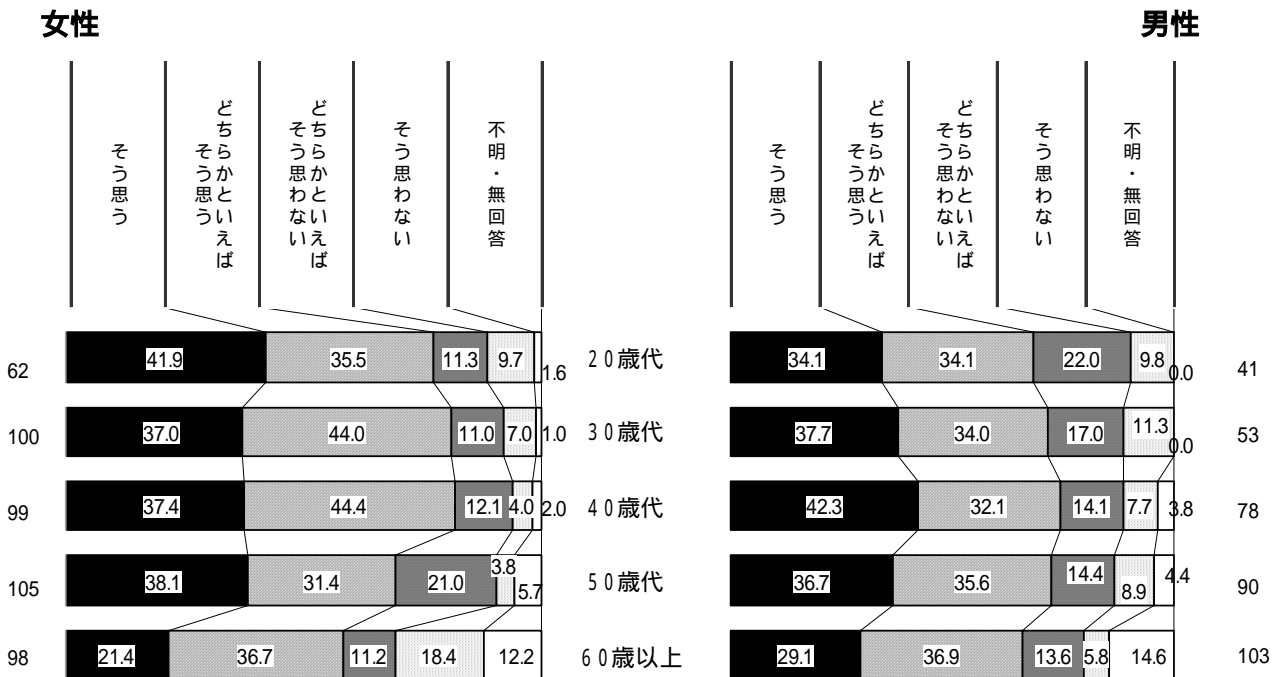


PTA会長、子どもクラブ会長に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、女性では、「そう思う」が50歳代で41.9%と最も多く、それ以外の年齢層では3割に満たない。男性ではいずれの年齢層でも4割以上を占めている。

問16.『職場の管理職』に女性がもっと就いた方がよいか

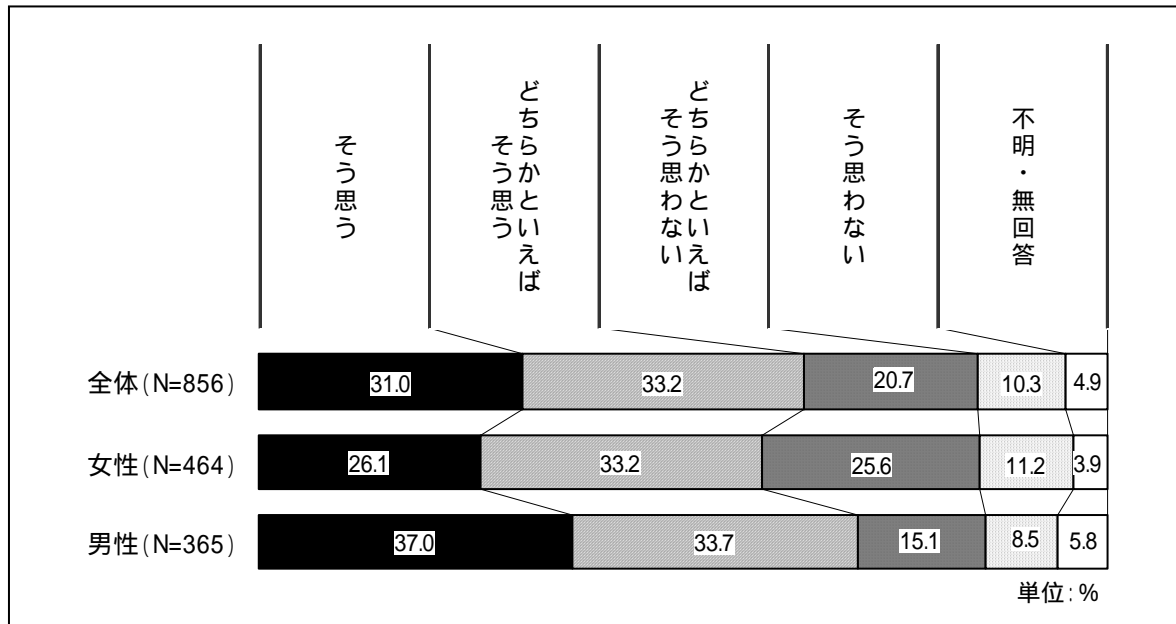


年齢層別

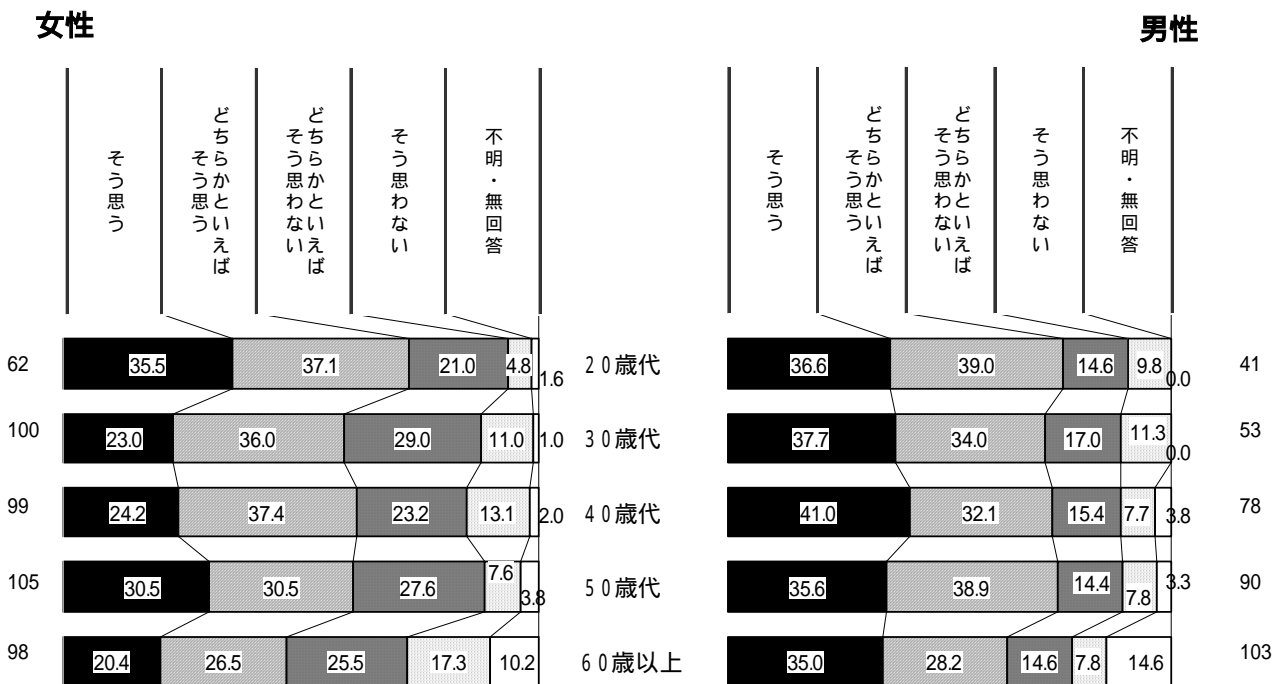


職場の管理職に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性、男性ともにいずれの年齢層でも約6割～8割を占めているが、40歳代以降減少する傾向にある。

問16. 『町内会会長、区長、自治会会長』に女性がもっと就いた方がよいか

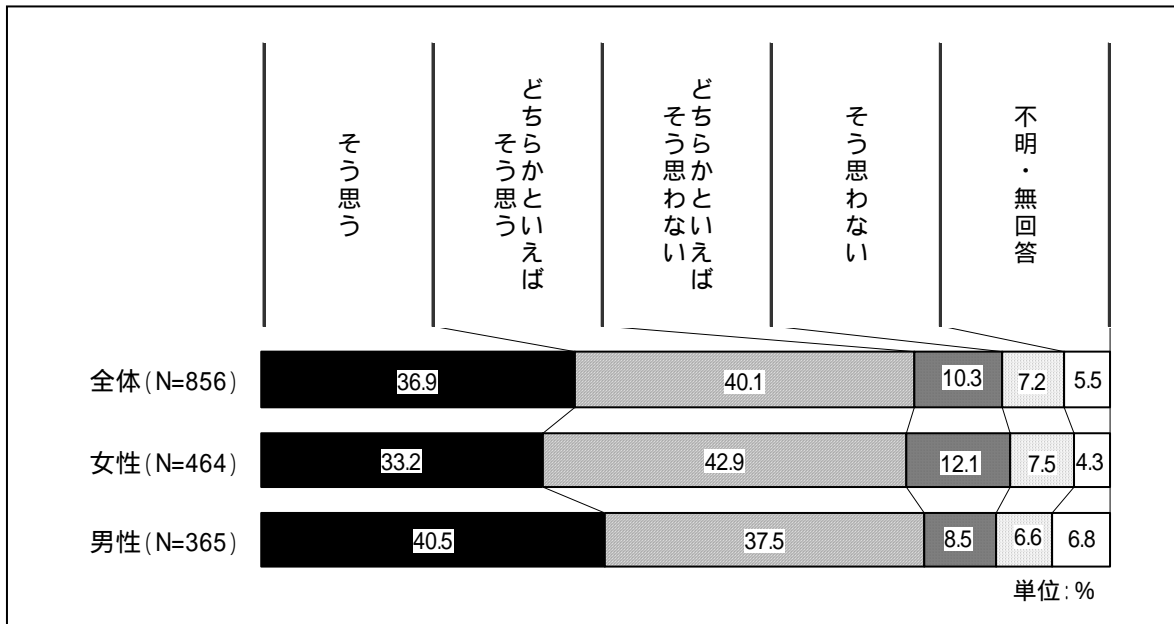


年齢層別

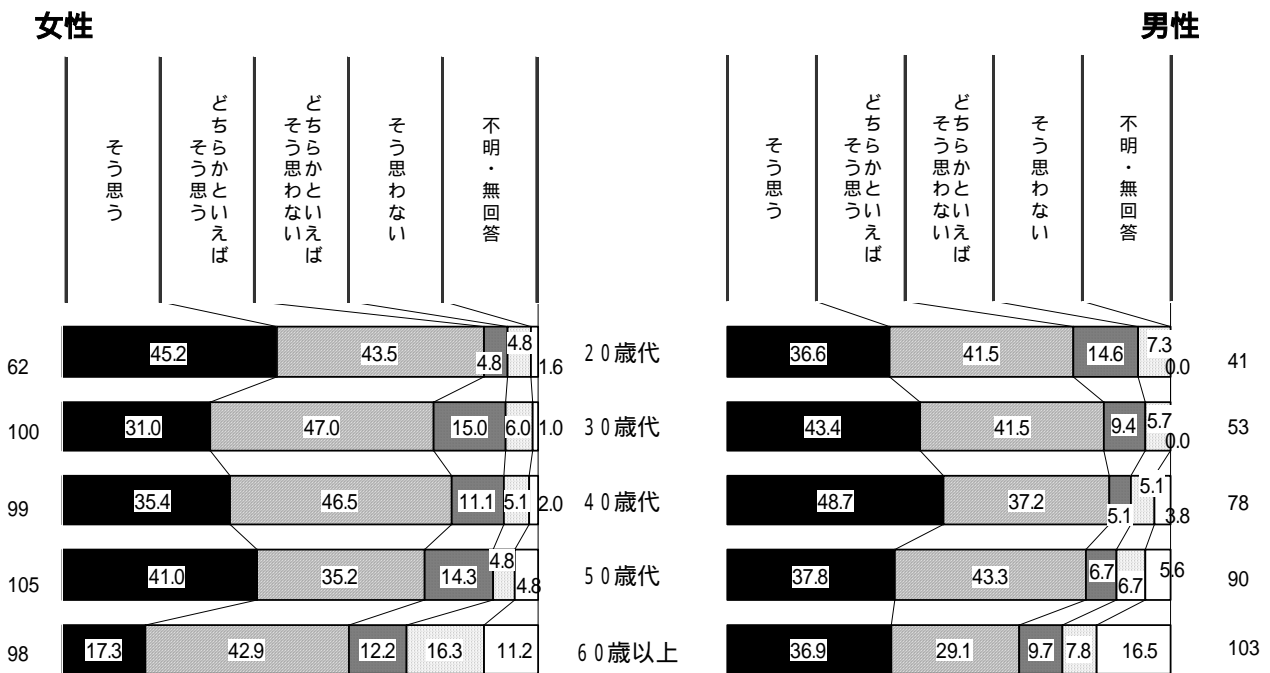


町内会会長、区長、自治会会長に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性・男性ともに20歳代で最も多く、女性では72.6%、男性では75.6%となっている。一方、60歳以上で最もその割合が少なくなっており、女性で46.9%、男性で63.2%となっている。

問16.『県や市町村の審議会や委員会のメンバー』に女性がもっと就いた方がよいか

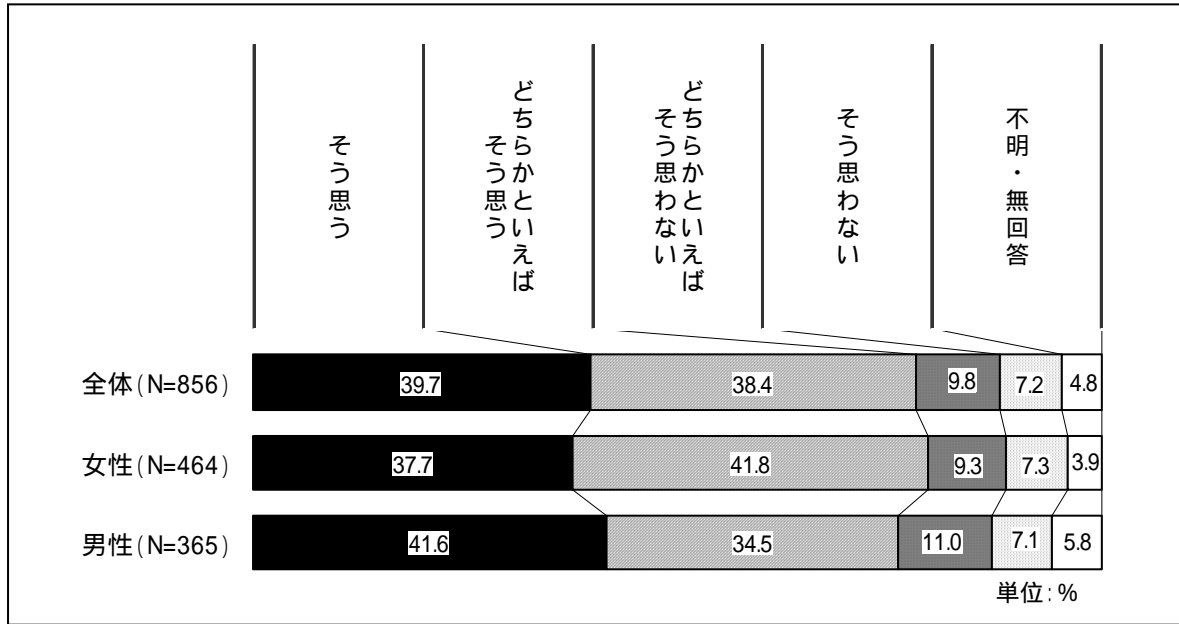


年齢層別



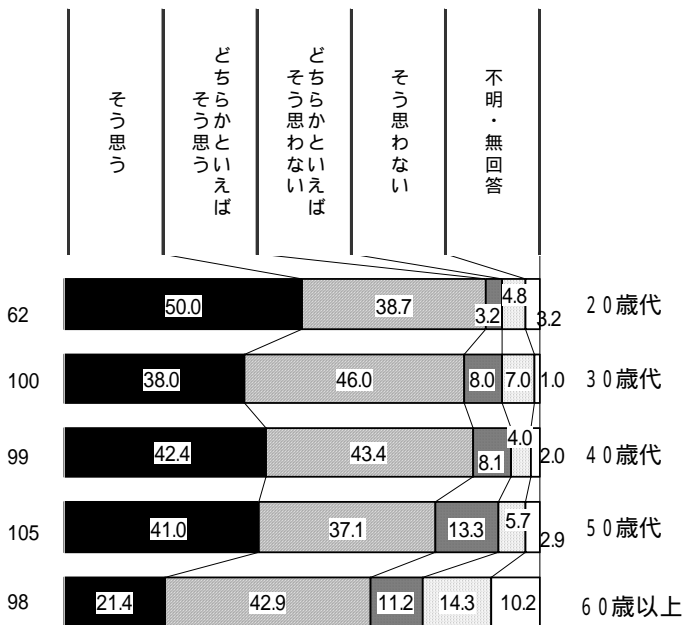
県や市町村の審議会や委員会のメンバーに女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性では20歳代で88.7%と最も多くなり、40歳代以降その割合が減少する傾向にある。男性ではその割合が40歳代で85.9%と最も多くなっている。

問16.『県議会議員や市町村議会議員』に女性がもっと就いた方がよいか

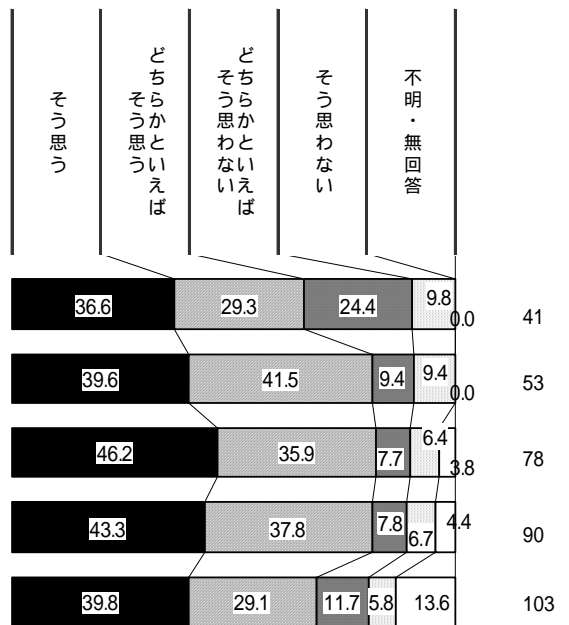


年齢層別

女性

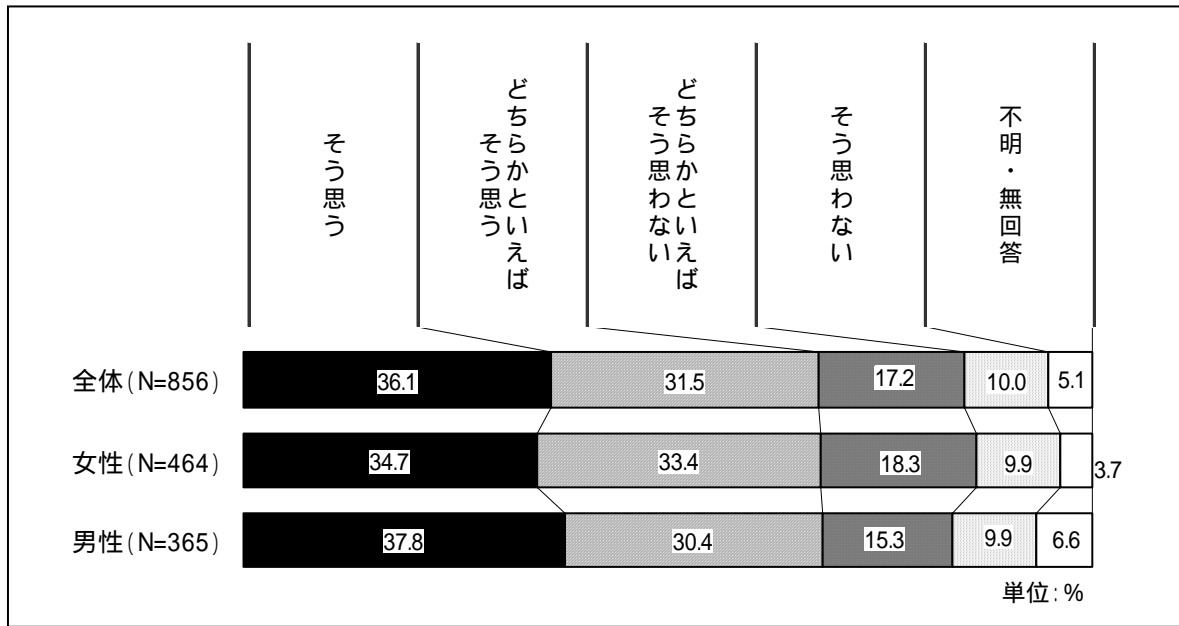


男性



県議会議員や市町村議会議員に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「どちらかといえ
ばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、女性では60歳以上で25.5%と最も多く、
男性については20歳代で34.2%と最も多くなっている。

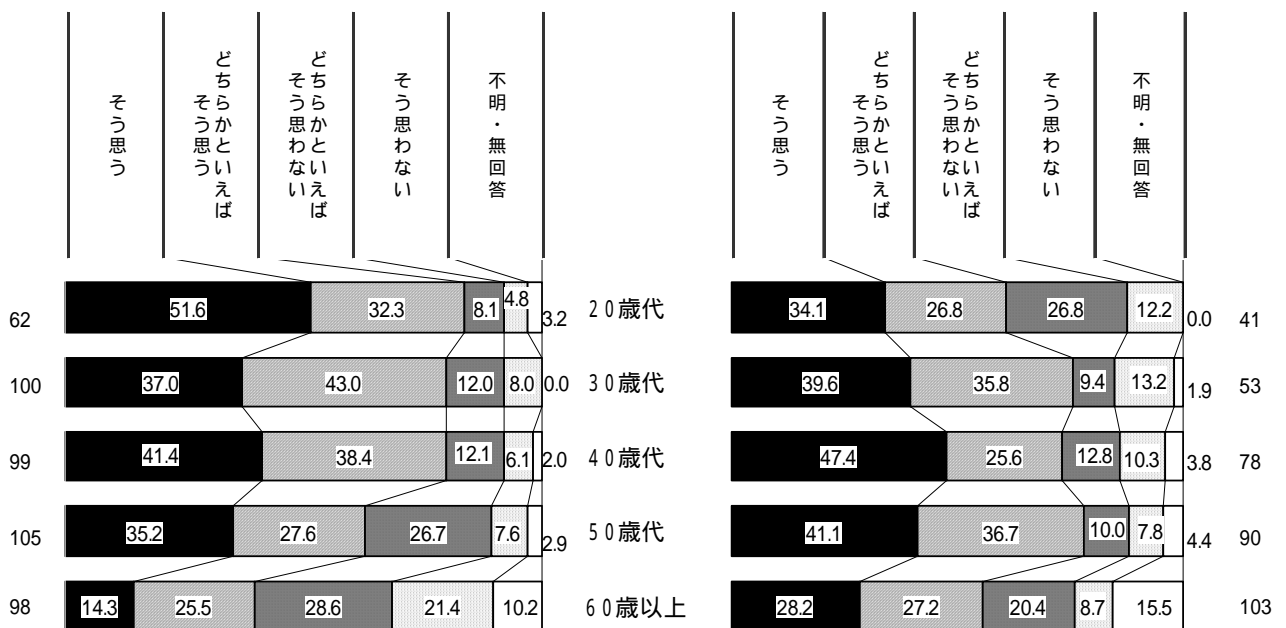
問16. 『知事や市町村長』に女性がもっと就いた方がよいか



年齢層別

女性

男性



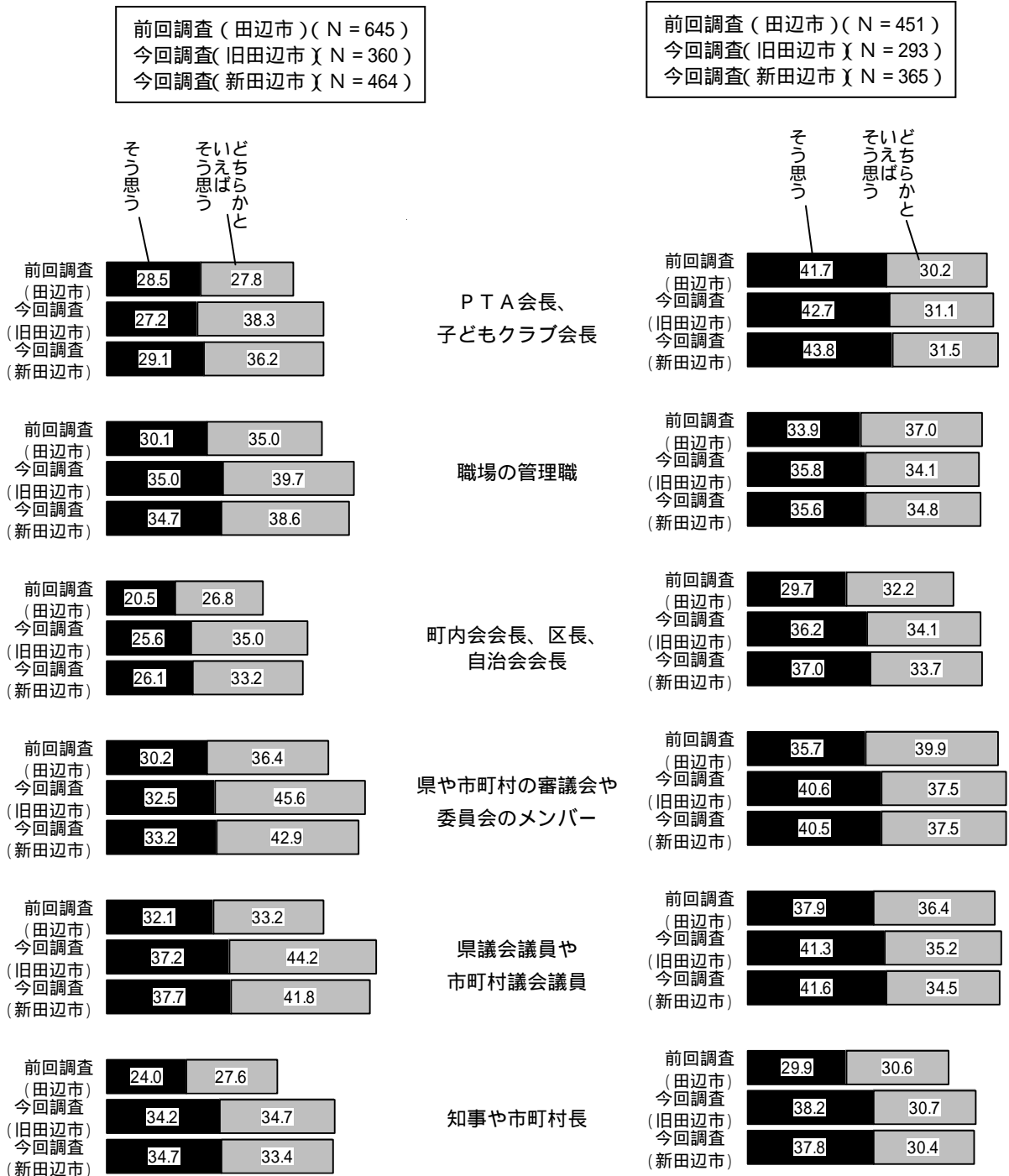
知事や市町村長に女性がもっと就いた方がよいと思うかについて、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、女性では60歳以上で50.0%と半数を占めて最も多く、男性については20歳代で39.0%と最も多くなっている。

問 16 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

役職や公職に女性が「もっと就いた方がよい」と思うか

< 女 性 >

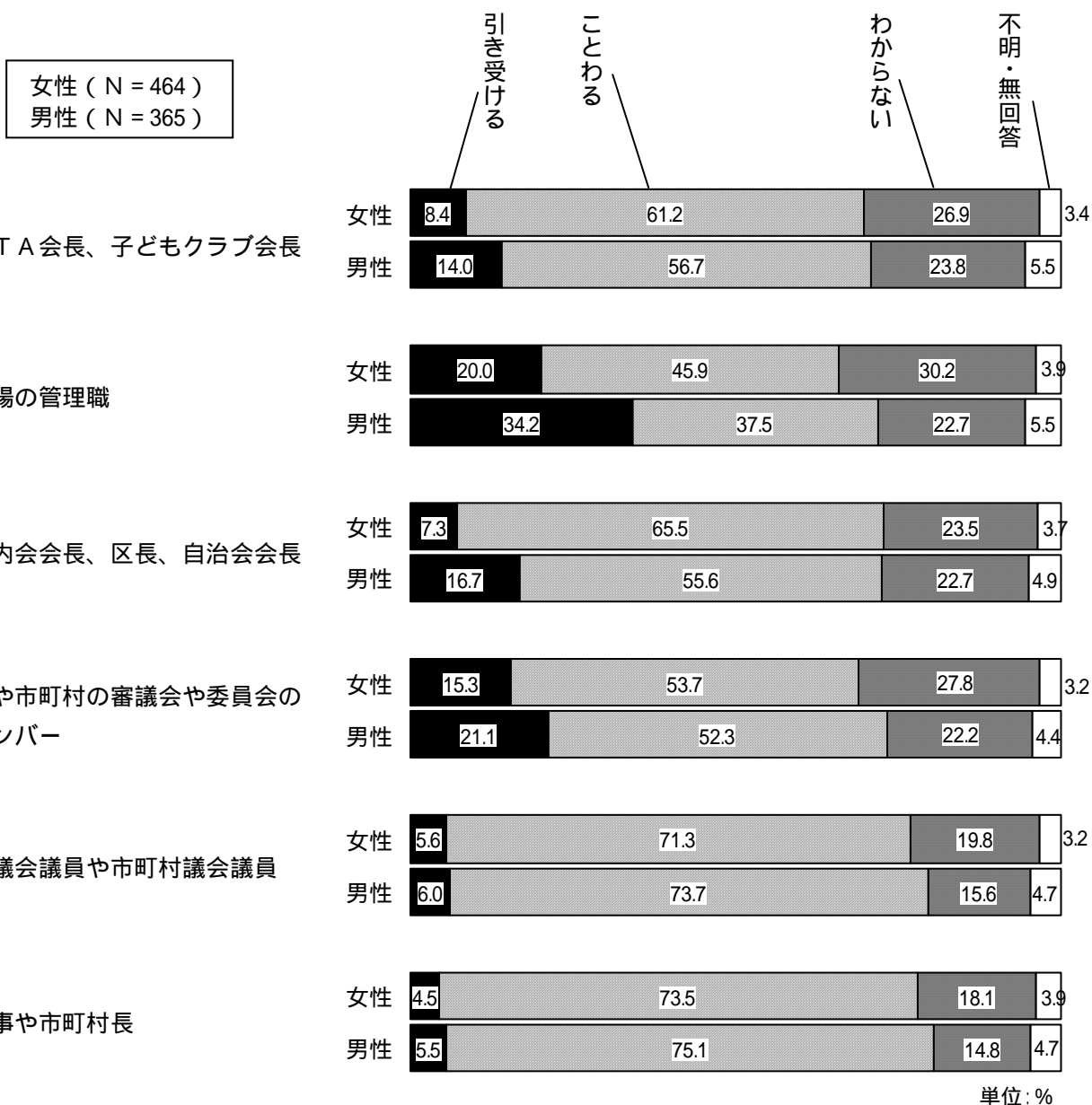
< 男 性 >



単位：%

役職や公職に女性が「もっと就いた方がよい」と思うかについて前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は男性の『職場の管理職』を除くすべての項目で増加している。なかでも女性では『知事や市町村長』で17.3ポイント、男性では『町内会会長、区長、自治会会長』『知事や市町村長』がともに8.4ポイントと、他の項目に比べ大きな増加がみられた。

問17. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。(ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)



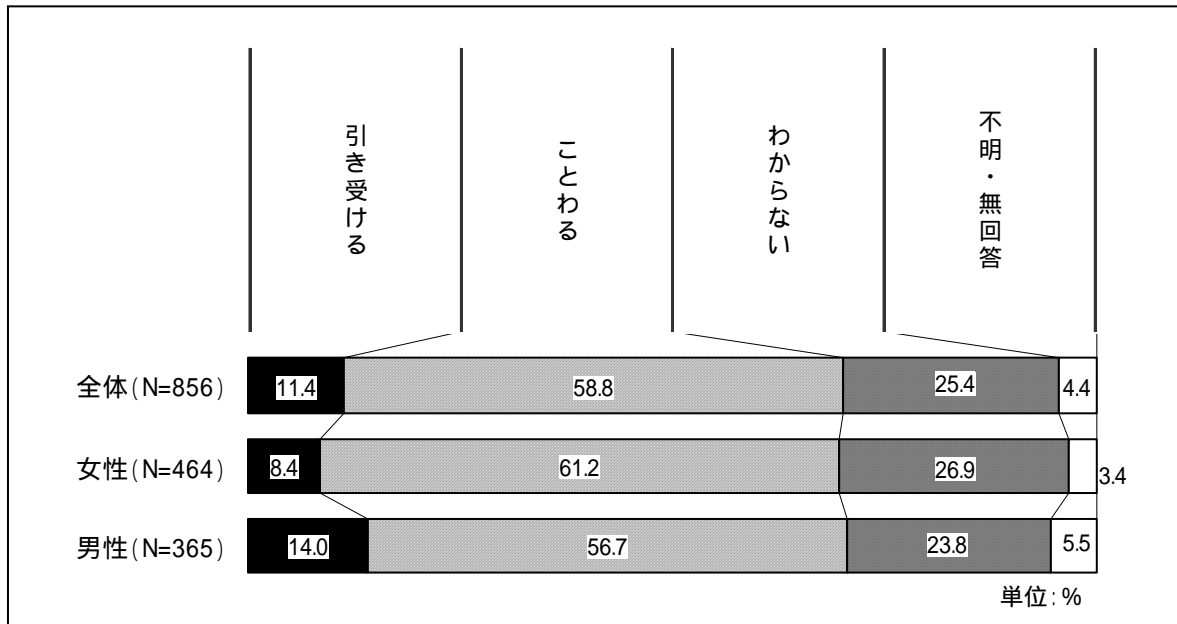
「引き受ける」割合が最も多いのは女性・男性ともに『職場の管理職』

役職や公職への就任や立候補を依頼されたときの対応についてみると、女性・男性ともに「ことわる」の割合がすべての項目において最も多くなっている。なかでも、女性については、『知事や市町村長』の「ことわる」割合が73.5%と最も多く、次いで『県議会議員や市町村議会議員』が71.3%、『町内会会長、区長、自治会会長』が65.5%となっている。

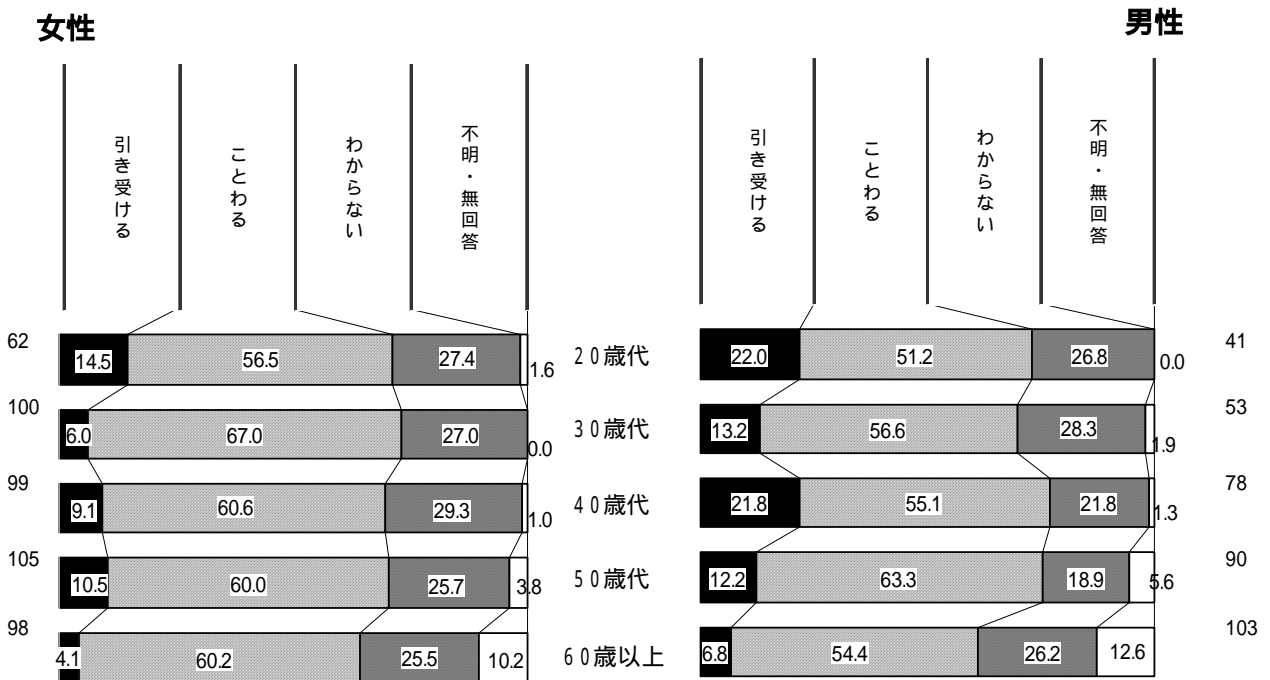
男性についても「ことわる」割合が最も多いのが、女性同様『知事や市町村長』で75.1%、次いで『県議会議員や市町村議会議員』で73.7%、『PTA会長、子どもクラブ会長』で56.7%となっている。

一方、女性・男性ともに、「引き受ける」と答えた割合が最も多いのは、女性で20.0%、男性で34.2%を占めた『職場の管理職』となっている。

問17.『PTA会長、子どもクラブ会長』を依頼されたら

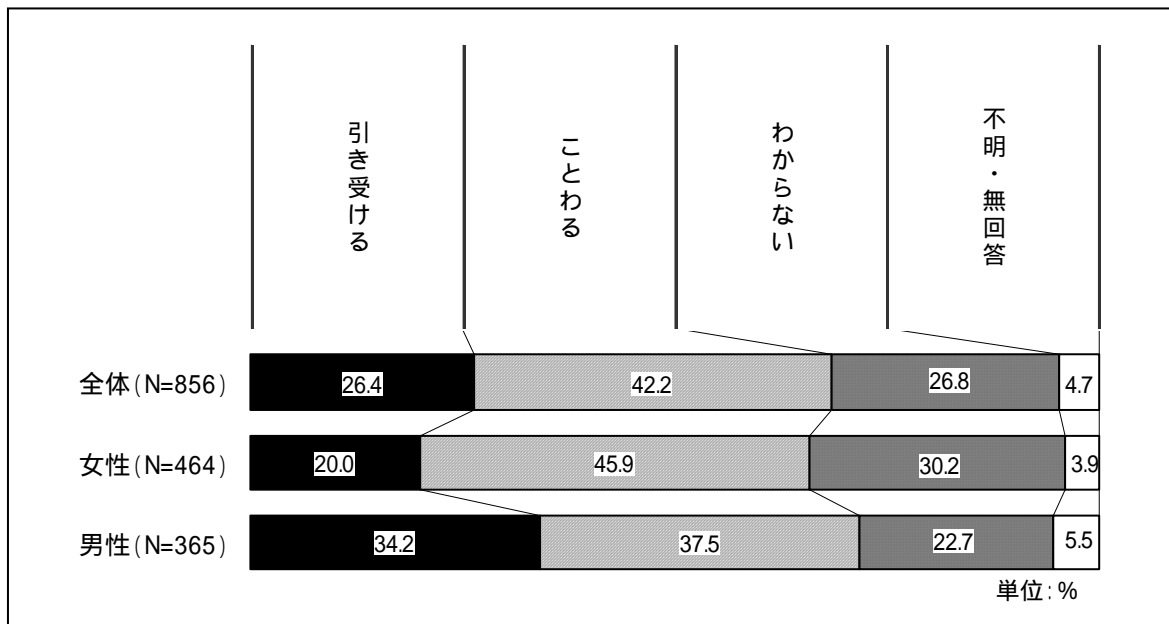


年齢層別

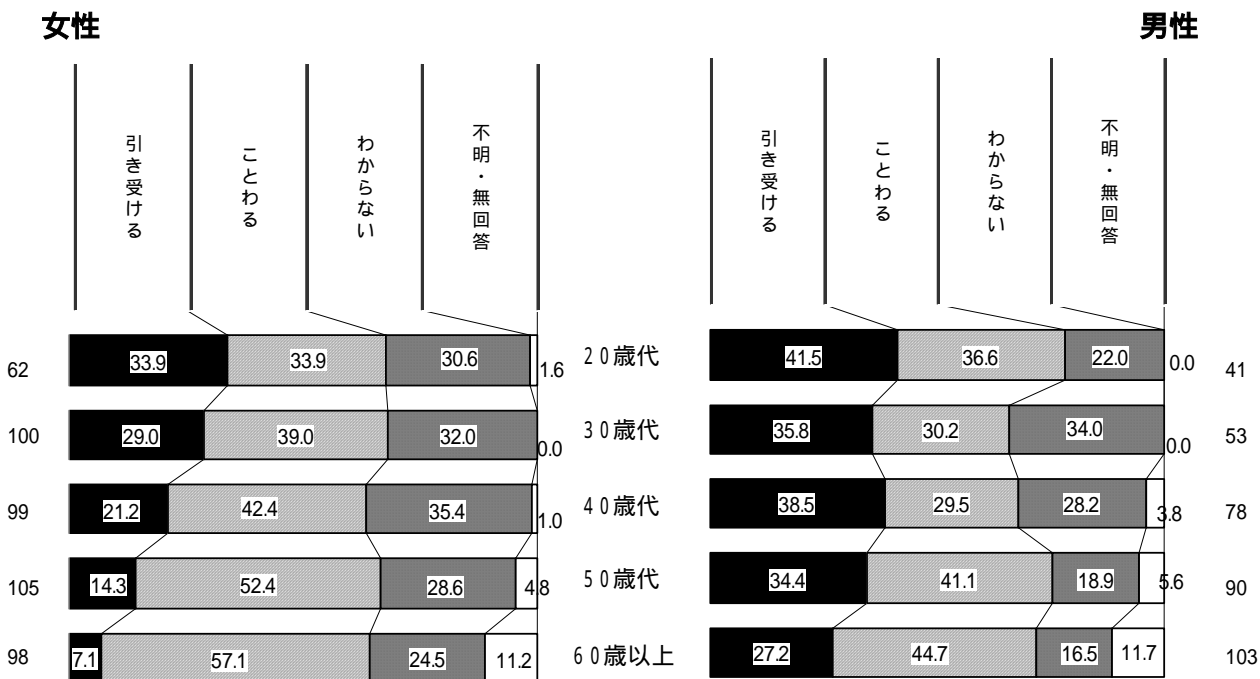


PTA会長、子どもクラブ会長への就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性・男性ともに「ことわる」と答えた割合がすべての年齢層において最も多くなっている。「引き受ける」は女性で20歳代が14.5%で最も多く、男性では20歳代が22.0%、40歳代で21.8%と、他の年齢層に比べ多くなっている。

問17.『職場の管理職』を依頼されたら

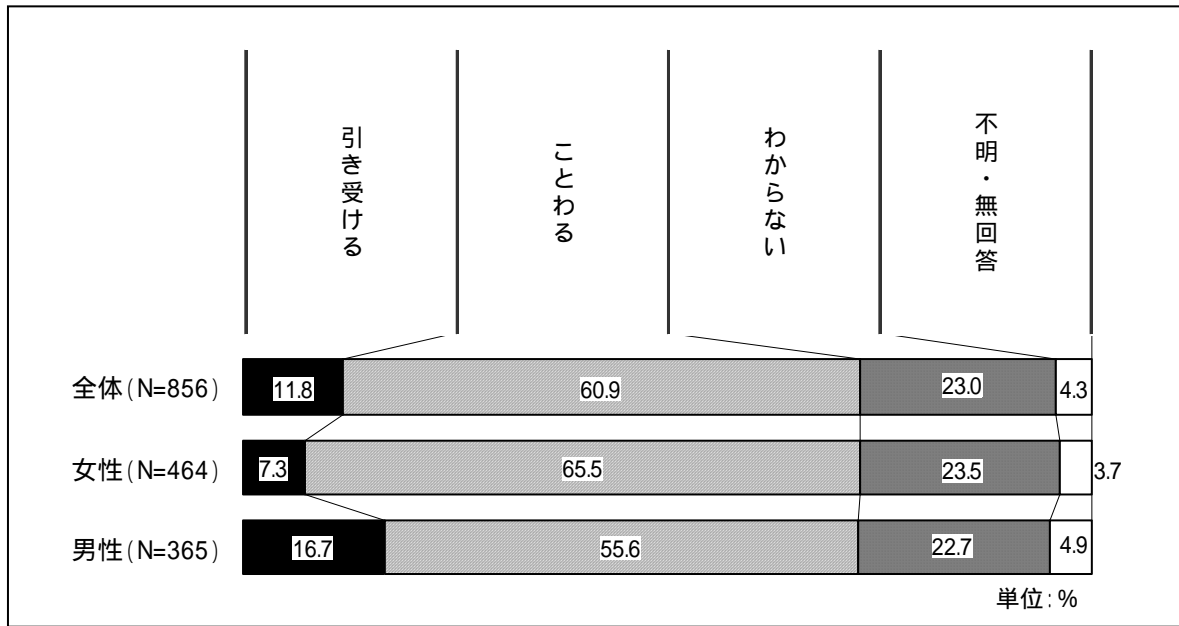


年齢層別

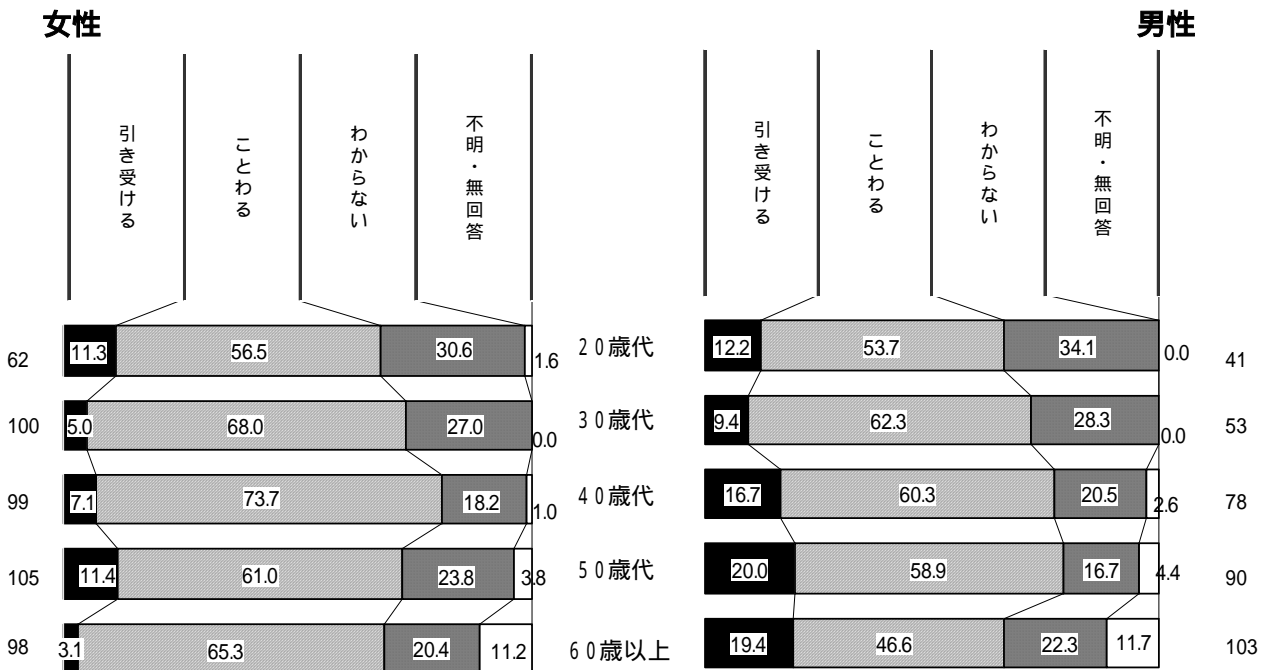


職場の管理職への就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性では「引き受ける」割合が20歳代で33.9%と最も多く、年齢層が上がるにつれ減少している。男性ではすべての年齢層で約3割～4割が「引き受ける」と回答している。

問 17 . 『町内会会長、区長、自治会会長』を依頼されたら

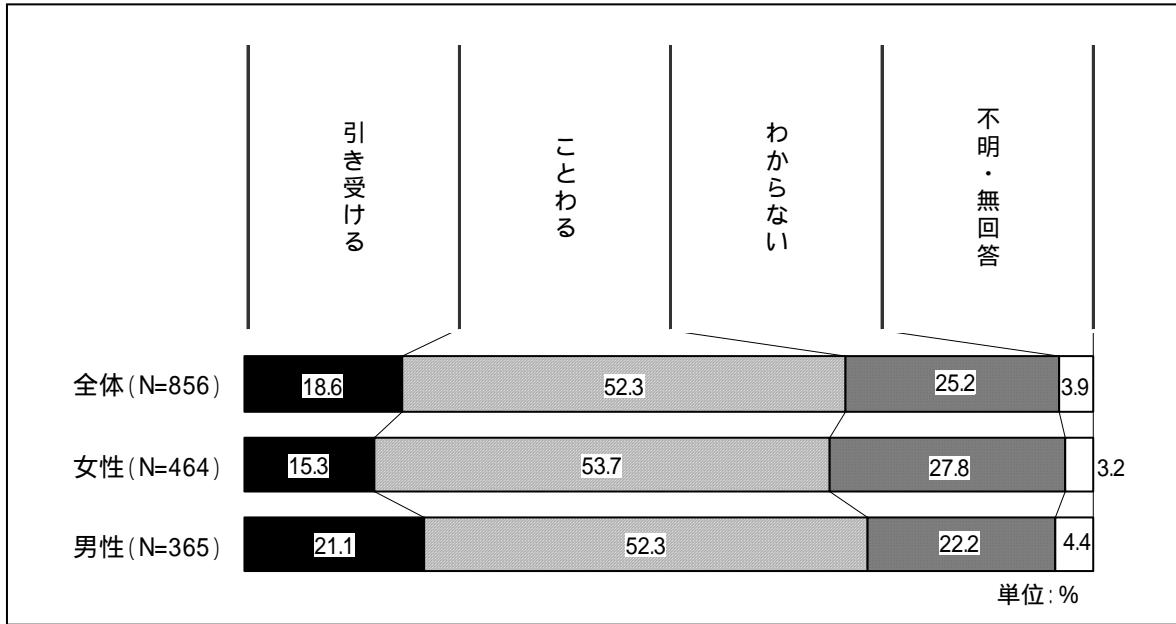


年齢層別

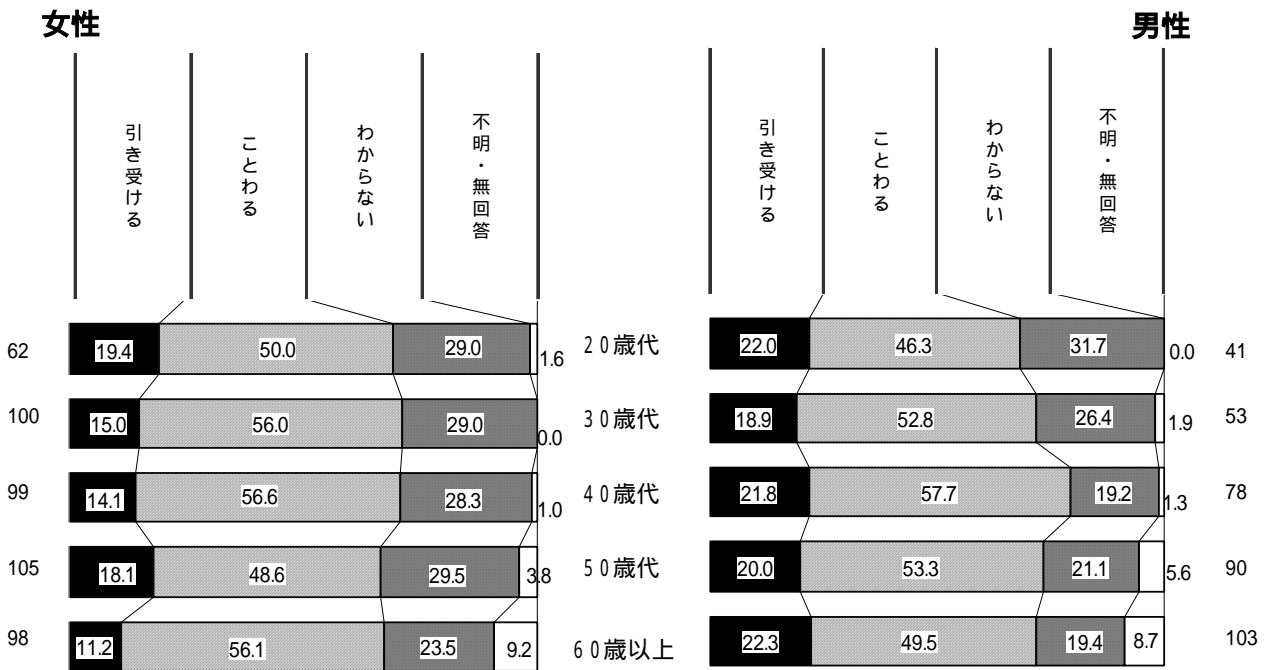


町内会会長、区長、自治会会長への就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性・男性ともに「ことわる」と答えた割合がすべての年齢層において最も多くなっている。「引き受ける」は女性の50歳代が11.4%、20歳代が11.3%となっており、男性では50歳代が20.0%、60歳以上で19.4%と、他の年齢層に比べ多くなっている。

問17.『県や市町村の審議会や委員会のメンバー』を依頼されたら

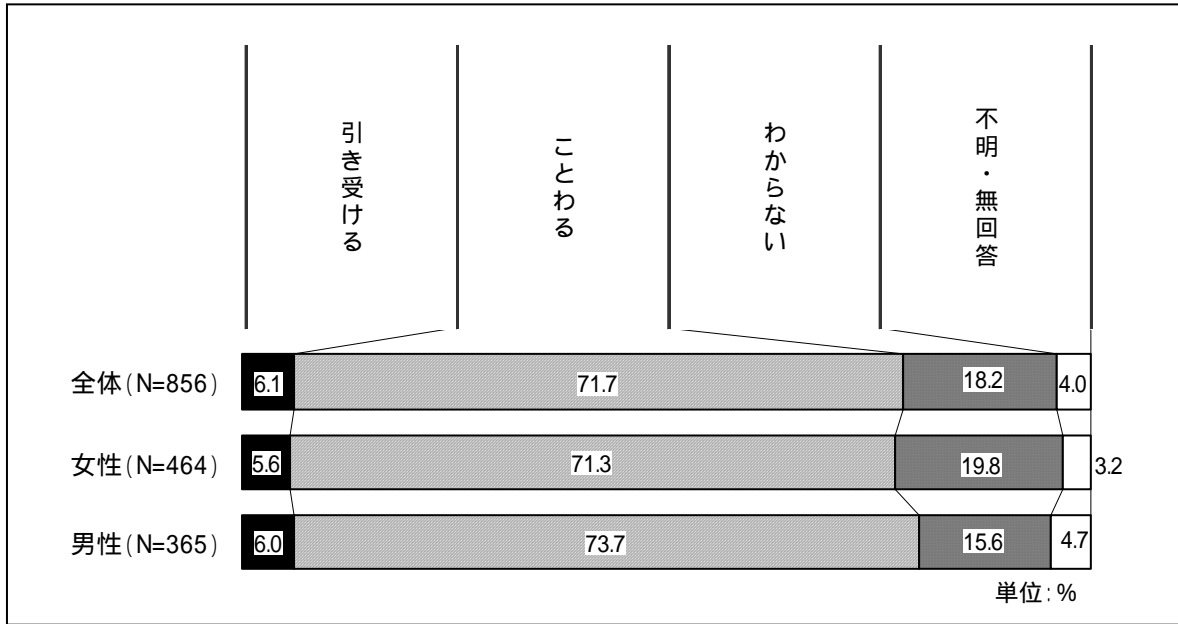


年齢層別

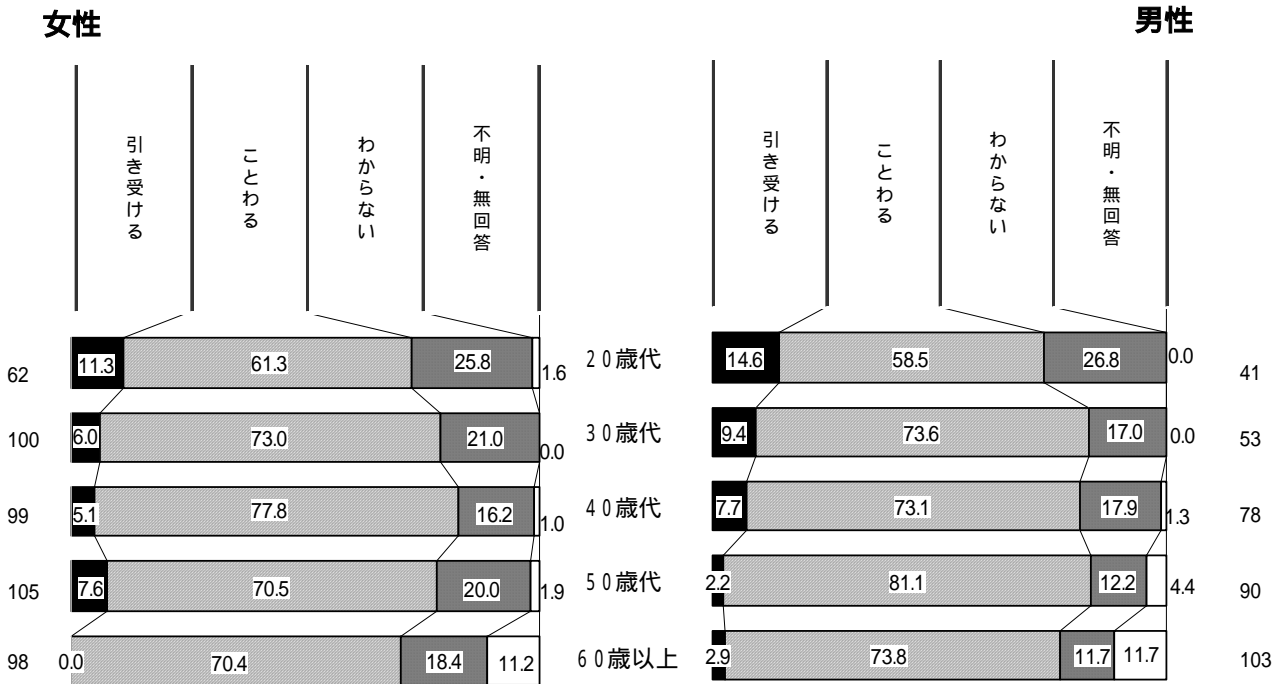


県や市町村の審議会や委員会のメンバーへの就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性・男性ともに「ことわる」と答えた割合がすべての年齢層において最も多くなっている。男性ではすべての年齢層で「引き受ける」が2割前後を占めており、女性に比べ多くなっている。

問 17 . 『県議会議員や市町村議会議員』を依頼されたら

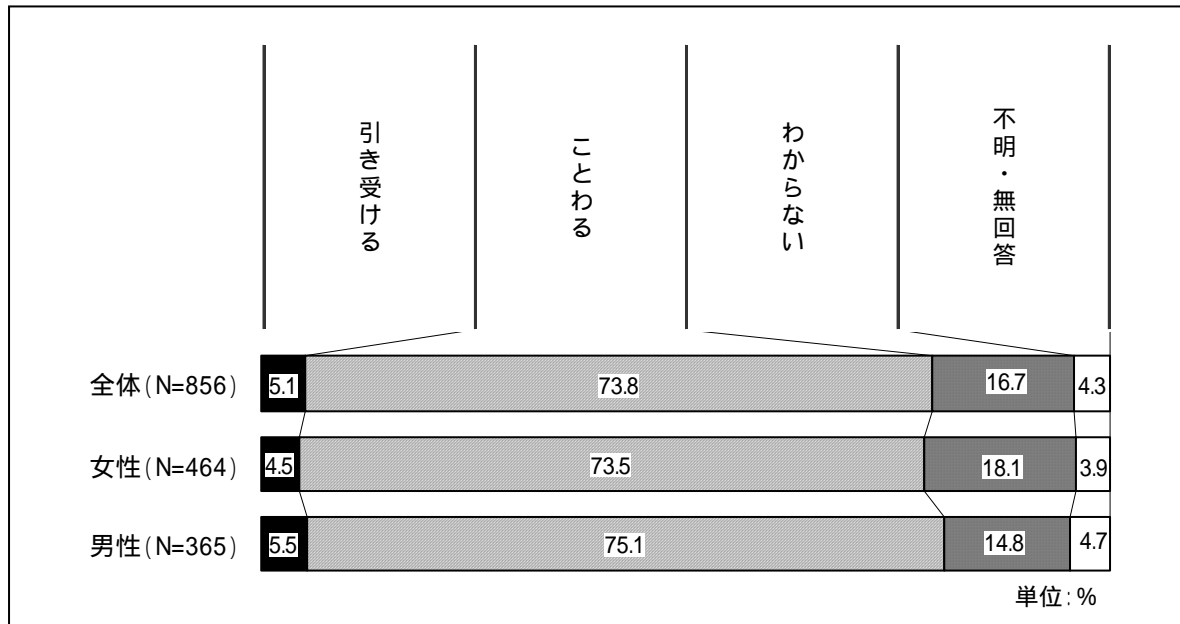


年齢層別

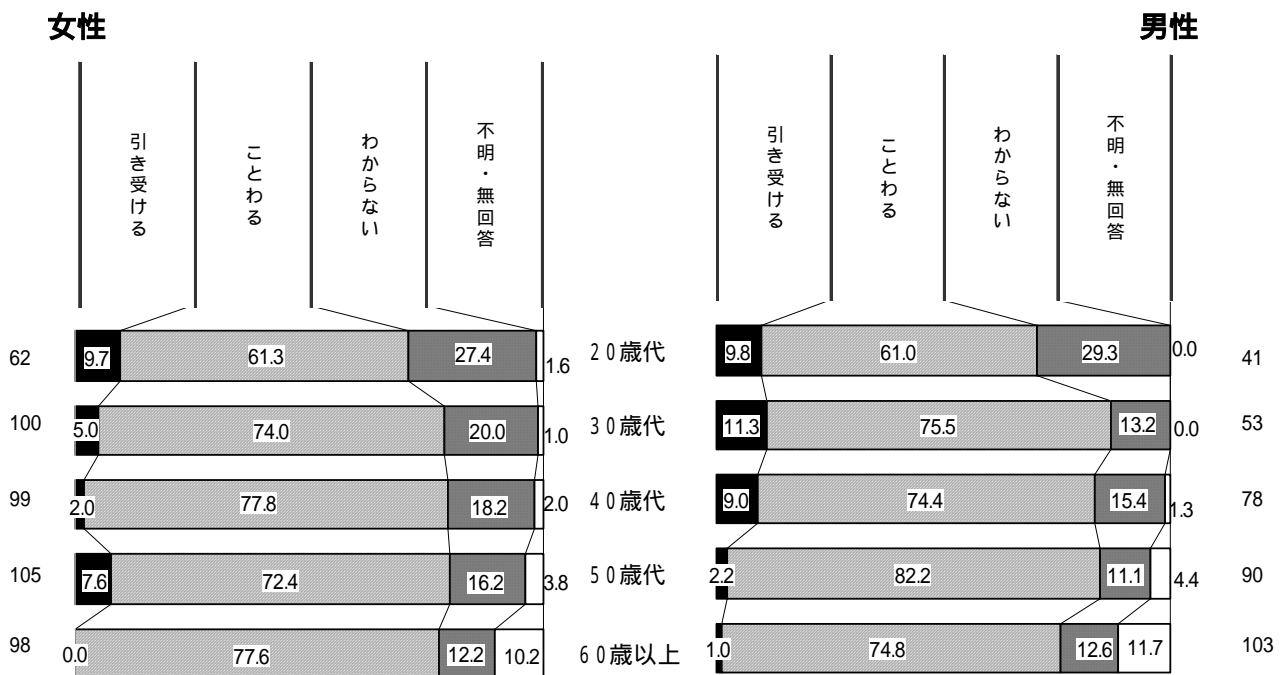


県議会議員や市町村議会議員への就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性・男性ともに「ことわる」と答えた割合がすべての年齢層において最も多くなっている。「引き受ける」は女性の20歳代が11.3%、男性でも同様に20歳代が14.6%と、他の年齢層に比べ多くなっている。

問 17. 『知事や市町村長』を依頼されたら



年齢層別



知事や市町村長への就任や立候補を依頼されたときの対応では、女性・男性ともに「ことわる」と答えた割合がすべての年齢層において最も多くなっている。「引き受ける」は女性の20歳代で9.7%、男性では30歳代で11.3%、20歳代で9.8%、40歳代で9.0%と、いずれも約1割に止まっている。

問17. 前回調査（平成9年度田辺市にて実施）との比較

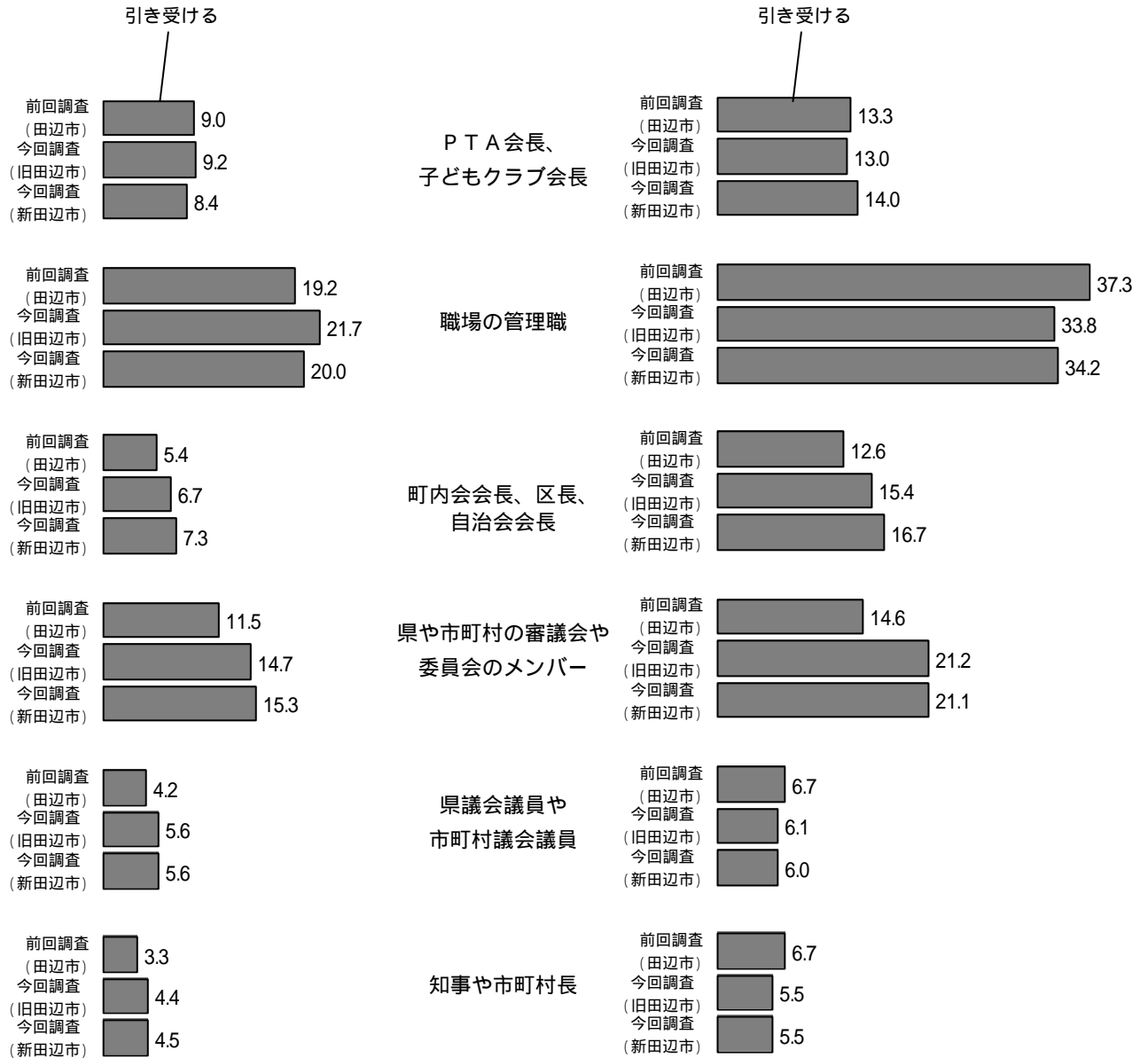
役職や公職への就任や立候補を依頼されたら引き受けるか

<女性>

<男性>

前回調査(田辺市)(N=645)
 今回調査(旧田辺市)(N=360)
 今回調査(新田辺市)(N=464)

前回調査(田辺市)(N=451)
 今回調査(旧田辺市)(N=293)
 今回調査(新田辺市)(N=365)

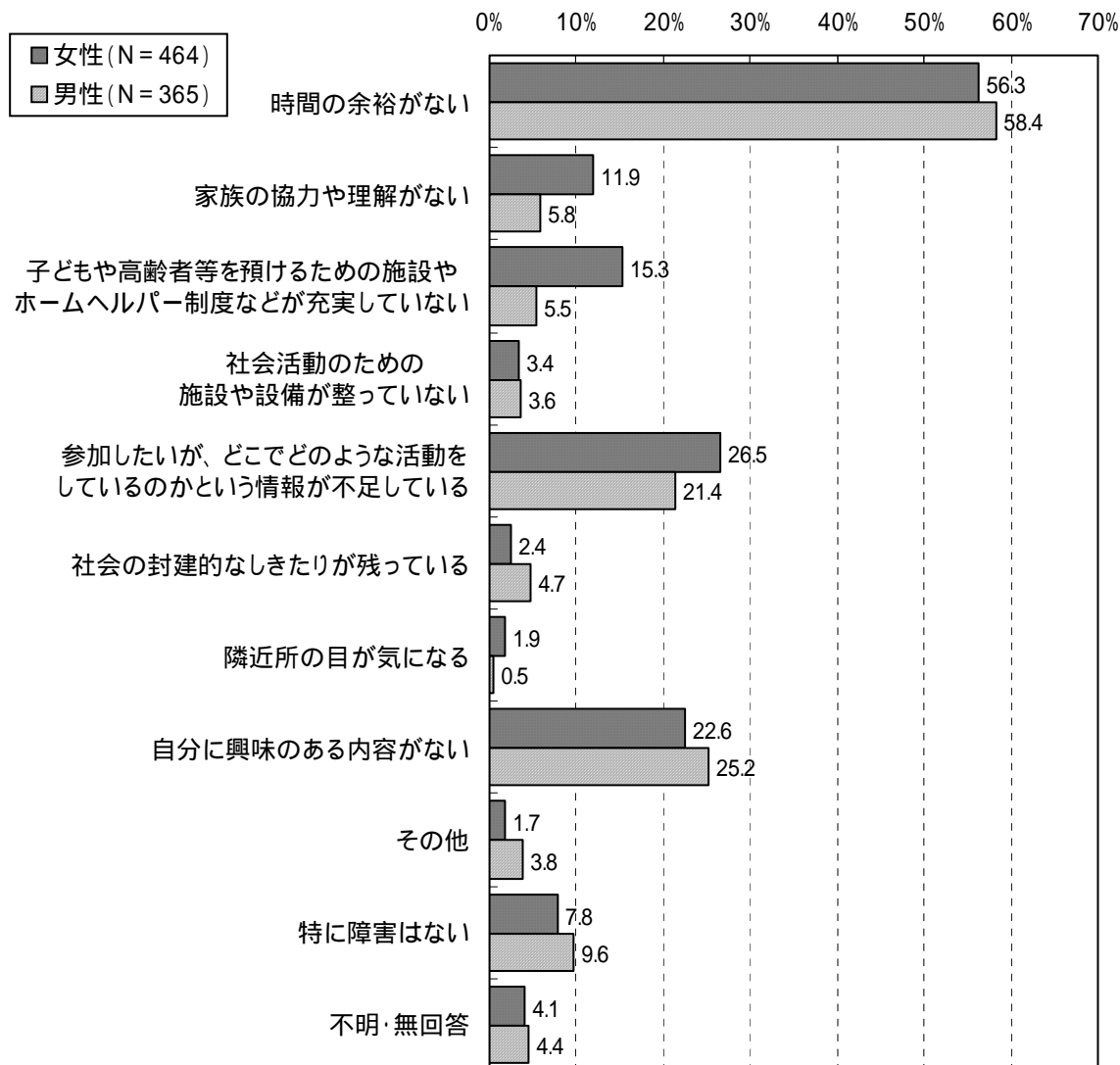


単位：%

役職や公職への就任や立候補を依頼されたら引き受けるかについて前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、「引き受ける」割合は、女性ではすべての項目で増加している。男性では『町内会会長、区長、自治会会長』『県や市町村の審議会や委員会のメンバー』では増加しているが、それ以外の項目は減少している。

(3) 活動の障害

問 1 8 . あなたが社会活動に参加しようとする場合、障害になるものは次のうちどれですか。(あてはまるもの2つまでに)



社会活動参加の障害は女性・男性とも「時間の余裕がない」

社会活動に参加する際の障害となっているものについてみると、女性・男性ともに「時間の余裕がない」が約6割と最も多くなっている。また、「参加したいが、どこでどのような活動をしているのかという情報が不足している」「自分に興味のある内容がない」については女性・男性ともに2割を超えている。

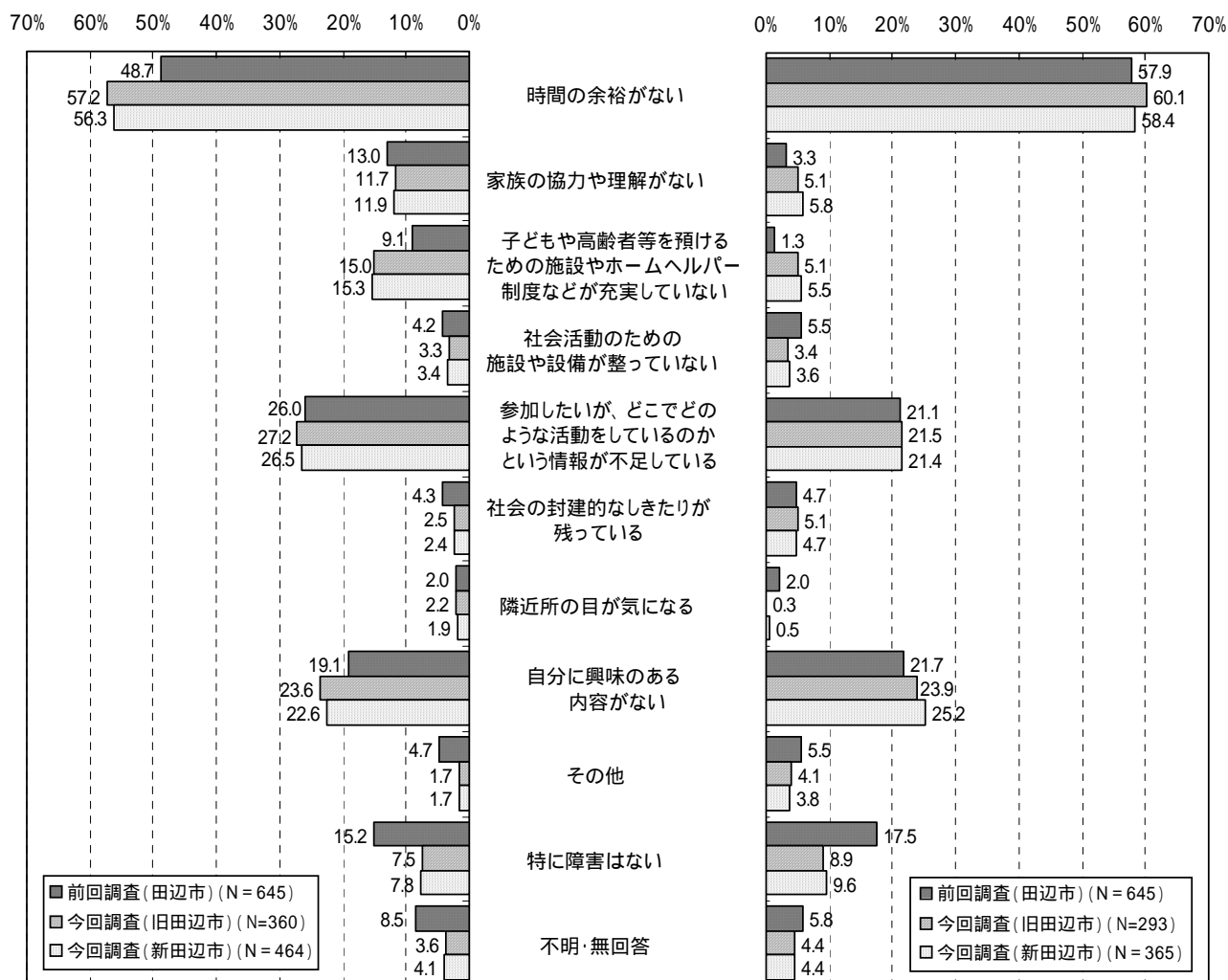
「家族の協力や理解がない」「子どもや高齢者等を預けるための施設やホームヘルパー制度などが充実していない」については、女性が男性と比べ多くなっており、差がみられた。

問18 . 前回調査（平成9年度田辺市にて実施）との比較

社会活動に参加しようとする場合、障害になるものについて

<女性>

<男性>

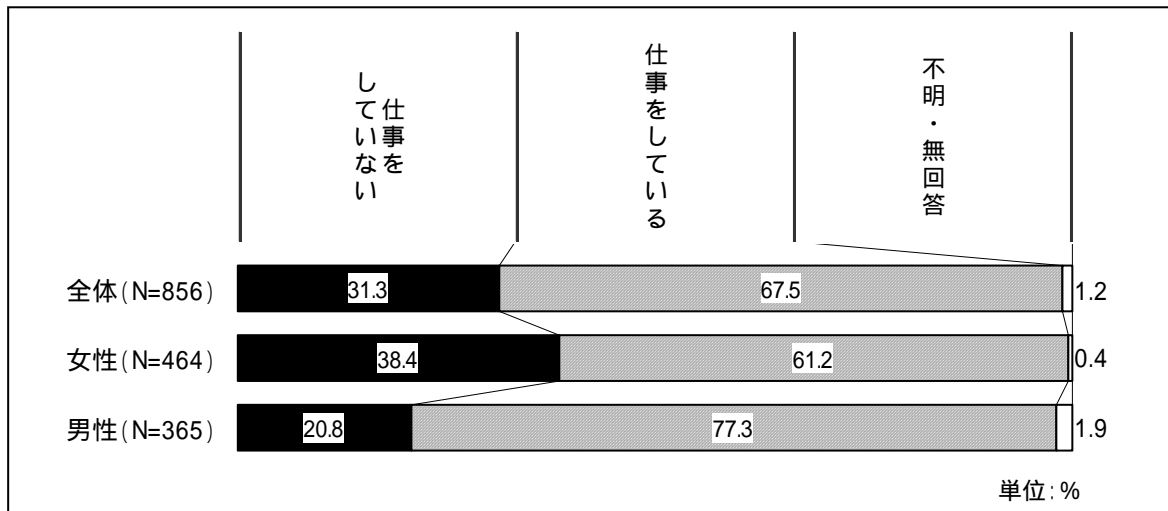


社会活動に参加しようとする場合の障害について前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、女性・男性ともに『特に障害はない』が減少しているが、それ以外については女性では『時間の余裕がない』が8.5ポイント増加している。また、男性では目立った大きな増減はないが『子どもや高齢者等を預けるための施設やホームヘルパー制度などが充実していない』が3.8ポイント増加している。

7. 就労について

(1) 就労状況

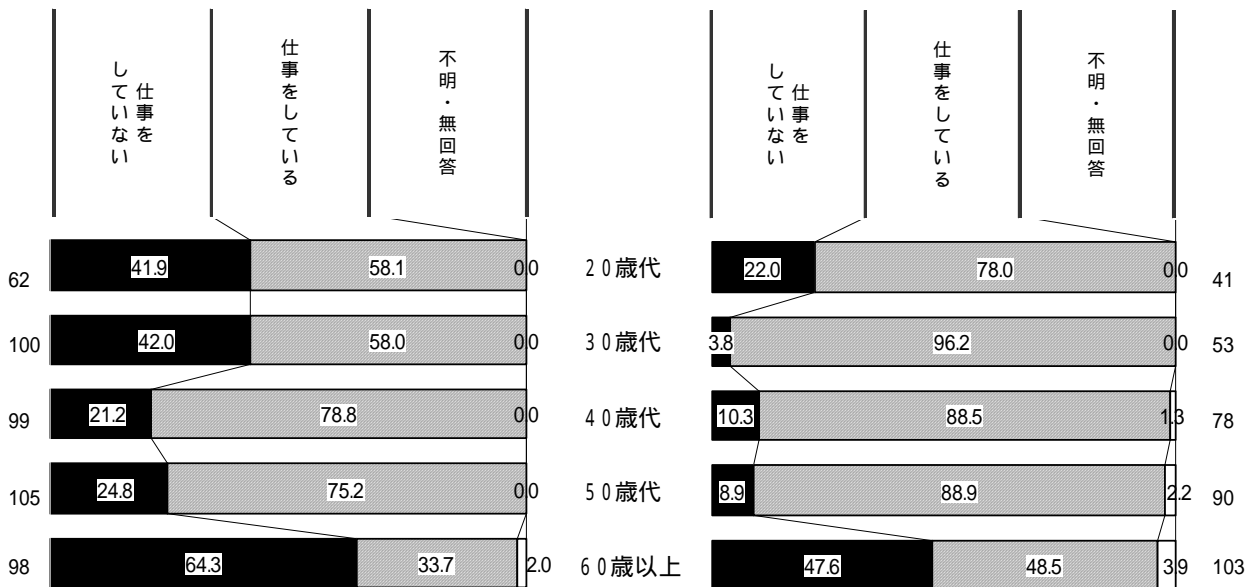
問19. あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(あてはまるものどちらか1つに)



女性

年齢層別

男性

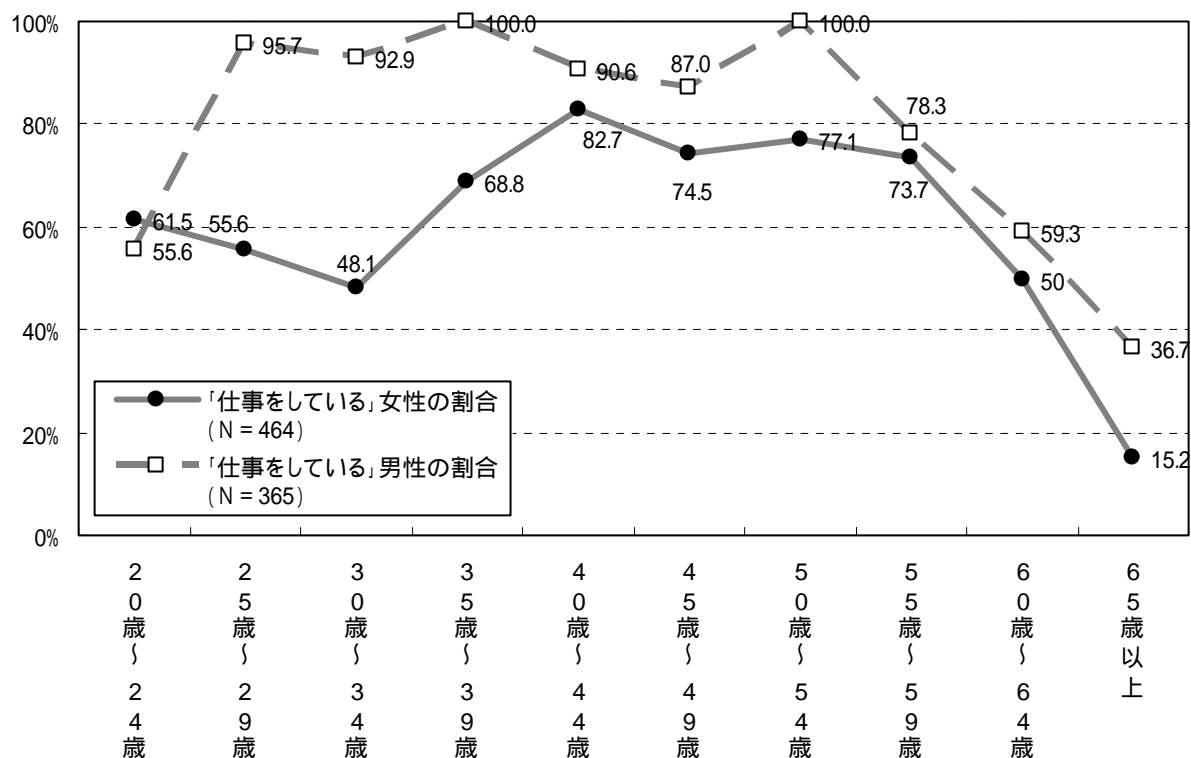


「仕事をしている」割合は、女性・男性ともに6割以上

現在収入を得る仕事をしているかについてみると、「仕事をしている」と答えた割合が女性で61.2%、男性で77.3%と、女性よりも男性の方が16.1ポイント多くなっている。

年齢層別でみると、「仕事をしている」割合が、女性の20歳代・30歳代では約6割、40歳代・50歳代では約8割となっており、男性ではその割合が、20歳代で約8割、30歳代・40歳代・50歳代では約9割となっている。

年齢階層別就業状況

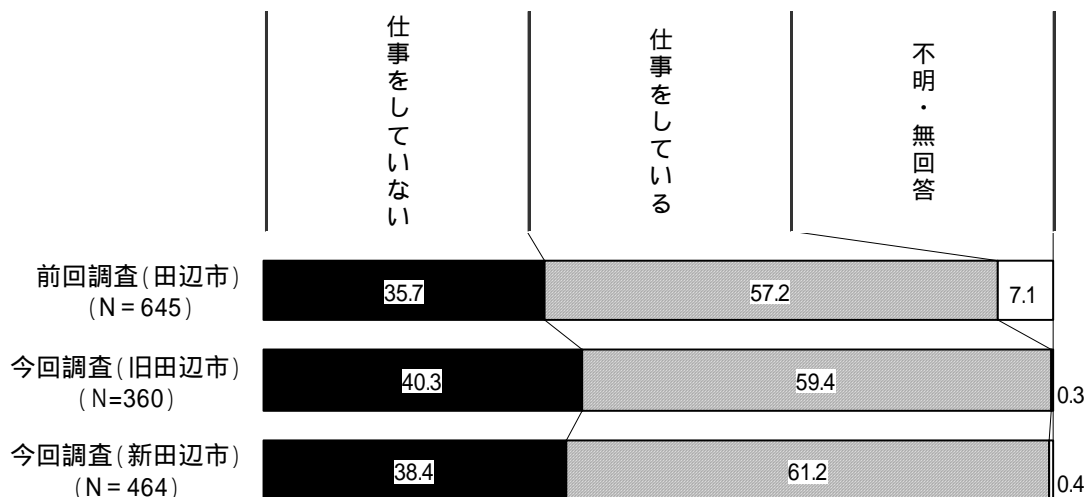


年齢別の就労状況をみると、男性では20歳代後半から50歳代前半にかけての年齢層で90～100%が「仕事をしている」と回答しているが、女性では20歳代前半から30歳代前半にかけてその割合が低下しており、30歳代前半で48.1%と、65歳以上の年齢層に次いで2番目に低くなっている。

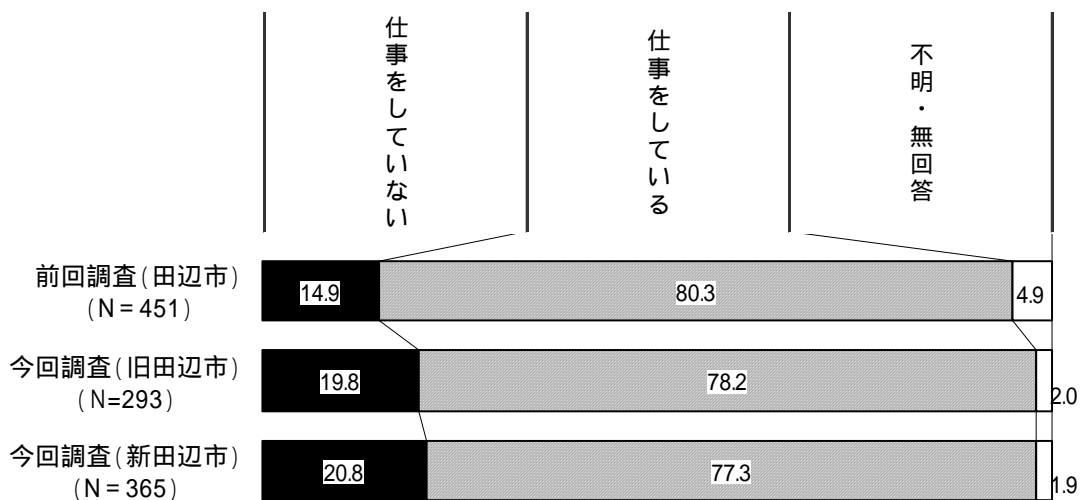
問 19 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

現在、収入を得る仕事をしているかについて

<女 性>



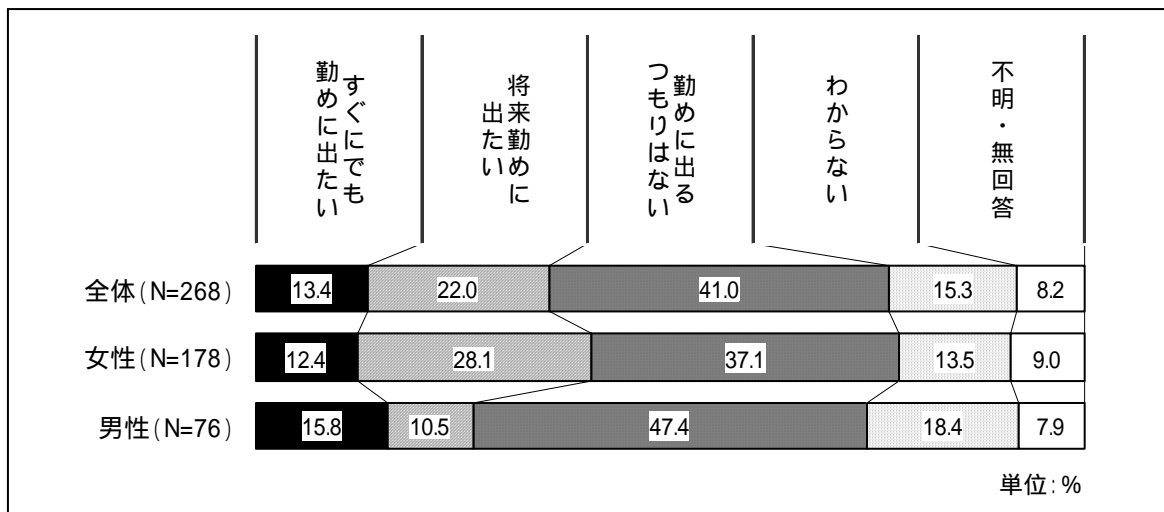
<男 性>



現在収入を得る仕事をしているかを前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、女性で「仕事をしている」が2.2ポイント増加し、男性では「仕事をしている」が2.1ポイント減少している。

問19で「仕事をしていない」と答えた方だけに質問します。

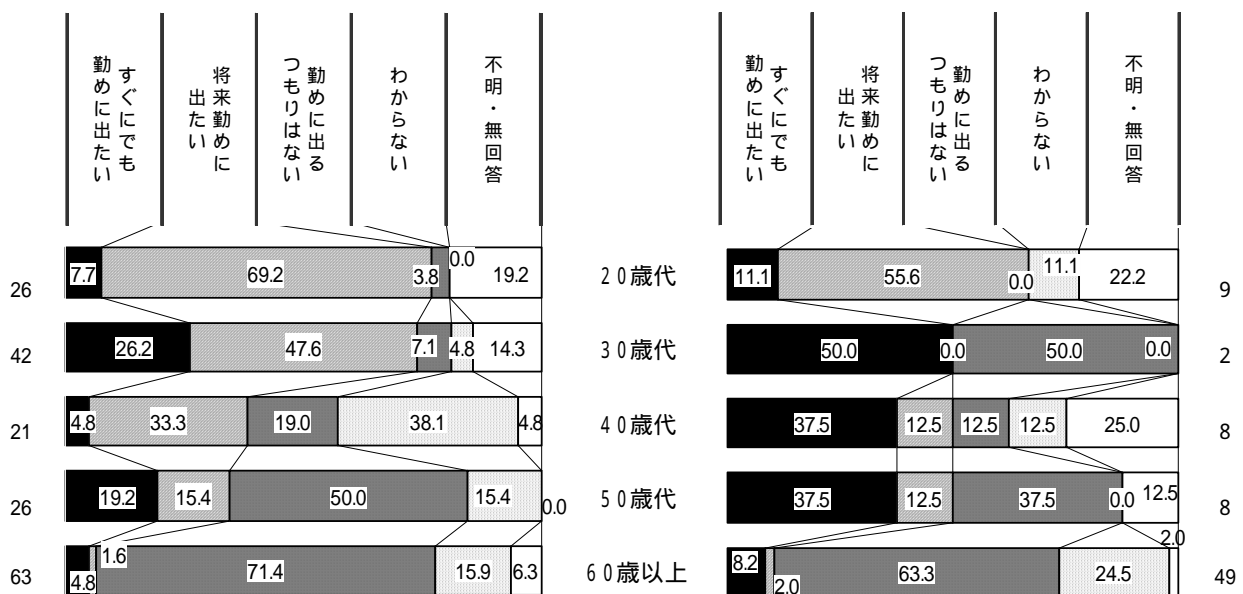
問20. あなたは、今後、勤めに出たいと思いますか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



男性の20、30、40、50歳代については、有効回収数が極端に少なくなっていることに留意する。

女性・男性とも「勤めに出るつもりはない」が最も多い

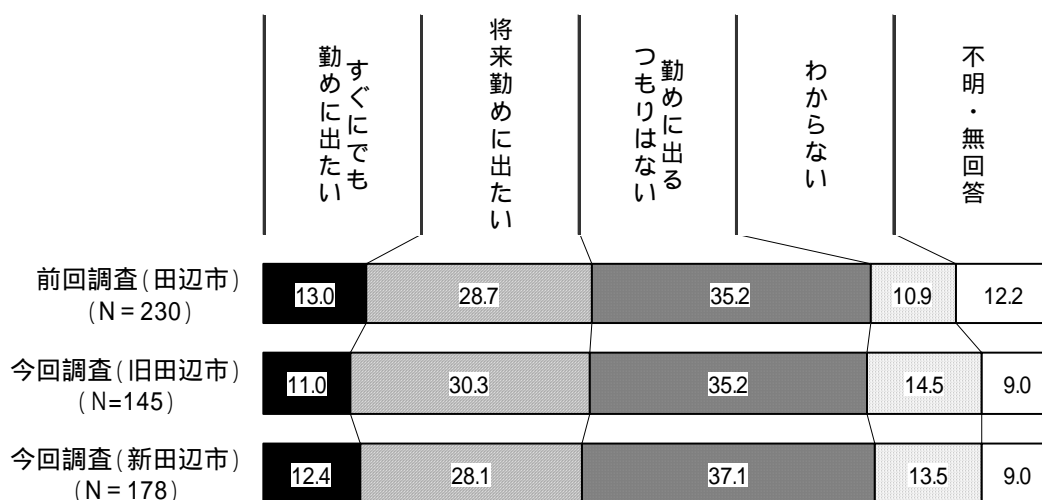
仕事をしていないと答えた方の今後の就労意向についてみると、「勤めに出るつもりはない」が女性・男性ともに最も多く、女性で37.1%、男性では47.4%となっている。女性では次いで「将来勤めに出たい」が28.1%、「わからない」が13.5%となっており、男性では次いで「わからない」が18.4%、「すぐにも勤めに出たい」が15.8%となっている。

年齢層別でみると、「すぐにも勤めに出たい」「将来勤めに出たい」を合わせた、就労意向のある割合は、女性の20歳代で76.9%、30歳代で73.8%となっている。

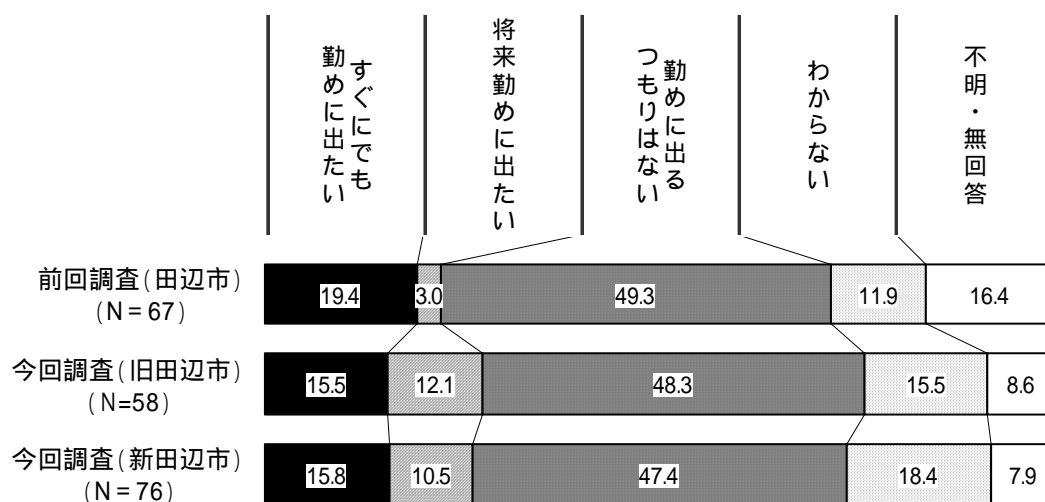
問 2 0 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

今後、勤めに出たいと思うかについて

<女 性>



<男 性>

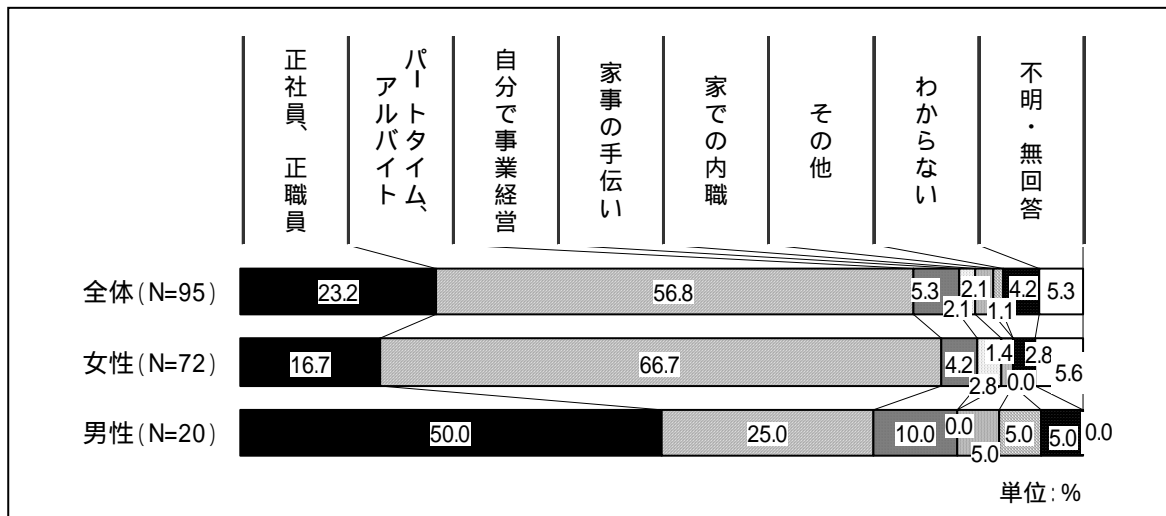


今後、勤めに出たいと思うかを前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、「すぐにも勤めに出たい」「将来勤めに出たい」を合わせた、就労意向のある割合は女性の前回調査では 41.7%、今回調査で 41.3%と、0.4 ポイント減少している。また、男性ではその割合が前回調査で 22.4%、今回調査で 27.6%と、5.2 ポイント増加している。

(2) 雇用形態

問20で「すぐにでも勤めに出たい」「将来勤めに出たい」と答えた方だけに質問します。

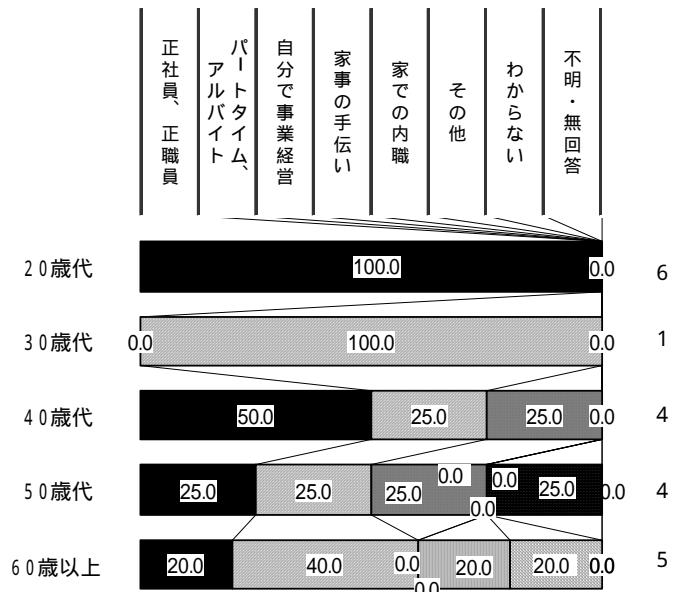
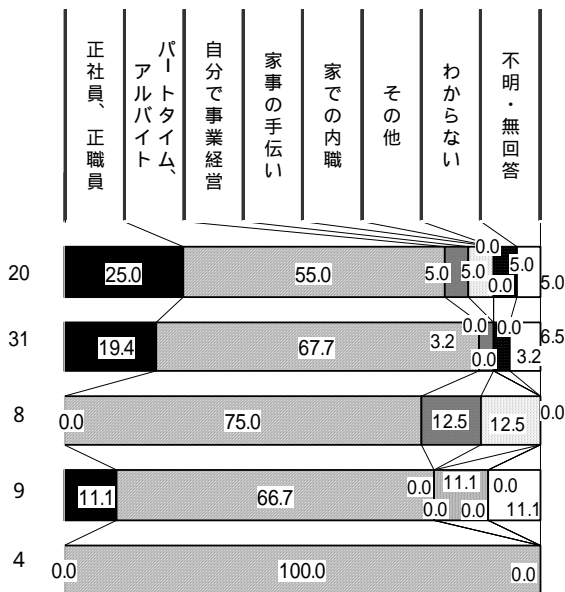
問20-1. 働くとなれば、どのような形で働きたいですか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



男性の有効回収数が少なくなっていることに留意する。

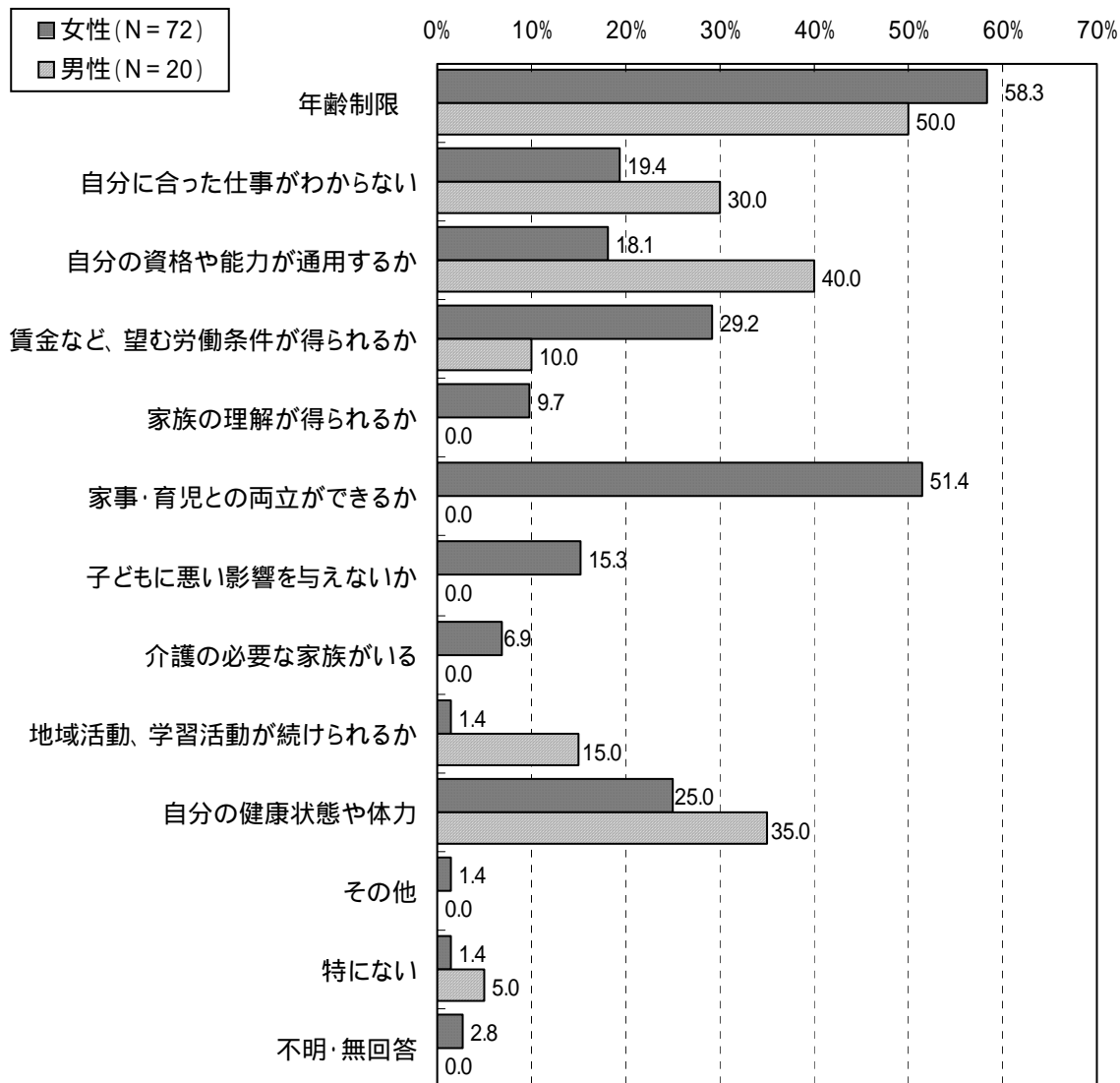
女性が求める雇用形態は「パートタイム・アルバイト」

求める雇用形態についてみると、女性では「パートタイム、アルバイト」が66.7%と最も多く、次いで「正社員、正職員」が16.7%となっている。男性では「正社員、正職員」が50.0%と最も多く、次いで「パートタイム、アルバイト」が25.0%となっている。

(3) 気がかりなこと

問20で「すぐにでも勤めに出たい」「将来勤めに出たい」と答えた方だけに質問します。

問21. あなたが働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。(あてはまるもの3つまでに)



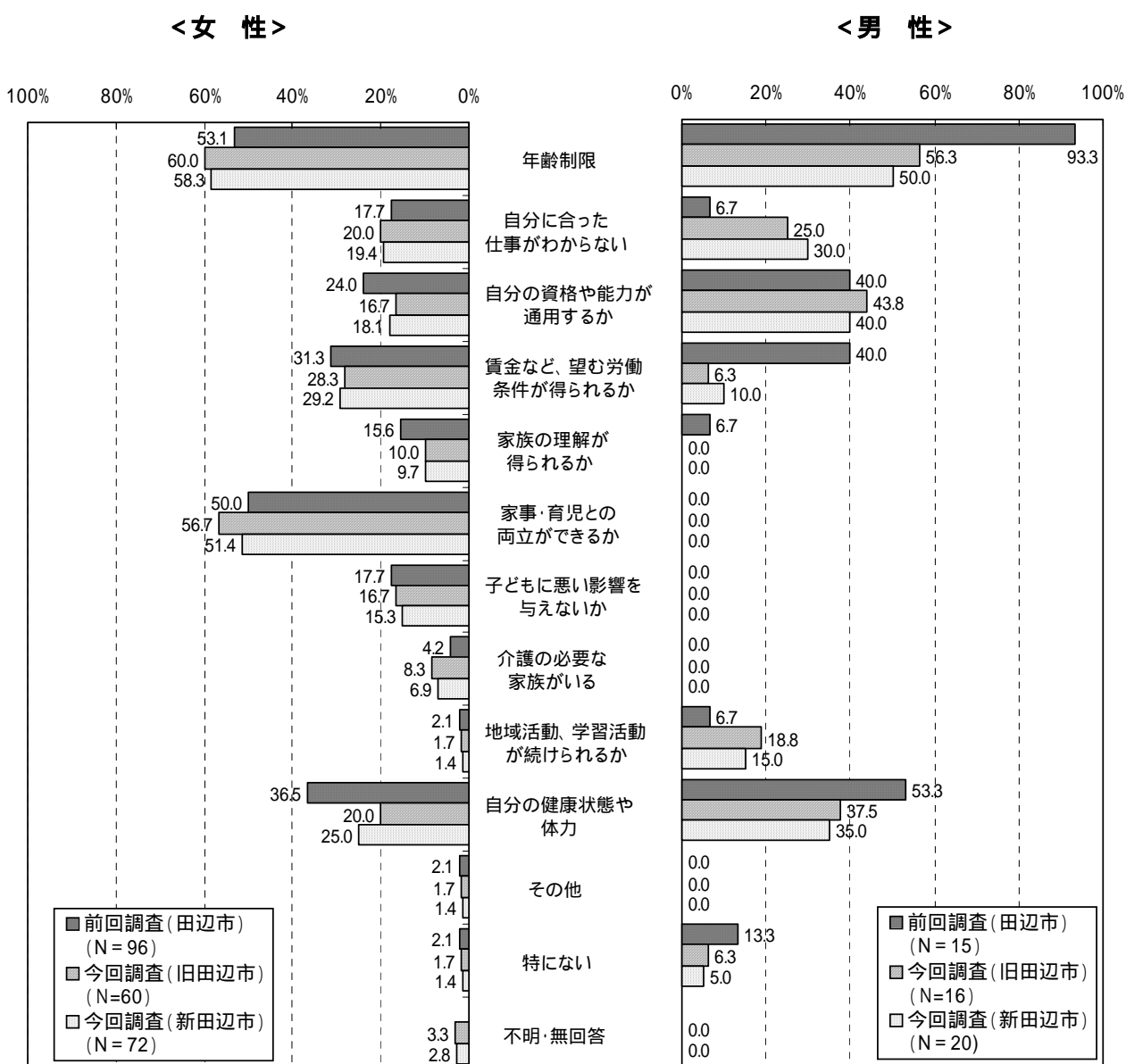
最も気がかりなのは女性・男性ともに「年齢制限」

働きたいと思ったときに気がかりなことについてみると、女性・男性ともに「年齢制限」が最も多く、女性で58.3%、男性で50.0%となっている。次いで、女性では「家事・育児との両立ができるか」が51.4%、「賃金など、望む労働条件が得られるか」が29.2%となっており、男性では「自分の資格や能力が通用するか」が40.0%、「自分の健康状態や体力」が35.0%と続いている。

また、「家族の理解が得られるか」「家事・育児との両立ができるか」「子どもに悪い影響を与えないか」「介護の必要な家族がいる」などの、家事、育児、介護などを原因としてあげる回答は男性ではいずれも0.0%となっている。

問 2 1 . 前回調査（平成 9 年度田辺市にて実施）との比較

働きたいと思ったとき、気がかりなことは何かについて



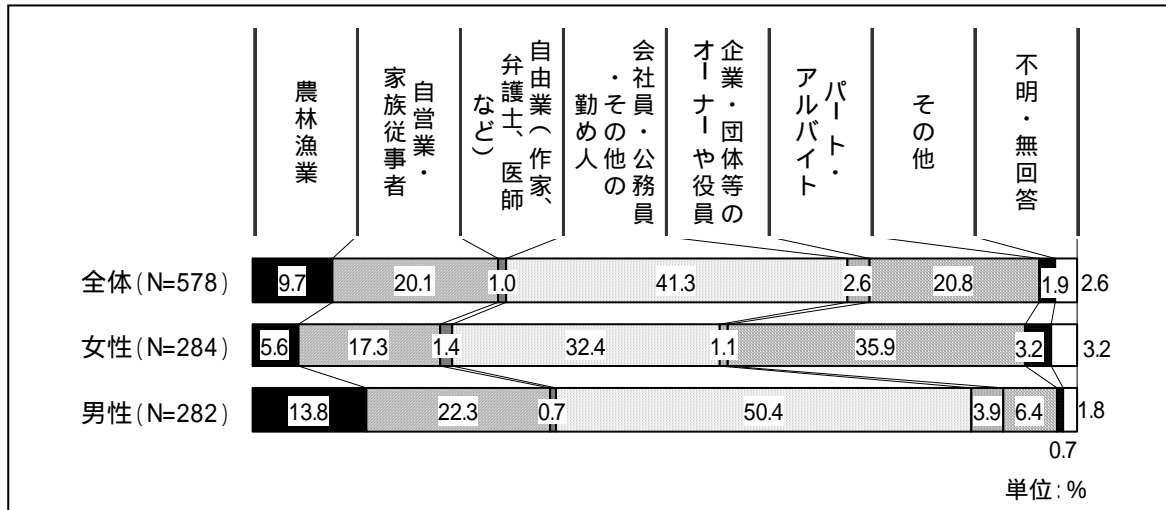
「不明・無回答」の選択肢は今回調査のみ。

働きたいと思ったとき、気がかりなことについて前回調査と今回調査（旧田辺市）で比較してみると、女性では「自分の健康状態や体力」が 16.5 ポイント減少し、「年齢制限」「家事・育児との両立ができるか」がともに約 7 ポイント増加している。男性では「年齢制限」「賃金など、望む労働条件が得られるか」がともに 30 ポイント以上、「自分の健康状態や体力」は 15.8 ポイント減少し、「自分に合った仕事かわからない」が 18.3 ポイント増加している。

(4) 職業・待遇

問19で「仕事をしている」と答えた方だけに質問します。

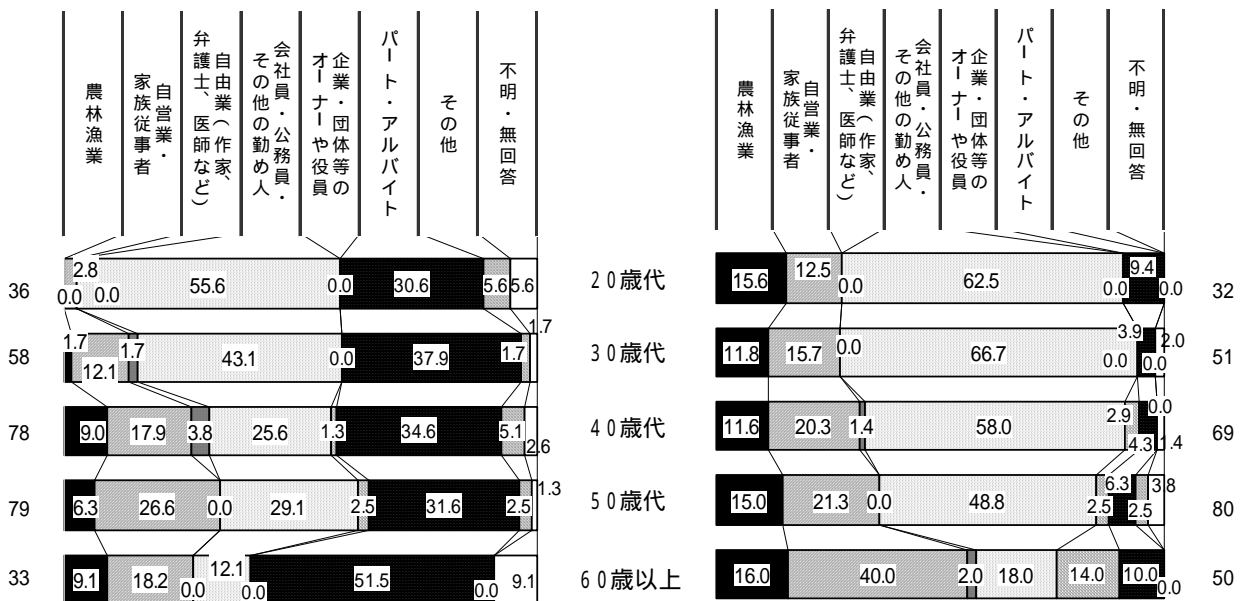
問22. あなたの職業は次のどれにあたりますか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



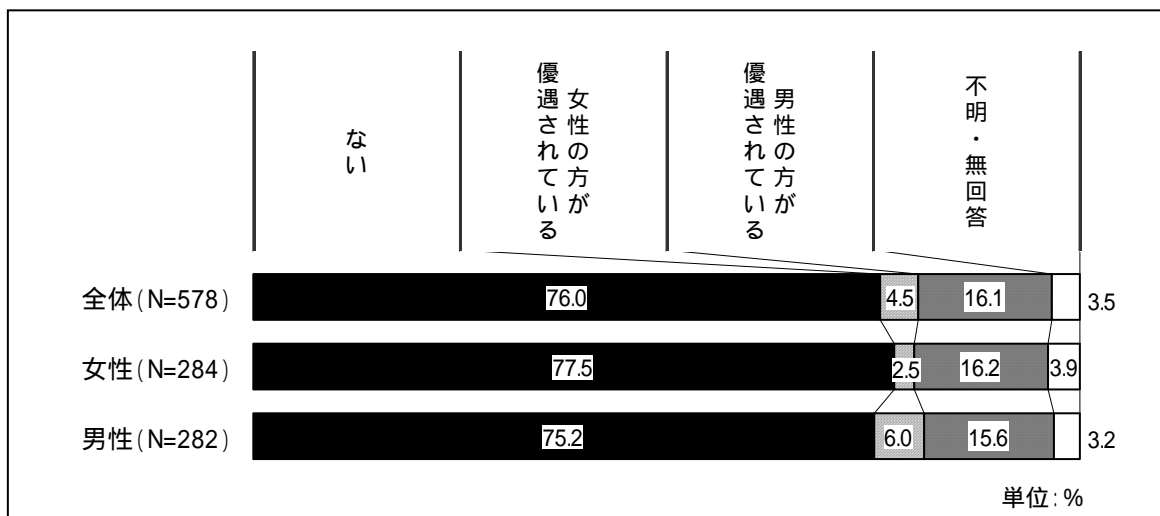
男性では半数が「会社員・公務員・その他の勤め人」

職業についてみると、女性では「パート・アルバイト」が35.9%と最も多く、次いで「会社員・公務員・その他の勤め人」が32.4%、「自営業・家族従事者」が17.3%となっている。男性では「会社員・公務員・その他の勤め人」が50.4%と最も多く、次いで「自営業・家族従事者」が22.3%、「農林漁業」が13.8%となっている。

年齢層別にみると、女性では20歳代・30歳代では「会社員・公務員・その他の勤め人」が最も多く、40歳代・50歳代・60歳以上では「パート・アルバイト」が最も多くなっている。一方、男性では60歳以上を除くすべての年齢層において「会社員・公務員・その他の勤め人」が最も多くなっている。

問19で「仕事をしている」と答えた方だけに質問します。

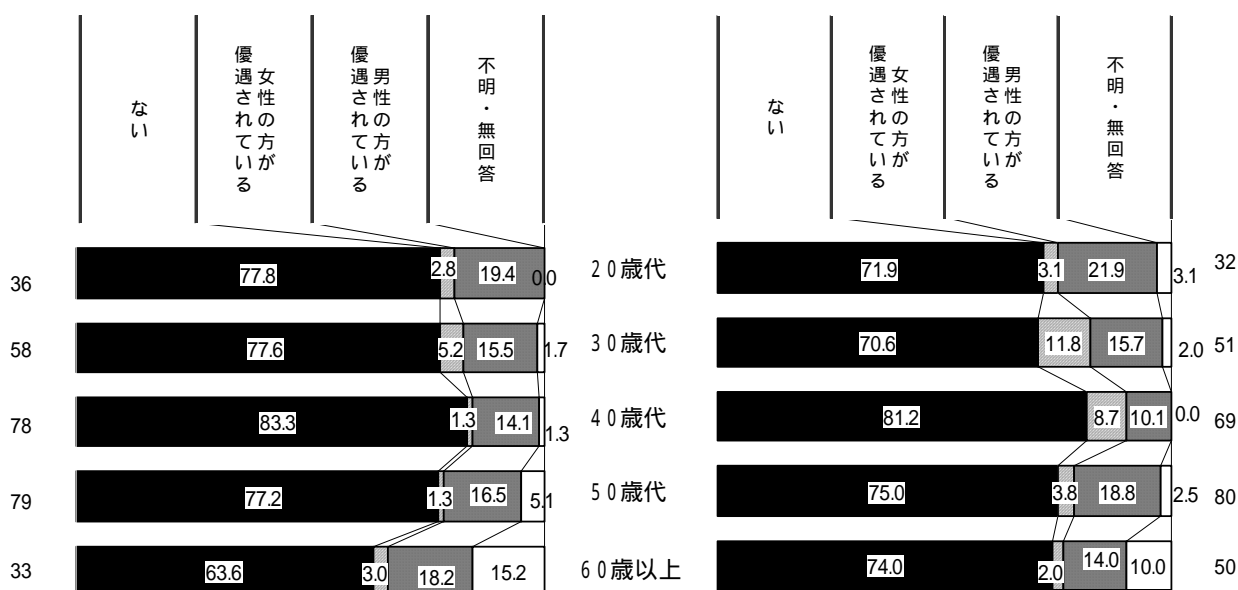
問23. あなたの職場で、性別による待遇の違いや問題はありますか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性

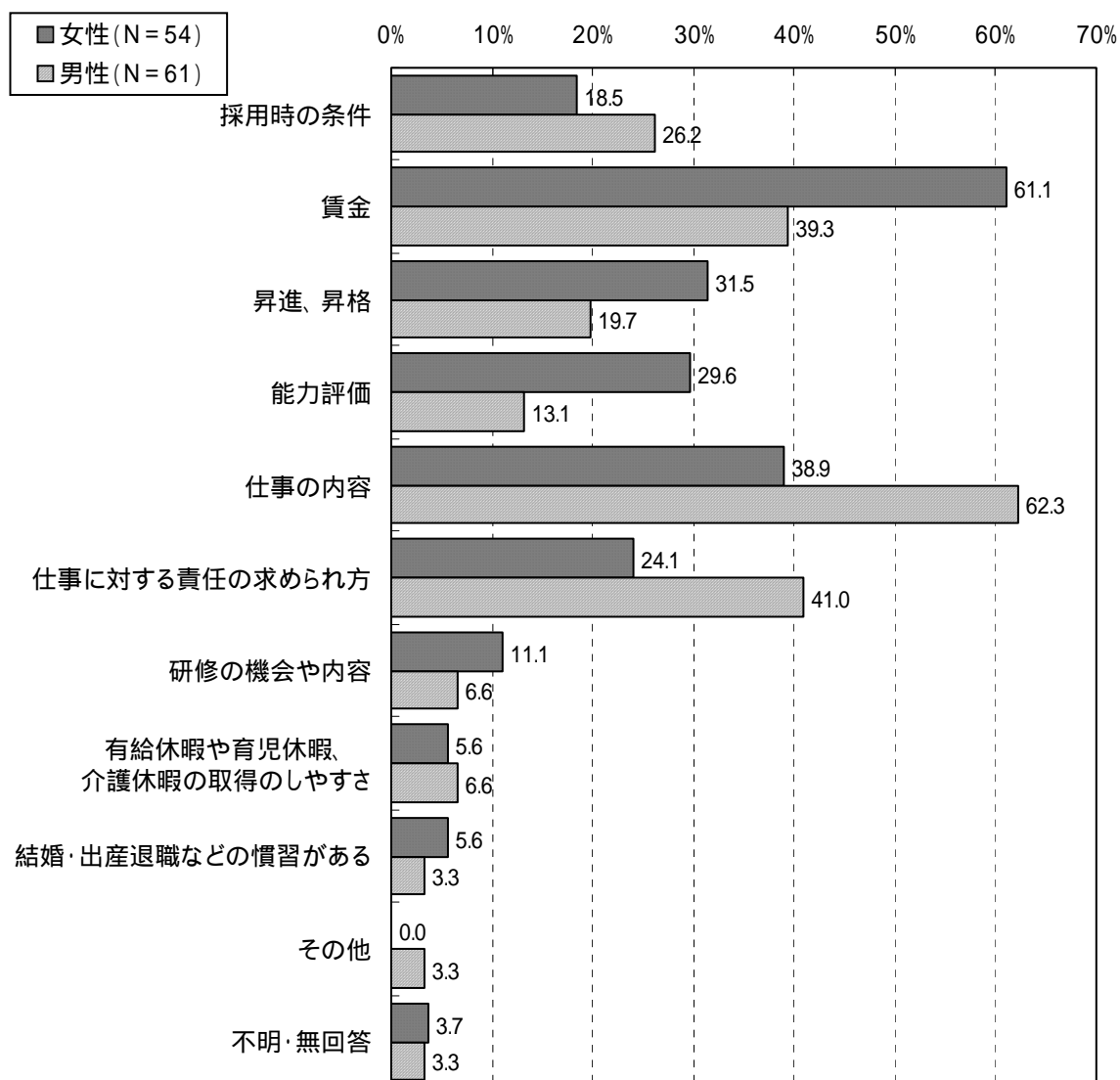


職場での性別による待遇の違いは女性・男性とも「ない」が最も多い

職場での性別による待遇の違いや問題についてみると、女性・男性ともに7割以上が、「ない」と答えている。

年齢層別にみると、女性・男性ともにいずれの年齢層においても「女性の方が優遇されている」より「男性の方が優遇されている」と回答した割合の方が多くなっている。

問23で「女性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」と答えた方だけに質問します。
 問23-1. 優遇されているのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに)

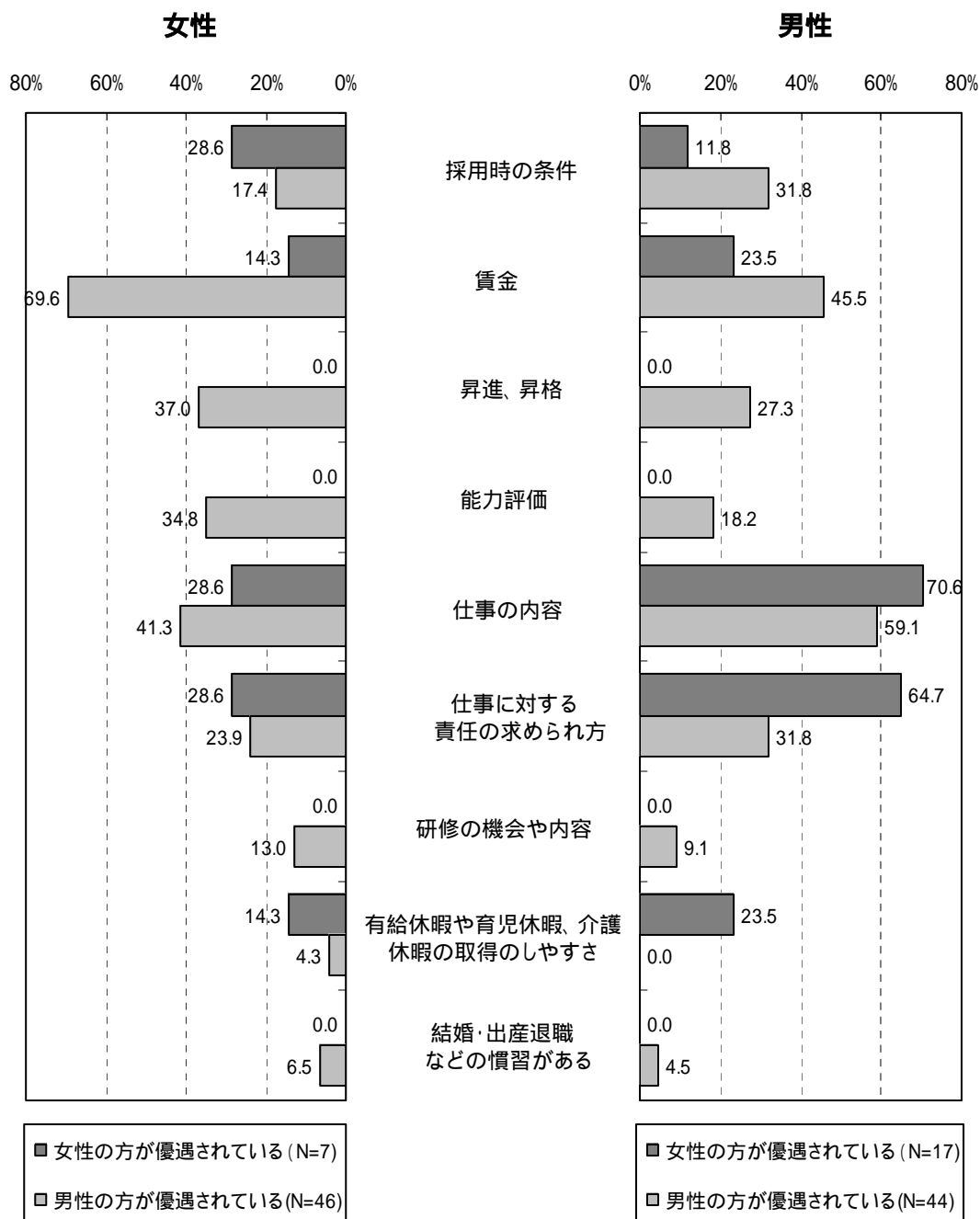


「賃金」「仕事の内容」など多くの項目に男女差

優遇されているのはどのようなことかについてみると、女性では「賃金」が61.1%と最も多く、次いで「仕事の内容」が38.9%、「昇進、昇格」が31.5%となっている。一方、男性では「仕事の内容」が62.3%と最も多く、次いで「仕事に対する責任の求められ方」が41.0%、「賃金」が39.3%となっている。

「採用時の条件」「賃金」「昇進、昇格」「能力評価」「仕事の内容」「仕事に対する責任の求められ方」など、多くの項目において男女の回答に差がみられた。

問23. 性別による優遇感×優遇されている内容の有無 クロス集計



女性は「賃金」で、男性は「仕事の内容」で男性が優遇されていると感じている

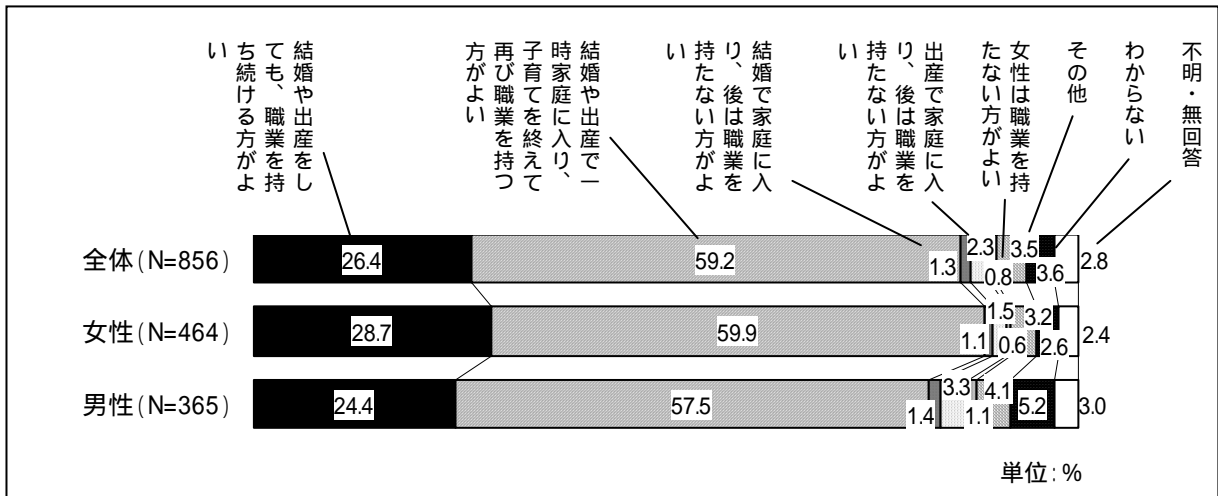
性別による優遇感と、そう思う内容について男女別にみると、女性が「女性の方が優遇されている」とした理由では「採用時の条件」「仕事の内容」「仕事に対する責任の求められ方」がそれぞれ 28.6%となっている。また、「男性の方が優遇されている」とした理由では「賃金」が 69.6%を占め、最も多くなっている。

一方、男性が「女性の方が優遇されている」とした理由では「仕事の内容」が 70.6%と最も多く、次いで「仕事に対する責任の求められ方」が 64.7%となっている。また、「男性の方が優遇されている」とした理由では「仕事の内容」が 59.1%と、最も多くなっている。

すべての方におたずねします。

問24. あなたは、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。

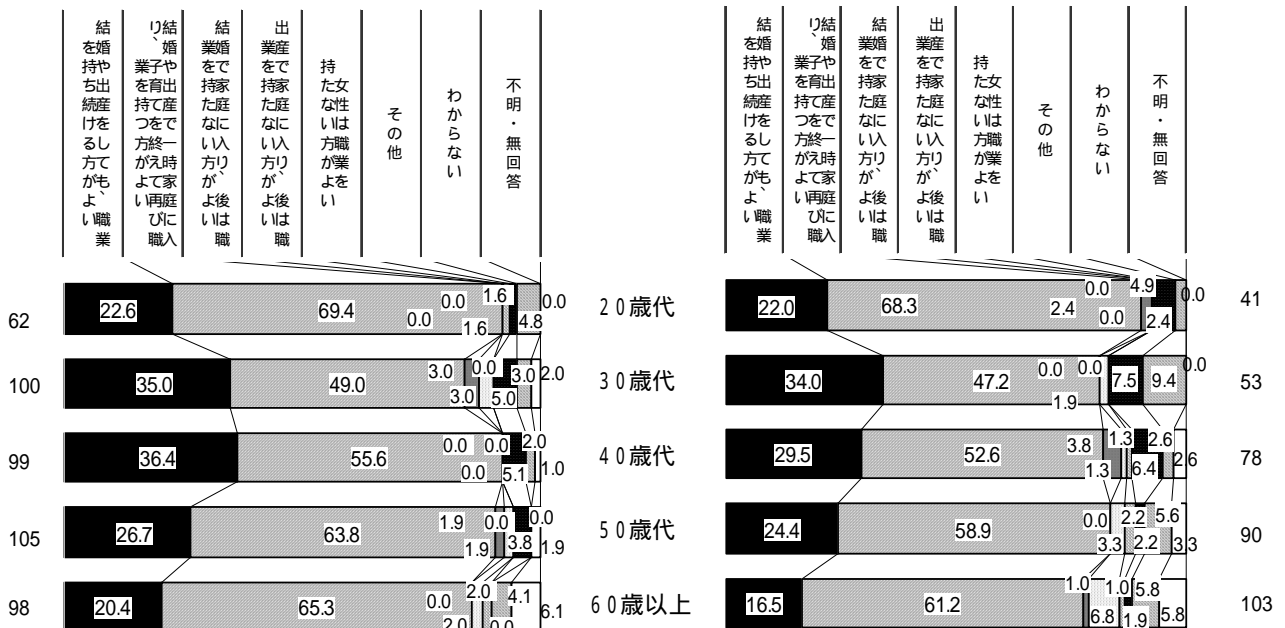
(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



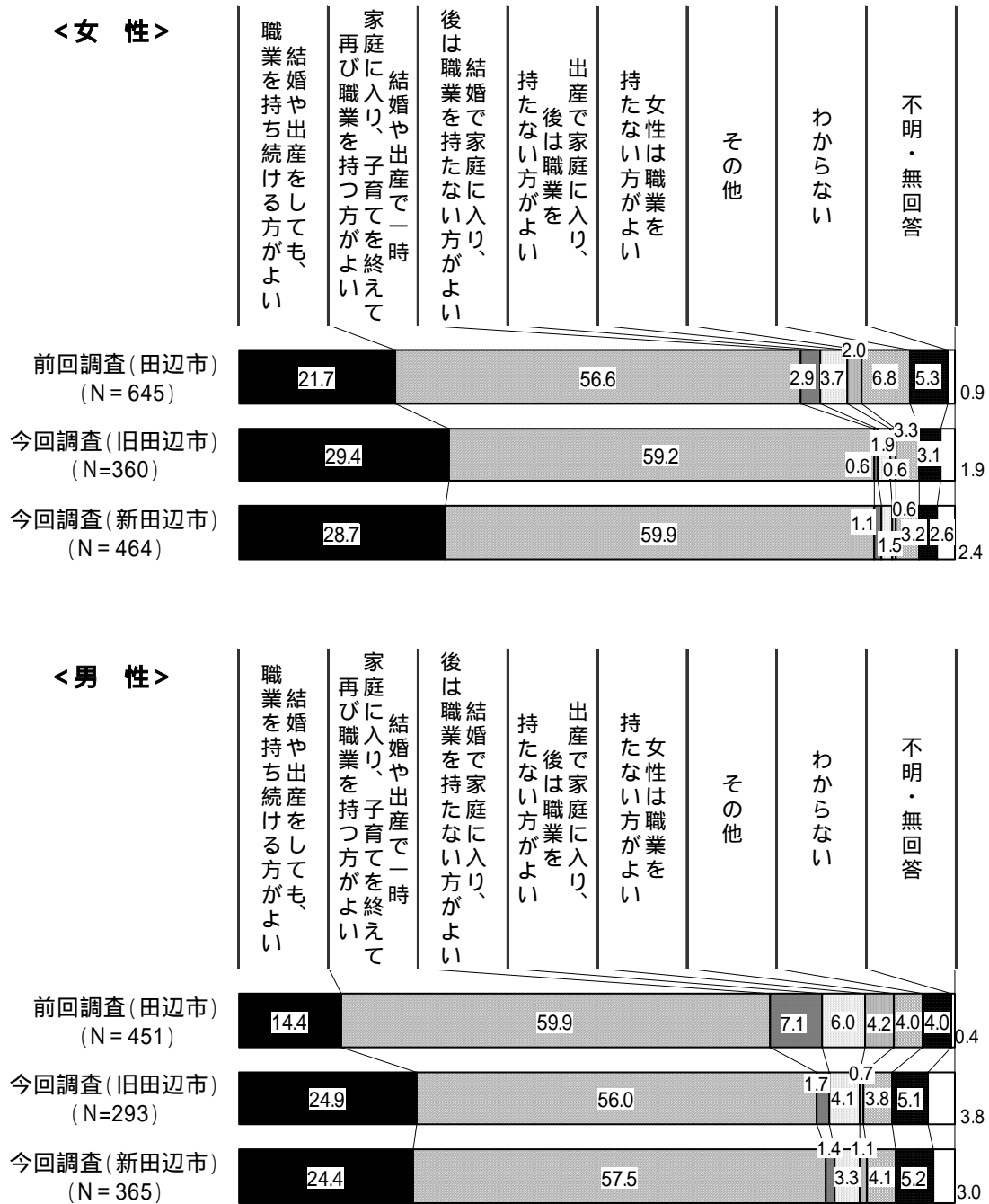
「結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい」が男女ともに多い

女性が職業を持つことで望ましいことについてみると、女性・男性ともに「結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい」の割合が約6割で最も多く、次いで「結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい」が女性で28.7%、男性で24.4%となっている。

年齢層別でみると、女性・男性ともにどの年齢層においても「結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい」の割合が最も多くなっている。「結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい」の割合が最も多いのは、女性では40歳代で36.4%、男性では30歳代で34.0%となっている。

問 2 4 . 前回調査 (平成 9 年度田辺市にて実施) との比較

女性が職業を持つことについて

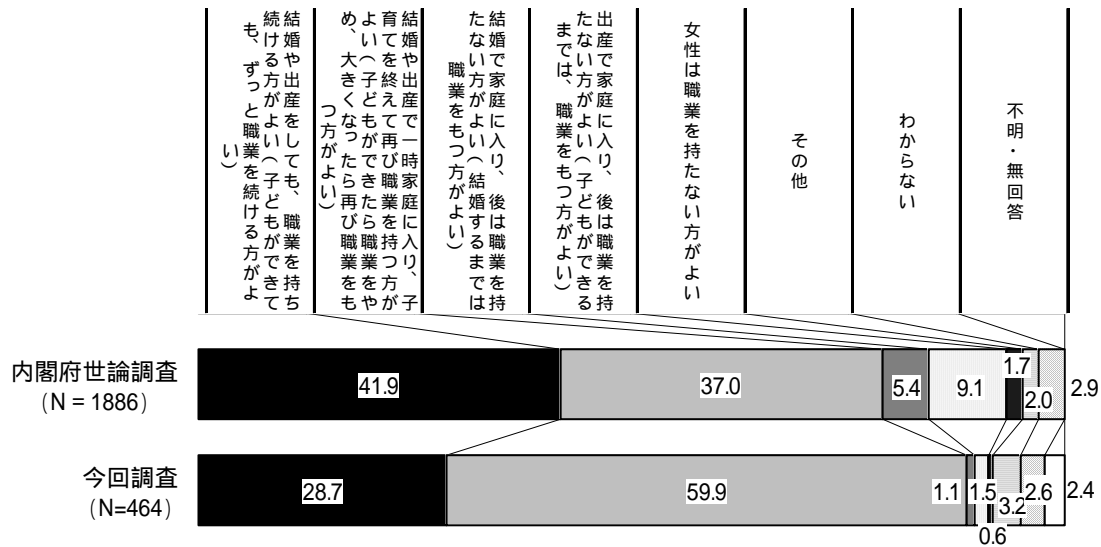


女性が職業を持つことについて前回調査と今回調査(旧田辺市)で比較してみると、「結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい」の割合が、女性で7.7ポイント、男性で10.5ポイントと、女性・男性ともに増加している。

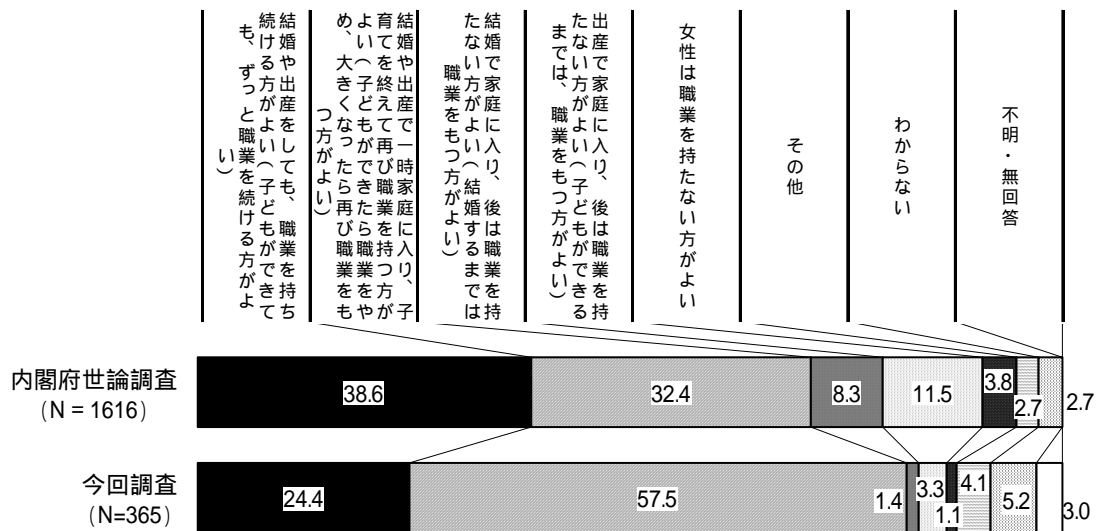
問 2 4 . 内閣府世論調査（平成 16 年度実施）との比較【参考】

女性が職業を持つことについて

<女 性>



<男 性>

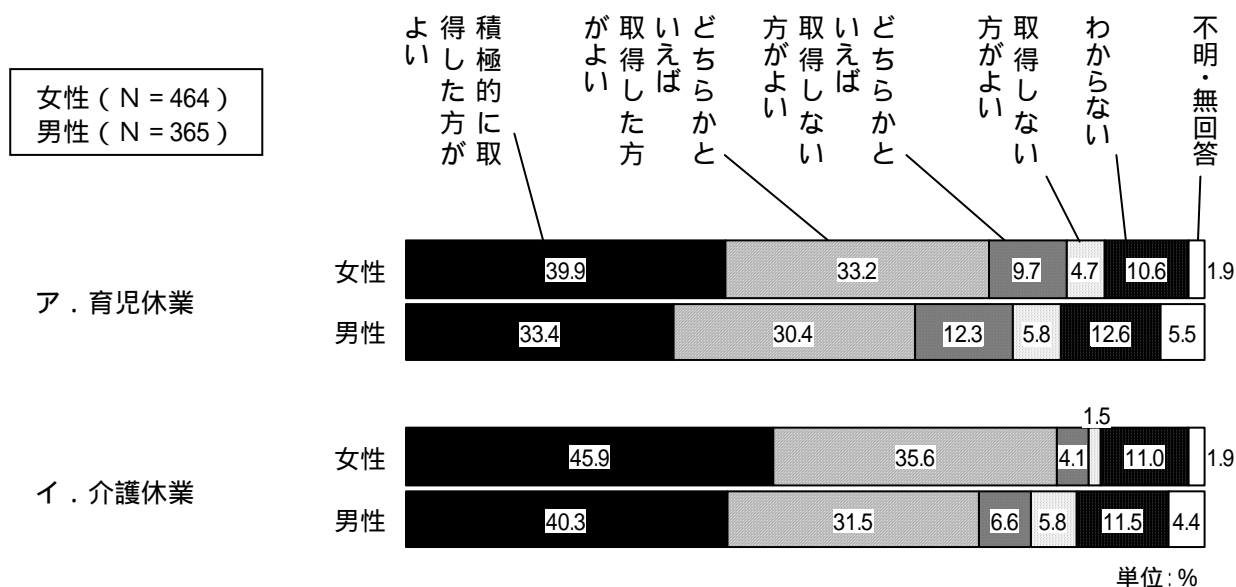


選択肢の () は内閣府世論調査の表現。「不明・無回答」の選択肢は今回調査のみ。

女性が職業を持つことについて内閣府世論調査と今回調査で比較してみると、女性では「結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい(子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい)」の割合が男女ともに内閣府世論調査よりも少なく、「結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい(子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい)」の割合が多くなっている。

(5) 育児・介護

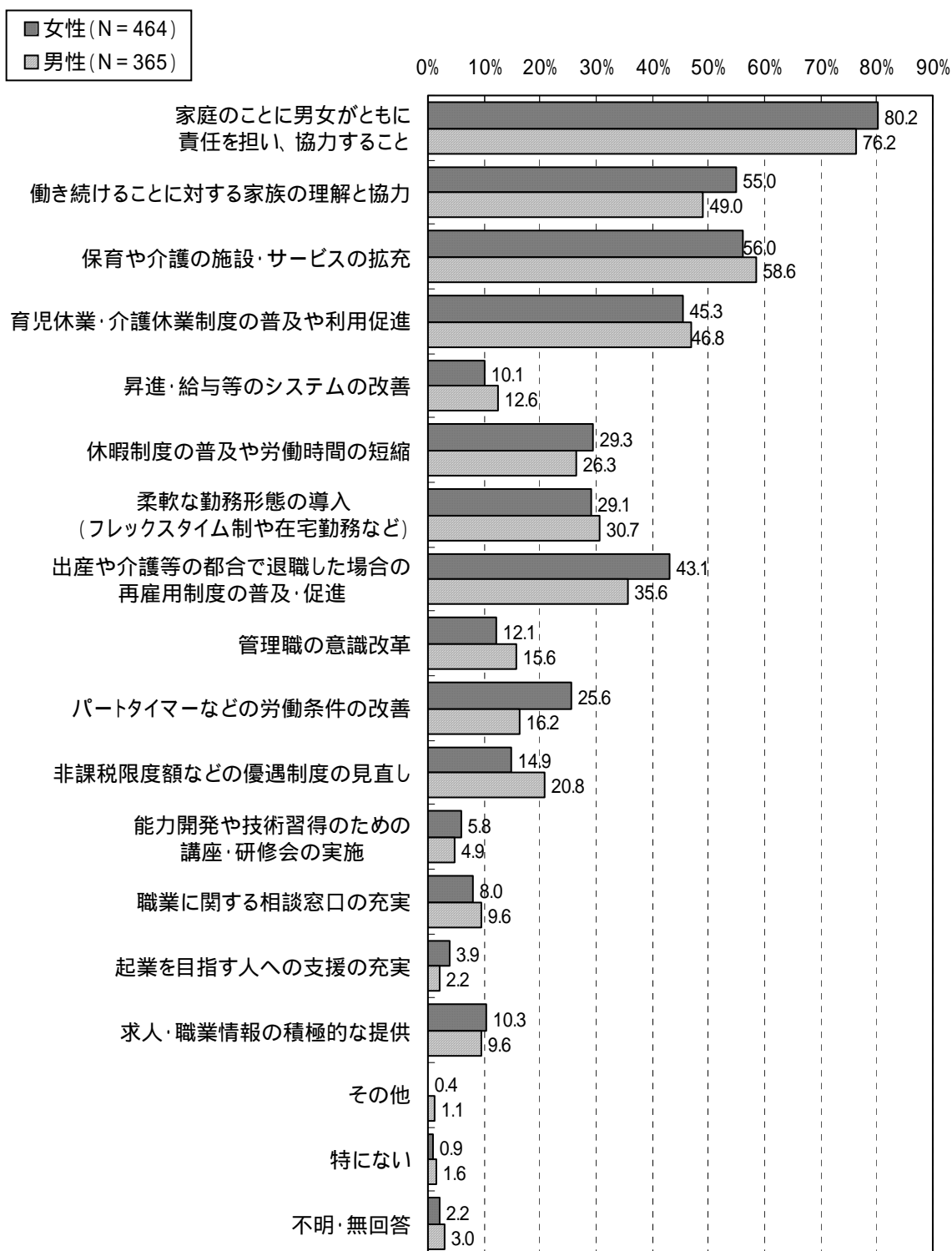
問25. 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。(育児休業、介護休業それぞれについてあてはまるもの1つに)



男性の『育児休業』や『介護休業』について肯定的

男性が育児休業や介護休業を取得することについてみると、女性・男性ともに「積極的に取得した方がよい」の割合が最も多く、『育児休業』では、女性が39.9%、男性が33.4%となっており、『介護休業』では、女性が45.9%、男性が40.3%となっている。女性・男性ともに男性が育児休業や介護休業を取得することを肯定的にとらえる傾向がうかがえる。

問 2 6 . 結婚や出産、子育てに際して、あるいは、介護をしなければならなくなったときに、女性も男性も働き続けられるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの5つまでに)



「家庭のことに男女がともに責任を担い、協力すること」が必要

女性も男性も働き続けられるために必要なことについてみると、女性・男性ともに「家庭のことに男女がともに責任を担い、協力すること」が約8割と最も多くなっており、次いで「保育や介護の施設・サービスの拡充」がともに約6割となっている。

8 . 男女の人権について

(1) 不愉快な経験

問 2 7 . これまでに、職場・学校・地域で、あなたは次のような不愉快な経験をしたことがありますか。(職場・学校・地域それぞれについてあてはまるものすべてに)

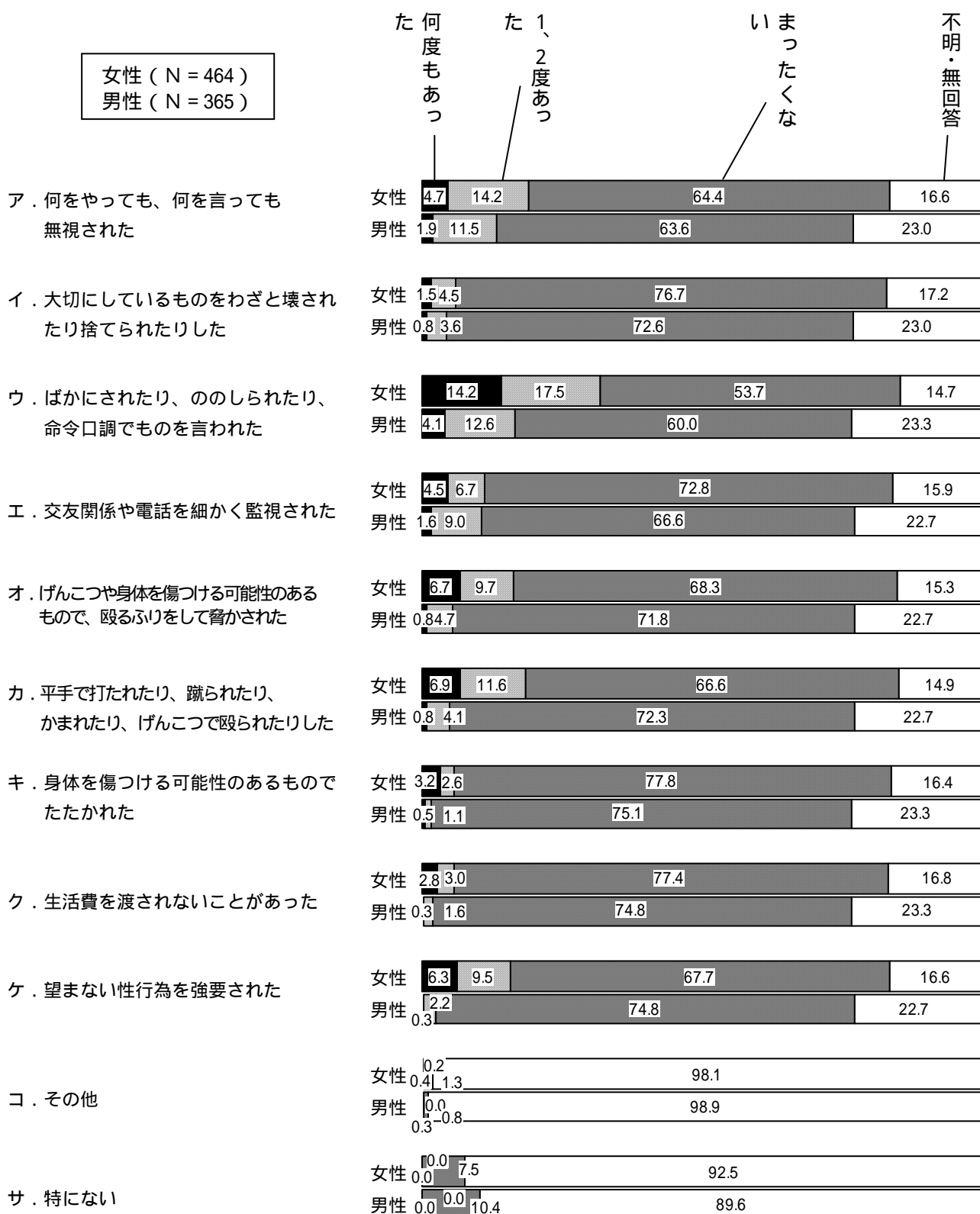
	いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	女男のくせに女男だからと差別的な言い方をされた	体を触られた	宴会でお酒やデュエットを強要された	交際を強要された	性的な行為を強要された	性的な噂をたてられた	結婚の予定や出産の予定を非難めいた口調で聞かれた	容姿について繰り返し言われた	帰宅途中、後をつけられた	性的な内容の手紙や電話を受けた	ヌード写真や卑猥な雑誌を目撃したり張りつけられたりした	その他	特にない	不明・無回答
単位：%															
全体 (n=856)															
ア. 職場	5.5	6.9	7.8	7.9	1.8	1.4	0.6	2.0	3.0	2.0	0.9	0.9	1.3	66.1	12.7
イ. 学校	1.4	4.9	0.9	0.4	0.2	0.1	0.4	0.1	2.3	1.2	0.4	0.2	0.4	68.9	21.6
ウ. 地域	2.8	4.1	1.9	2.2	0.8	0.5	1.1	1.5	0.6	1.9	2.5	0.4	0.5	72.7	15.2
女性 (n=464)															
ア. 職場	7.8	8.0	13.8	12.1	2.6	1.5	0.6	2.6	4.1	3.4	1.1	1.1	1.1	60.3	10.3
イ. 学校	1.1	4.7	1.5	0.4	0.4	0.0	0.6	0.2	2.6	1.9	0.6	0.0	0.0	69.0	20.9
ウ. 地域	3.7	4.5	2.6	2.4	1.5	0.9	1.7	1.3	0.4	2.8	3.9	0.2	0.2	72.0	14.4
男性 (n=365)															
ア. 職場	2.7	5.5	0.5	2.7	0.5	0.8	0.3	1.1	1.6	0.0	0.5	0.8	1.6	74.2	14.5
イ. 学校	1.9	4.9	0.3	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	2.2	0.3	0.0	0.5	0.8	69.9	21.4
ウ. 地域	1.9	3.3	1.1	2.2	0.0	0.0	0.3	1.9	0.8	0.3	0.5	0.5	0.5	74.8	15.1

不愉快な経験は「特にない」が女性・男性ともに6割以上

職場・学校・地域で不愉快な経験をしたかについてみると、女性・男性ともいずれの場所においても「特にない」が6割以上を占め、最も多くなっている。その他では女性で、『職場』において「体を触られた」「宴会でお酒やデュエットを強要された」が1割を超えている。

(2) 男女間の暴力

問28. 夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力が問題になっています。あなたは、今までにパートナーから次のようなことを受けたことがありますか。(ア～サそれぞれについてあてはまるもの1つに)



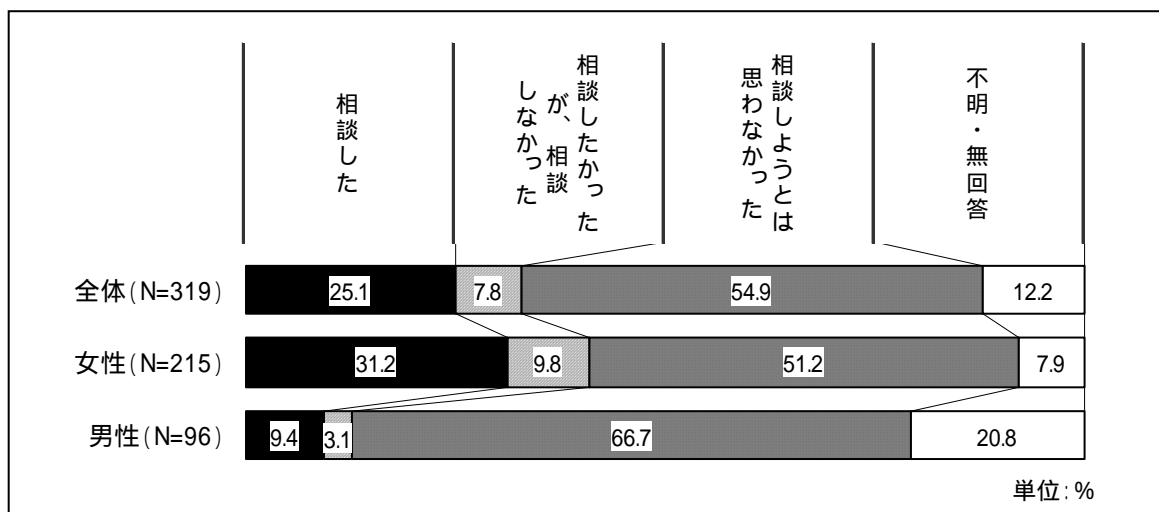
単位: %

女性の約3割で「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」経験がある

パートナーから暴力を受けたことがあるかについてみると、すべての項目で女性・男性ともに「まったくない」との回答が最も多くなっている。「何度もあった」「1、2度あった」を合わせた、何らかの暴力を受けた経験が最も多かったものは、女性・男性ともに『ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた』で、女性が31.7%、男性が16.7%を占めている。

問28でア～コのいずれかについて「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方だけに質問します。

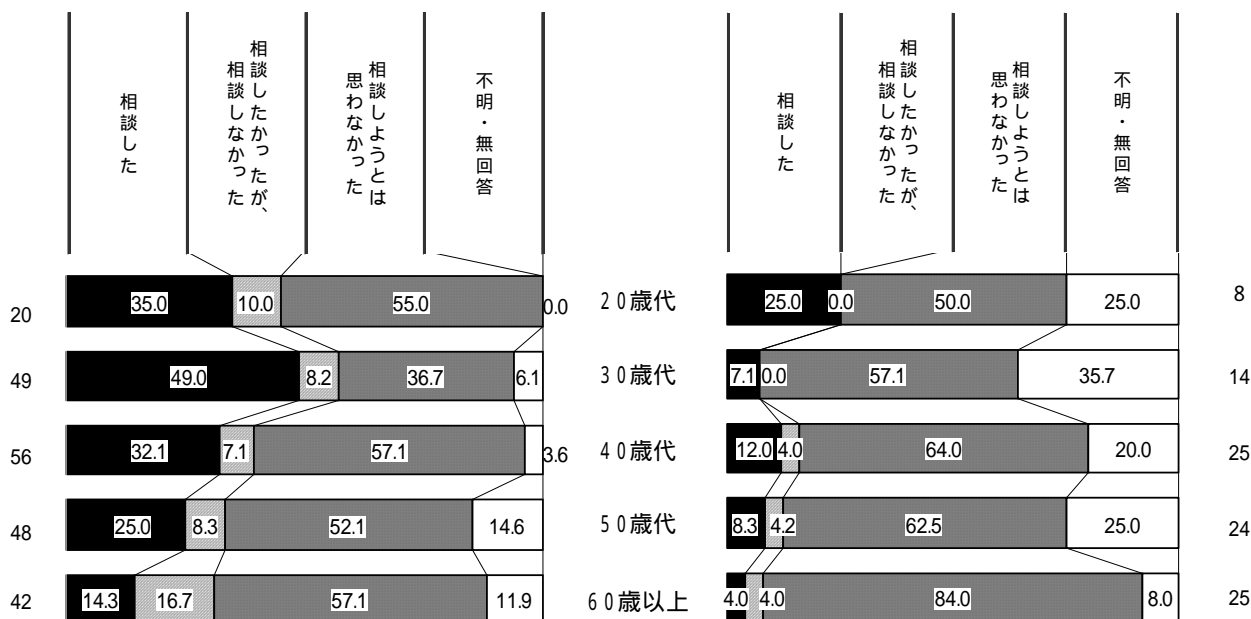
問28-1. これまでに、問28であげたような行為について、あなたはだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。(あてはまるもの1つに)



女性

年齢層別

男性



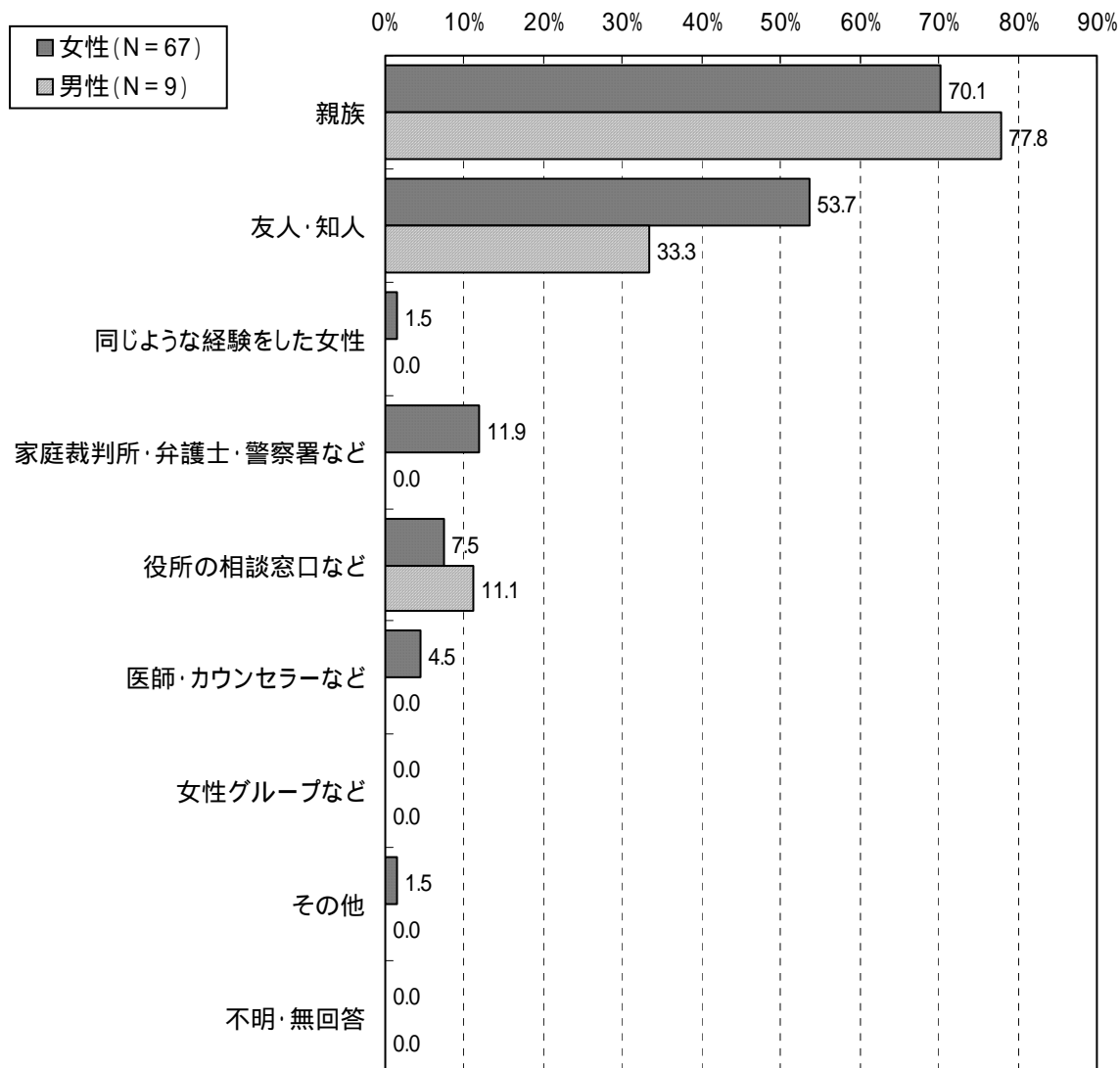
「相談した」割合は女性が男性の約3倍

パートナーからの暴力についてだれかに打ち明けたり相談したかについてみると、女性では「相談した」が31.2%であるのに対し、男性では9.4%にとどまっている。

年齢層別でみると、女性では30歳代で「相談した」と回答した方が49.0%となっており、すべての年齢層の中で最も多くなっている。また、年齢層が上がるにつれて、「相談したが、相談しなかった」の割合が多くなっている。男性では「相談しようとは思わなかった」がすべての年齢層において最も多く、年齢層が上がるにつれてその割合が多くなる傾向にある。また、「相談した」については、20歳代で最も多く、25.0%となっている。

問28-1で「相談した」と答えた方だけに質問します。

問28-2. あなたは実際に、だれに（どこに）相談しましたか。（あてはまるものすべてに）



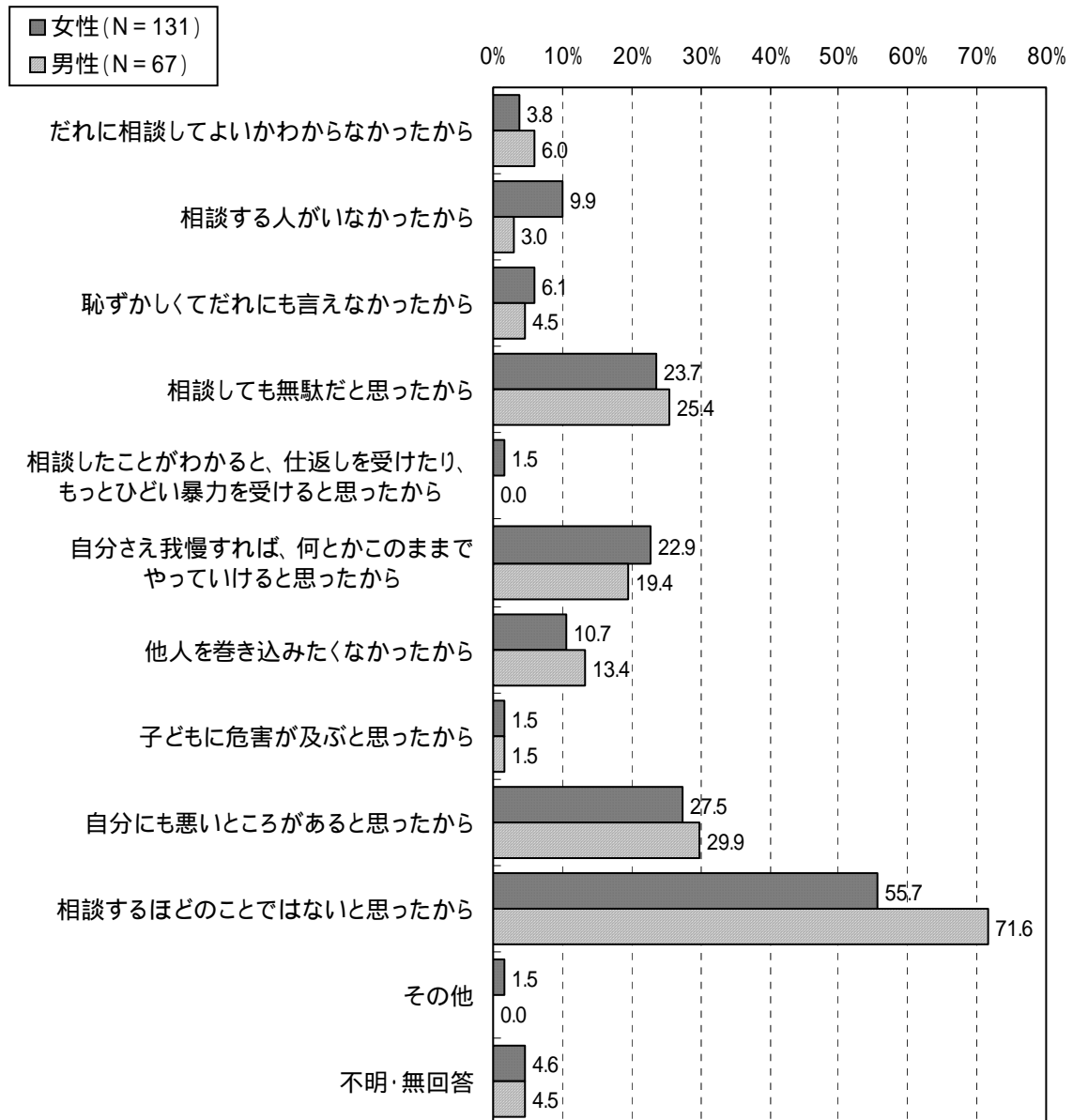
女性・男性ともに「親族」に相談

だれに（どこに）相談したかについてみると、女性・男性ともに「親族」が7割以上で最も多く、次いで、「友人・知人」が女性で53.7%、男性で33.3%となっている。

女性については、他には「家庭裁判所・弁護士・警察署など」が11.9%、「役所の相談窓口など」が7.5%となっている。

問28-1で「相談したかったが、相談しなかった」または「相談しようとは思わなかった」と答えた方だけに質問します。

問28-3. あなたが、だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに)

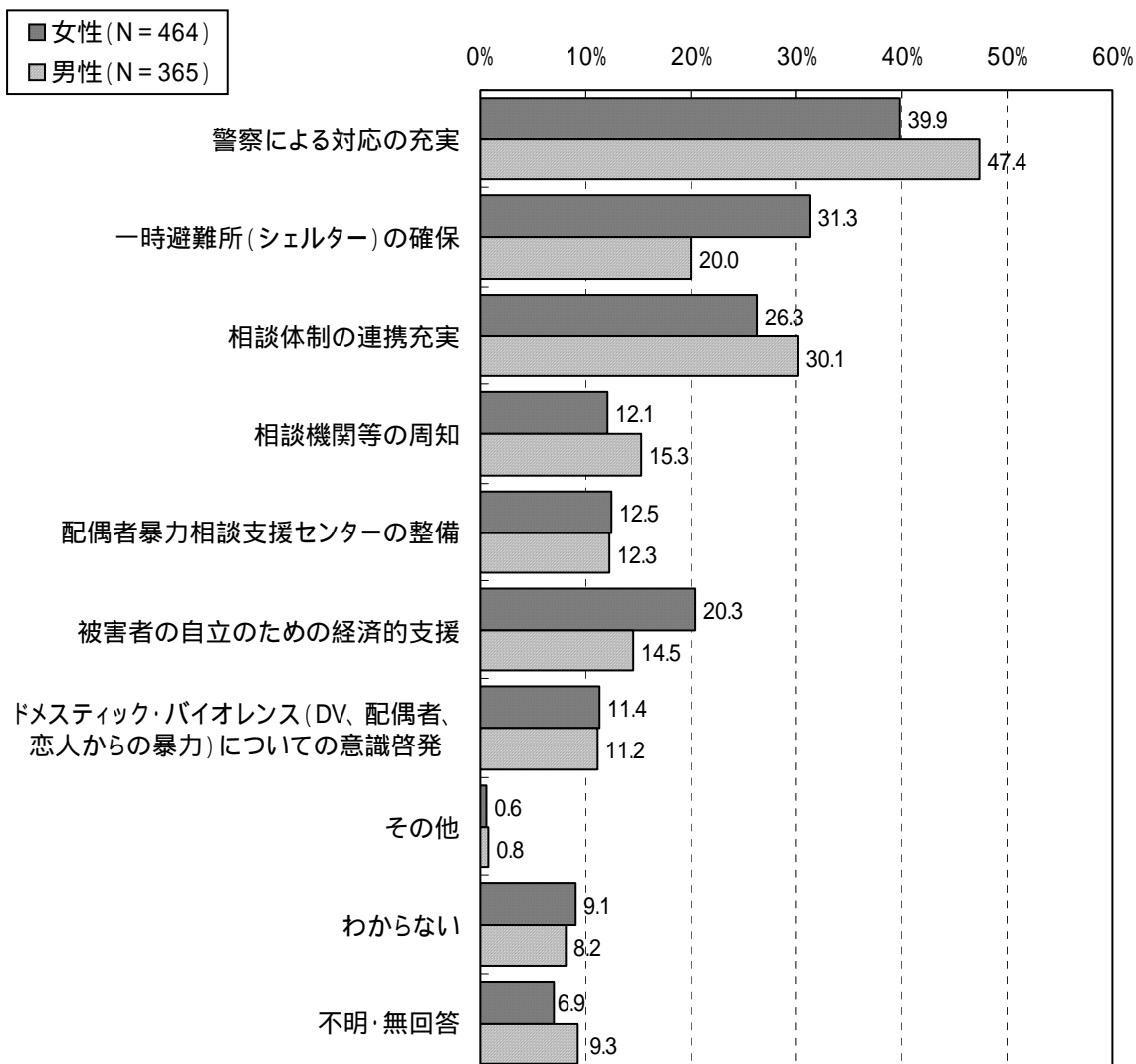


「相談するほどのことではないと思ったから」が男性で7割

相談しなかった理由についてみると、女性・男性ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、女性では55.7%、男性では71.6%となっており、高い割合を占めている。次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」が女性で27.5%、男性で29.9%、「相談しても無駄だと思ったから」が女性で23.7%、男性で25.4%となっている。

すべての方におたずねします。

問29. 男女間のあらゆる暴力について、あなたは、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか。(あてはまるもの2つまでに)



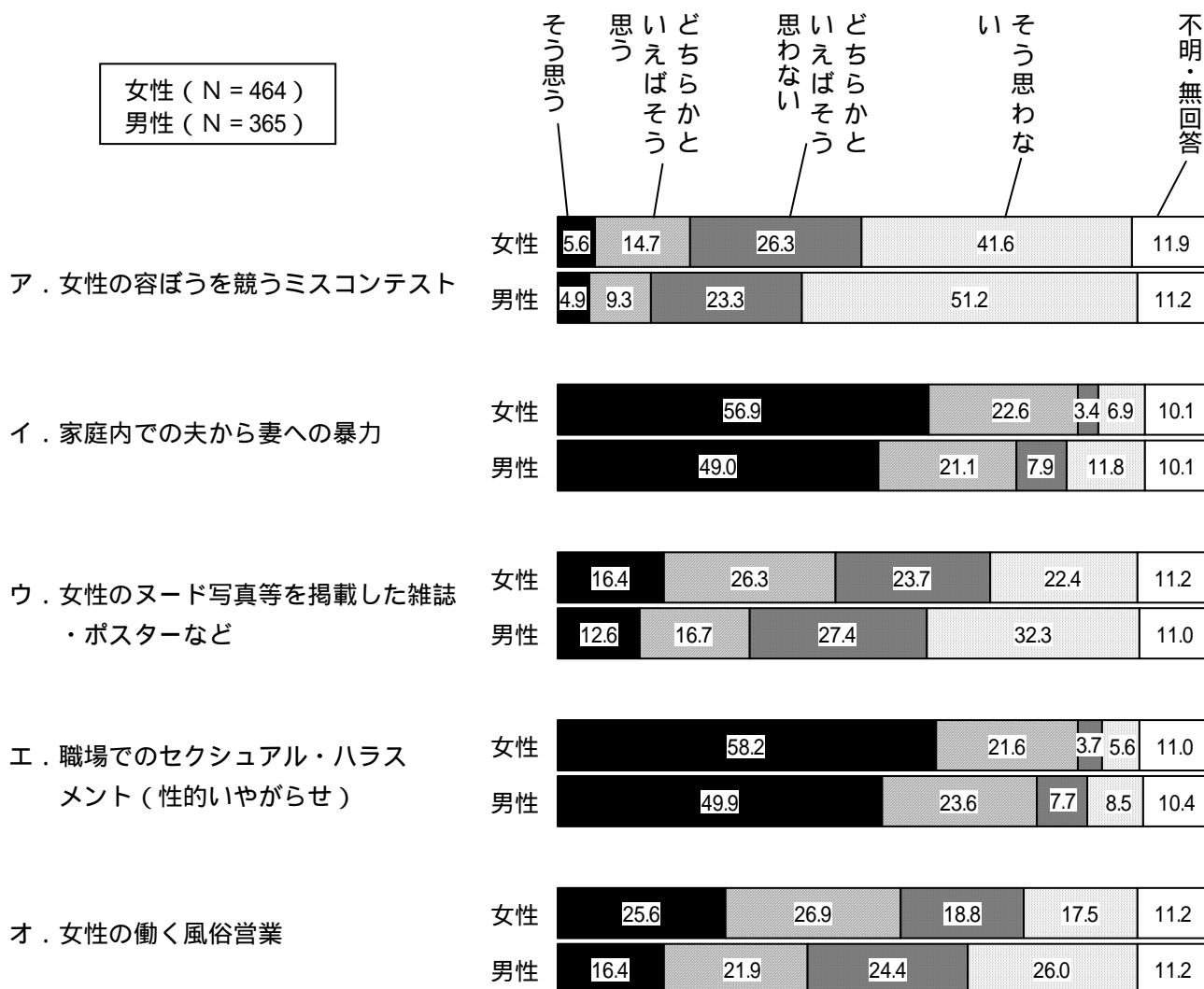
女性・男性ともに「警察による対応の充実」を望む

男女間の暴力について、行政にどのような対応を望むかについてみると、女性・男性ともに「警察による対応の充実」が最も多く、女性で39.9%、男性で47.4%となっている。女性では次いで、「一時避難所(シェルター)の確保」が31.3%、「相談体制の連携充実」が26.3%、男性では次いで、「相談体制の連携充実」が30.1%、「一時避難所(シェルター)の確保」が20.0%となっている。

9. その他について

(1) 女性の人権

問30 .あなたは、次の各項目について、「女性の人権が尊重されていない」と思いますか。
 (ア～オそれぞれについてあてはまるもの1つに)



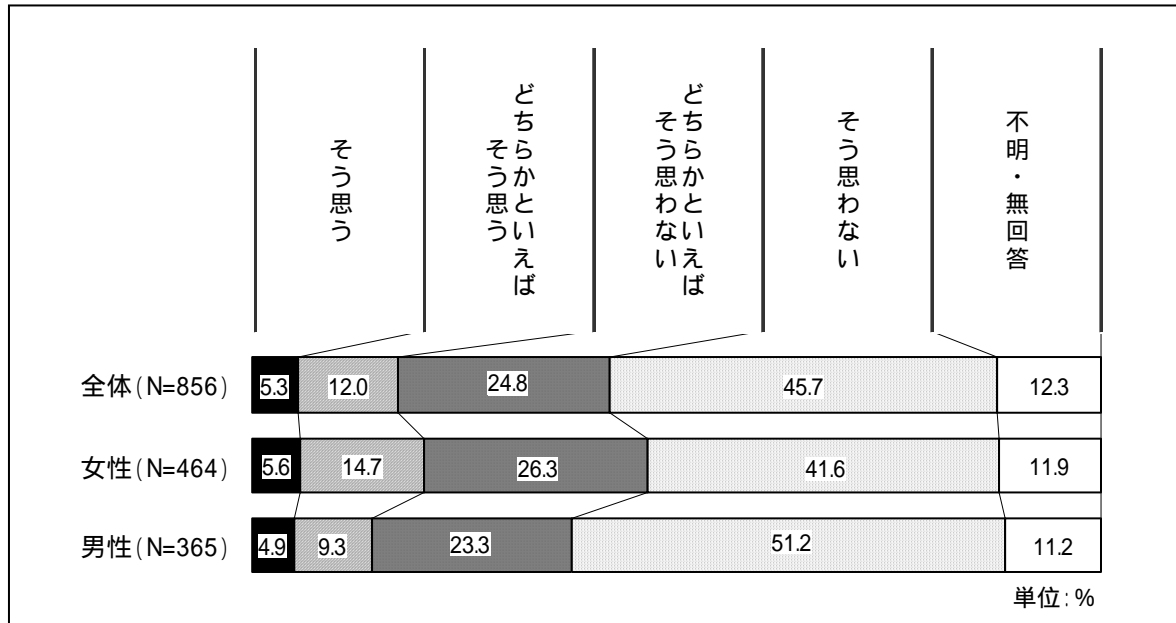
単位: %

女性の人権尊重がされていないのは『職場でのセクシュアル・ハラスメント』

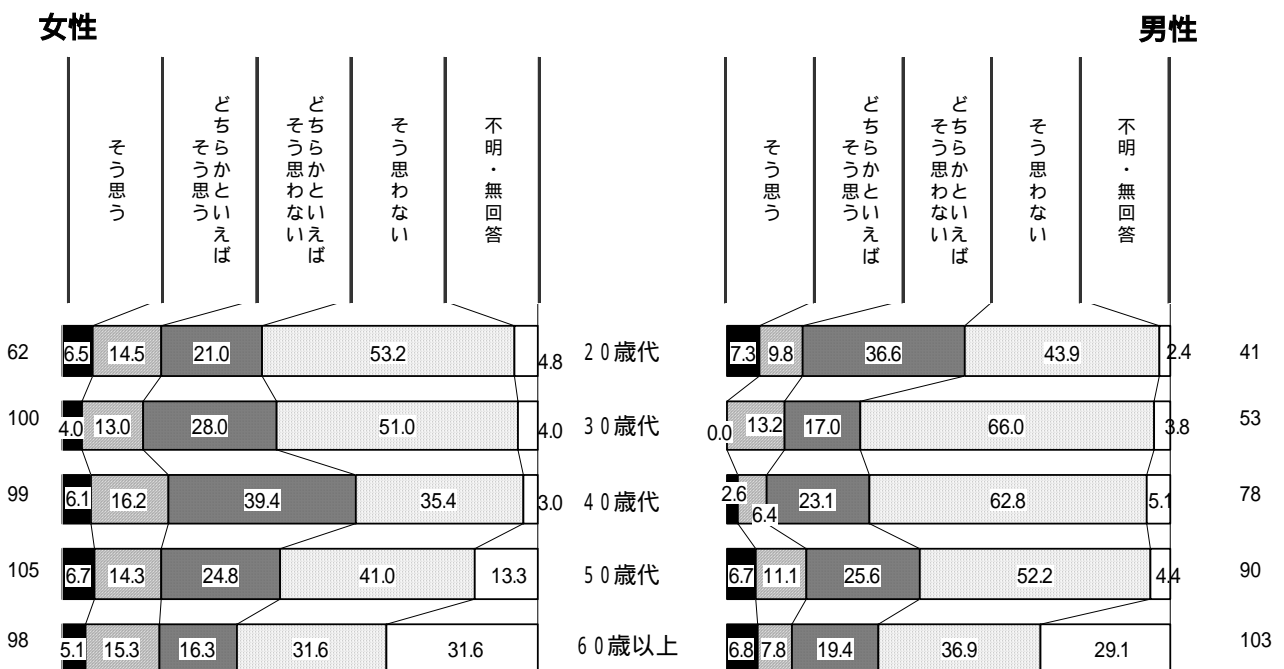
女性の人権が尊重されていないことについてみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も多いのは、女性・男性ともに『職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』で、女性が79.8%、男性が73.5%となっており、次いで『家庭内での夫から妻への暴力』で、女性が79.5%、男性が70.1%となっている。

「どちらかといえばそう思う」「そう思う」を合わせた割合が最も多いのは、女性・男性ともに『女性の容ぼうを競うミスコンテスト』で、女性が67.9%、男性が74.5%となっている。

問30.『女性の容ぼうを競うミスコンテスト』は女性の人権が尊重されていないと思うか

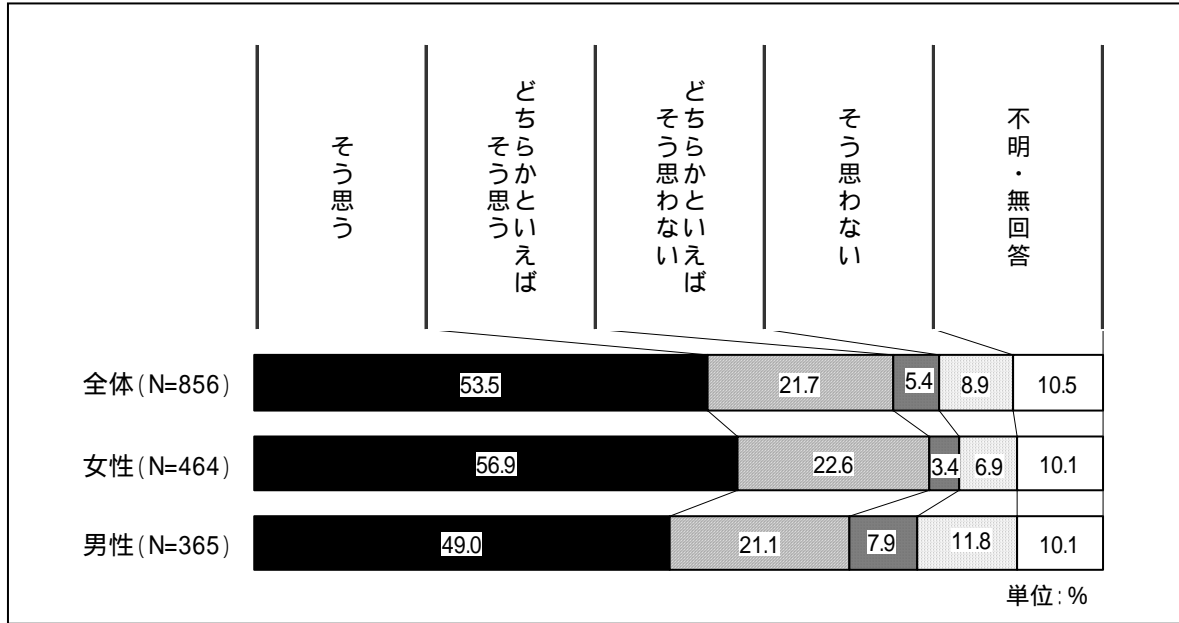


年齢層別

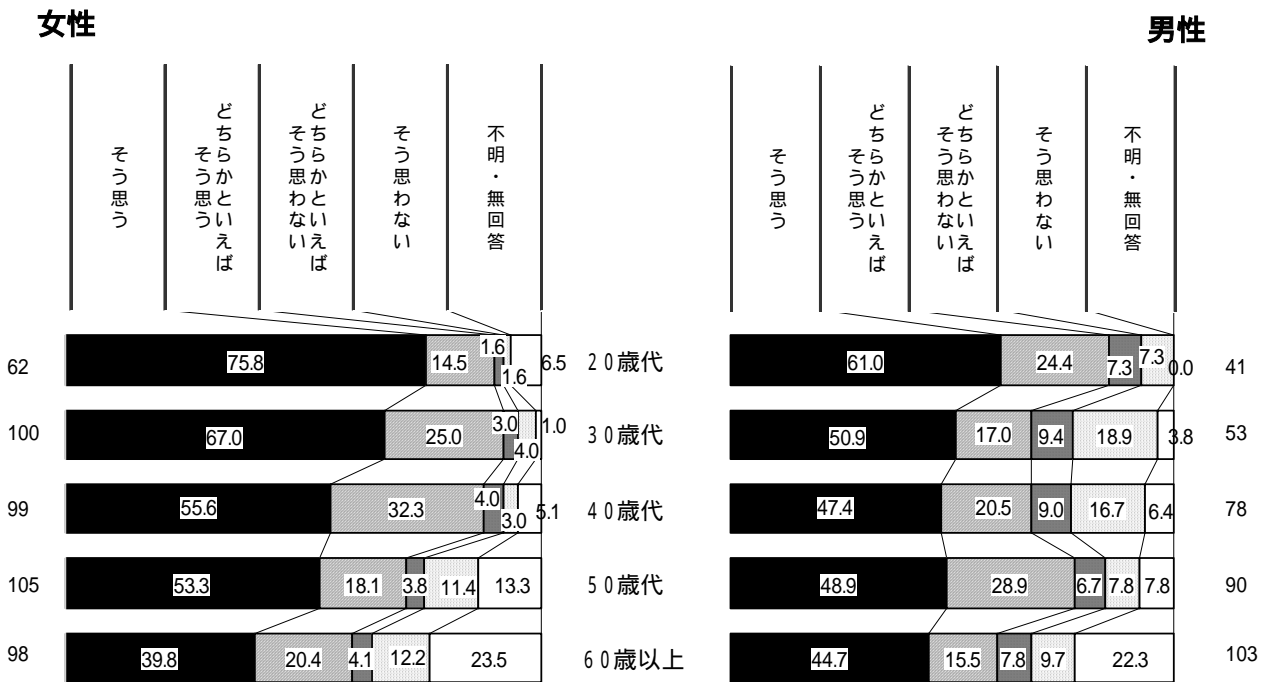


『女性の容ぼうを競うミスコンテスト』は女性の人権が尊重されていないと思うかでは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性ではすべての年齢層で約2割となっている。男性では、その割合が女性に比べいずれの年齢層でも少なく、約1割～2割未満となっている。

問30.『家庭内での夫から妻への暴力』は女性の人権が尊重されていないと思うか

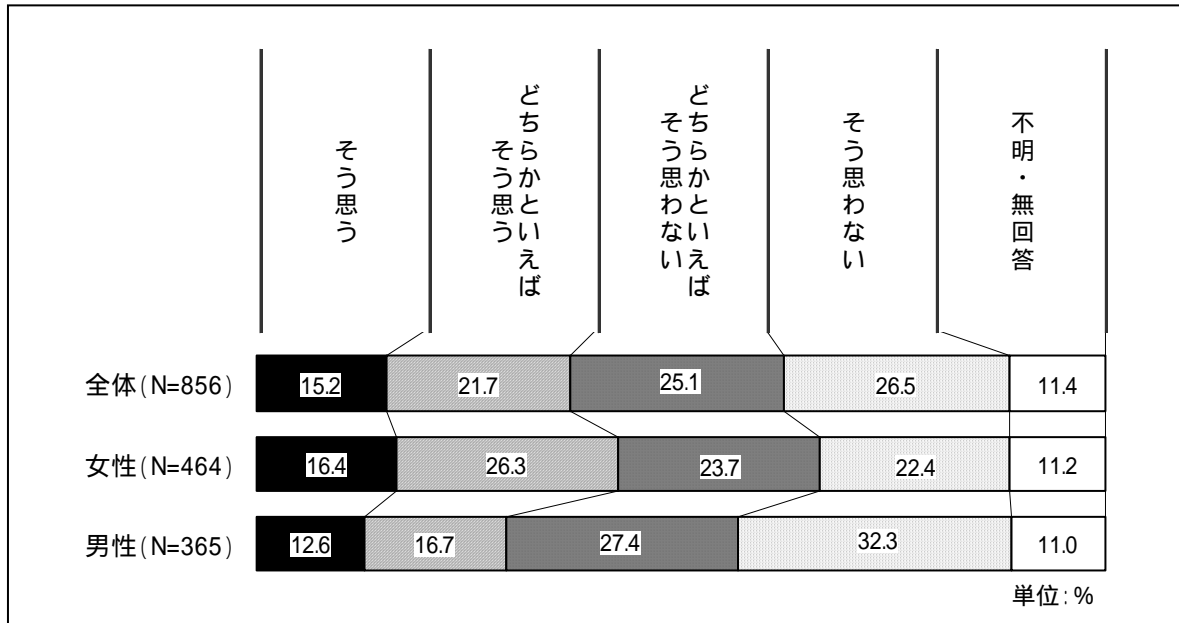


年齢層別

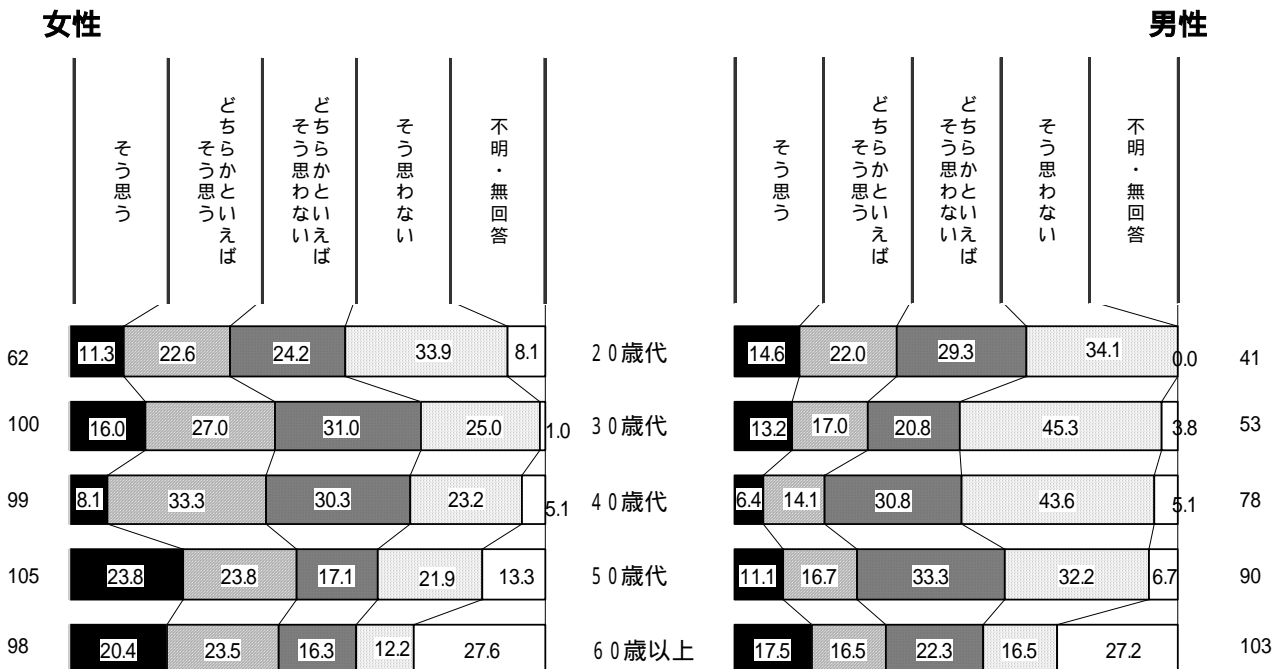


『家庭内での夫から妻への暴力』は女性の人権が尊重されていないと思うかでは、女性で年齢層が上がるにつれ「そう思う」が減少している。また、男性では「どちらかと思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、30歳代で28.3%と最も多くなっている。

問30.『女性のヌード写真等を掲載した雑誌・ポスターなど』は女性の人権が尊重されていないと思うか

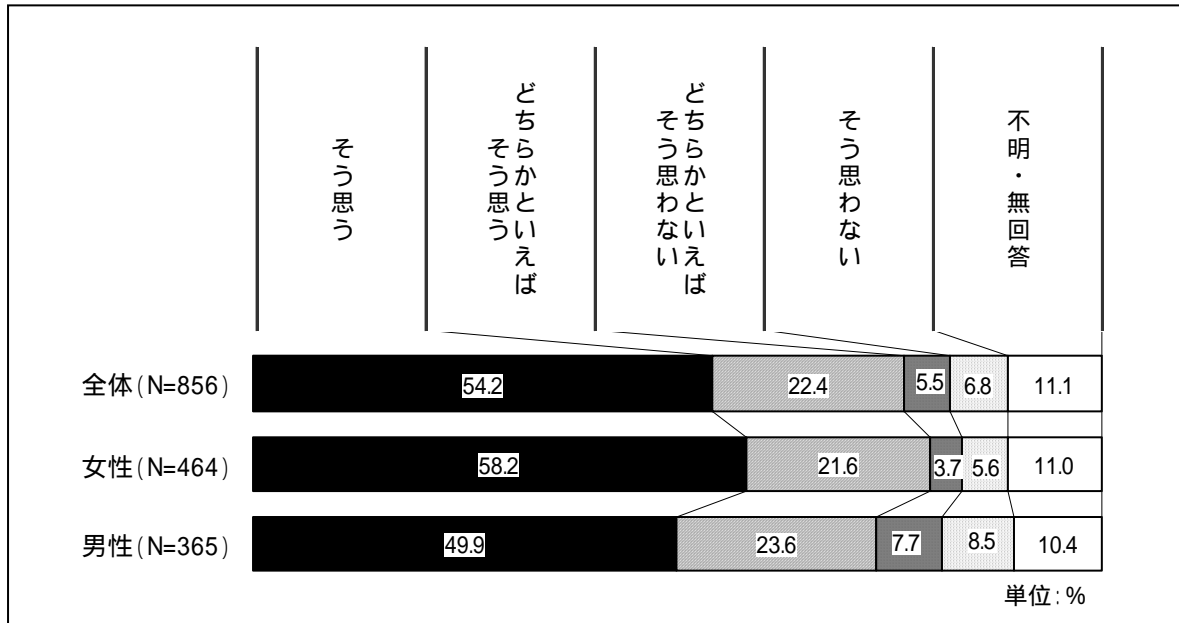


年齢層別

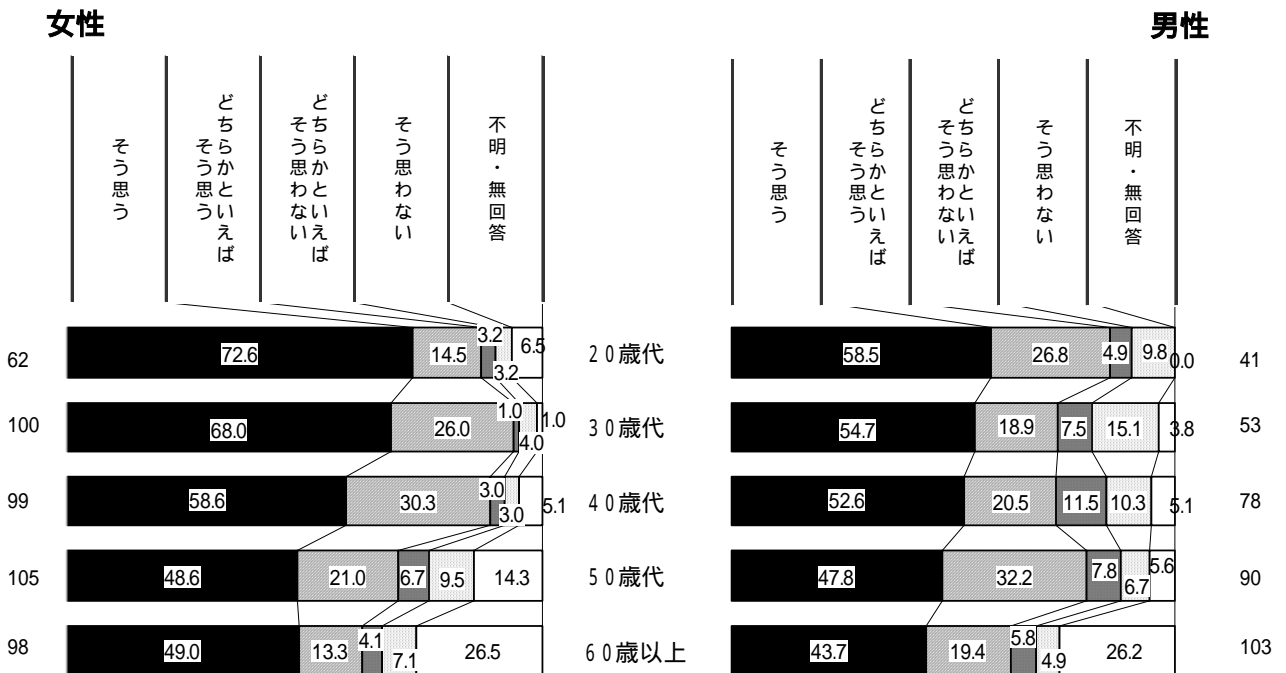


『女性のヌード写真等を掲載した雑誌・ポスターなど』は女性の人権が尊重されていないと思うかでは、女性では「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は20歳代で最も多く、58.1%となっている。男性ではその割合が40歳代で最も多く、74.4%となっている。

問30.『職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』は女性の人権が尊重されていないと思うか

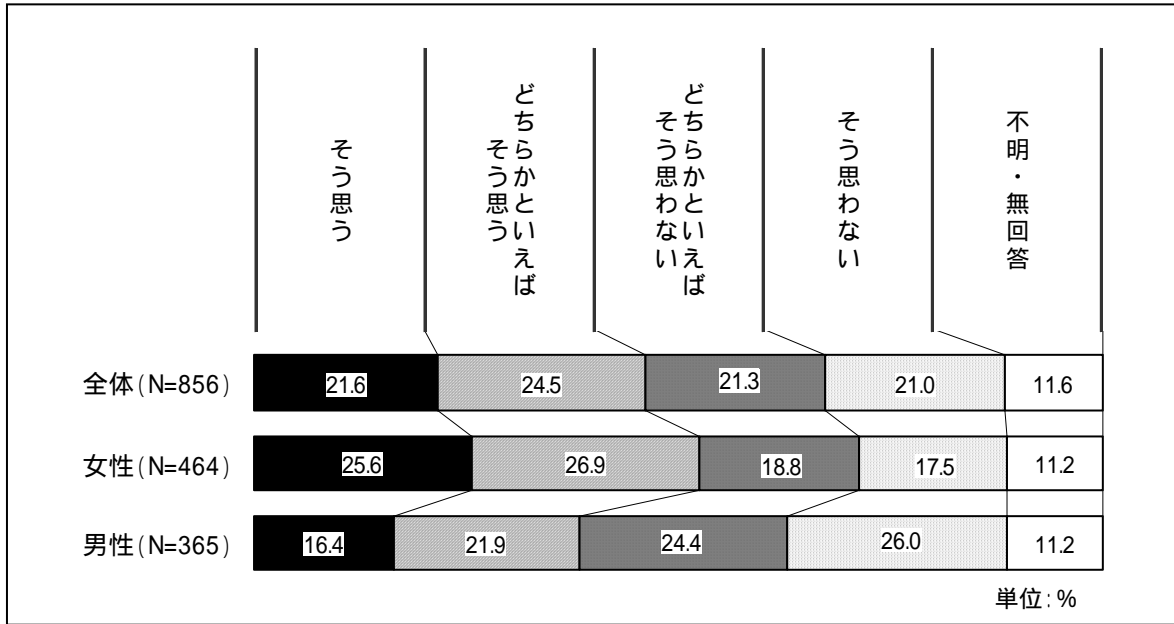


年齢層別

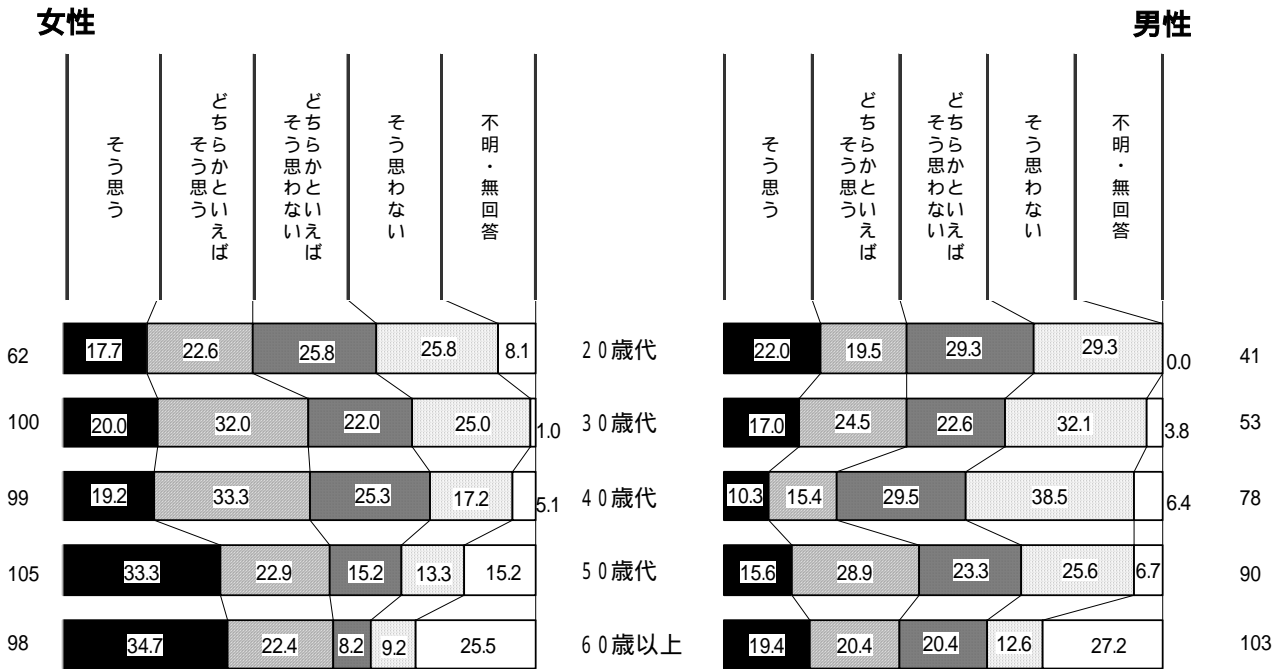


『職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』は女性の人権が尊重されていないと思うかでは、「そう思う」割合が、女性では20歳代から50歳代までは減少傾向にあり、男性では年齢層が上がるにつれて減少しています。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、女性では50歳代で16.2%、男性では30歳代で22.6%と、他の年齢層に比べ多くなっている。

問30.『女性の働く風俗営業』は女性の人権が尊重されていないと思うか



年齢層別



『女性の働く風俗営業』は女性の人権が尊重されていないと思うかでは、女性では20歳代で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合が51.6%と半数を超えており、すべての年齢層において最も多くなっている。男性ではその割合が40歳代で最も多くなっており、68.0%となっている。

問 3 0 . 前回調査(平成 9 年度田辺市にて実施)との比較

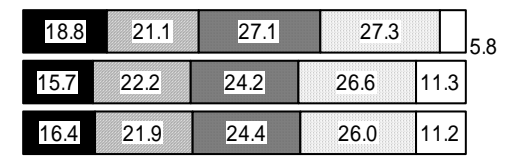
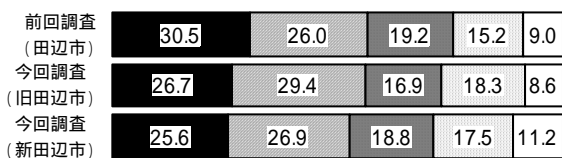
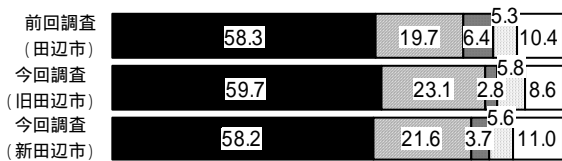
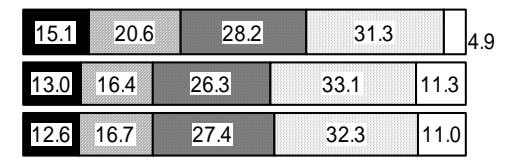
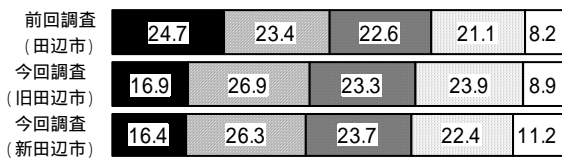
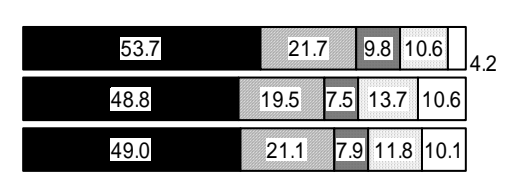
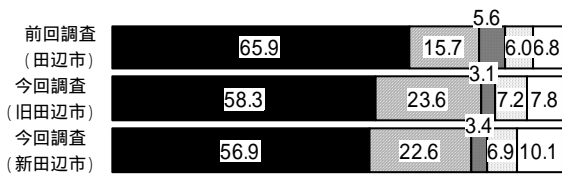
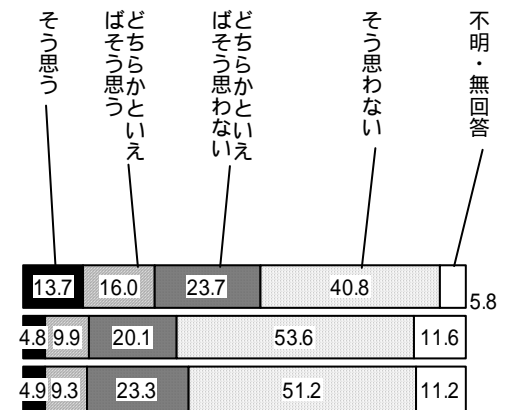
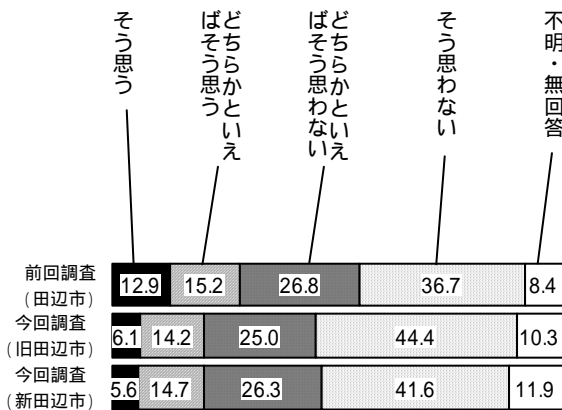
「女性の人権が尊重されていない」と思うかについて

<女 性>

<男 性>

前回調査(田辺市)(N = 645)
 今回調査(旧田辺市)(N = 360)
 今回調査(新田辺市)(N = 464)

前回調査(田辺市)(N = 451)
 今回調査(旧田辺市)(N = 293)
 今回調査(新田辺市)(N = 365)

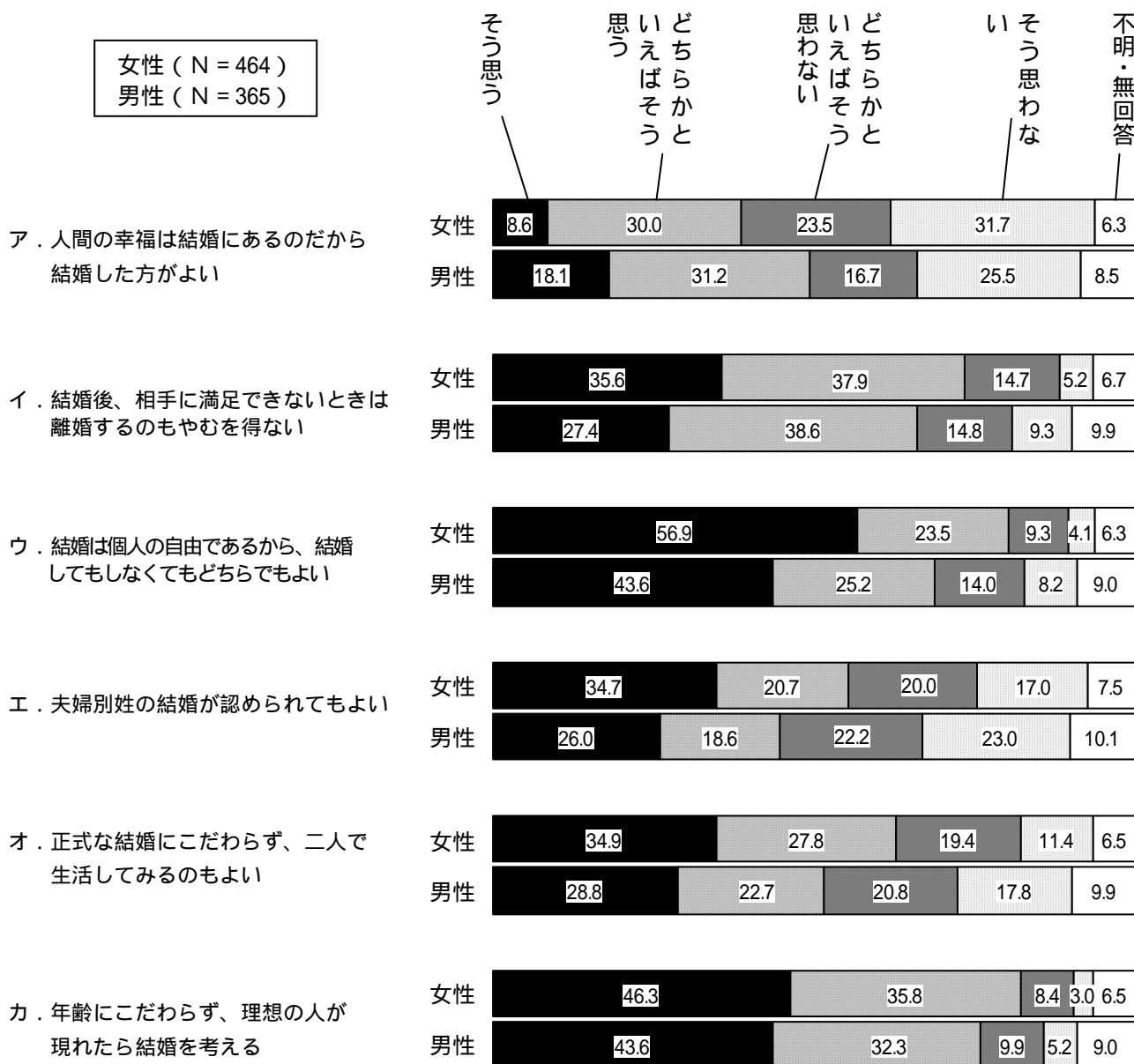


単位: %

「女性の人権が尊重されていない」と思うものについて前回調査と今回調査(旧田辺市)で比較してみると、「そう思う」割合が『職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)』を除くすべての項目で男女ともに減少している。なかでも女性で『女性のヌード写真等を掲載した雑誌・ポスターなど』が7.8ポイント、男性では『女性の容ぼうを競うミスコンテスト』が8.9ポイントの減少があり、その差が大きくなっている。

(2) 結婚に対する考え

問31. あなたは、結婚について次のような考え方をどう思いますか。(ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)



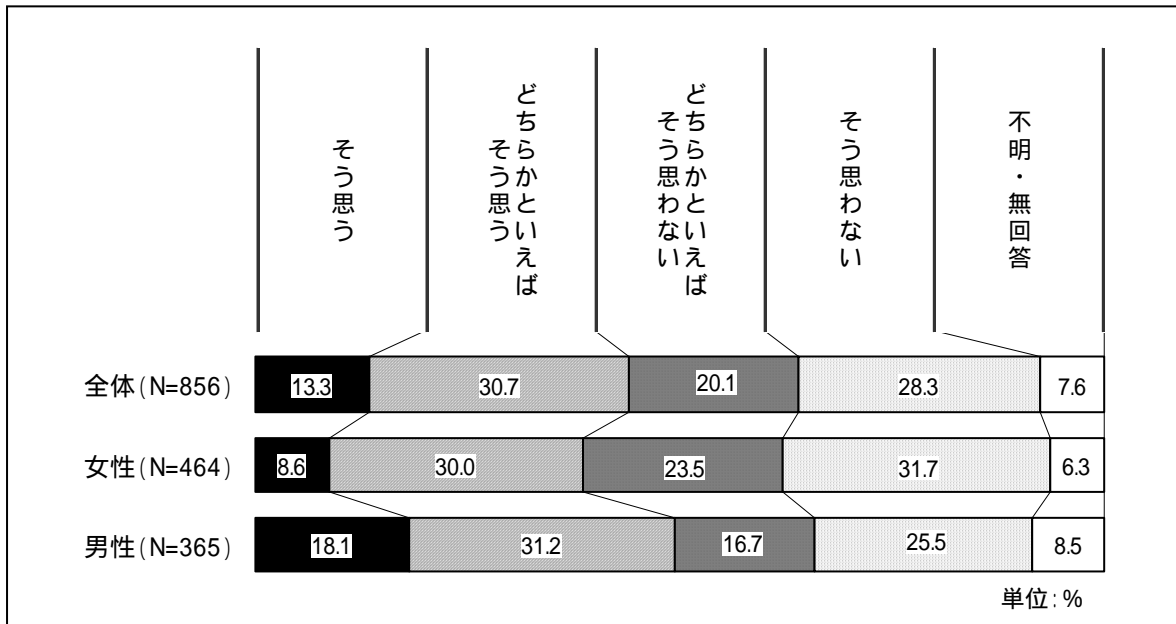
単位：%

女性・男性ともに『年齢にこだわらず、理想の人が現れたら結婚を考える』

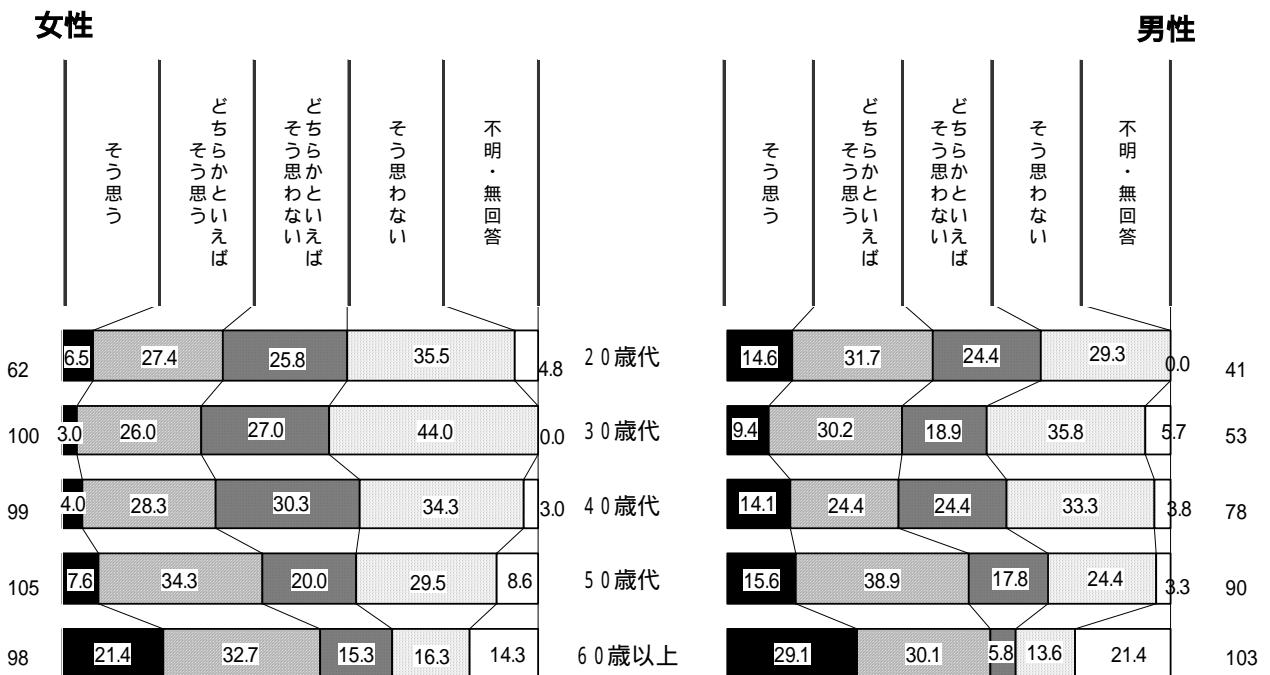
結婚に対する考えについてみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も多いのは、女性・男性ともに『年齢にこだわらず、理想の人が現れたら結婚を考える』で、女性が82.1%、男性が75.9%となっている。次いで、『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』で、女性が80.4%、男性が68.8%、『結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない』で、女性が73.5%、男性が66.0%となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は、女性では『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』が55.2%と最も多く、男性では『夫婦別姓の結婚が認められてもよい』が45.2%となっている。

問3 1. 『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』という考え方について

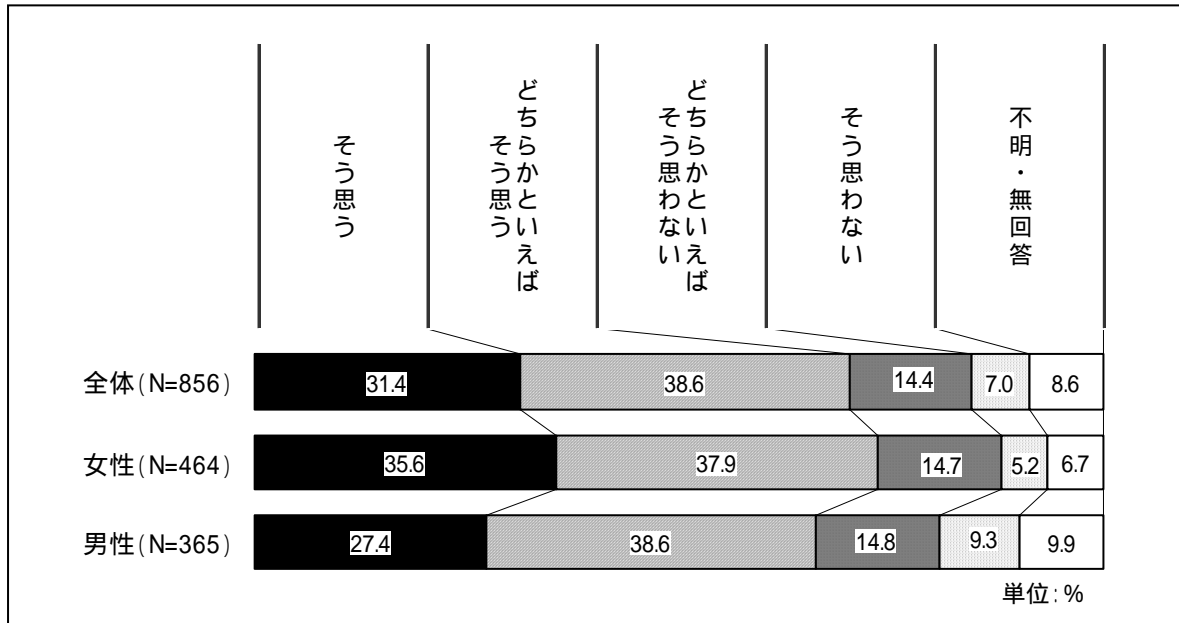


年齢層別

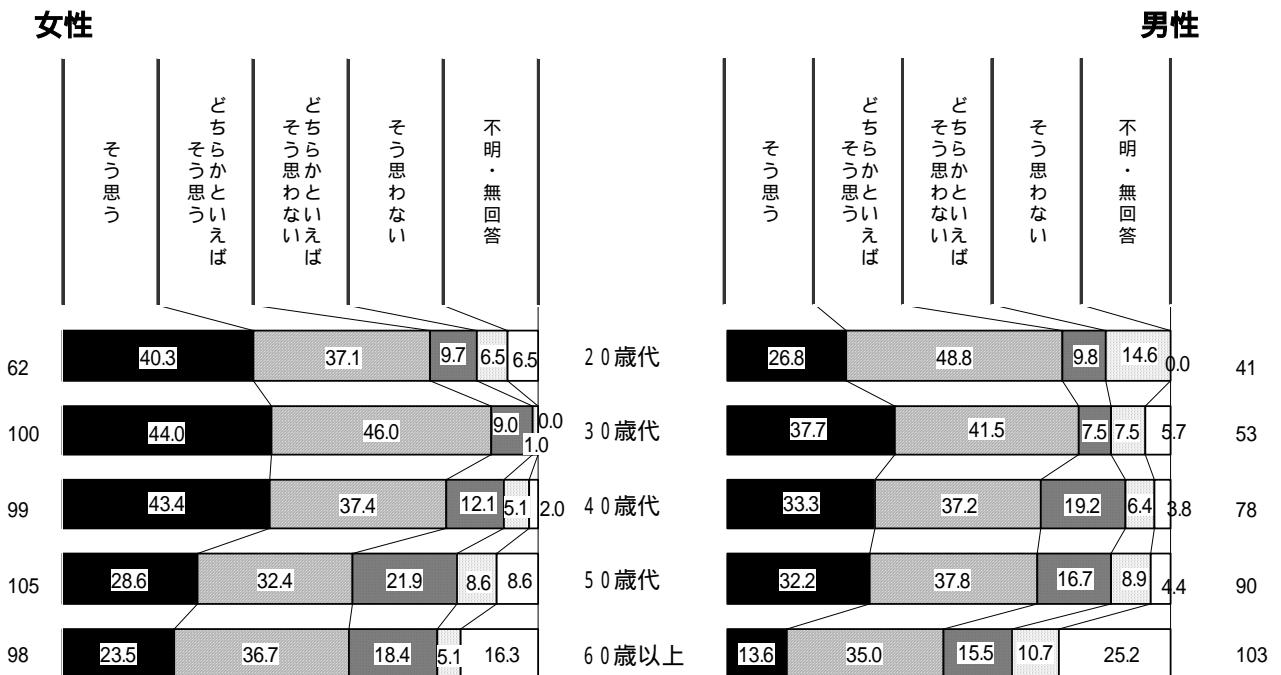


『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性・男性ともに60歳以上で最も多く、女性で54.1%、男性で59.2%となっている。

問 3 1 . 『結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない』という考え方について

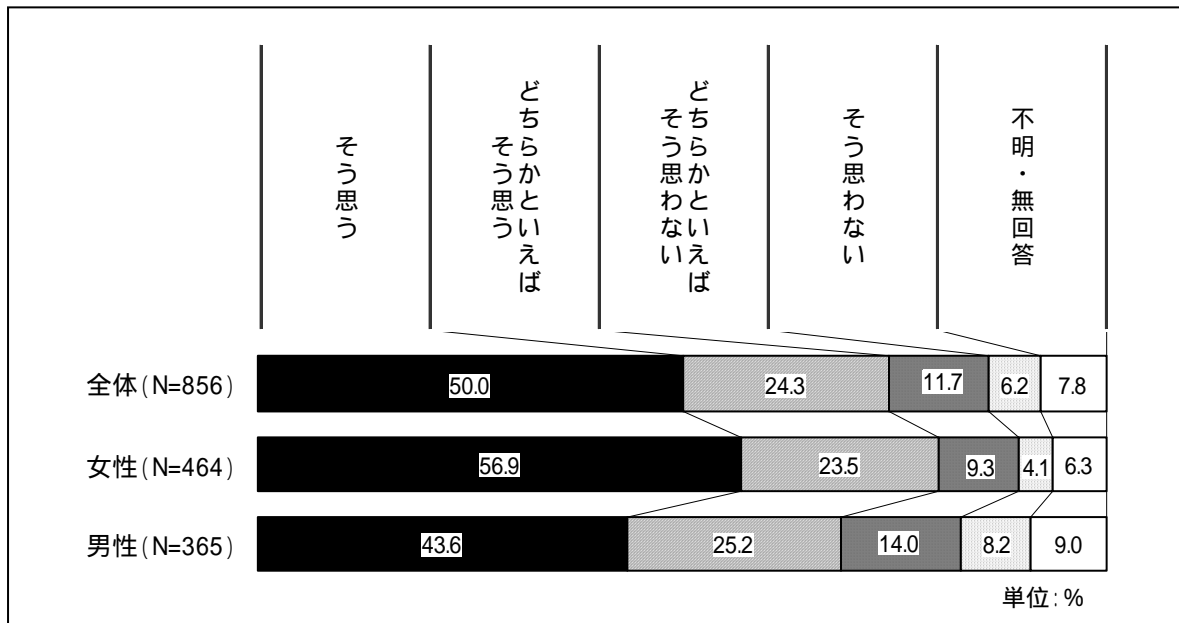


年齢層別



『結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない』については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性・男性ともに30歳代で最も多く、女性で90.0%、男性で79.2%となっている。

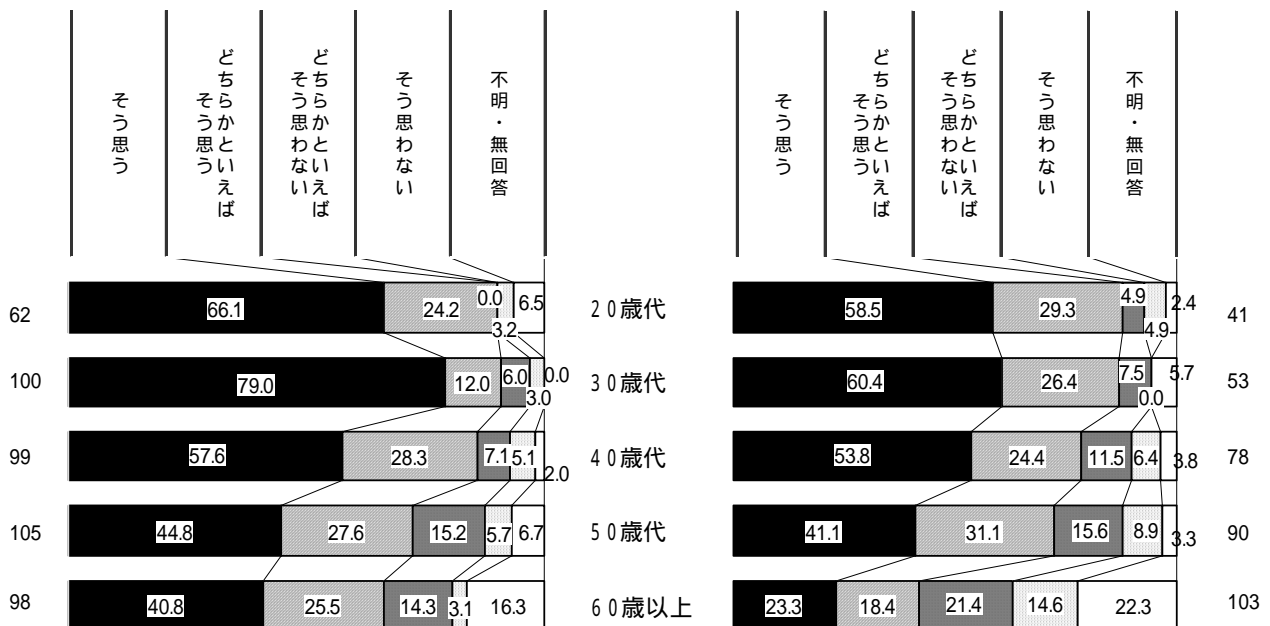
問3 1. 『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』という考え方について



年齢層別

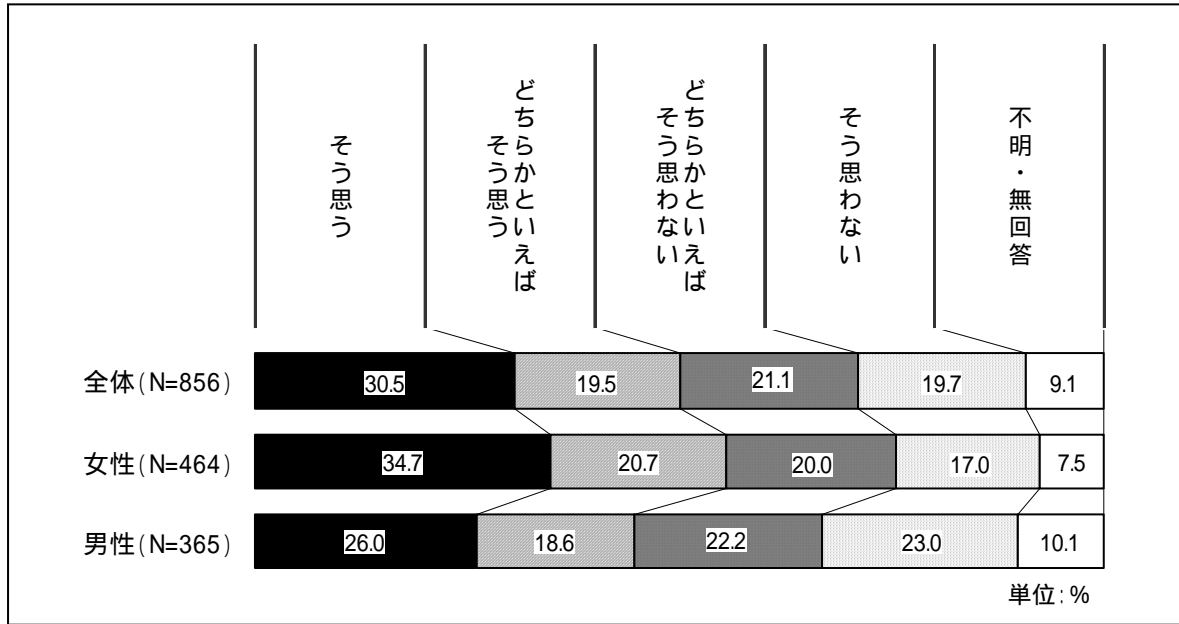
女性

男性

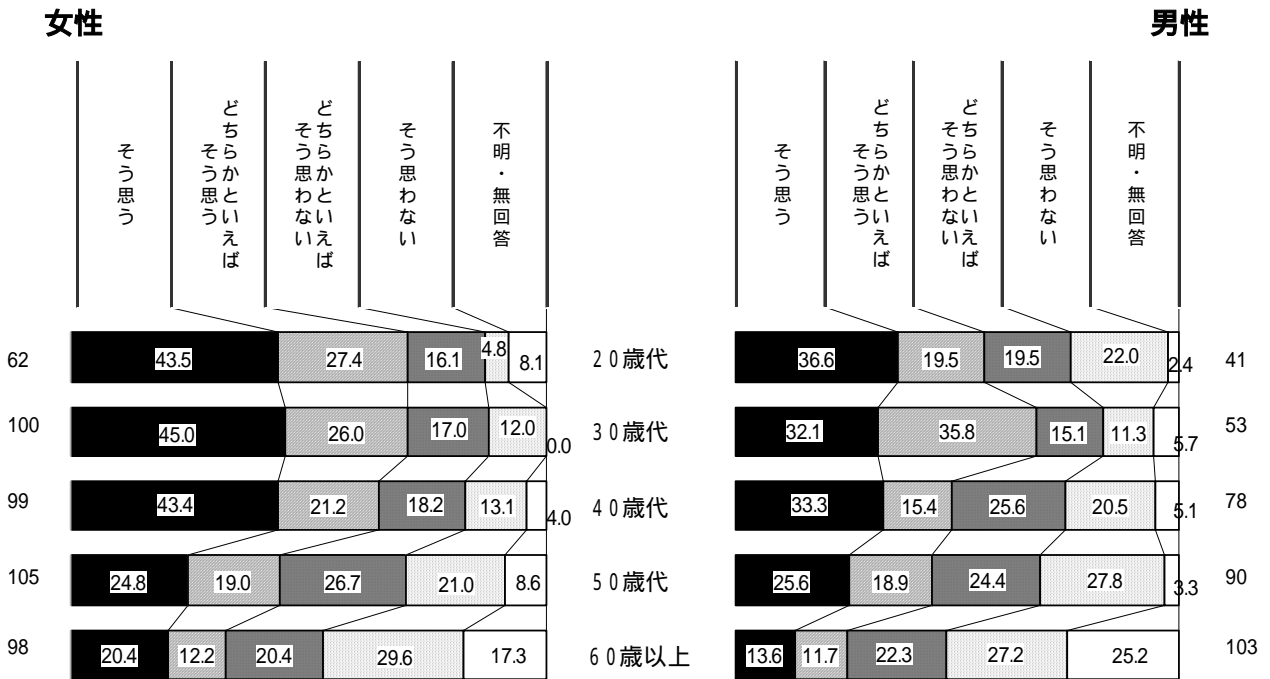


『結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』については、女性ではすべての年齢層で「そう思う」が最も多くなっており、中でも30歳代では79.0%となっている。男性では60歳以上で「そう思う」が23.3%となっている。

問 3 1 . 『夫婦別姓の結婚が認められてもよい』という考え方について

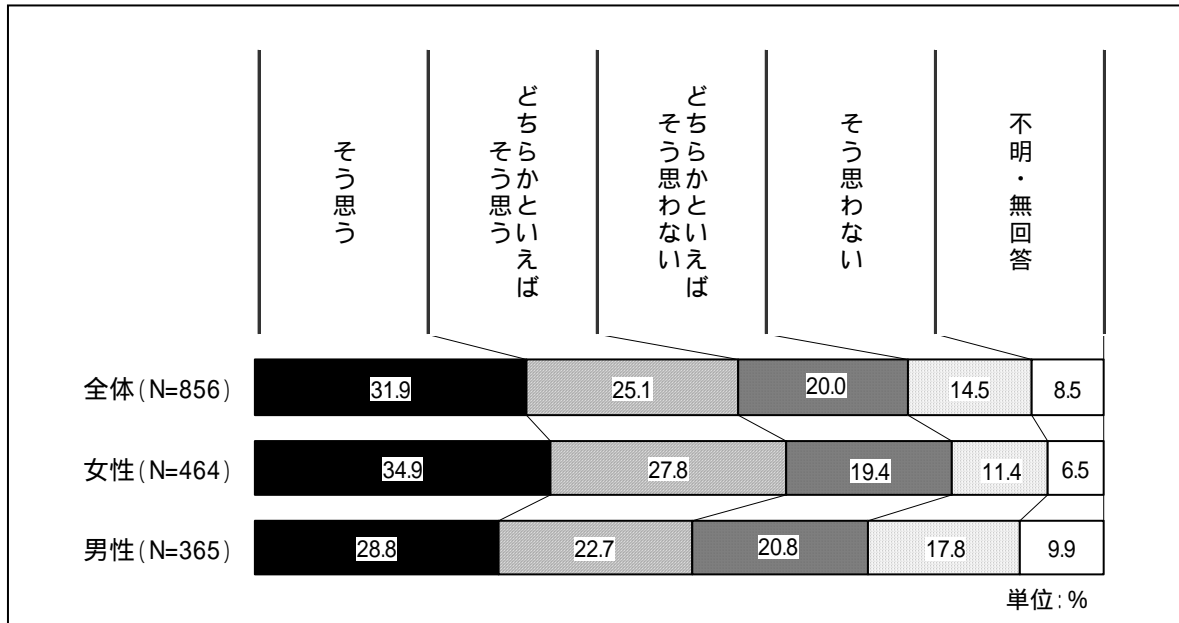


年齢層別



『夫婦別姓の結婚が認められてもよい』については「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性・男性ともに30歳代で最も多く、女性で71.0%、男性で67.9%と約7割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合は女性では60歳以上で50.0%、男性では50歳代で52.2%と最も多くなっている。

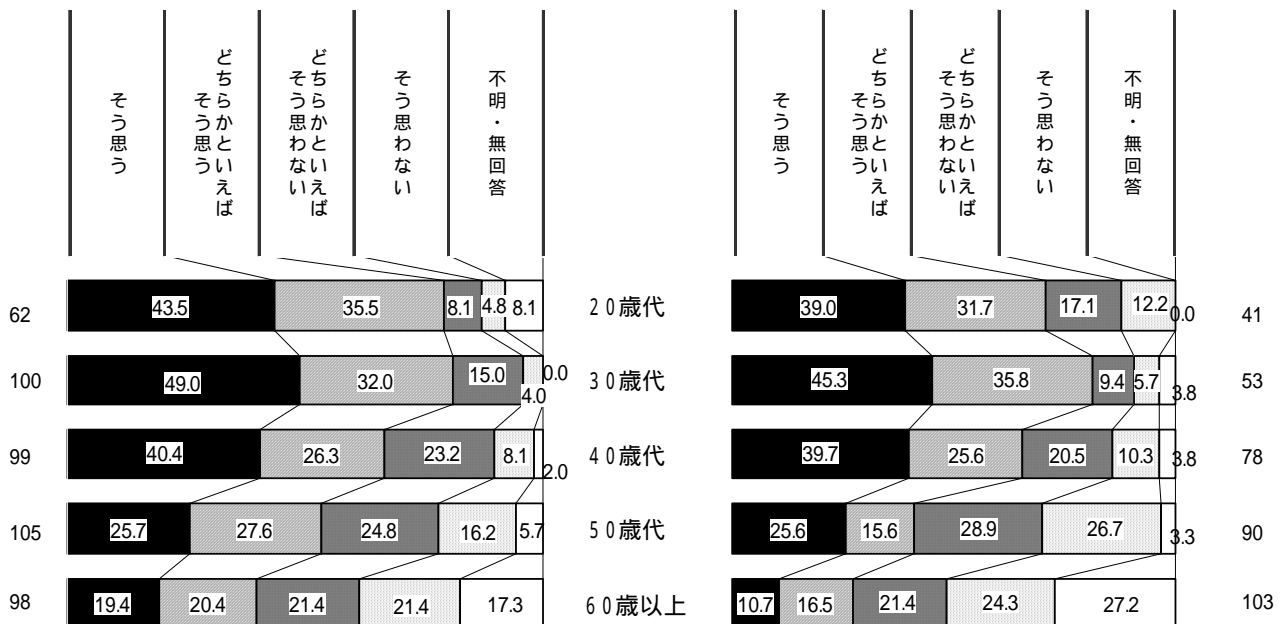
問3 1. 『正式な結婚にこだわらず、二人で生活してみるのもよい』という考え方について



年齢層別

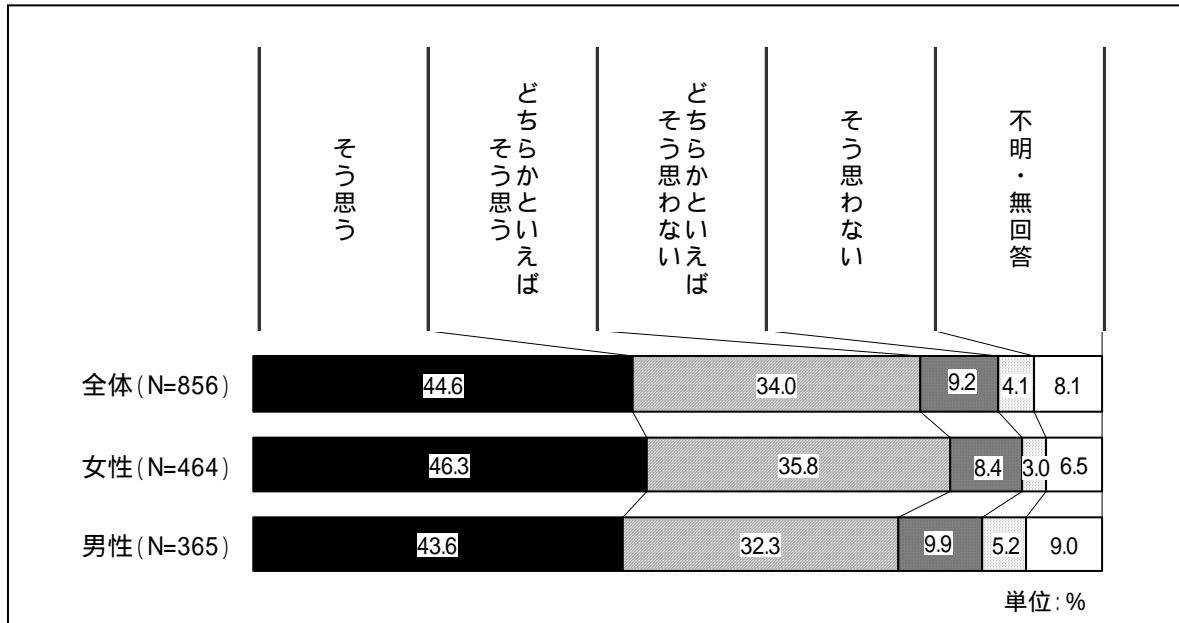
女性

男性



『正式な結婚にこだわらず、二人で生活してみるのもよい』については「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性、男性ともに、20歳代、30歳代で7～8割と大部分を占めているが、年齢層が上がるにつれその割合が減少している。

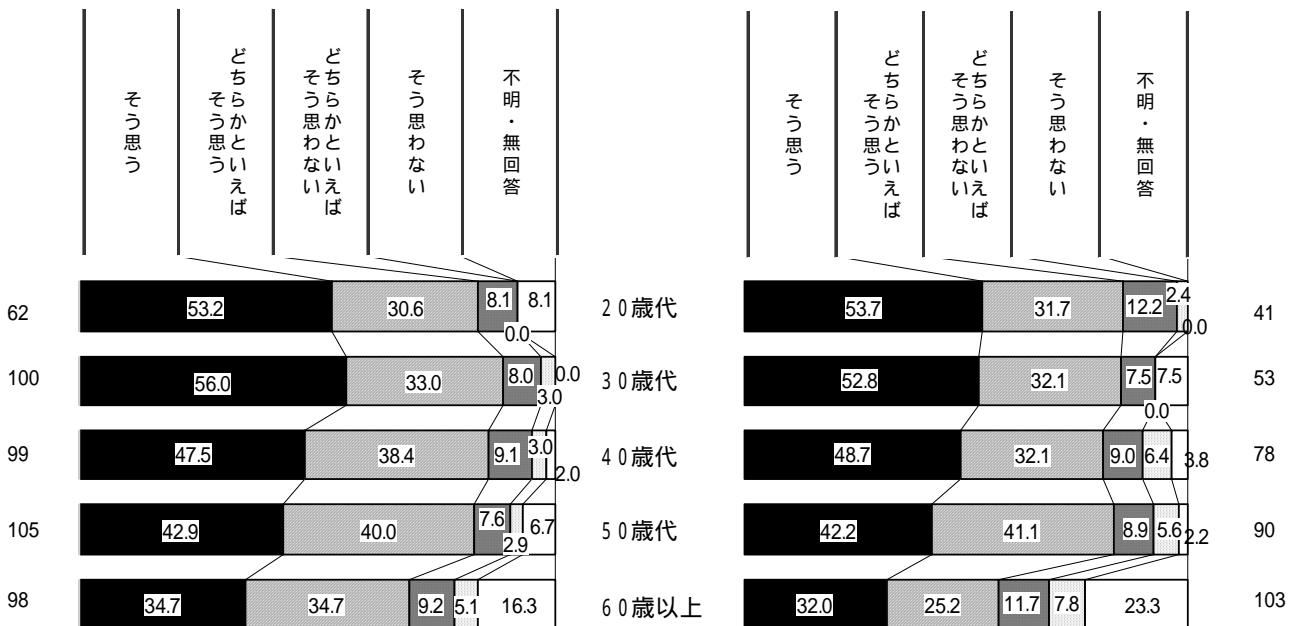
問3 1. 『年齢にこだわらず、理想の人が現れたら結婚を考える』という考え方について



年齢層別

女性

男性



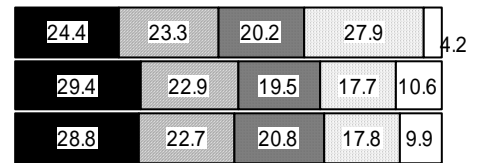
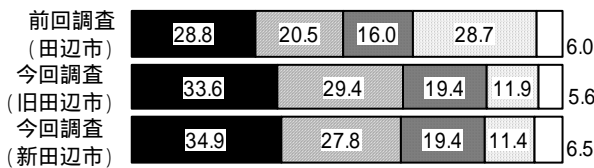
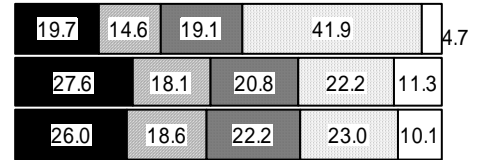
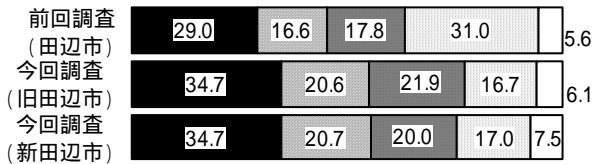
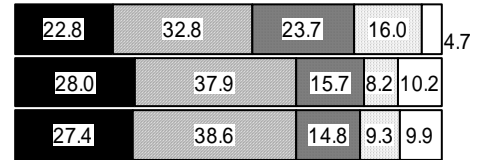
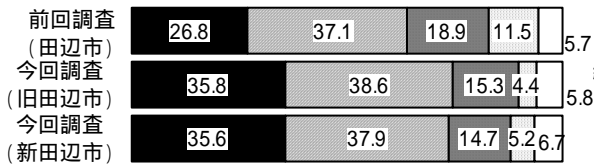
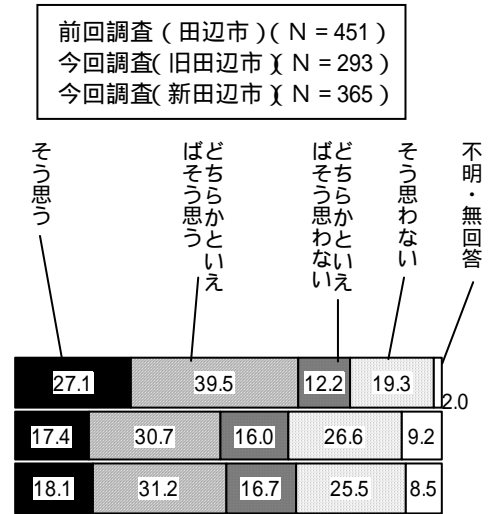
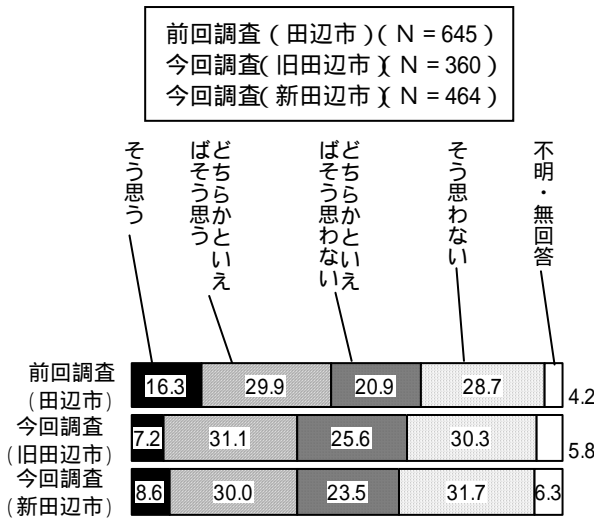
『年齢にこだわらず、理想の人が現れたら結婚を考える』については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、女性、男性ともに20歳代から50歳代までの年齢層で8割以上を占めているが、60歳以上についてみると、女性では約7割にとどまり、男性では6割に満たない。

問 3 1 . 前回調査(平成 9 年度田辺市にて実施)との比較

結婚についての考え方について

<女 性>

<男 性>



単位: %

結婚についての考え方を前回調査と今回調査(旧田辺市)で比較してみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、『人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい』について女性・男性ともに減少しており、その他の項目はすべて前回に比べ増加している。

問3 1 . 内閣府世論調査（平成16年度実施）との比較

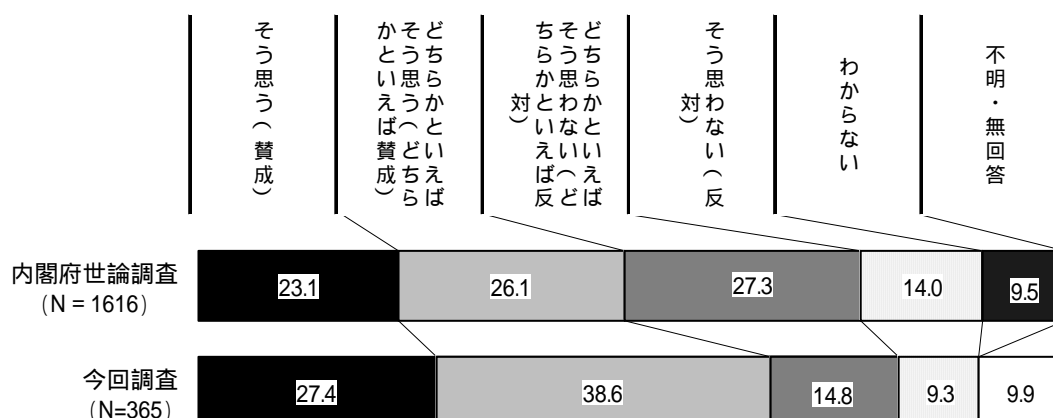
「結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない」という考え方について

内閣府世論調査での設問は“「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考え方について”

<女性>



<男性>



単位：%

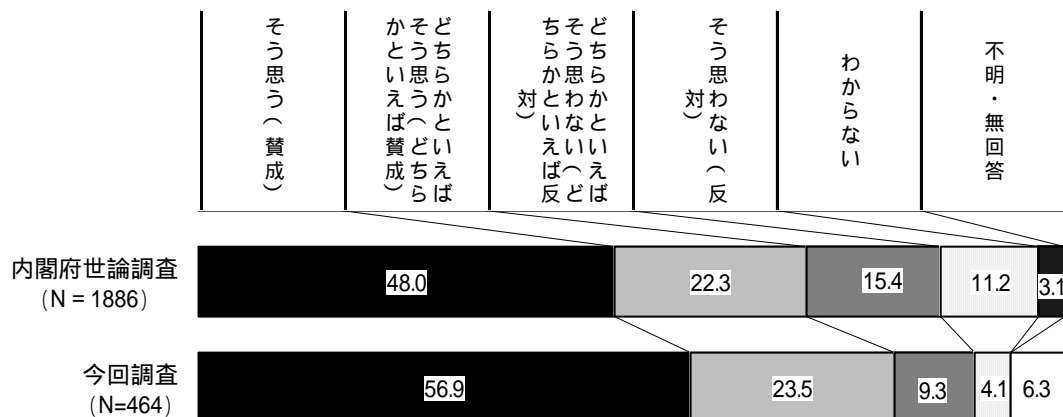
（ ）内は内閣府世論調査の表現。「わからない」の選択肢は内閣府調査のみ。
「不明・無回答」の選択肢は今回調査のみ。

「結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない」（結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい）という考え方についてどう思うか内閣府世論調査と今回調査で比較してみると、「そう思う（賛成）」「どちらかといえばそう思う（どちらかといえば賛成）」を合わせた肯定的な意見は女性・男性ともに前回に比べ増加している。

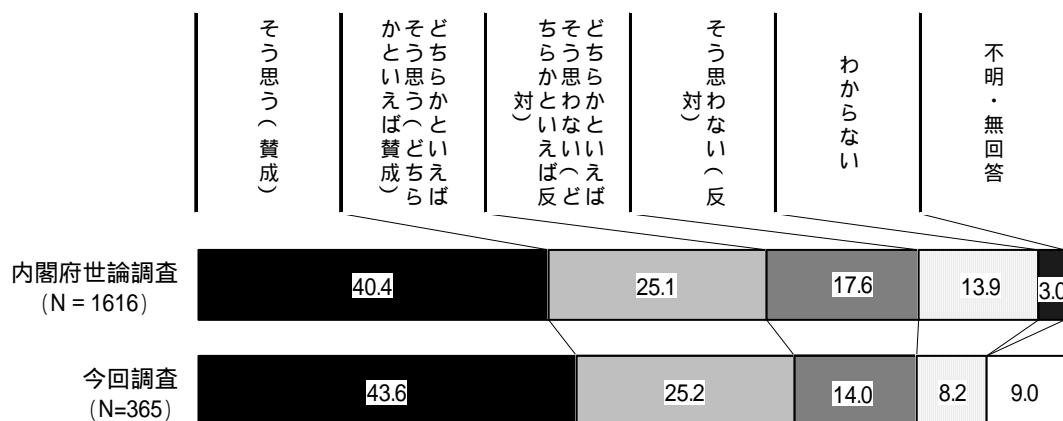
問 3 1 . 内閣府世論調査（平成 16 年度実施）との比較

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について

<女 性>



<男 性>



単位：%

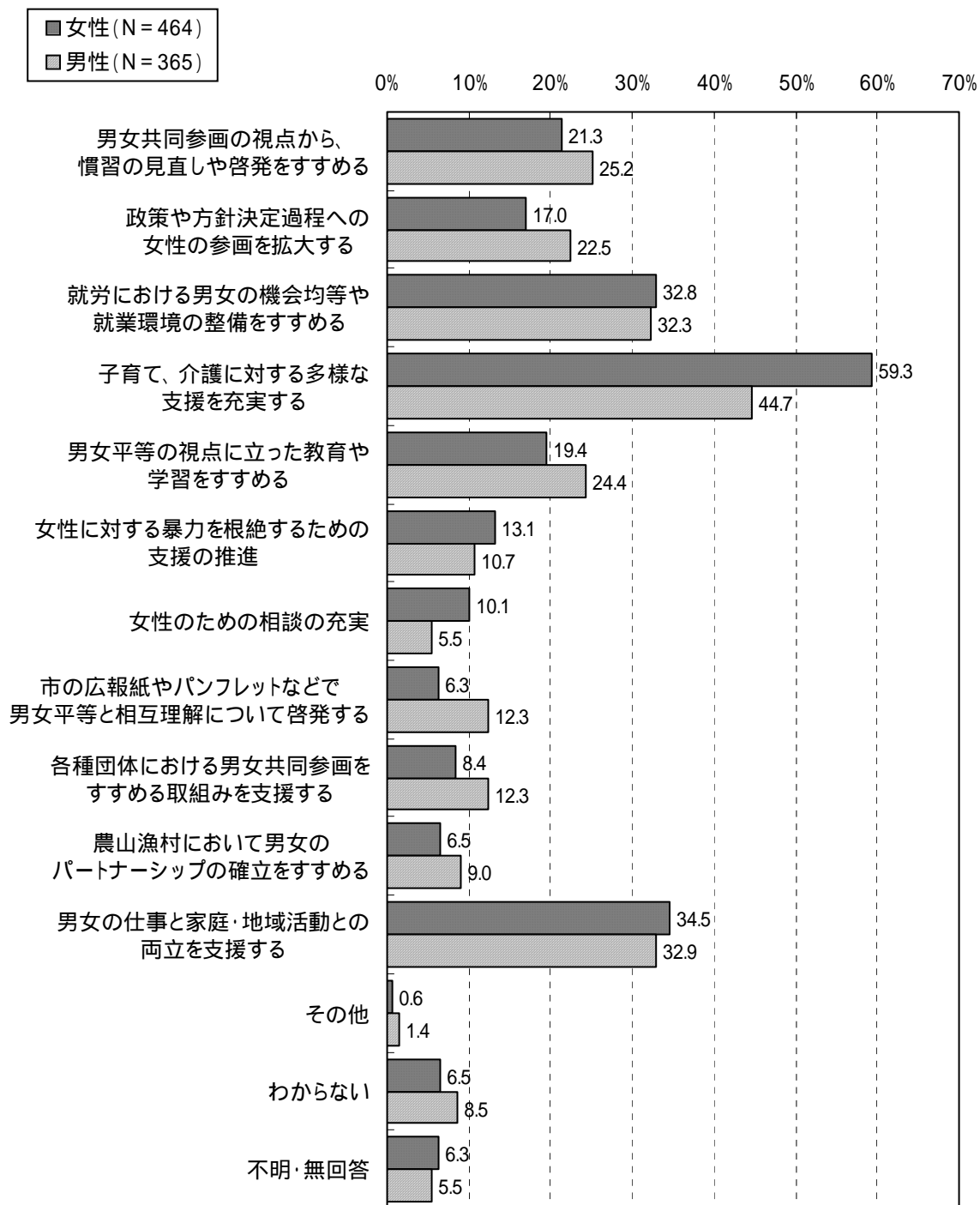
（ ）内は内閣府世論調査の表現。「わからない」の選択肢は内閣府調査のみ。
「不明・無回答」の選択肢は今回調査のみ。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方についてどう思うか内閣府世論調査と今回調査で比較してみると、「そう思う（賛成）」「どちらかといえばそう思う（どちらかといえば賛成）」を合わせた肯定的な意見は女性・男性ともに前回に比べ増加している。

10．男女共同参画について

(1) 施策

問32．田辺市では、男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな施策を実施しています。今後、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに)



「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」ことが求められている

男女共同参画に向けての施策についてみると、女性・男性ともに「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が最も多く、女性で 59.3%、男性で 44.7%となっている。次いで、「男女の仕事と家庭・地域活動との両立を支援する」が、女性で 34.5%、男性で 32.9%、「就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる」が、女性で 32.8%、男性で 32.3%とそれぞれ続いている。

• 自由回答

1. その他回答

(1) 各設問におけるその他回答（記述式）

問5. あなたの世帯は。

内容	件数
兄弟姉妹との同居世帯	3
親と子どもと叔母	1
本人と兄弟姉妹夫婦の世帯	1

問11. あなたは、子どもには、将来どのような生き方をしてほしい（ほしかった）と思いますか。 子どものいない方も「いる」と想定してお答えください

女の子

内容	件数
社会的常識のある生活	1
悔いのない人生	1

男の子

内容	件数
社会的常識のある生活	1
悔いのない人生	1

問13. あなたがもし寝たきりや長期の病気になった場合、主としてだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。

内容	件数
誰の世話にもなりたくない	1
知人・友人	1
家庭で、兄弟姉妹に	1

問14. あなたは現在、家庭で高齢者や病人の世話をするのは、多くの場合女性となっていることについてどう思いますか。

内容	件数
男女関係なく、できる人がすればよい	4

問15. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動は何ですか。

現在

内容	件数
子育て支援活動	2
公民館での活動	1
宗教活動	1
結婚コンサルタント・ボランティア活動	1
老人クラブ活動	1
カウンセリングの活動	1

今後

内容	件数
宗教活動	1
子育て支援活動	1
結婚コンサルタント・ボランティア活動	1

問18 . あなたが社会活動に参加しようとする場合、障害になるものは次のうちどれですか。

内容	件数
高齢	5
病気	5
体力がない	2
能力がない	1
体が不自由	1

問21 . あなたが働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。

内容	件数
パソコンができないこと	1

問22 . あなたの職業は次のどれにあたりますか。

内容	件数
内職	4
嘱託職員	1
臨時講師	1

問23 - 1 . 優遇されているのは、どのようなことですか。

内容	件数
仮眠室や更衣室が設備されている	1

問24 . あなたは、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。

内容	件数
個人の意思によって決めるべき	9
その時の状況により異なると思う	3
できる範囲でやればよい	2
夫婦で考えればよい	2
女性が仕事をしないと生活ができなければ職業を持った方がよい	1
結婚や出産で一時家庭に入り、子育てが一段落したら再び職業を持つ方がよい	1
一概に決められない	1

問26 . 結婚や出産、子育てに際して、あるいは、介護をしなければならなくなったときに、女性も男性も働き続けられるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。

内容	件数
社会的・個人的に意識を向上させることで、よりよい選択ができる状態をつくりあげることが大切	1

問27 . これまでに、職場・学校・地域で、あなたは次のような不愉快な経験をしたことがありますか。

職場

内容	件数
仕事先で抱きつかれた	1
妊娠直後、母子手帳をもらうまで本当に妊娠しているかわからないと言われた	1

地域

内容	件数
よそ者扱いされる	1

問28 . 夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力が問題になっています。あなたは、今までにパートナーから次のようなことを受けたことがありますか。

内容	件数
暴言・嫌味を言われる(家族や親族に)	4
髪の毛を引っ張られた	1
家に入れてくれなかった	1

問28 - 3 . あなたが、だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。

内容	件数
心配かけたくなかったから	1
その時はお酒を飲んでいたので	1
2人の問題だと思ったから	1

問29 . 男女間のあらゆる暴力について、あなたは、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか。

内容	件数
カウンセリングの確保	2

問32 . 田辺市では、男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな施策を実施しています。今後、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

内容	件数
幼児期から男女の差を教えない	1

2. 自由回答

(1) 男女共同参画に関する意見や要望

内容	性・年齢
わかりやすい言葉で表現できればよい	女性 40歳代
DV に関する問題は相談等だけではなく、警察の介入など実践的なものが必要だと思われます	女性 30歳代
子どもへの教育、学習において「互いを大切に思い、協力し、社会生活を行わなくてはならない」を進めることが将来的に男女共同参画の理念が実ると思われます	女性 40歳代
役所関係の昇進や昇格の面で、男性がかなり優遇されています。まずは、役所内より見本を示すという意味で改善されてはどうでしょうか	女性 30歳代
必ずしも男女が同じでなくてもよい。家庭内に於いては、相互理解の上で助け合うのは必要なことである	男性 50歳代
就労環境・社会環境の充実が進むことにより女性の社会進出が進むと思う。家庭内では、夫婦の収入、経済力により家庭生活の役割分担に差ができ、必然的に女性が子育て・親の介護といった役割を受持つことになる	男性 20歳代
男性に男女共同参画に関して勉強する場を与えてほしいと思います	女性 50歳代
福祉や学校に関わるネットワークを拡げ、教育から都市を活性化していくことが大切である	男性 30歳代
男女が互いを支え合う意識改革(行動・言葉も含め)を期待します	女性 40歳代
男女平等にこだわるのがおかしいと思う。男女の役割分担がなされており、それが現代社会にそぐわなくなったのであれば、それぞれ個人の特性を生かし役割を果たすだけである	女性 40歳代
DV 問題で何かあった時は、早急に対応してもらいたい。対応が遅れ、かなしい事件になることが多いので	女性 30歳代
不平等があれば、なくす努力をしてください	男性 40歳代
結婚、出産後に家庭に入っても、再度職業を持つことができる社会ができればと思います	女性 60歳以上
職場や家庭で重要な役割を果たし、必要とされれば男女は関係ない	男性 30歳代
公務員や大手企業、中小企業とでは対応がまったく違い、現実と理想との違いをいかにカバーしていくことが問題だと思います	男性 60歳以上
男女共同に関する企画を進めるには民間から人材を登用するべきである。経験者やアドバイザーに参画してもらい意見を取り入れるのがよいと思う	男性 30歳代
男女平等に関して高齢者の方の認識が薄い。市の広報活動で男女平等を啓発しなければ、日常生活では勉強の機会が少なく理解することができない	性別不詳 40歳代
男女が共同して社会をよくすることは重要なことだと思います。しかし、男性や女性にしかできないことを踏まえた上で男女共同、男女平等について考えていかなければならない。また、そのためには今までの習慣や考え方を大幅に変化させなければ難しいことだと思います	女性 50歳代
市議員の女性議員を増やすべきである。市の審議会や委員会においても女性の登用を	女性 50歳代
男女の違いがあり画一的に平等というのではなく、その性差を踏まえた上で方法を見出し、施策に反映できればよい	女性 40歳代
男女共同参画でのプランの見直しでは、施策が後退することがないように職員の意識改革をはじめ、民間事業所への働きかけ、推進員の強化等の課題に積極的に取り組んでほしい	女性 40歳代
ジェンダーという言葉は地域の中でも知っている方は少ないと思われます	男性 40歳代

内容	性・年齢
男女共同参画施行に関して、中年層・青年若年層の方々に浸透するよう啓発を進めて頂きたいと思います	女性 60歳以上
男女共同参画施策の実施について、どれだけの人が知っているのでしょうか。知らない人が多いように思う	男性 30歳代
男女共同参画の考えは素晴らしいが、男女がすべて同じという男女の性差を否定する考えで話を進めないでほしい。また女性が結婚し、子どもを生みたいと思える環境にすることが重要だと思います	男性 40歳代
男女共同参画について講師の先生に話を聞かせてもらうことも勉強になると思います。女性の人権ばかりが言われていますが、男性の方にも人権はあると思います	女性 50歳代
田辺市は男女共同参画社会の実現が遅く、性別役割分業意識が強く残っていると思います	女性 30歳代
男女平等の意識は随分、広まってきていますが未婚・既婚問わず女性の自立支援を強めてほしいと思う	女性 40歳代
男女の人権を尊重し合うことは大切ですが、敏感になりすぎてユーモアの通じ合えないようでは笑顔の職場などありえないと思います	女性 40歳代
男女がいろんな場において、平等であればよいと思います	男性 30歳代
男女の特性を生かした上での男女共同参画が望ましいと思います	女性 50歳代
男女問わず、育児休業を取得できる就業環境の整備に力を入れてください	男性 20歳代
男性に向けての啓発が必要ではないでしょうか	女性 40歳代
機会を等しく与えるのはよいが、何もかもが平等というのは論外である。役割分担は男女差別ではない	男性 20歳代
今の社会は平等という言葉の本当の意味をはき違えているようにしか見えない	女性 30歳代
法が施行され6年が経過する中、男女共同参画が進んでいないことを実感しています	女性 50歳代
まだまだ男性上位という意識が根強く、議員や管理職はほとんど男性が占めている。男性上位という意識改革を明確な形で市民全体に打ち立てていくことを希望します	男性 60歳以上
実現の可能性を見極め、啓発活動を積極的に進めなければならない	男性 60歳以上
男女の人権は守られなければいけないが、必ずしも平等でなくてもよいと思う。相手の立場を尊重し助け合いながら、それぞれの特性を生かして家庭生活から確立していけたらと思います	女性 50歳代
男女にかかわらず、一人の人間として人格を尊重されるべきだと思います。差別と区別を混合しない方がよい	女性 50歳代
男女共同参画への施策に対して賛同はするが、そのために必要以上の稼働人員・制作費を使うことに危惧します	男性 20歳代
男女共同参画に関する施策は、新田辺市長のご決断をお願いします	男性 60歳以上
平等な社会をつくる上でジェンダーは大事な概念だと思う。その正しい理解の徹底を図っていただきたい	男性 30歳代
男女の特性を生かした分担も、一つの平等と考えます	男性 40歳代
年齢や性別に壁のない田辺市になってもらえばよい。また、すべてにおいて柔軟な対応をお願い致します	女性 20歳代
男女が性的、肉体的、体力的にも異なることは当然であり、すべてを一緒に扱うことが平等だという、勘違いが生じる原因は男女共同参画という言葉のような気がする	男性 20歳代
女性が社会参加しやすい環境を整えることが必要である。	男性 60歳以上
田辺市の各種委員に女性を選任してほしい。また、委員等も幅広く選任し、同じ人が兼ねることのないようにしてほしい	性別不詳 50歳代
市議会議員を男女半々に決めるべきである	男性 50歳代

内容	性・年齢
本当に施策を進めるのであれば、地域や学校に広く知らせ、考え、行動を伴うことを皆ですべきである	女性 50 歳代
男女共同参画社会の実現は非常によいことだと思います。個々の考えに応じて選択できる環境、社会になってくれればと思います	女性 40 歳代

(2) 介護保険・高齢者保健福祉について

内容	性・年齢
介護施設の充実	男性 50 歳代 女性 40 歳代
老人ホームや各施設にたくさんの方が入所できるようにしてほしい	女性 50 歳代
介護サポートの充実	女性 30 歳代

(3) 保育・子育て支援に関すること(仕事と家庭の両立のことを含む)

内容	性・年齢
保育園の拡充	女性 20 歳代 男性 50 歳代 女性 30 歳代
子育て支援事業の充実	女性 50 歳代 女性 20 歳代
病後児保育の増設とサービス内容の充実	女性 30 歳代
学童保育(放課後児童クラブ)の設置数を拡充(全小学校で実施など)	男性 30 歳代
求職活動時に入所できないと働くこともできない	女性 30 歳代
シングルマザーの人でも、市が運営する保育所に入れるようにしてほしい	女性 40 歳代
育児や子育て支援、学童保育の拡充など行い、出生率の低下を防いでほしい	女性 50 歳代
学童保育内容の充実に期待する	女性 40 歳代
保育サポートの充実	女性 30 歳代
公的な一時託児制度の充実	女性 30 歳代
定員以上の園児を入園させ、無理な保育が行われている。また行事があるたび、人があふれ我が子をゆっくり見ることができない。現状をしっかり見て、本当の意見を聞き入れてほしいです	女性 20 歳代
会津保育所のように土日の保育・延長保育が実施されている保育所を増やしてほしい	男性 30 歳代
幼稚園3年保育の早期実施	女性 20 歳代
幼稚園を給食にしてほしい	女性 20 歳代
子どもが小さいうちは家庭でしつけをし、子どもが1日どう過ごしているのか見守ってあげてほしい。仕事仕事では、子どもがかわいそうだと思います	女性 30 歳代

(4) 学校や教育に関すること

内容	性・年齢
学校給食の早期実現	女性 40 歳代 女性 30 歳代
中高生の授業から男女共同参画に関する教育、学習、啓発を始めなければ浸透していかないと思います	男性 40 歳代
教育において、男女同権・男女平等の両面から人権の学習が必要かと思えます	女性 50 歳代

(5) 保健・医療に関すること

内容	性・年齢
医療費の補助（無料化、年齢枠拡大など）	女性 20 歳代
小児科医の充実	女性 30 歳代
支払い時にできれば明細書を付けてほしい	女性 60 歳以上

(6) 経済的負担に関すること

内容	性・年齢
保育料の軽減	女性 20 歳代
母子家庭の内部事情をよく知った上で支給してほしい	女性 30 歳代

(7) 生活環境に関すること

内容	性・年齢
雇用場所の確保	男性 20 歳代
	男性 40 歳代
	男性 30 歳代
	女性 20 歳代
	女性 40 歳代
	男性 60 歳以上
市営住宅の物件の充実	男性 40 歳代
生活の安定した住みよい田辺市であってほしい	女性 60 歳以上
女性の雇用の場の拡充	男性 40 歳代
小学校・幼稚園・地域などの安全性をお願いする	女性 30 歳代

(8) 相談・情報提供や行政に関すること

内容	性・年齢
いつでも気軽に相談できる場所の設置	男性 20 歳代
	女性 60 歳以上
行政職員の質の向上	男性 20 歳代
旧田辺市と旧中辺路、龍神、本宮、大塔職員の給料が違うのはなぜですか	女性 40 歳代

内容	性・年齢
女性の職員も積極的に管理職へ登用してください	女性 50歳代
次の世代に子どもを生き育てられるよう行政ができる限り支援し、取り組むべきである	男性 50歳代
行政職員の中でも就業時間や態勢に不平等が見受けられます。行政の体系見直しや人員配置の合理化を考慮されたらどうですか	男性 60歳以上
若い職員を増やしてほしい	男性 40歳代
市職員の皆様、もっと仕事に対し真剣に受け止め取り組んでほしい	女性 50歳代

(9) その他、全般に関すること(アンケートのこと、感想のみなど)

内容	性・年齢
このアンケートで何が変わるのか	女性 40歳代
	女性 40歳代
	男性 20歳代
アンケートの有効活用と結果の公表	女性 40歳代
アンケートの質問・内容が難しい	男性 60歳以上
このような意識調査をしていただき、有難うございました	女性 50歳代
子育て・高齢者介護・地域社会活動を積極的に行える設備、施設、環境が充実できる施策をお願いしたい	男性 40歳代
男女共同参画に限らず10年、20年と絶えず活動を続けていってほしい	女性 20歳代
もっと住みやすい田辺市にしてください	女性 50歳代
全ての方が充実した人生が歩めるよう、よりよい田辺市であってほしい	女性 30歳代
活気ある住みよい田辺市を目指してほしい	女性 20歳代
女性の視点、知恵を市政および地域活動等に取り入れるとよい	女性 30歳代
市長さんが各地の育児サークルを訪れ、お母さんたちの生の声を聞くのはどうでしょうか	女性 30歳代
夜間や土日、休める社会を目指して頑張してほしい	女性 40歳代
仕事の時間や家庭環境に配慮があればよい	女性 40歳代
再就職ができるよう対策してほしい	女性 20歳代
カタカナで表示されている部分は十分な説明が必要である	男性 60歳以上
市長さんに期待しています	女性 50歳代
新たなまちづくりに期待します	女性 30歳代
豊かで潤いのあるまちづくりを望みます	男性 50歳代

・ アンケート調査票

男女共同参画に関する市民意識調査

調査へのご協力のお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年5月1日には、5市町村が合併し、新「田辺市」が誕生いたしました。これからの新たなまちづくりに向けて一歩踏み出したところです。

さて、本市の男女共同参画施策につきましては、性別にかかわらず人権が尊重され、男女がそれぞれの個性や能力を十分に発揮できる社会を目指し、その推進に取り組んできているところです。

この度、市町村合併により、さらにより広く市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、「田辺市男女共同参画プラン」策定に向けての基礎資料とさせていただくため、アンケートを実施することにいたしました。このアンケートは、20歳以上の市民の皆さまから、男女各1,200人合わせて2,400人を無作為に選ばせていただきました。お答えはすべて、無記名で統計的に処理しますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、ご不明の点がございましたら、下記の男女共同参画推進室までお問い合わせください。

平成17年12月

田辺市長 真砂 充敏



<お問い合わせ>

田辺市湊 1619-8 田辺市民総合センター内

田辺市企画部 男女共同参画推進室

TEL 0739-26-4936

Email: danjo@city.tanabe.lg.jp

ご記入にあたってのお願い

1. お答えは、**本人のお考え**でご記入ください。
2. ご記入は黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いいたします。
3. お答えは、**あてはまる番号を選んで**をつけてください。また、記述を必要とする箇所は、ご記入ください。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒に入れ**12月21日(水)**までに、ご返送ください。
(切手は不要です)
5. この調査資料の利用にあたっては、田辺市個人情報保護条例の規定に基づき、適正に行います。また、調査内容については、この統計以外の目的に使用せず、秘密は保護しますので、ご安心ください。

男女平等についてお聞きします。

問7. 次の各分野について、男女は、どの程度平等だと思いますか。(ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	平等である	やや平等である	あまり平等でない	平等でない	わからない
ア. 家庭生活では	1	2	3	4	5
イ. 地域活動では	1	2	3	4	5
ウ. 社会通念やしきたりでは	1	2	3	4	5
エ. 学校教育では	1	2	3	4	5
オ. 職場では	1	2	3	4	5
カ. 政治・経済界では	1	2	3	4	5
キ. 法律や制度の上では	1	2	3	4	5

問8. あなたは、「男は仕事、女は家庭」というような固定的な性別役割分担についての考え方をどう思いますか。(あてはまるもの1つに)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 同感する | 3. どちらかといえば同感しない |
| 2. どちらかといえば同感する | 4. 同感しない |

問9. あなたは、次の「ことば」をご存じでしたか。(ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	よく知っていた	聞いたことがあった	知らなかった
ア. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
イ. 女子差別撤廃条約	1	2	3
ウ. ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)	1	2	3
エ. 性別役割分業意識	1	2	3
オ. ドメスティック・バイオレンス(DV、配偶者、恋人からの暴力)	1	2	3
カ. エンパワーメント(本人の内にもっている個性、能力を引き出す)	1	2	3
キ. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3

家庭生活における男女の役割分担についてお聞きします。

問 10 . あなたの家では、次にあげる仕事等はだれの役割になっていますか。(ア～シそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	主に男性	どちらかといえば男性	男女同じ程度	主に女性	どちらかといえば女性	わからない	該当なし
ア . 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	7
イ . 食事のセット・後片付け	1	2	3	4	5	6	7
ウ . 日常の買い物	1	2	3	4	5	6	7
エ . 掃除	1	2	3	4	5	6	7
オ . 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
カ . ゴミだし	1	2	3	4	5	6	7
キ . 大工仕事や電気製品の管理	1	2	3	4	5	6	7
ク . 役所や銀行などへの用事	1	2	3	4	5	6	7
ケ . 高齢者や病人の世話	1	2	3	4	5	6	7
コ . 町内会や自治会への出席	1	2	3	4	5	6	7
サ . 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6	7
シ . 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6	7

子育てについてお聞きします。

問 11 . あなたは、子どもには、将来どのような生き方をしてほしい(ほしかった)と思いますか。

(女の子、男の子それぞれについてあてはまるもの3つまでに)

子どものいない方も「いる」と想定してお答えください

	社会的な地位を得る	経済的に豊かな生活をする	社会に貢献する	家庭や周りの人たちと円満に暮らす	人間性豊かな生活をする	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思にまかせる	その他(希望することがあれば具体的に)
ア. 女の子	1	2	3	4	5	6	7	8
イ. 男の子	1	2	3	4	5	6	7	8

問 12 . 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。(ア~ケそれぞれについてあて

はまるもの1つに)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア. 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
イ. 子どもの世話の大部分は、男親にもできる	1	2	3	4	5
ウ. 親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4	5
エ. 子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい	1	2	3	4	5
オ. 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい	1	2	3	4	5
カ. 男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
キ. 女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
ク. 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
ケ. 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5

介護についてお聞きします。

問 13 . あなたがもし寝たきりや長期の病気になった場合、主としてだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思いますか。（あてはまるもの2つまでに ）

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 . 家庭で、配偶者に | 5 . 家庭で、公共や民間のヘルパー（介護人に） |
| 2 . 家庭で、娘に | 6 . 病院、老人ホームなどの施設で |
| 3 . 家庭で、息子に | 7 . その他（具体的に ） |
| 4 . 家庭で、息子の妻に | 8 . わからない |

問 14 . あなたは現在、家庭で高齢者や病人の世話をするのは、多くの場合女性となっていることについてどう思いますか。（あてはまるもの1つに ）

- 1 . 当然だと思う
- 2 . しかたないと思う
- 3 . 男性も女性に協力するべきだと思う
- 4 . 男性も女性と同じように世話をすべきだと思う
- 5 . もっと男性が中心になるべきだと思う
- 6 . その他（具体的に ）

社会活動についてお聞きします。

問 15 . あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動は何ですか。（現在行っている活動と今後始めたい（続けたい）活動それぞれについてあてはまるものすべてに ）

	町内会・PTA・子どもクラブ活動	趣味や教養に関する活動	スポーツ・レクリエーション活動	消費生活・環境・リサイクル活動	福祉・ボランティア活動	観光・ボランティア活動	職業技術や資格の取得	国際交流活動	その他の活動（ ）	特になし
ア．現在行っている活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イ．今後始めたい（続けたい）活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 16 .あなたは、次にあげるような役職や公職に女性が「もっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
ア . P T A会長、子どもクラブ会長	1	2	3	4
イ . 職場の管理職	1	2	3	4
ウ . 町内会会長、区長、自治会会長	1	2	3	4
エ . 県や市町村の審議会や委員会のメンバー	1	2	3	4
オ . 県議会議員や市町村議会議員	1	2	3	4
カ . 知事や市町村長	1	2	3	4

問 17 .もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどう
 しますか。(ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	引き受ける	ことわる	わからない
ア . P T A会長、子どもクラブ会長	1	2	3
イ . 職場の管理職	1	2	3
ウ . 町内会会長、区長、自治会会長	1	2	3
エ . 県や市町村の審議会や委員会のメンバー	1	2	3
オ . 県議会議員や市町村議会議員	1	2	3
カ . 知事や市町村長	1	2	3

問 18 . あなたが社会活動に参加しようとする場合、障害になるものは次のうちどれですか。
(あてはまるもの2つまでに)

- 1 . 時間の余裕がない
- 2 . 家族の協力や理解がない
- 3 . 子どもや高齢者等を預けるための施設やホームヘルパー制度などが充実していない
- 4 . 社会活動のための施設や設備が整っていない
- 5 . 参加したいが、どこでどのような活動をしているのかという情報が不足している
- 6 . 社会の封建的なしきたりが残っている
- 7 . 隣近所の目が気になる
- 8 . 自分に興味のある内容がない
- 9 . その他 (具体的に)
- 10 . 特に障害はない

就労についてお聞きします。

問 19 . あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(あてはまるものどちらか1つに)

1 . 仕事をしていない

問 20 へ

2 . 仕事をしている

問 22 へ

問 19 で「1 . 仕事をしていない」と答えた方だけに質問します。

問 20 . あなたは、今後、勤めに出たいと思いますか。(あてはまるもの1つに)

1 . すぐにでも勤めに出たい

2 . 将来勤めに出たい

3 . 勤めに出るつもりはない

4 . わからない

問 20 で「1 . すぐにでも勤めに出たい」「2 . 将来勤めに出たい」と答えた方だけに質問します。

問 20-1 . 働くとするば、どのような形で働きたいですか。(あてはまるもの1つに)

1 . 正社員、正職員

2 . パートタイム、アルバイト

3 . 自分で事業経営

4 . 家事の手伝い

5 . 家での内職

6 . その他 (具体的に)

7 . わからない

問 20 で「 1 . すぐにでも勤めに出たい」「 2 . 将来勤めに出たい」と答えた方だけに質問します。

問 21 . あなたが働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。(あてはまるもの 3 つまでに)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 . 年齢制限 | 7 . 子どもに悪い影響を与えないか |
| 2 . 自分に合った仕事かわからない | 8 . 介護の必要な家族がいる |
| 3 . 自分の資格や能力が通用するか | 9 . 地域活動、学習活動が続けられるか |
| 4 . 賃金など、望む労働条件が得られるか | 10 . 自分の健康状態や体力 |
| 5 . 家族の理解が得られるか | 11 . その他 (具体的に) |
| 6 . 家事・育児との両立ができるか | 12 . 特にな |

問 19 で「 2 . 仕事をしている」と答えた方だけに質問します。

問 22 . あなたの職業は次のどれにあたりますか。(あてはまるもの 1 つに)

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 . 農林漁業 | 5 . 企業・団体等のオーナーや役員 |
| 2 . 自営業・家族従事者 | 6 . パート・アルバイト |
| 3 . 自由業 (作家、弁護士、医師など) | 7 . その他 |
| 4 . 会社員・公務員・その他の勤め人 | (具体的に) |

問 23 . あなたの職場で、性別による待遇の違いや問題はありますか。(あてはまるもの 1 つに)

- | | | |
|--------|------------------|------------------|
| 1 . ない | 2 . 女性の方が優遇されている | 3 . 男性の方が優遇されている |
|--------|------------------|------------------|

問 23 で「 2 . 女性の方が優遇されている」「 3 . 男性の方が優遇されている」と答えた方だけに質問します。

問 23-1 . 優遇されているのは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに)

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1 . 採用時の条件 | 6 . 仕事に対する責任の求められ方 |
| 2 . 賃金 | 7 . 研修の機会や内容 |
| 3 . 昇進、昇格 | 8 . 有給休暇や育児休暇、介護休暇の取得のしやすさ |
| 4 . 能力評価 | 9 . 結婚・出産退職などの慣習がある |
| 5 . 仕事の内容 | 10 . その他 (具体的に) |

すべての方におたずねします。

問 24 . あなたは、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 結婚や出産をしても、職業を持ち続ける方がよい
- 2 . 結婚や出産で一時家庭に入り、子育てを終えて再び職業を持つ方がよい
- 3 . 結婚で家庭に入り、後は職業を持たない方がよい
- 4 . 出産で家庭に入り、後は職業を持たない方がよい
- 5 . 女性は職業を持たない方がよい
- 6 . その他(具体的に)
- 7 . わからない

問 25 . 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。(育児休業、介護休業それぞれについてあてはまるもの1つに)

	積極的 に取得した方 がよい	どちらか といえば 取得した方 がよい	どちらか といえば 取得しない 方がよい	取得しない 方がよい	わから ない
ア . 育児休業	1	2	3	4	5
イ . 介護休業	1	2	3	4	5

問 26 . 結婚や出産、子育てに際して、あるいは、介護をしなければならなくなったときに、女性も男性も働き続けられるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるもの5つまでに)

- 1 . 家庭のことに男女がともに責任を担い、協力すること
- 2 . 働き続けることに対する家族の理解と協力
- 3 . 保育や介護の施設・サービスの拡充
- 4 . 育児休業・介護休業制度の普及や利用促進
- 5 . 昇進・給与等のシステムの改善
- 6 . 休暇制度の普及や労働時間の短縮
- 7 . 柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制や在宅勤務など）
- 8 . 出産や介護等の都合で退職した場合の再雇用制度の普及・促進
- 9 . 管理職の意識改革
- 10 . パートタイマーなどの労働条件の改善
- 11 . 非課税限度額などの優遇制度の見直し
- 12 . 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施
- 13 . 職業に関する相談窓口の充実
- 14 . 起業を目指す人への支援の充実
- 15 . 求人・職業情報の積極的な提供
- 16 . その他 （具体的に _____)
- 17 . 特にない

男女の人権についてお聞きします。

セクシュアル・ハラスメントとは、相手の意に反した性的な性質の言動のことをいいます。

ドメスティック・バイオレンス（DV）とは、夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力のことをいいます。

問 27 . これまでに、職場・学校・地域で、あなたは次のような不愉快な経験をしたことがありますか。
 （職場・学校・地域それぞれについてあてはまるものすべてに ）

	いやがっているのに卑猥な話や猥談を聞かされた	「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた	体を触られた	宴会でお酒やデュエットを強要された	交際を強要された	性的な行為を強要された	性的な噂をたてられた	結婚の予定や出産の予定を非難めいた口調で聞かれた	容姿について繰り返し言われた	帰宅途中、後をつけられた	性的な内容の手紙や電話を受けた	ヌード写真や卑猥な雑誌を目につくところに張ったり見せられたりした	その他（具体的に）	特にない
ア．職場	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
イ．学校	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ウ．地域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14

問 28 . 夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力が問題になっています。
 あなたは、今までにパートナーから次のようなことを受けたことがありますか。(ア～サそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	何度もあった	1、2度あった	まったくない
ア . 何をやっても、何を言っても無視された	1	2	3
イ . 大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした	1	2	3
ウ . ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた	1	2	3
エ . 交友関係や電話を細かく監視された	1	2	3
オ . げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、殴るふりをして脅かされた	1	2	3
カ . 平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られたりした	1	2	3
キ . 身体を傷つける可能性のあるものでたたかれた	1	2	3
ク . 生活費を渡されないことがあった	1	2	3
ケ . 望まない性行為を強要された	1	2	3
コ . その他 (具体的に)	1	2	3
サ . 特にない	1	2	3

問 28 でア～コのいずれかについて「何度もあった」「1、2度あった」と答えた方だけに質問します。

問 28-1 . これまでに、問 28 であげたような行為について、あなたはだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。(あてはまるもの1つに)

- 1 . 相談した 問 28-2へ
- 2 . 相談したかったが、相談しなかった
- 3 . 相談しようとは思わなかった

問 28-3へ

問 28-1 で「1 . 相談した」と答えた方だけに質問します。

問 28-2 . あなたは実際に、だれに(どこに)相談しましたか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 親族
- 2 . 友人・知人
- 3 . 同じような経験をした女性
- 4 . 家庭裁判所・弁護士・警察署など
- 5 . 役所の相談窓口など
- 6 . 医師・カウンセラーなど
- 7 . 女性グループなど
- 8 . その他(具体的に)

問 28-1 で「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」と答えた方だけに質問します。

問 28-3 . あなたが、だれ（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに ）

- 1 . だれに相談してよいかわからなかったから
- 2 . 相談する人がいなかったから
- 3 . 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 4 . 相談しても無駄だと思ったから
- 5 . 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 6 . 自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから
- 7 . 他人を巻き込みたくなかったから
- 8 . 子どもに危害が及ぶと思ったから
- 9 . 自分にも悪いところがあると思ったから
- 10 . 相談するほどのことではないと思ったから
- 11 . その他（具体的に _____ ）

すべての方におたずねします。

問 29 . 男女間のあらゆる暴力について、あなたは、今後行政に対して特にどのような対応を望みますか。（あてはまるもの2つまでに ）

- 1 . 警察による対応の充実
- 2 . 一時避難所（シェルター）の確保
- 3 . 相談体制の連携充実
- 4 . 相談機関等の周知
- 5 . 配偶者暴力相談支援センターの整備
- 6 . 被害者の自立のための経済的支援
- 7 . ドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者、恋人からの暴力）についての意識啓発
- 8 . その他（具体的に _____ ）
- 9 . わからない

その他についてお聞きします。

問 30 .あなたは、次の各項目について、「女性の人権が尊重されていない」と思いますか。(ア～オそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
ア . 女性の容ぼうを競うミスコンテスト	1	2	3	4
イ . 家庭内での夫から妻への暴力	1	2	3	4
ウ . 女性のヌード写真等を掲載した雑誌・ポスターなど	1	2	3	4
エ . 職場でのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	1	2	3	4
オ . 女性の働く風俗営業	1	2	3	4

問 31 .あなたは、結婚について次のような考え方をどう思いますか。(ア～カそれぞれについてあてはまるもの1つに)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
ア . 人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい	1	2	3	4
イ . 結婚後、相手に満足できないときは離婚するのもやむを得ない	1	2	3	4
ウ . 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
エ . 夫婦別姓の結婚が認められてもよい	1	2	3	4
オ . 正式な結婚にこだわらず、二人で生活してみるのもよい	1	2	3	4
カ . 年齢にこだわらず、理想の人が現れたら結婚を考える	1	2	3	4

男女共同参画施策についてお聞きします。

問 32 .田辺市では、男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな施策を実施しています。今後、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに)

1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発をすすめる
2. 政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する
3. 就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる
4. 子育て、介護に対する多様な支援を充実する
5. 男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる
6. 女性に対する暴力を根絶するための支援の推進
7. 女性のための相談の充実
8. 市の広報紙やパンフレットなどで男女平等と相互理解について啓発する
9. 各種団体における男女共同参画をすすめる取組みを支援する
10. 農山漁村において男女のパートナーシップの確立をすすめる
11. 男女の仕事と家庭・地域活動との両立を支援する
12. その他(具体的に)
13. わからない

田辺市が男女共同参画に関する施策をすすめる上で、市へのご意見・ご要望がありましたらどんなことでも結構です。ご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒に入れ、封をして、切手を貼らずに12月21日(水)までにポストにご投函ください。

田辺市男女共同参画に関する
市民意識調査 報告書

平成 18 年 3 月

田辺市 企画部人権推進課男女共同参画推進室
